

輝かしい十年

1949 - 1959



1949 - 1959

輝かしい十年

外文出版社
北京

出版者の言葉

本書は、中国共産党中央委員会副主席、中華人民共和国主席劉少奇氏をはじめ中国共産党と政府の指導者たちが、中華人民共和国建国十周年を記念するために執筆した論文一九篇を集めたもので、十年このかた中国人民が中国共産党と、中国各民族の偉大な指導者毛沢東主席の英明な指導のもとに、社会主義革命と社会主義建設のう えでおさめた輝かしい成果を、全面的に、系統的に、かつ深くほりさげて明らかにしています。本書に集めた文章は、いずれも、北京の人民出版社が一九五九年十二月に出版した「中華人民共和国成立十周年記念文集」のなかから選んだものです。

目次

中国におけるマルクス・レーニン主義の勝利	劉少奇	七
偉大な十年	周恩来	四〇
党の総路線と毛沢東の軍事思想の 赤旗を高くかかげて勇往邁進しよう	林彪	七三
中国人民の大団結と世界人民の大団結	鄧小平	七五
中国の解放——中ソの友誼——人類の未来への躍進	宋慶齡	二〇
世界平和と人類進歩の事業のために奮闘した十年	陳毅	二六
わが国の社会主義建設の大躍進について	李富春	二六
総路線のかがやかしい光にみちびかれて		
軍事工作をひきつづき躍進させるため奮闘しよう	賀龍	二六

中華人民共和国における十年らしいの財政上の偉大な成果……………	李先念……………	一七五
工業戦線における大衆運動について……………	柯慶施……………	一七六
人民公社はわが国の社会発展の必然的な産物である……………	李井泉……………	一八六
たえずわが国各民族の大団結を發展させよう……………	ウランフ……………	三三六
共産党員はマルクス・レーニン主義者……………		
たるべきであり、党の同伴者たるべきではない……………	康生……………	三五三
農業の技術的改造という偉大な……………		
任務の実現を速めるために奮闘しよう……………	薄一波……………	二六三
中国人民の勝利の国際的意義……………	王稼祥……………	二七九
中国共産党は中国人民の社会主義建設の最高の統率者である……………	劉瀾濤……………	二九一
中国農業の社会主義的改造……………	鄧子恢……………	三〇五
十年らしいわが国科学・技術事業の發展……………	聶榮臻……………	三三三
十年らしいの革命と反革命との闘争……………	羅瑞卿……………	三五三

中国におけるマルクス・レーニン主義の勝利

中華人民共和国成立十周年を祝つて、

「平和と社会主義の諸問題」誌のために執筆

一九五九年九月一日

劉少奇

偉大な中華人民共和国は、誕生してから現在まで、すでに十周年になる。

中国革命は、偉大な十月革命の継続である。偉大な十月革命は、人類の歴史に新しい紀元をひらき、世界の面貌をあらためはじめた。ソ連における社会主義建設の成功、ソ連を主力軍とする世界反ファシスト戦争の勝利、ヨーロッパとアジアにおける多くの社会主義国家の誕生はすべて、社会主義の興起と資本主義の没落が逆らうことの出来ない歴史的法則であることをしめしている。中国革命の勝利は、一段と世界の面貌をあらためた。中国革命は、帝国主義の東方における戦線に一大突破口をひらき、これによつて帝国主義の植民主義制度に致命的な打撃をあたえた。新中国は、ソ連を先頭とする社会主義陣営にくわつた。ソ連、中国およびその他の社会主義国は一体となつて、世界人口の三分の一をしめ、ヨーロッパとアジアの両州でひとつにつらなる、団結、友好の社会主義の大家庭をつくつた。帝国主義の圧迫をかつて受けあるいは現に受けているすべてのたちおくれた国々

の人民にとつては、中国革命は非常な吸引力をもっている。かれらは、中国人にやれたことはかれらにもやれるはずだということに気づいている。これらはすべて、全世界における資本主義と社会主義の力関係にすでに新しい変化がおこっていることをはつきりと物語っている。

中国革命の勝利は、中国の社会的生産力を徹底的に解放し、中国の社会主義建設が一瀉千里の勢いで飛躍的に発展できるようにし、これによつて中国の貧しい、たちおくれた姿を急速にあらためつつある。

中国は、全国解放後のはじめの三年間、つまり一九五〇年から一九五二年までに、国民経済回復の任務を順調に達成し、これによつて工業生産は総じて旧中国の最高水準にたつし、またはこれをしのぐようになった。一九五三年から一九五七年までに、中国人民は第一次五カ年計画を遂行し、これによつて工業生産総額は一四一パーセントふえ、農業生産総額は二五パーセントふえ、現代工業の国民経済中にしめる比重は一九五二年の二六・七パーセントから一九五七年の四〇パーセントへと高まつた。第一次五カ年計画の完遂によつて、中国には工業化の一応の基礎がうちたてられた。一九五八年から、われわれは第二次五カ年計画の遂行にとりかかった。一九五八年には、国民経済の大躍進があらわれた。工業生産総額は一九五七年より六六パーセントふえ、農業生産総額は一九五七年より二五パーセントふえた。今年はまだ、昨年の大躍進の基礎のうえに、ひきつづき躍進をとげている。一九五八年にくらべて、今年の工業生産総額は二〇パーセント、工業生産総額は二五・六パーセント、農業生産総額は一〇パーセントそれぞれふえる予定である。鉄鋼、石炭、冶金設備、発電設備、金属切削機械、綿糸、原木、食糧、綿花など工業の主要生産品の計画生産量はすべて、第二次五カ年計画に当初定められていた一九六二年の指標を完遂するか、超過するか、またはこれに接近するであろう。中国における社会的生産力の

このような飛躍的な発展は、いかなる資本主義国も太刀打ちできないものであり、ましてや旧中国の条件の下ではもちろん夢想だにできないものである。

マルクスが、「革命は歴史の機関車である」①と言つたのはまったく正しい。中国では、帝国主義、封建主義および官僚資本主義をくつがえす民主主義革命なしには、また、資本主義制度を廃絶する社会主義革命なしには、現代工業、現代農業および現代科学・文化の急速な発展はありえないし、今日のような、全国人民が元氣満刺、意気軒昂として社会主義と共産主義の事業のために奮闘するという局面はみられなかつたであろう。革命は、中国人民にかぎりない希望ときわだつて輝かしい前途をもたらしめているのである。

十年らいの中国人民の勝利は、マルクス・レーニン主義の勝利であり、中国共産党の指導の勝利であり、中国共産党の民主主義革命の総路線、社会主義革命の総路線、社会主義建設の総路線の勝利である。

中国の民主主義革命の時期に、毛沢東同志は、「中国共産党の指導する中国の全革命運動は、民主主義革命と社会主義革命の二つの段階をふくむ全革命運動であり、……民主主義革命と社会主義革命の区別をはつきり認識すると同時に、両者のつながりをはつきり認識することによつて、はじめて中国革命を正しく指導することが出来る」②という考えをくりかえし明らかにした。一方、中国革命における右翼日和見主義者は、ロシアのメンシエビキと同様に、「万里の長城」で民主主義革命と社会主義革命をきりはなし、この二つの革命のあいだの相互のつながりを見てとることが出来ず、民主主義革命のさいに、この革命を社会主義革命へ転換させうる前途のあることを見てとることが出来なかつた。他方、「左」翼日和見主義者は、これまたロシアのトロツキストに似ていて、民主主義革命と社会主義革命の限界を混同し、民主主義革命の段階で、ブルジョアシーをなくし、社会主義

革命の任務を実現しようとした。この二つの誤つた傾向はいずれも中国革命に非常な損失をもたらした。「左」右両種の日和見主義とは反対に、毛沢東同志によつて代表される、中国革命を指導する正しい方針は、一方では、マルクス・レーニン主義の革命発展の段階論を實行し、民主主義革命と社会主義革命といふこの二つの段階における革命の任務をはつきりと区別することであり、他方ではまた、マルクス・レーニン主義の連続革命論を實行し、この二つの革命をしつかりとむすびつけて、民主主義革命の段階において、出来るかぎり将来社会主義革命を遂行するための条件を準備し、これによつて、民主主義革命が全国にわたつて勝利をおさめたのち、停顿することなくただちに社会主義革命の闘争を展開することであつた。

プロレタリアートが、共産党をつうじて、民主主義革命の指導権をしつかりとにぎること、これは民主主義革命の徹底的な勝利と、民主主義革命を勝利のうち社会主義革命へと転換させることを保証する鍵である。中国のいかなるブルジョア政党も、帝国主義と封建主義に徹底的に反対する綱領をかかげることができなかったし、中国の民主主義革命を徹底的に遂行することができなかった。プロレタリアートの指導のもとに、労働同盟を基礎とし、団結しうるいつさいの勢力と団結し、帝国主義、封建主義および官僚資本主義に反対する闘争を徹底的に遂行すること、これがわが党の民主主義革命指導の総路線であつた。この総路線は、毛沢東同志の要約によれば、「プロレタリアートの指導する、人民大衆の、帝国主義、封建主義および官僚資本主義に反対する革命」⑧ということになる。

中国はたちおくれた大國であり、その農村人口は八〇パーセント以上をしめ、さらに貧農と雇農が農村人口の七〇パーセントをしめ、農民問題はわが國における民主主義革命の中心課題であつた。旧中国の反動支配は極

度に野蛮であり、人民大衆は完全な無権利状態におかれていて、進歩的な革命家はおおぜい逮捕され、殺害された。このため、民主主義革命の時期には、中国共産党はふかく農村に入り、農村が都市を包囲する武装革命闘争を指導すること二十二年の長きにおよんだ。党が、あくまで農民の政治的自覚と組織力にたより、農民を起ちあげさせて、農民が自分で自分を救い、自分で地主を打倒し、土地を手に入れ、土地をまもるといふ大衆路線の方針（党のこの方針は、中華人民共和国誕生後の土地改革のなかでもそのままひきつづき貫かれていた）をとり、これと反対の、土地を農民に「恵み与える」といふブルジョア的な方針をとらなかつたことによつて、党は農村に強大な、たよりになる革命の堡壘をうちたて、革命軍隊と革命根拠地をうちたて、広はんな貧窮した農民の革命的積極性と革命的規律性をしだいに革命的プロレタリアートの水準にちかひところまで高め、そして、そのなかから党と党の指導する人民の軍隊に必要な、つきることのない人力、物力の予備をえたのであつた。中国共産党が農村の革命根拠地に依拠しておこなつた革命戦争、農村の革命根拠地でおこなつた土地改革と経済、文化の建設は、事実上、全国的な勝利を準備するため長期にわたつて練りかえしおこなわれた偉大な演習であつた。これらの演習のなかで、大衆が教育され、軍隊が鍛えあげられ、革命の力がたくわえられ、幹部が養成されるとともに、党の指導が各方面にわたつてゆたかな経験をくみとつたのであつた。

民主主義革命のなかで、プロレタリアートと広はんな農民大衆のもつとも緊密な同盟がうちたてられたことによつて、われわれは民族ブルジョアと革命的な統一戦線をうちたてる問題を正しく解決することが出来た。中国の具体的な状況にもとづいて、われわれは中国ブルジョアの二つの部分を正しく区別した。一部は官僚買弁ブルジョアであつて、かれらは帝国主義の道具であり、封建主義の保護者、同盟者であり、民族民主

義革命の凶悪な敵であり、かれらにたいしては断固たる闘争をおこなわなければならない。他の一部は民族ブルジョアジールであつて、かれらは帝國主義、封建主義、官僚資本主義の圧迫と排斥をうけ、民族経済の独立した発展を要求し、したがつて、革命に参加するか、または革命にたいして中立をたもつ可能性があつた。しかし、かれらは軟弱性をもつており、革命的であると同時に反動的であるという二面性があり、つねに、動揺してやまぬ、中間的な地位にあつた。このことからわれわれは、一方では、一定の条件の下でかれらと連合して反帝・封建・反官僚資本の革命をすすめることが必要であつたし、他方では、かれらの妥協性と闘争することが必要であつた。こうした統一戦線の政策をとつたため、われわれは革命勢力を拡大し、中間勢力を獲得し、反動勢力を孤立させるといふ目的を達成し、革命におけるプロレタリアートの指導権を確保し、もつとも広はん人民大衆を結集したのであつた。

中国の民主主義革命の時期に、民主主義革命と社会主義革命といふこの二つの革命のつながりをきりはなした右翼日和見主義者と、この二つの革命を混同した「左」翼日和見主義者はいづれも、農民問題がわれわれの革命事業にどれほど大きな意義をもっているかが分からず、そのため、ブルジョアジーの問題をも正しく処理することが出来なかつた。右翼日和見主義者はブルジョアジーにたいして投降主義の路線をとり、民主主義革命を主としてブルジョアジーの仕事であると思ひなした。かれらは、労働者と農民の同盟にたよることをしないで、主としてブルジョアジーとの統一戦線にたよるとともに、ブルジョアジーにたいしては連合するだけで、必要な闘争をおこなわなかつた。こうして、かれらはプロレタリアートの指導権を放棄し、ブルジョアジーが革命を裏切るという事態のもとで、革命を失敗させ、プロレタリアートと広はん人民の事業に重大な挫折をもたらした。革命

の勝利の条件がすでに熟し、時機をつかんで勝敗を決する闘いをおこなわなければならないときにおいてさえも、これら右翼日和見主義者はあえて勝利をかちとろうとはせず、はなはだしきに至つては勝利を阻止しようと思ひなした。「左」翼日和見主義者は、各種の小ブルジョア大衆や民族ブルジョアジーと連合することをのぞまず、さらに、あやまつて中間勢力を主要打撃の方向とし、民主主義革命のなかで各種の中間勢力と連合したはこれを中立化させることの必要性和可能性を否定した。かれらは、民族ブルジョアジーにたいしては闘争するだけで、適当に連合することをしなかつたし、ましてや敵の具体的な矛盾を利用し、力を結集してもつとも主要な敵に反対することなど、なおさら望まなかつた。その結果は、これまたプロレタリアートの指導権を放棄し、プロレタリアートを孤軍奮闘の状態におとし入れ、革命の勝利を不可能にしたのであつた。「左」翼日和見主義者と右翼日和見主義者は一つの共通点をもつており、かれらはいづれも農民の革命的要求と革命的気力を軽視し、反動支配の時期に、われわれが農村に根をおろすことができ、農村に革命根拠地をうちたてることができ、農村をつうじて都市を包囲し、さいごには都市を奪取する目的を達成できることを認めなかつた。したがつて、「左」翼日和見主義者と右翼日和見主義者は、一定の条件のもとでは、たがいに位置をとりかえることがありうる。たとえば、王明同志がそれで、かれはわが国の第二次国内革命戦争の時期における第三次「左」翼路線の主な代表者であつたが、抗日戦争の時期になるとこんどは右翼日和見主義の主な代表者になつた。

毛沢東同志を先頭とする中国のマルクス・レーニン主義者は、「左」右両種の日和見主義との闘争のなかで、全党を団結させ、これによつて中国革命を正しい道にそつてぐんぐん発展させ、次から次へと革命の勝利をかちとつた。

中国共産党の指導する人民革命の勝利は、徹底的に旧中国の国民党反動支配をうちくだき、人民を圧迫するその官僚機構と軍閥機構をうちくだいて、一九四九年に、実質的にはプロレタリアート独裁の、偉大な人民共和国をうちたて、かくて民主主義革命から社会主義革命への転換を順調に実現した。中華人民共和国の誕生は、革命の最も主要な問題である権力の問題のうえで、中国の民主主義革命の終結と社会主義革命の開始を示すものであった。中国のプロレタリアートは、民主主義革命を指導して勝利をかちとると同時に、国家にたいする自己の政治的支配権をしつかりうちたてたので、社会主義の勝利のためにふたたび権力奪取の闘争をおこなう必要はなかった。これは、わが党が、民主主義革命のなかで、われわれの最後の目的は社会主義革命をおこなうにあることを寸時といえども忘れず、そのために、民主主義革命の長期にわたる闘争のなかで、十分な注意をもつて、プロレタリアートの指導権を確立し、且つこれをうちかためた結果である。

一九四九年三月、全国的な勝利の前夜、毛沢東同志は、党の第七期中央委員会第二回総会で、中国革命が全国的な勝利をおさめていご、国外の主要な矛盾はやはり中国人民と帝国主義とのあいだの矛盾であるが、国内の主要な矛盾は、中国人民と地主階級、官僚ブルジョアジーとのあいだの矛盾から労働者階級とブルジョアジーとのあいだの矛盾、すなわち社会主義と資本主義とのあいだの矛盾に席をゆずるであろうと指摘し、さらにこの矛盾を解決する一連の基本政策をうち出した。中国人民は、全国的な勝利ののち、はじめの数年間、民主主義革命の段階からのこされた任務、主として全国のきわめて広い地区で土地改革をおこなつて封建地主階級をなくするという任務をひきつづき解決しなければならなかつたが、しかし、社会主義への移行は実際にはすでに一九四九年からはじまつていた。中国のプロレタリアートは、広はん大衆の支持にたより、国家の力をつうじて官僚資

本を没収し、国家の経済的命脈をしつかりと手中ににきり、強大な社会主義の国営経済を積極的にうちたてるとともに、この経済を国民経済全体のなかで指導的な地位につかせたのである。

一九五二年末、国民経済の回復と封建的残渣の一扫という任務が基本的に完成したさい、毛沢東同志を先頭とする中国共産党中央は、過渡期における総路線、すなわち、社会主義革命と社会主義建設を同時におしすすめてゆくという総路線をうち出し、全国にわたつて農業、手工業および資本主義的工商業にたいする社会主義的改造を一步一步実現し、国の社会主義的工業化を一步一步実現してゆくという任務を規定した。この総路線がうち出されたとき、わが国の人民はちようど偉大な抗米援朝の戦争をおこなつていた。われわれは、一方では、新中国をしめ殺そうとするアメリカ帝国主義にたいし断固として闘い、この闘争のなかで全国人民を結集して偉大な勝利をかちとり、他方、国内では、一步もふみとどまることなく社会の改造と建設の活動をつづけていった。

中国共産党のこの総路線は、中国の社会をみちびいて、当時の、社会主義経済もあれば資本主義経済もあり、さらに単独経営経済もあるという複雑な経済のしくみから、単一の社会主義経済のしくみへ移らせてゆく路線であつた。当時、いちぶのものは、社会主義へ移行する必要性を否定した。かれらは、中国で資本主義を発展させて、資本主義のふるい道をすすもうと企図したり、あるいは革命を停止させて、社会主義経済もあれば資本主義経済もあるという現状を長いあいだ保持しようとして企図した。党のこのマルクス・レーニン主義の総路線は資本主義から社会主義へ移行しなければならぬことを肯定するものであり、したがつて、右の方からくる各種のまちがつた観点を否定した。それと同時に、党のこのマルクス・レーニン主義の総路線はまた、社会主義への移行は漸進的でなければならぬし、資本主義的工商業にたいする社会主義的改造も漸進的でなければならぬことを

肯定するものであり、したがって、資本主義を一朝にしてきれいさっぱりとなくしてしまおうとする「左」のま
ちがった観点を否定した。

われわれは、農業と資本主義的工商業にたいする社会主義的改造にあつて、わが国の具体的な条件にもとづ
き、民族的な特徴をもつ一連の段取りをとつた。

われわれは、農業の社会主義的改造の面で、たがいにかみ合つた三つの段取りをとつた。その第一歩として、
土地改革ののち、すぐそれにつづいて単独経営経済を基礎とした集団労働の互助組織をひろく発展させてい
た。こうした互助組織は、社会主義の萌芽としての性質をそなえており、革命根拠地の時期にすでにあらわれて
いた。第二歩は、こうした互助運動の基礎のうえに立つて、すぐそれにつづいて、土地の出資、統一的経営を持
徴とした農業生産協同組合を発展させたことであつて、土地と主な生産手段はやはり私有であつたが、こうした
協同組合は半社会主義的な性質をもつており、われわれはこれを初級農業生産協同組合と呼んだ。第三歩は、つ
まり、土地と主な生産手段の集団化を實行し、完全な社会主義的性質をもつた農業生産協同組合をうちたてたこ
とであつて、これがつまり、われわれのいう高級農業生産協同組合であつた。

農業協同化の問題について、わが党内にはかつて異なつた観点による論争があつた。

ひとつの観点は、われわれの工業化の水準がまだきわめて低く、農業の機械化がまだ実現できないので、早急
に農業の協同化を実現することは不可能であり、またそうすべきではない、というのであつた。こうした観点
は、すでに事実によつてくつがえされている。われわれは、基本的に機械化されていない条件の下で、農業協同
化の任務をなしとげたのである。

ひとつの観点は、急速に協同化を実現すると、勢い農業生産が低下するのは必定だ、というのであつた。こ
うした観点も事実によつてくつがえされた。農業協同化の過程でも協同化されたのちでも、わが国の農業生産は低
下しなかつたどころか、逆にたえず上昇をつづけ、しかもその上昇ぶりは相当はやかつたのである。

もうひとつの観点は、われわれがそんなに急速に農業の協同化を実現したら、農民の団結をさまたげる、つま
り、富農がいかに、富裕中農までもわれわれに不満をいだき、反対さえしかなないようになり、われわれを支持
するのは比較的貧しい農民だけになつてしまつてしまつてしまつて、というのであつた。こうした観点も事実によつてくつが
えされた。われわれが富裕中農にたいしてこれと団結する政策をとり、富裕中農が組合にいられた大型農具と役畜
にたいしては逐年その代価を償還する政策をとつたこと、また協同組合の生産が逐年上昇したことによつて、富
裕中農の絶対多数は協同化に基本的に満足したのであつた。

要するに、事実が証明しているように、われわれが土地改革にすぐつづいて「熱いうちに鉄を打ち」、停頓す
ることなく、典型例で模範をしめし、次第にこれをおしひろめてゆくという方法をとつて農業協同化をすすめた
ことは、マルクス・レーニン主義のよい政策であつた。もしもわれわれが土地改革いご、革命を停頓させ、農村
における資本主義の自然発生的な勢力の発展をゆるし、農民の両極への分化を放任していたならば、後になつて
協同化をやるうとしても、ひじょうに大きな抵抗にぶつかつたであらうし、もつと多くの困難があつたであら
う。

われわれは、資本主義的工商業にたいする社会主義的改造を、これまたどのようにして実現したか？ それは
主として、資本主義的工商業にたいして、利用・制限・改造の政策をとり、国家資本主義の各種の形態をつうじ

て社会主義的国有化の目的を達成するものであつた。一般的にいって、国家資本主義の低い形態では、私的資本主義の工業にたいして原料の提供、加工発注、統一買付、一手販賣を實行し、私的資本主義の商業にたいしては、これに取次販賣、代理販賣をやらせる方法をとつた。国家資本主義の高い形態では、私的資本主義の企業にたいして公私共営を實行し、個々の企業の公私共営から全業種の公私共営にまでもつてゆき、一定の年限のあいだ資本家に年々一定の利息を支払うようにしている。

資本主義的工商業の社会主義的改造の問題でも、わが党内にいくつかの異なつた観点による論争がおこつた。ひとつの観点は、資本主義的工商業にたいしてはただこれを利用してだけにとどめるべきであつて、制限し改造すべきではないとしたり、または、われわれが制限しすぎる、改造をあまりにも急ぎすぎる、というのであつた。これは、実際には資本主義制度をなかく保持しようとするものであつた。資本主義の搾取制度と社会主義の共有制度は、同一の社会にあつては、前者が後者にうちかつか、後者が前者にうちかつかのどちらかであつて、長期併存は不可能である。

ひとつの観点は、われわれが資本主義的工商業にたいしてやれ漸進的改造だの、買戻しだの、やれブルジョアジーに選挙権をあたえるの、ブルジョアジーの代表的な人物に一定の政治的地位をあたえるのといふのは「あまりにも妥協しすぎる」というのであつた。かれらは、中国革命が勝利したのちになつても、われわれが民族ブルジョアジーと統一戦線を保持するのは、原則上からいつて許されないことだとした。かれらは、地主階級と官僚ブルジョアジーにたいしてとつたような政策を民族ブルジョアジーにたいしてもとること、すなわち、民族ブルジョアジーの財産を没収するか、または国民経済のなから、資本主義的工商業を急速に排除してしまう簡單

な政策をとるか、さらに資本家の選挙権をはぎとつてしまふことを要求した。これらの人びとは、一定の具体的な歴史的条件のもとで、プロレタリアートがブルジョアジーにたいして買戻し政策をとることはプロレタリアートにとつて有利であり、これは、マルクスとレーニンがいくどとなく述べていることを忘れていたのである。プロレタリアート独裁とは、かならずしもブルジョアジーの選挙権をはぎとることではないという問題にいたつては、レーニンも「プロレタリア革命と背教者カウツキー」のなかで、「選挙権を制限する問題は、ある国における独裁実行の特殊な問題であつて、独裁の一般的な問題ではない」④と述べている。

われわれは、プロレタリアートとブルジョアジーとの矛盾について、「階級協調」の政策をとつたのだろうか？ もちろん、そうではない。こうした疑いは、マルクス・レーニン主義をまったく知らない一種の誤解または曲解である。實際上、われわれがこの矛盾を解決するためにとつた、民族ブルジョアジーと連合もすれば闘争もするという政策は、プロレタリアートのきわめて確固とした階級政策であつて、「階級協調」の政策とはなんらの共通点もない。わが国における社会主義的改造の成功は、このことを完全に立証している。

要するに、資本主義的工商業にたいして社会主義的改造をおこなうというわれわれの政策は、社会主義的改造への抵抗を小さくするとともに、一步一步改造をすすめてゆく過程で、資本主義を条件つきで利用して社会主義に奉仕させ、これによつて社会主義建設の進行を有利にしたのであつて、その結果われわれは、生産手段の所有制の面で、資本主義を徹底的になくすることが出来たし、且つまた、ブルジョア階級の人びとを、自力で生活する勤労者へとしたいに改造しているのである。これまた、中国の条件にまったく適合した、マルクス・レーニン主義のよい政策であることはもちろんである。

農業および資本主義的工商業の社会主義的改造にたいしてわれわれがこのような一步一步移行する方法をとつたことは、いちぶのもの言うように、改造の時間をながびかせることにはならなかつた。逆に、改造はきわめて急速にすすんだ。一九五五年の下半年には、われわれはすでに農業の高級協同化を実現し、すぐそれについで一九五六年には、資本主義的工商業の全業種にわたる公私共営を実現し、それと同時に手工業の協同化も実現した。このことは、中華人民共和国が誕生して七年たらずのあいだに、われわれがすでに農業、手工業および資本主義的工商業にたいする社会主義的改造の任務を基本的になしとげ、生産手段の所有制の面における「誰が誰に勝つか」の問題を基本的に解決したことを意味している。われわれはこの任務を解決する過程で、なんらの破壊もほとんど全くひきおこさず、工農業生産はひたすら上昇の一途をたどつた。

生産手段の所有制の面における社会主義的改造が完成していご、わが国の社会主義革命は終つたかどうか？あるものはすでに終つたとし、もはやなんらの革命もおこなう必要はないとした。われわれは、こうした観点は正しくないものであり、社会主義革命はまだ終つていないのであつて、なおひきつづき革命を遂行し、社会主義革命を徹底的にすすめなければならぬと考えている。現在、わが国の資本家はまだ一定の利息をとつており、経済上二つの階級としてのプロレタリアートとブルジョアジーとの矛盾はまだ完全になくなつてはいない。たとえブルジョアジーが経済上ひとつの階級として完全になくなつたのちでも、ブルジョアジーの世界観、ブルジョアジーの政治的影響、ブルジョアジーと小ブルジョアジーの習慣の力はやはりひじょうに長いあいだのこつて、社会主義制度と抵触するであろう。とくに、ブルジョアジーの右派はなお、これらの状況を利用して、すきをねらつて社会主義に攻撃をかけ、資本主義の復活をたくらむであろうし、ときにはかれらの攻撃がひじょうに狂気じ

みたものになつてくることもあるであろう。したがつて、社会主義革命は、けつして経済戦線だけに局限してはならず、さらに政治戦線、思想戦線においても社会主義革命をすすめなければならない。毛沢東同志は、「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」という著作のなかで、この問題をはつきりと提起している。毛沢東同志はこう述べている。「プロレタリアートとブルジョアジーとのあいだの階級闘争、各派の政治勢力のあいだの階級闘争、プロレタリアートとブルジョアジーとのあいだのイデオロギーの面における階級闘争は、やはり長期にわたる、曲りくねつたものであり、ときにはきわめて激烈になることさえある。プロレタリアートは自己の世界観にもとづいて世界を改造しようとし、ブルジョアジーもまた自己の世界観にもとづいて世界を改造しようとする。この面では、社会主義と資本主義のどちらが勝ち、どちらが負けるかという問題は、まだほんとうには解決されていない。全人口のあいだであろうと知識人のあいだであろうと、マルクス主義者はやはり少数である。したがつて、マルクス主義はやはり闘争のなかで、発展してゆかなければならない」⑤と。

プロレタリアートとブルジョアジーとのあいだの政治闘争、思想闘争は、全過渡期をつうじて避けられないものである、しかし、こうした闘争は、波の起伏にも似て、高いときもあれば低いときもあり、尖鋭化するときもあれば、わりに緩やかとなるときもある。こうした闘争は、ブルジョアジーの政治的、思想的影響が最後のになくなつたときに、はじめてなくなるであろう。

社会主義革命を徹底的に遂行するため、毛沢東同志は、敵味方の矛盾と人民内部の矛盾という、この二種類の性質のちがう矛盾は区別しなければならないこと、この二種類の矛盾にたいしては異なつた方法で対処し、これを処理しなければならぬということを提起するとともに、「百花齊放、百家争鳴」の方針をうち出した。一九

五七年には、わが党は、人民内部の関係を調整する全党、全人民的な整風運動をおこし、ブルジョア右派の狂気じみた攻撃に反対する闘争をおこなった。その結果は、人民大衆の社会主義建設への積極性と主动性を大々的に鼓舞し、政治の領域、思想の領域における搾取階級の反動的な影響に重大な打撃をくわえ、それを弱めることとなった。この基礎の上になつて、わが党は、「政治がいつさいを統率する」という方針をうち出し、経済工作、その他各種の工作にたいする党の指導をつよめ、中央と地方、指導するものと指導されるものおよびその他の面での相互関係を調整した。それと同時に、党はまた、全国の人民にたいし、「盲信を打破し、思想を解放し、大胆に考え、大胆に意見をのべ、大胆にやつてのける共産主義的な風格を發揚せよ」というスローガンをうち出して、革命的な試みと大衆的な創意工夫を高め、大衆が不合理な規定や制度をあらためるには廢止するのを指導した。教育上での革命をすすめるため、党はまた、教育をプロレタリアートの政治に奉仕させ、教育と生産労働をむすびつける方針をうち出した。これらいつさいの革命的な措置をとつた結果、毛沢東同志ののべたような、「集中もあれば民主もあり、規律もあれば自由もあり、意志の統一もあれば個人の気持の伸びやかさや潑刺とした生気もある」という政治的局面が、わが国で日ましにひろく發展していった。一九五八年の春には、わが党はいちはやく「大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設する」という総路線をうち出した。

党の社会主義建設の総路線にはげまされて、全国人民の闘志はたかまり、意気はあがり、一九五八年には国民経済の大躍進を實現し、全国の農村で人民公社化を實現した。科学・技術と文化・教育事業の發展も、これまでにない大きな成果をあげた。これは、社会主義革命を徹底的におしすすめ、人民内部の矛盾を正しく処理し、こ

れによつて社会的生産力を徹底的に解放したことによつて得られた結果である。

二種類の矛盾の区別、大躍進および人民公社というこれらの問題について、わが党内にはやはり異なつた観点による論争があつた。わが党は、毛沢東同志の指導のもとに、正しい路線を堅持し、党内の各種の誤つた観点を反駁し、これによつて、全党および全国の人民を團結させ、社会主義事業のなかで、たえず新しい勝利をかちとることが出来た。

あるものは、過渡期に敵味方の矛盾があることは理解できるが、社会主義制度のもとで人民内部の矛盾があるというのには理解できないといつている。かれらは、敵味方の矛盾と人民内部の矛盾というこの二種類の矛盾をわける必要はないと考えている。こうした観点は誤つている。この二種類の矛盾をはつきりわけることは、プロレタリアート独裁下における階級闘争をいかに正しくすすめてゆくか、勤労人民内部の、階級闘争の範疇にぞくさない各種の矛盾をいかに正しく処理するかについて、大きな理論的、実践的意義をもつていたのである。

現在の中国には、敵味方の矛盾が存在するばかりでなく、勤労人民内部の矛盾が数多く存在している。たとえば、労働者階級と農民階級とのあいだ、頭脳労働と肉体労働とのあいだにまた差異が存在していることから生ずる矛盾、勤労人民のあいだに搾取階級の慣習と思想の上の影響が残つていることから生ずる矛盾等々がそれである。社会的生産力と生産関係とのあいだの矛盾、経済的基礎と上部構造とのあいだの矛盾、および、人びとが認識の上で、正しいか間違つているか、進んでいるか立ちおくれかというそのちがいがから生ずる矛盾にいたつては、これまで存在していたし、現在も存在しており、こんども永久に存在するものであつて、社会主義社会にあつては、これらの矛盾の性質と解決方法が、階級社会におけるばあいと根本的にちがうだけのことである。

社会主義制度のもとでは、あるいはまた、階級がまったくなくなつて共産主義社会に入つてからは、人民内部にもはや矛盾が存在しなくなるとする観点は、マルクス・レーニン主義に違反する、まったくあやまつた観点である。

社会に存在する各種の矛盾はすべて、わが国の政治生活、経済生活のなかに必然的にあらわれてくるし、またわれわれの党内生活にも必然的に反映してくる。したがつて、われわれは、これらの矛盾を正しく認識し、正しく処理するすべを身につけなければならず、そうしてこそはじめて、反社会主義的な敵対勢力を徹底的になくし、ブルジョアジーと上層の小ブルジョア分子、およびその知識人にたいする改造をなしとげ、さらに人民内部の関係を調整して、われわれの事業を順調におしすすめてゆくことが出来るのである。社会主義社会、共産主義社会にあつてもやはり、矛盾の統一と闘争、矛盾の解決が社会の進歩をおしすすめる原動力である。

プロレタリアート独裁のもとにあつて、もしもこの二種類の、性質のちがう矛盾をはつきりわけることに注意しないならば、いくつかの誤つた傾向がうまれるであろう。つまり、敵味方の矛盾が見えず、あるいはまた敵味方の矛盾を人民内部の矛盾と見なし、敵味方の矛盾にたいしては独裁の方法、すなわち孤立化、分化、懲罰、鎮圧の方法をとらねばならないことが分らないで、人民内部の矛盾を処理する方法で敵味方の矛盾を処理するのは、かならず誤りをおかすことになる。それと反対に、人民内部の矛盾が見えず、敵味方の矛盾を大きく見すぎて、人民内部の矛盾を敵味方の矛盾とみなし、人民内部の矛盾を処理するには民主的な方法、すなわち「団結の願望から出発し、批判または闘争をつうじて矛盾を解決し、これによつて、新しい基礎の上に立つて新しい団結に到達する」という方法をとらねばならないことが分らないで、敵味方の矛盾を処理する方法で人民内部の

矛盾を処理するのでは、つまり、説得の方法によらないで、押しつけの方法によるのでは、これまたかならず誤りをおかすことになる。また、この二種類の矛盾は、一定の条件の下では、互いに転化しうるものであつて、矛盾が転化しているのに、われわれの処理方法がこれにもなつて転化しなかつたならば、これまたかならず誤りをおかすことになる。われわれの同志でこの問題について誤りをおかした具体的な例はすくなくないのであつて、したがつてこの問題を真剣に認識することはきわめて必要である。

あるものは、われわれが「百花齊放、百家争鳴」の方針をとるのを、ブルジョアジーの「自由主義」政策、すなわちいわゆる「自由化」政策をとるものであるといつている。またいちぶのものは、われわれがこうした方針を実行することは反社会主義的な毒草を助長し、ブルジョア思想を氾濫させることになると氣をもんでいる。これらの人びとはすべて考え違いをしているのである。

われわれがこの方針を実行するのは、党の指導にたいし、人民大衆の大多数にたいし、社会主義制度の優越性にたいし、マルクス主義の真理にたいして、われわれが十分な確信をいだいているからである。われわれがこの方針をとることは、絶対にブルジョアジーの「自由化」政策を実行することではなくて、プロレタリアートのあくまでゆるぎない階級政策を実行することである。この方針を実行するのは、科学、芸術および文化の発展と繁栄をうながすためであり、マルクス主義とその指導の下にある社会主義のイデオロギーを発展させるがためである。社会にまだブルジョア思想の影響が存在しているときに、この方針を実行するのは、プロレタリアートが政治の上、思想の上でブルジョアジーにうち勝ち、その影響を一掃しやすいようにするがためであつて、ブルジョア思想の自由な氾濫をゆるすのではない。この方針はまた、政治の面で人民内部の矛盾を正しく処理するのにも

適用される。社会主義社会でも、マルクス主義の思想はやはり各種の非マルクス主義的な思想との闘争のなかで発展をとげなければならぬし、社会主義思想はやはり各種のブルジョア的、小ブルジョア的思想との闘争のなかで自己の陣地を拡大してゆかなければならない。人民内部における各種の異なる見解にたいしては、それを十分に発表させ、批判、説得の方法をとり、十分議論をたたかわせなければならず、そうしてこそはじめて正しい見解を真に発展させ、誤った見解を克服することが出来るのであり、そうしてはじめて問題を真に解決することが出来るのである。

なるほど、ブルジョアジーは「百花齊放、百家争鳴」というこの方針を利用して、反社会主義的な動きをするであろう。しかし、中国のいまの条件の下では、いつさいの優勢はプロレタリアートの側にあり、ブルジョアジーがこのスローガンを利用してプロレタリアートに反対する闘争をおこなつても、われわれとしては、なにも恐れることはない。われわれはこれまで、ブルジョアジーの反社会主義的な言論や行動が、プロレタリアート独裁の下で合法的であることを認めたことはない。われわれはまえから、われわれの園内では、社会主義の百花は咲きほころぶべきであるが、反社会主義の毒草は刈り取るべきであると公然と宣言してきている。問題は、つまるところどんな方法をとれば反社会主義の毒草を効果的になくすることが出来るかにある。社会主義社会で、ブルジョアジーの政治的、思想的影響がまだ一掃されないうちは、ブルジョアジーの反社会主義的な毒草はなんとしても客観的に存在するものであり、しかも、なんとしてもつねに社会主義のかぐわしい花をよそおつて出現するのである。毒草とのたたかひの経験にとぼしいばあ、人びとは往々にしてかぐわしい花と毒草とをうまく識別することができず、はなはだしきに至つては偽装をこらした反社会主義の毒草を社会主義のかぐわしい花として欲

迎することさえありうる。わが国の文化工作のいちぶの部門で、かつていちぶの同志は、毒草のはびこるのを恐れるあまり、かれらがかぐわしい花と認めたものだけ生長を許したことがあつたが、その結果は、社会主義に有益な多くのかぐわしい花が毒草と誤認されて押えつけられ、逆に、多くの有害な毒草がかえつて偽装をこらしてひそかに伸びてくることとなつた。これらの同志の考え方は誤つており、幼稚である。実際には、地下にもぐつているか、または偽装をこらしてあらわれる反社会主義の毒草の方が、プロレタリアート独裁にとつては、いっそう有害である。反社会主義の毒草をその本来の姿で地上に出させるのは決してわるいことではなくて、逆に、ひじょうに結構なことである。なぜなら、そうしてはじめて、人民大衆の毒草識別能力をきたえ、毒草と闘う人民大衆の能力を高め、これによつて社会主義の百花を咲きほこらせ、反社会主義の毒草を刈り取る目的をとげることが出来るからである。一九五七年に、われわれはこの方法によつてブルジョアジーの右派と闘い、人民大衆にたよつて右派の狂気じみた攻撃を撃退したのであつた。

事実が証明しているように、百花を齊放させ、百家を争鳴させることは思想界におけるマルクス主義の指導的地位を強めこそすれ、その指導的地位をいささかも弱めるようなことはなかつたし、反動思想と闘う人民大衆の能力を高めこそすれ、そうした能力をいささかも弱めるようなことはなかつた。これは、わが国の条件の下では、プロレタリアートに有利で、反社会主義的なブルジョアジーに不利な政策である。

一九五八年に、わが国人民は、国民経済の大躍進という局面をつくりだした。大躍進という事実は、人びとの否認しえないところである。ところが、あるものは、一九五八年のわが国の大躍進は正常な現象ではなく、経済建設のなかで大衆運動を組織することは生産秩序の混乱をひきおこすだけであつて、たとえ一時は躍進できて

も、かならず国民経済の比例関係の失調現象をひきおこすことになるから、国民経済躍進の局面は長つづきできないと言っている。こうした観点はまったく誤っている。

経済建設のなかで大衆運動を組織するのは、一体よいことなのか、それともよくないことなのか？ われわれの社会主義建設は、おびただしい人民大衆の自覚にもとづく事業であつて、人民大衆の創造力を發揮させずには、生氣あふれる社会主義建設はありえない。解放され、団結し、組織化されたわが国六億五〇〇〇万の人民は、まことに偉大な創造力である。昨年の、大々的に製鉄製鋼をおこなう大衆運動のなかで、いく千万の人びとは糧食をわすれ、報酬を念頭におかず、ほとぼしるような情熱と天をつくような意気込みをもつて、大胆に新しい生活を創造する共産主義の精神を發揮したが、その結果は、わが国の鉄鋼業をしいに合理的に全国各地に分布させ、しかも鉄鋼業の發展速度をはやめることが出来た。いま、全国にあまねく分布している無数の中型、小型の水利施設といく十万にのぼる中型、小型の企業もすべて、大規模な大衆運動をつうじ、広はん大衆の積極性を發揮させてつくりあげたものである。大衆を起ちあがらせ、「すすんだものと比べあい、すすんだものに追いつき、すすんだものに学ぶ」社会主義競争運動を展開したため、多くの大型企業の生産能力と労働生産性は急速に高まり、多くの基本建設工事は大幅に投資を節約し、竣工期限をちぢめた。もつとも広はん人民大衆を社会主義建設戦線に動員することによつて、わが国民経済のめざましい飛躍的な局面をうみ出しえたことは、事実の証明するところである。

こうした大衆運動の出現は、けつして一時的な偶然の現象ではない。わが国の貧しい、たちおくれた姿を急速にあらためることは、わが国六億五〇〇〇万人民のつよい願望である。かれらはすでに社会主義制度のもとで解

放されている以上、かれらのそうした願望は必然的に行動となつてあらわれ、さえざることのできない激流のような勢いとなる。正しい指導のもとにおいては、こうした大衆運動は、わが国経済の飛躍的な發展をおしすすめる最も積極的な、経常的な要因にかならずなりうるのである。われわれの大衆運動は党の集中的指導のもとにすすめられるものである。党の指導は、政治工作と経済工作をむすびつけ、大衆への政治教育と物質的な奨励とをむすびつけ、しかも、政治を魂とし、統率者とするものである。したがつて、党の指導のもとでは、社会主義建設の広はん大衆的運動を形づくり、つねにこれを保持し、建設事業のなかにおける人民大衆の積極性を最大限に發揮させ、これによつて広はん人民大衆がつねに大いに意気込み、つねに高い目標をめざすようにし、また、労働者、農民、技術者によつて技術革命と文化革命を展開して、たえず現代的な生産用具をふやし、生産面における現代技術の応用をさかんにすることが出来るのである。われわれがそのようにするかぎり、わが国の国民経済の躍進の局面はいつまでもこれを保持することが出来る。これはすこしも疑いを容れないところである。

大衆運動が發展すると、もたらあつた生産秩序のいちぶは破壊されるであろう。しかし、破壊されるのは生産の發展に不利なふるい秩序であつて、それと同時に、生産の發展に有利な新しい秩序がうちたてられる。一九五八年に、われわれは、大衆運動をつうじて、企業内における人と人との関係を調整し、労働者の管理への参加、幹部の労働への参加という制度を實行し、指導幹部、労働者、技術者、管理人員などいくつかの分野のものが党委員会の指導のもとに緊密にむすびつく制度を實行し、同時にまた、指導をあたえつつ不合理な規定や制度を改革したが、その結果、企業の管理水準、生産水準が大いに高まつた。社会主義制度は、いったん出来上がれ

ばそれつきり変ることのない、硬化したのではない。指導をあたえつつふるい秩序をあらため、新しい秩序をうちたてることこそ、社会主義制度の優越性を十分に發揮させ、發展させることである。そうするには、人民大衆にたより、生産力の發展を束縛しているいつさいの伝統的な習慣の力と闘い、生産関係と上部構造をたえず調整して、これを社会的生産力の發展の需要に適応させなければならぬ。そのようにしてゆくかぎり、われわれは、技術革新と技術革命の急速な發展をおしすすめることができ、わが国の社会的生産力の急速な發展をおしすすめることができ、国民経済の持続的な躍進を保持することができるのである。

レーニンは次のように述べている。「ブルジョアジーは社会主義をなにか、ある死んだ、硬化した、いつたん出来上がればそれで変ることのないものという、非常に虚偽な見方をするものだが、実際には、社会主義が実現したその時から、はじめて社会生活と個人生活のすべての分野における真の、急速な發展がはじまるのであり、大多数の住民、さらには全住民までが参加する真に大衆的な運動が形成されるのであることを認識しなければならぬ」⑩と。一九五八年いらいの大躍進のなから、そうした大衆的な運動がわが国にあらわれたことをわれわれはほんとうに見とどけている。大衆運動を非難するものは、大衆運動の外にたつてあれこれとあげつらい、大衆に冷水をぶつかけ、意気沮喪した、愚痴っぽい、悲観的な気分をばらまいている。かれらの大衆運動にたいする態度はてんから、共産党員のとるべき、熱情をかたむけた態度ではなくて、ブルジョアジーの旦那方のような態度である。

あるものは、躍進的な速度をとることは、客観的な経済法則にそむき、国民経済の比例関係の失調をひきおこすことになるといっている。しかし、われわれの事実は、そうしたものの言うところとはまったく異なつてい

る。われわれの躍進は、まさしくわが国の社会主義経済の法則の軌道の上にあられた新しい事物である。客観的な経済法則はそむくことの出来ない、かならず従わなければならないものであつて、客観的な経済法則にそむけば、国民経済の躍進的な發展もありえない。わが党の総路線には、「同時に發展させる」というまとまつた方針がふくまれている。それは、重工業を優先的に發展させることを前提として、工業と農業を同時に發展させ、重工業と軽工業を同時に發展させること、集中的指導、全面的計画、分業・協業を前提として、中央の工業と地方の工業を同時に發展させ、大型企業と中型、小型企業を同時に發展させ、近代的方法による生産と旧式の方法による生産を同時に發展させることである。のちに人びとはこの方針にわかりやすい名をつけ、「二本の脚で歩く」とよぶようになった。このような方針をとれば、経済建設の躍進において各種の一面性、たとえば、工業だけを重視して農業を軽視し、重工業だけを重視して軽工業を軽視し、大型企業だけを重視して中型、小型企業を軽視し、工業にたいする中央の統一的な管理だけを重視して工業發展にたいする地方の積極性を軽視し、近代的方法による生産だけを重視して旧式の方法による生産を軽視することなどをさけることが出来る。これはつまり、わが党の総路線こそ、国民経済を高速度に發展させるにあつて、客観的な可能性と主観的な能动性を統一し、各種の比例関係に注意をばらい、客観的な経済法則にしたがうことを要求するものであるといふことである。昨年らいの大躍進にあつて、わが国民経済の各部門のあいだの、工業と農業とのあいだの、重工業と軽工業とのあいだの、蓄積と消費とのあいだの比例関係は、全般的にいってすべて調和のとれた、適応しあつたものとなつてゐる。ごくわずかな、局部的な、一時的な失調現象がいちぶあらわれはしたが、それはいちちはやくわれわれによつて発見され、克服された。こうしたごくわずかな、局部的な、一時的な失調現象はつねに出現する

ものであり、出現してもたやすく克服できるものである。党の総路線と、いくつかの「同時に発展させる」方針を正しくつらぬいてゆけば、長期にわたる、全局的な比例失調の現象がおこらないように保証することが出来るのである。

もちろん、われわれは、国民経済の計画の仕事をつげにやり、出来るかぎり国民経済の各部門が相互に歩調をあわせてぐんぐん発展してゆくようにしなければならない。われわれの要求としては、高速度も必要であるし、総合的な均衡も必要である。これは容易なことではなく、高速度の発展のなかではある種の不均衡現象のあらわれる可能性がわりあい多い。しかし、われわれは、あれこれと取越し苦労をし、安逸をむさぼり、不当に速度をひきさげるといふ方法で均衡をもとめるべきではない。われわれが経験の総括に注意を払い、客観的な経済法則を真剣に研究するかぎり、高速度のなかに均衡をもとめることは出来るし、また、出来るはずである。

国民経済の発展速度は、毎年一様であるというわけにはいかない。ある年は比較的速く、ある年は比較的遅いというのが正常な現象である。われわれの経済がいつも年を追って成長し、しかもわれわれが躍進的な発展速度を保持しうることは断定できることである。

大躍進と大衆運動を非難するものは、同時にまたわが国農村の人民公社をも非難する。かれらは、人民公社は「早くつくりすぎた、やりそこなつた」とか、「社会の発展水準と人民大衆の自覚水準とをびこえている」というように考えている。こうした非難には、なんらしつかりした事実上の根拠も理由もない。

人民公社の発展が客観的な必然性をもつていないとする観点はまちがっている。かれらは、人民公社が高級農業生産協同組合を基礎として発展してきた新しい社会組織であるということを見てとつていない。こうした社会

組織形態は、中国のいく億という農民大衆が、生産力発展の必要に適應するためつくり出したものである。それは、昨年の大躍進における農業生産の大きな発展、農地水利のめざましい発展、工業経営にたいする農民の積極性および農民の社会主義的自覚の非常な高まりによる産物である。わが国の広はんな農民大衆は、水利をおこし、工業を経営し、各種の農業経済を総合的に発展させ、各種の比較的大規模な生産事業の上で労働の協業をやつてゆくこととすれば、これらはすべて従来の農業生産協同組合の規模をこえねばならないことを見てとり、従来の協同組合の基礎のうえに、さらにこれを発展させ、ある種の新しい生産関係と新しい組織形態をうちたてることを要求したのであつて、それがすなわち人民公社なのである。人民公社は、数千ないし万にのぼる戸数の人力を擁し、数万ムー*から十数万ムーの土地をもつており、いつそう合理的に人力の配置、天然資源の利用をはかることによつて農村経済を発展させることが出来るし、また、農業の機械化と電化をしいに実現してゆくうえに有利である。農民大衆が切実に要求している文化・教育事業と集団福祉事業は、これまた人民公社で大々的に発展させることが出来る。共同食堂、託児所などの集団福祉事業の経営によつて、大量の労働力がはぶかれたし、とりわけおびただしい婦人の労働力が解放されるようになった。農村の人民公社は、出来てからまだ一年にしかならないが、しかし、それは実践のなかでその偉大な生命力をひじようにはつきりとしめしている。したがつて、人民公社化運動は、急速に農村経済を発展させ、農村の貧しい、たちおくれた姿をあらためたいという中国農民の要求にかなつた偉大な大衆運動であり、中国の条件の下における、歴史的法則にかなつた大衆運動である。このような運動は、誰かがひと声かけるとすぐさま出現するというようなものでもなければ、また、誰かがちよつと反対すればすぐにつぶれるというようなものでもないのである。

あるものは、いまの人民公社はまだ社会主義の集団的所有制をとっているのだから、高級農業生産協同組合と
 なら異なるところはないし、したがって人民公社をつくる必要はないと考えている。かれらは、人民公社がも
 との高級農業生産協同組合を基礎として、それに新しい内容をつけくわえており、したがって、両者のあいだに
 はきわめて大きなちがいがあつて、それが出来ないのである。人民公社の内部では、工業、農業、商
 業、文化・教育、軍事がむすびついており、(ここでいう農業には、農業、林業、畜産業、副業、漁業の五つがふ
 くまれる)、生産を組織するとともに生活をも組織しており、農村における国家の基礎的権力機構と公社の管理
 機構との一体化を実現しているのであつて、これらはすべて、もとの高級農業生産協同組合には見られなかつた
 ところである。とりわけ重要なのは、人民公社の所有制は、いまのところやはり社会主義の集団的所有制であつ
 て、生産隊(もとの高級農業生産協同組合にあたる)の集団的所有制が基本的なものであり、公社の所有制は部
 分的なものであるが、しかし、この部分的な公社の所有制は、もとの農業生産協同組合にはなかつたものであ
 り、それにはある程度の全人民的所有制の要素がふくまれているということ、これである。公社が年々生産隊か
 らその蓄積の一部を引き出して公社の経営する企業にふりむけることによつて、公社の経営する企業が発展をと
 げることによつて、また、公社にたいし国家が援助をあたえることによつて、公社の所有制の部分は必然的に漸
 次拡大して、ついには公社の所有制が基本的なものとなり、生産隊の所有制の方は部分的なものでしかなくな
 る。いまの公社の所有制はまだ部分的なものではあるが、まさしくこの部分的な公社の所有制が、人民公社の偉
 大な希望と偉大な前途を代表しているのである。公社の部分的な所有制が公社の基本的な所有制に転換しさえす
 れば、わが国の農村における社会主義の集団的所有制を社会主義の全人民的所有制へ移すための確かな基礎がう

ちたてられたことになる。人民公社は、分配制度の面で、いまのところ基本的に、労働におうじた分配の賃金制
 度をとつてはいるが、同時にまた、部分的には、必要におうじた分配の萌芽的性質をもつた現物給与制度をもとつ
 ているのであつて、これまた、もとの農業生産協同組合にはなかつたところである。多くの人民公社は、ほとん
 ど部分の現物給与制度をとつてはいる(一般的にいって、社員総収入の二〇パーセントから三〇パーセントをし
 める)が、その当面の主な役割は、労働力を失つたものと子供の生活を保障することにある。これは、わが国の
 農村における社会保険の実施で、子供の多い家庭やその他負担のわりあい多い家庭を助ける非常によい方法であ
 り、農民大衆のいまの実生活上の要求になつたものである。もちろん、これはまだ、共産主義の、必要におう
 じた分配の原則を實行しているのではない。

あるものは、人民公社の性質は共産主義的なものでしかありえず、必要におうじた分配の原則を完全に実行す
 べきであつて、そうでなければ、人民公社とはいえない、と考えている。したがつて、かれらは、いまの条件の
 下で人民公社をつくるのは、実際からはなれた一種の空想にすぎないと考えている。かれらは、人民公社につい
 て、まったく機械的なうけとり方をしてはいる。かれらは、わが国農村における今の人民公社が一種の基礎的な社
 会組織形態であつて、上述のような各種の特徴をそなえており、そのために、こうした社会組織形態は、ひじよ
 うな融通性を持ち、社会主義社会と共産主義社会における程度の異なるつた生産力と、これに適應する異なるつた水
 準の生産関係をうけ入れうるということが分らないのである。わが国についていうならば、このような社会組
 織形態は、当面の、社会主義の集団的所有制にも適合すれば、将来の、社会主義の全人民的所有制にも適合する
 であらうし、また、当面の、労働におうじて分配する社会主義制度にも適合すれば、将来の、必要におうじて分

配する共産主義制度にも適合するであろう。人民公社というこうした社会組織形態は、わが国が共産主義社会に踏み込んだのちも、やはり一種の、妥当な基礎的な社会組織形態であると確信する理由がある。まさしく毛沢東同志が指摘しているように、公社制度は一種の発展過程なのである。わが国の農村において、人民公社というこうした社会組織は、農村経済の急速な発展をおしすすめることが出来るし、そしてまた、社会経済の発展は、逆に、人民公社制度が内容と形式のうえで発展するのを促進するであろう。人民公社というこうした社会組織をもつようになってから、われわれは、わが国の条件の下で、社会主義の集団的所有制からしだいに社会主義の全人民的所有制へと移行し、ひいては将来農村で社会主義からしだいに共産主義へと移行してゆく道を実際にさがしあてたのである。人民公社ができたなら、すぐにも公社のすべての理想が実現できるというように考えるならば、それは誤りである。人民公社に漸進的発展の過程があるからといって、人民公社をつくるのが早すぎたとか、つくらない方がよいとか、つくつてもそれをとつづけてしまえというように考えるのは、なおさら完全な誤りである。

われわれの大躍進と人民公社を非難することは、とりもなおさずわが党の社会主義建設の総路線を非難することである。これら、党の総路線を非難する人間とは、どんな人間だろうか？ われわれ自身の隊列のなかでは、かの右翼日和見主義者がそれである。かれらは、ブルジョア思想の党内における代表者である。内外の敵対勢力が毒々しくわれわれを攻撃しているさいに、かれらはこともあろうに、われわれの活動中における、いちちはやく党中央によつて発見され是正されたある種の欠点を口実に、われわれの活動の偉大な成果を否定し、われわれの偉大な事業をまつ暗闇のようにいにくるめた。かれらの狙いは、われわれの事業の前進をさまざま、今年の

ひきつづく躍進をはばみ、党の総路線の徹底的な遂行を妨げることであった。党の第八期中央委員会第八回総会では、右翼日和見主義がわが国当面の主要な危険であることを指摘した。右翼日和見主義と闘い、右翼日和見主義を克服し、その影響を一掃すること、これはわが党の当面する主要な任務である。

わが党の総路線は正しく、われわれのおさめた成果は偉大である。現在、われわれは勝利のうちに右翼日和見主義に反対する闘争をすすめている。広はんな人民大衆はいま、党の第八期中央委員会第八回総会の呼びかけにこたえて、新しい増産節約運動の大きな高まりをまきおこし、内外の敵対勢力の攻撃に力つよい回答をあたえらるとともに、右翼日和見主義者の攻撃にも回答をあたえている。

われわれの偉大な事業はいまや勝利のうちに前進している。わが党は、中国人民と運命を共にし、呼吸をともししているばかりでなく、われわれは、われわれの事業が全世界の社会主義事業の一部分であると一貫してかんがえている。中国革命と建設のなかで、ソ連およびその他の社会主義国はわれわれに非常に大きな援助をあたえ、全世界の勤労人民と各国の進歩的勢力もわれわれに非常に大きな同情と支持をあたえている。わが国は、ソ連その他の社会主義国とのあいだに、日ましにつよまる、うち破ることのできない友誼と団結を確立している。われわれのスローガンは、「中国人民の大団結万歳！」、「全世界人民の大団結万歳！」である。この二つの偉大な団結にたよるとき、われわれの事業は向かうところ敵なしである。

われわれのいつさいの勝利は、いずれもマルクス・レーニン主義の新たな実証であり、新たな勝利である。かつて、マルクス主義は資本主義の発達した国に適用されるだけであつて、経済のおくれた国には適用されない、西方に適用できるだけであつて、東方には適用できない、とする説があつた。ロシアの十月革命と中国革命が勝

利すると、こんどは、マルクス主義は東方諸国に適用できるだけであつて、西方諸国には適用できないようだという説があらわれた。これらの説はすべて、ブルジョア反動派とかれらの下僕たちの奇談怪論である。実際のところ、マルクス主義が出現して以来、経済のすすんだ国であらうと経済のおくれた国であらうと、西方であらうと東方であらうと、ひとつびとつ歴史の出来事、ひとつびとつ革命の経験は、まさにマルクス主義の正しさをくりかえし証明しているのである。各国人民大衆の闘争と革命はすべて、異なつた歴史的環境と歴史的条件のもとで発生し、発展するものである。しかし、各国の革命がいかに複雑であり、いかに曲りくねつていようとも、すべての国の発展は、例外なくマルクス主義のさし示す歴史の共同の軌道を離れることは出来ないであつて、それはちやうど、太陽の周囲をまわる地球が、自己の軌道を離れないのとおなじである。

中国革命を指導して勝利をおさめた中国共産党は、マルクス・レーニン主義で武装されている。毛沢東同志が要約した有名な言葉に、「マルクス・レーニン主義の普遍的真理と中国革命の具体的実践との結合」というのである。中国共産党が毛沢東同志の指導のもとに一貫して努力してきたことは、自分自身が、中国の具体的な状況にもとづき、弾力性をもつてマルクス・レーニン主義の一般原理を運用し、それによつて、中国の革命と建設における各種の問題を解決できるようになることであつた。マルクス・レーニン主義が、われわれのような、六億五〇〇〇万の人口を擁する東方の大国にひろく伝播し、さらに革命と建設の実践のなかで勝利するという結果をおさめたのは、なんとしてもマルクス・レーニン主義の発展史上における大きな出来事である。もちろん、中国の革命と建設には、自国の特徴がある。しかし、そのいくつかの重要な特徴は、他のいちぶの国々でふたたび出現することもありうる。この面からいえば、中国の経験は、ある程度国際的な意義をもつものである。

マルクス・レーニン主義の旗を高くかかげて前進しよう！
マルクス・レーニン主義の全世界における勝利万歳！

- ① 「マルクス・エンゲルス二巻選集」(ドイツ語版) 第一巻 一九八ページ
 - ② 「毛沢東選集」(中国語版) 一九五二年 人民出版社 第二版 第二巻 六四六ページ
 - ③ 「晋綏幹部会議における講話」
 - ④ 「レーニン全集」(ロシア語版) 第四版 第二八巻 二三五ページ
 - ⑤ 毛沢東著「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」(中国語版) 人民出版社 二六〇二七ページ
 - ⑥ 「レーニン全集」(ロシア語版) 第四版 第二五巻 四四三ページ
- *一ムーは六・六六七アール(訳注)

偉大な十年

周恩来

中華人民共和国が成立十周年を慶祝しているときに、世界の人びとは、その政治的見解の如何をとわず、すべて、中国で真に天地をくつがえすような変化が生じたことを認めざるをえないでいる。中国人民は、人間地獄の奴隸から一変して、なにものをも恐れぬ、自己の運命の主人公となった。全国の人民は、喜びをこめてすでにおさめた偉大な勝利をふりかえると同時に、満々たる自信をもつて将来に目を向けている。

われわれは、中国が十年らいつたいどんな変化をとげたか、なぜこれらの変化がおこつたのか、人びとはこれらの変化のなからどういふ主要な教訓をくみとることが出来るかについて見てみよう。

周知のように、十年まえの中国は、経済的に極度におくれた国であつた。当時中国は、世界各国のなかで、鋼鉄の生産量が第二十六位、発電量が第二十五位で、採炭量はいくぶん多く、第九位をしめ、わりあい発達していた綿紡績工業の製品——綿糸の生産量でさえ第五位をしめるにすぎなかつた。全国の産業労働者はわずか三〇〇万人で、全国人口の千分の六にもみたなかつた。老大國の中国はまえまえから農業をもつて国を立てると称していたが、解放まえの数十年間というものは、小麦、米、綿花は毎年外国から輸入しなければならなかつた。税関の統計によると、一九三三年には食糧を六〇億斤* 輸入し、一九四六年には綿花を六九〇万担* 輸入している。

対外貿易はながいあいだ輸入超過で、国家の財政は年々赤字であつた。一九三七年七月に抗日戦争がはじまつてから一九四九年五月までの十二年間に、国民党反動政府の通貨は一四〇〇余億倍増発され、物価は八兆五〇〇〇余億倍はねあがつた。

当時の中国の状況はこんなにもじめだつたので、アメリカの國務長官マーシャルでさえ、一九四八年二月にアメリカの上下両院の外交委員会常任委員会でよみあげた声明のなかで、アメリカがたえずつきこんでいる大量の援助も中国の経済危機を救うすべがないことを認めざるをえず、しかも、「中国は原料と工業資源に欠けており」、ちかい将来第一流の強國となることはむずかしい、と断定したのであつた。マーシャルのあとをうけて國務長官となつたアチソンは、一九四九年八月にアメリカ大統領トルーマンにあてた手紙のなかで、「人民に飯を食わせる問題を解決すること」についての中国共産党の「種々の約束」をあざ笑ひ、この問題では中国のいかなる政府も成功することはありえない、と予言したのであつた。

ところが、ちようどその一九四九年の六月に、毛沢東同志は、北京における人民政治協商會議準備会の開会式上で、「中国の運命がひとたび人民自身の手になげられるや、中国が、まさに太陽の東からさしのぼるように、自己の輝かしい光芒であまねく大地を照らし、反動政府のこした汚れを急速に洗いおとし、戦争の痛手をりつぱに癒し、真新しい、強力な、繁栄する、名実ともにそなわつた中華人民民主共和国をきずきあげてゆくのを中国人民は見えてとるであろう」とおごそかに宣言したのであつた。

誰の予言があつただろうか？

調整後の一九五九年の計画の完成予定数字によれば（この計画の大部分の指標が超過完遂されることは現在す

で見てとることが出来る)、わが国の工農生産総額は一九四九年に比べて四・三倍ふえ、そのうち工業生産総額は一〇・七倍ふえるであろう。鋼鉄の生産量は一二〇〇万トンにたつし、一九四九年の二五万八〇〇〇トンに比べて七五倍ふえ、採炭量は三億三五〇〇万トンにたつし、一九四九年の三二四三万トンに比べて九倍あまりふえ、発電量は三九〇億キロワット時にたつし、一九四九年の四三億一〇〇〇万キロワット時に比べて八倍あまりふえ、綿糸の生産量は八二〇万梱にたつし、一九四九年の一八〇万梱に比べて三・五倍ふえるであろう。一九五八年には、わが国の鋼鉄、石炭、発電量、綿糸は、世界の第七位、第三位、第十一位、第二位にそれぞれ躍進した。旧中国では百年ちかくにわたつて現代工業の建設をおこなつていながら、一九四九年になつても工業の固定資産はなお一三〇億元にたつたのに、新中国の十年間に新しくふえた工業の固定資産は四五〇億元前後にたつしている。旧中国の発電事業の発展は七十年ちかくにおよんでいるが、一九四九年になつても発電能力はなお一九〇万キロワットにたつたのに、新中国の十年間に新しくふえた発電能力は、この数字の三倍以上に等しい。旧中国の鉄鋼業の建設は六十年ちかくにおよんだが、一九四九年になつても製鋼能力はなお一〇〇万トンにたつたのに、新中国の十年間に新しくふえた製鋼能力はこの数字の一〇倍以上をうわ回つてゐる。

帝國主義分子は、われわれの調整いごにおける一九五九年の計画を「大躍退」だとあざ笑つてゐる。周知のように、一九五八年はわが国の工農生産が特大躍進をとげた年であり、実際と照合した工業生産総額は一九五七年に比べて六六パーセントふえてゐる。調整後の一九五九年の工業の指標は、特大躍進をとげた一九五八年の工業生産総額に比べてやはり二五・六パーセント高い。あきらかにこれは、特大躍進の基礎のうえにおける、

ひきつづく大躍進である。こうした躍進の速度は、帝國主義国の夢にも考えられないところである。では、われわれの発展速度を、二つの主な帝國主義国とくらべてみよう。一九五〇年から一九五八年までの九年間に、わが国の工業生産総額は毎年平均二八パーセントふえてゐるのに、アメリカは三・七パーセント、イギリスは二・九パーセントであつた。わが国の工業が特大躍進をとげた一九五八年に、アメリカの工業は前年より六・五パーセント低下し、イギリスは〇・九パーセント低下してゐる。もしもわれわれの速度を「大躍退」だといふのなら、かれらの速度をいつたいなんと呼ぶべきか？ 尋ねてみたいものである。

ブルジョア評論家たちは、われわれの大躍進の偉大な意義をおとしめるため、さらにもうひとつの尤もらしい謬論をのべたててゐる。かれらは、中国の発展速度のはやいのは中国のものと水準があまりにも低いからにほかならない、といつてゐる。だが、実際の状況はいつたいどうだろうか？ われわれの発展速度は、毎年平均増加率に示されてゐるばかりでなく、毎年絶対増加数にも示されてゐる。わが国の鋼鉄の生産量は、一九四九年には一五万八〇〇〇トンであつたが、一九五九年には一二〇〇万トンにたつする予定であつて、つまり、十年間に一一八四万二〇〇〇トンふえてゐるのであり、これはアメリカの歴史上で一八七二年から一九〇一年までの二十九年間にふえた量にほぼひとしく、あるいはまたイギリスの歴史上で一八六九年から一九三六年までの六十七年間にふえた数量に相当してゐる。なぜアメリカやイギリスはその当時中国の現在のような躍進的な速度で発展できなかったのか？ ブルジョアジーの詭弁家諸君、諸君はさらにどんな論拠をもち出して、資本主義国の

工業、とりわけ重工業のこうした急速な発展によつて、わが国の国民経済のしくみにはいちじるしい変化が生

じた。工業生産総額が農業生産総額のなかでしめる比重と生産手段の生産額が工業生産総額のなかでしめる比重は、一九四九年にはそれぞれ三〇パーセントと二六・六パーセントだったのが、一九五八年にはすでにそれぞれ六三・六パーセントと五七・三パーセントにふえている。いまでは、われわれはすでに約五〇〇種類の鋼鉄、六〇〇〇種類の鋼材、多種多様の新式大型工作機械、二五〇〇トンの鍛造用水圧プレス、採炭およびコークス製造用のプラント、一五〇〇立方メートル余の大型高炉設備、ジェット機、各種の自動車、トラクター、積載トン数五〇〇〇トンの汽船、七万二五〇〇キロワットの水力発電設備と五万キロワットの火力発電設備、紡績、製紙、製糖用のプラント等々を自力で生産しはじめている。工業の分布にもいちじるしい変化が生じた。鉄鋼業はもとはその九割以上が東北に集中していたが、いまでは、チベット以外の各省、市、自治区のすべてに、大小の鋼鉄基地が多かれ少なかれ建設されている。発電所は、もとは少数の大都市と工業基地に集中していただけであつたが、いまでは全国の大、中、小の各都市から若干の農村にいたるまで、すべて規模のことなる発電所を擁している。紡績工業は、もとは主として上海、青島、天津、無錫などいくつかの都市に集中していたが、いまでは全国の多くの省にあまたの新型紡績工場が新設されている。内蒙古、新疆、青海、甘肅などいぜん荒れはてていた多くの僻地や人口の大へんすくなかつた都市にも、いまではすでに大規模な工業基地が出来ている。こうした事實はすべて、わが国の工業化の基礎がすでにうちたてられたことを物語っている。世界のいかなる力といえども、わが国があまり長くない期間内に、繁栄した、富強な大工業国へと発展するのを阻むことは出来ないのである。

われわれは、工業を發展させるにあつて、農業を發展させることを決して忘れなかつた。十年間に、わが国の農業生産総額は一・五倍ふえるであろう。一九五九年の食糧の収穫高は五五〇〇億斤にたつし、一九四九年の二二六二億斤にくらべてこれも一・五倍ふえるであろうし、綿花の収穫高は四六二〇万担にたつし、一九四九年の八八九万担にくらべて四・二倍ふえるであろう。わが国の食糧の総収穫高は、一九五二年から世界第一位を占めており、綿花の総収穫高は昨年是世界第二位であつた。もちろん、人口一人あたり平均の計算では、わが国の農業の水準は、工業の水準と同様に、まだきわめて低い。だが、問題の鍵は發展の速度である。わが国の農業機械と化学肥料はまだひじょうに少なく、それにひきかえアメリカはわが国よりいく倍多いか分からないほどもっているにもかかわらず、一九四九年から一九五八年までに、わが国の食糧の収穫高は一三〇パーセントふえたのに、アメリカではかえつて二八パーセント減つている。

農村における基本建設は急速に發展をとげている。解放当初、全国の灌漑面積は二億四〇〇〇万ム^キにすぎなかつたが、すぐる十年間に、大量の農地水利と貯水池の工事をおこしたため、灌漑面積はすでに一〇億ム^キ以上にたつしている。農村ではさらに、主として農業に奉仕する、おびただしい数にのぼる小型の工場を新設した。農業と緊密なつながりのある林業、畜産業、副業、漁業もいちじるしい發展をとげた。一九四九年から一九五八年までに、全国の造林面積は累計五億ム^キにたつし、大家畜は六〇〇〇万頭から八五〇〇万頭にふえ、豚は五七〇〇余万頭から一億六〇〇〇万頭にふえた。

工業の發展に呼応して、交通運輸業もひじょうな發展をとげた。一九四九年のわが国の鉄道の運行キロ数は二万二〇〇〇キロにみたなかつたが、一九五八年にはすでに三万一〇〇〇余キロにふえた。現在、全国の各省と

自治区では、チベットをのぞいて、すべて鉄道が通じている。おなじ期間内に、自動車道路は、八万キロから四〇万キロにのびた。一九五〇年のわが国の民用航空路は一万一〇〇〇余キロにすぎなかつたが、一九五八年にはすでに三万三〇〇〇キロにのびた。貨物の輸送トン・キロ数は、一九四九年から一九五八年までの九年間に、鉄道は九倍あまり、自動車は二六倍あまり、汽船と艇は九倍あまりそれぞれふえた。機械化されていない木造船、畜力車などによる輸送もいちじるしい発展をとげた。九年間に成渝（成都—重慶）鉄道、宝成（宝鸡—成都）鉄道、鷹厦（鷹潭—厦門）鉄道、天蘭（天水—蘭州）鉄道、包蘭（包頭—蘭州）鉄道、武漢揚子江大鉄橋、青海・チベット自動車道路、西康・チベット自動車道路、新疆・チベット自動車道路など多くの大建設工事が完成をみだし、目下建設中のものには蘭新（蘭州—新疆）鉄道、川黔（四川—貴州）鉄道、内昆（内江—昆明）鉄道、湘黔（湖南—貴州）鉄道などと揚子江、黄河をまたぐいくつかの大鉄橋がある。おびただしい簡易自動車道路の建設によつて、一九五八年には全国の九七パーセントの県城に自動車を通じるようになった。郵便・電信・電話と放送事業もひじょうに急速な発展をとげた。全国の郵便・電信・電話関係の機構は、一九四九年の二万余カ所から、一九五八年には六万余カ所にふえた。全国農村の人民公社はその九八パーセントまで電話が通じている。

一九五八年のわが国の商品小賣額は一九五〇年にくらべて二・二倍ふえた。各種のおもな消費物資の販賣量を一九五〇年にくらべると、食糧は六二パーセント、食用植物油は九七パーセント、食塩は九四パーセント、砂糖は三倍、水産物は二・四倍、綿布は一・二倍、機械製紙は二・七倍それぞれふえている。消費物資の供給がたえずふえ、投機商人が徹底的に一掃され、国家の財政収支の平衡と銀行の信用貸付の平衡がとれたため、一九五〇

年いらい、わが国の物価は一貫して安定をつづけており、わずかに工農業生産品の比価について若干の計画的な調整がなされたにすぎない。

十年らい、わが国の対外貿易もきわめて大きな変化をとげた。一九四九年に、中国革命が勝利していご、税関の管理権は帝国主義の手から回収され、輸出入貿易の面で長いあいだつづいていた輸入超過という局面も好転しはじめた。一九五八年の全国輸出入貿易総額は一九五〇年にくらべて二・一倍ふえ、そのうち輸入は一・九倍、輸出は二・三倍ふえており、輸出入は基本的に平衡を保っている。輸入物資は、解放まえ消費物資が主であったのとは反対に、九〇パーセント以上が機械設備、原料、材料などの各種生産手段であつて、これはわが国の経済建設にとつてきわめて大きな役割をはたしている。わが国の輸出貨資はまだ主として農産物であるが、輸出のなかで工業製品のしめる比重も、一九五〇年の九・三パーセントからしだいにふえ、一九五八年には二七・五パーセントにたつしている。

まさしく毛沢東同志が予見したように、「一経済建設の高まりの到来にともなつて、不可避免的に文化建設の高まりがあらわれる」。一九四九年から一九五八年までに、全国の大学・専門学校の学生数は一一万七〇〇〇人から六六万人にふえ、四・七倍増大し、中等実業学校の生徒は二二万九〇〇〇人から一四七万人にふえ、五・四倍増大し、一般中学校の生徒数は一〇四万人から八五二万人にふえ、七・二倍増大し、小学生は二四四〇万人から八六〇〇万人にふえ、二・五倍増大した。一九五八年には、多くの県や市では基本的に小学校教育が普及し、全国の学齡兒童の八五パーセントがすでに入学している、労働者 職員、農民および都市の住民のあいだにおける文盲一掃運動と業余の補習教育も、非常な進展をとげている。各級の学校では、「教育はプロレタリアートの政治

に奉仕し、教育と生産労働をむすびつける」という党の方針をつらぬきとおし、こうして教育戦線で社会主義革命をふかく展開したのであつた。

科学研究活動は、十年らしい、非常な発展をとげている。一九五八年末までに、全国に専門の自然科学・技術研究機関は八四〇余カ所を数え、研究人員は三万二〇〇〇余人にたつし、解放当時にくらべてそれぞれ二〇倍と五〇倍ふえている。

おなじ期間内に、出版事業や映画、演劇その他の芸術事業はすべて巨大な発展をとげた。

十年らしいの衛生・保健事業の発展も非常にはやい。一九五八年の全国における病院、サナトリウムの数は五六〇〇余カ所、ベッド数は四四万で、一九四九年にくらべて四倍あまりふえている。このほかさらに、九〇余万の簡易ベッドが新設され、小都市と農村に分布している。一九五八年には、わが国の衛生技術人員は二一六万人にたつし、一九五〇年の七八万人にくらべて一・八倍ふえている。

各方面の建設事業の発展にともなつて、人民の物質的、文化的な生活水準は大幅に向上した。この事實は、上のべた商品小賣額の増加と文化・教育・衛生事業の発展から十分に説明できる。一九四九年の全国の各企業、事業体および国家机关の労働者・職員の数合計八〇〇万人であつたが、一九五八年末にはすでに四五〇〇余万人にたつし、四・七倍ふえている。そのうち、産業労働者は三〇〇万人から二五六〇万人にふえ、七・五倍増大している。旧中国からのこされた失業現象はすでに完全に一掃されたばかりでなく、さらにまた就業面がいちじるしく拡大され、全国の都市人口のうち平均五人に二人は就業している。一九四九年から一九五八年までに、わが国の労働者・職員の平均賃金は倍以上ふえ、農民の個人収入は倍ちかくふえている。全国で労働保険の適用をう

けている労働者・職員は、一九四九年の六〇万人から一九五八年の一三七八万人にふえている。全国の農民は、人民公社に参加していで、労働力のないものの絶対多数が、食糧または食事の無料供給をうけており、以前のように飲食にこまるといった困難な生活は、間もなく歴史の思い出にかわるうとしている。

国家は、各少数民族地区の建設に非常な注意をはらつてゐる。一九五〇年から一九五八年までに、少数民族地区への国家の投資は七〇億元をこえている。いまでは、多くの少数民族地区に新しい工業基地が出来ており、鉄道と自動車道路がひかれています。少数民族地区の一九五八年の工業生産総額は一九四九年の一〇倍にあたり、食糧の収穫高と家畜の頭数も一九四九年にくらべて倍以上ふえている。国営商業と販賣購買協同組合の少数民族地区における賣上額は、一九五八年には一九五二年にくらべて四・七倍ふえ、買付額は五・二倍ふえている。少数民族の学生・生徒数は解放前の九倍以上に相当している。病院およびサナトリウムはすでに七七五カ所、ベッド数は合計三万四〇〇〇あまりにたつており、このほかさらに医療保健所（あるいはステーション）が一万四〇〇〇あまりある。各少数民族は数百年らしい、人口がたえず減少する傾向をたどってきたが、それもすでに完全にあらためられ、経済的、文化的な生活が日々向上するという新しい現象がみられるようになった。チベット地区は、これまで民主改革がながいあいだ妨げられていたため、状況がわりあいに特殊であつた。しかし、叛乱の平定いご、人びとはやはり積極的に新しい生活をめざして進軍をはじめており、幸福と進歩のチベットはあまり長時間を要しないで建設されるであらう。

十年まえの中国では、国の政治状況がこの上もなく暗黒であり、反動的であつたことは、これまた誰しも知つてゐるところである。帝国主義者の手先——買弁資本家、封建地主、軍閥官僚および土豪劣紳は人民の頭上にの

しかかつて威張りちらし、搾れるだけ搾りとつていた。広はん人民は、まったく無権利な奴隸的地位におかれていた。多くの少数民族の人民は、帝國主義者と自民族の貴族、地主、奴隸主の圧迫をうけるいがい、さらに漢族の支配者から民族的な圧迫をうけていた。国はながいあいだ分裂しており、帝國主義の侵略戦争、各派軍閥の混戦、反動支配者のおこした反革命的内戦が数十年間たえまなくつづき、人民はいやというほど戦禍を被つた。国民党の支配していた時期には強盗、匪賊、ごろつき、秘密結社・迷信団体がいたるところで猖獗をきわめ、社会の秩序は目もあてられないほど乱れきつていた。

十年らい、これらすべてになんと大きな変化がおこつたことであろう！人民の頭上にのしかかつていた貪欲な、くさりきつた悪政府は消滅され、これにとつてかわつたものは、人民が代々夢にえがいてきた、真に人民のために奉仕する廉潔勤勉な政府であつた。人民の無権利状態はもはや永遠に幕をとじ、きわめて広はん人民は、法律上のみでなく、實際上においても、国の公共事務を管理するというもつとも幅のひろい民主主義を享受している。民族が圧迫をうけるといふ現象はなくなり、われわれの祖国は各民族の完全平等と友愛互助の大家庭となつた。国はかつてみられないほどの固い統一を実現した。強盗、匪賊、ごろつき、秘密結社・迷信団体および娼妓、乞食、賭博場、麻薬などは、ひとつのこらずとり除かれ、社会の秩序はきわめて安定している。広はん大衆はひとつに団結し、精神をふるいたたせ、闘志をたぎらせ、天をつく意気込みで自分たちの幸せな生活を建設しているのである。

十年まえの中国が国際政治の面で見じめな地位にあつたかも人びとはよく知つてゐる。ながい年月、わが国は植民地的、半植民地的な国であつた。帝國主義列強はわが国をうまさうな肉塊とみなし、寄つてたかつて

つつきまわしていた。ヨーロッパの帝國主義者はこれを山分けしようとし、日本侵略者はこれを独占することを要求したばかりか、一九三七年から一九四五年にかけてそのほとんど半分を独占した。第二次世界大戦いご、アメリカはひたすら日本侵略者の地位をひきつぐことにこれ努めた。中国は世界で人口のもつとも多い国でありながら、世界の政治的生活上で当然もつべき権利をうばわれていたばかりでなく、さらにまた、自分自身の事柄を処理する権利をほとんどうばわれていたのであつた。

いまでは、植民地的、半植民地的な旧中国はもはや二度とかえつてはこない。人びとのまえにあらわれたのは独立自由の、人民の新中国である。まさしく毛沢東同志が、中華人民共和国成立のさいに宣言したように、「われわれの民族は、これからは平和と自由を愛する世界各民族の大家庭に入り、勇敢でしかも勤勉な態度で働き、自己の文明と幸福をつくりだすとともに世界の平和と自由をもうがすがさである」。中国の衰弱は、いま、それとは反対の強盛へと向かいつつある。それと同時に、中国の国際上における無権利な地位も、いまその反対の方向へと変化をとげつつある。すでに解放したすべての土地のうえで、中国は自己の国家主権を十分に行使している。中国はまた、その利益と世界平和の利益につながるいつさいの重大な国際問題に参与する権利をもたなければならぬのである。アメリカ帝國主義は朝鮮侵略戦争をひきおこすと同時に、わが国の領土台湾を侵略占領し、さらに侵略の焰を朝鮮から中国大陸にまで拡大しようとして、武力に訴えて、生まれたばかりの新中国を滅ぼそうと妄想した。中国人民は、猛烈な勢いで抗米援朝、祖国防衛の闘争をおこない、この侵略陰謀を粉碎した。台湾はいまなおアメリカ帝國主義に侵略占領されているが、しかし中国人民はかならず台湾を解放するのであつて、これは、いかなる力をもつても阻むことの出来ないものである。アメリカ帝國主義は、いまにいた

るもなお、国際事務のなかで新中国を孤立させ、排斥しようとしておめているが、この企ても日一日と失敗をなめている。いまわが国と国交をうちたてている国、および半ば国交をうちたてている国はすでに三三カ国にのぼっており、わが国と経済関係をうちたてている国と地区は九三を数え、文化的なつながりをうちたて、友好的な往き来をおこなっている国と地区はすでに一〇四を数えている。われわれは、偉大なソ連およびその他の社会主義諸国とかたくひとつに団結している。わが国は、「五原則」とバンドン宣言にもとづいて、アジア、アフリカの多くの民族主義国とのあいだに友好協力の関係をうちたて、これを発展させて、広大な平和地域を形成している。わが国は世界の大国のひとつとして、ソ連を先頭とする偉大な社会主義陣営の一員として、国際間の平和をまもり、人類の進歩の事業を発展させるうえで、当然なすべき貢献をしてきたし、いまもしているのである。

これらいつさいの飛躍的な発展をどう解釈するか？ これらは一体どのようにしておこなったのだろうか？

人民中国の飛躍的な発展は、根本的には、中国の社会がもつとも徹底した民主主義革命と社会主義革命を経て、中国がすでに生産手段の公有制を基礎とする社会主義社会となつていることによるものである。

中国人民がもしも自己の頭上にのしかかっていた帝国主義、封建主義、官僚資本主義のこの三つの大きな山をくつがえさなかつたならば、いつまでも貧窮と落後のさなかに沈淪するほかなかつたであろうことはいまでもない。しかし、この三つの大きな山をくつがえしてのち、もしもただちに社会主義の道をすすまず、徹底的な社会主義革命を実現せず、計画的な社会主義建設を進展させないで、民族独立をかちとつていざ資本主義の道を歩んでいくいちぶの国とおなじようであつたならば、やはり、十年らしい飛躍的な発展は絶対にありえなかつたであろうし、ましてや昨年らしい大躍進はなおさらのことであつたであろう。

国が経済的、文化的におくれているれば、社会主義は実現できないとするそうした反動的な論点は、レーニンと毛沢東同志によつてとつとくに完膚なきまでに反駁されている。わが国の社会主義革命と社会主義建設の事業がなぜこんなにはやく、こんなに順調に発展をとげているかについていうならば、それには客観的条件と主観的条件があることを指摘しなければならぬ。客観的には、中国は土地のひろい、物産のゆたかな、人口の多い国であり、人民大衆は革命的な要求と革命的な伝統をもつており、また、中国革命は偉大な十月社会主義革命のちにおこつたので、中国はソ連の経験とソ連の援助をいかすことが出来るし、全社会主義陣営の援助をいかすことが出来るのである。主観的には、それは、中国共産党と党の指導者毛沢東同志の正しい指導によるものであり、こうした指導がマルクス・レーニン主義の普遍的真理と中国革命の具体的実践とをむすびつけることに長じており、ソ連その他の社会主義諸国の建設上のすすんだ経験と中国の建設上の経験とをむすびつけることに長じており、中国の条件におうじてマルクス・レーニン主義の連統革命論とマルクス・レーニン主義の革命発展の段階論とをむすびつけることに長じており、中国の条件におうじて大衆路線の活動方法をつらぬきとおして、党の指導とよく百千万人民の大衆運動、いく百千万人民の積極性、創意性とをむすびつけることに長じていることによるものである。ここで、われわれは、党と毛沢東同志の指導方法、とりわけ連統革命の方法と大衆路線の方法についてすこしばかり多く述べてみたいと思う。

中国の十年らしい発展は連統革命の過程であつた。

はやくも一九四九年三月の、党の第七期中央委員会第二回総会で、党中央と毛沢東同志は、中華人民共和国の成立は民主主義革命の全国にわたる勝利であり、同時に社会主義革命の発端となるであろう、と指摘した。一九

四九年の革命の勝利のなかでうちたてられたプロレタリアートの指導する、労働同盟を基礎とする人民民主主義独裁の権力は、民族ブルジョアジーの代表者をいちぶ吸収して参加させてはいたものの、実質的にはすでにプロレタリアート独裁の権力であった。このときには、全国にわたる民主主義革命の中心課題、すなわち帝国主義、封建主義、官僚資本主義の反動支配をくつがえす問題はすでに解決済みであり、国内の基本的な矛盾はプロレタリアートとブルジョアジーとのあいだの矛盾となっていた。革命は、民主主義革命の段階にふみとどまるべきではなくて、ひきつづきぐんぐん発展をとげ、社会主義革命の勝利を目指して発展しなければならなかったのである。

一九四九年いごの最初の数年間、中国人民はまだ非常な努力をほらつて、民主主義革命の段階からのこされた任務をやりとげることが必要であつた。その中のおもなものは、全国にわたつて反封建の土地改革をやりとげることであつた。しかし、人民の大革命が一九四九年に全国的な勝利をおさめていご、官僚資本を没収して、官僚資本的所有制の経済を社会主義の全人民的所有制の経済にきりかえたので、経済の面からいえば、すでに民主主義革命の範囲をこえていたのである。そして、強大な社会主義の国营経済をうちたて、全国経済中における自己の指導的地位を確立することがプロレタリアートと勤労人民の第一の重要な任務となつた。ブルジョアジーの不法分子による社会主義経済の破壊活動にたいしては、党は一九五二年に「三反」（国家機関の人員のあいだにおける汚職反対、浪費反対、官僚主義反対）、「五反」（ブルジョア工商業者のあいだにおける贈賄反対、脱税反対、国家資材の横領反対、手間ぬきと材料のごまかし反対、国家の経済情報の窃取反対）の大衆闘争を指導し、ブルジョアジーの攻撃にたいして決定的な打撃をくわえらるとともに、この勝利を基礎として、資本主義的工商業を、社会主義経済の指導に服従し、労働者階級の監督をうけいれる国家資本主義へと、大きく一歩前進させ

たのであつた。土地改革ののち、党中央は時をうつまず、互助協同化運動を発展させることについての指示を出し、単独経営の農民が協同化の方向に向かうことを大いに励まし、これを促すとともに、この問題についての右翼的な考えにたいしてたえずするどい闘争をくりひろげた。党中央と毛沢東同志は、党内外のいちぶのもの、いわゆる「新民主主義の秩序の強化」とか、「社会主義と資本主義との長期共存」とか、「農村における土地の賣買と賃貸、労働力の雇入れ、貸借、取引の四大自由の保証」とかいつたブルジョア的な観点にきつぱりと反駁をくわえ、時をうつまず社会主義的改造と社会主義建設を同時にすすめてゆく党の過渡期における総路線をうち出した。この総路線は、たちまち全国人民の支持をうけ、そして、中華人民共和国憲法のなかに規定された。党が機を逸せず一連の社会主義的改造の措置をとつたことによつて、革命運動は停顿することなく一歩一歩と前進をつづけ、ついに一九五五年の秋から冬にかけて、全国にわたる農業協同化の高まりがあらわれ、そして、この高まりはさらに全国の資本主義的工商業の全業種にわたる公私共営化実行の高まりをおしすすめ、また、単独経営の手工業者による手工業協同組合結成の高まりをもおしすすめた。こうして、生産手段の所有制の面における社会主義革命が基本的に完成したのであつた。

しかし、社会主義革命の任務はこれによつて終りをつげたのでは決してなかつた。それから間もなくして、党は新しい任務を提出した。それはつまり、政治戦線と思想戦線においてひきつづき社会主義革命をおこなわなければならず、しかもこの革命を徹底的にやりとげることであつた。上部構造の各領域が社会主義の経済的基礎にいつそう適応できるようにすると同時に、すでにうちたてられている社会主義的な生産手段の所有制を基礎として、生産過程における人と人との関係を一段と調整し、これによつて社会主義の生産関係をいつそう健全なもの

にし、發展させてゆかなければならなかつたのである。これがすなわち、一九五七年から一九五八年にかけての反右派闘争と整風運動の任務であつた。反右派闘争と整風運動の結果は、社会主義に反対するブルジョアジートの右派が人民のあいだですつかり孤立してしまい、広はん人民の社会主義的自覚が大いに高まつたことであつた。人民内部の矛盾がいつそう正しく処理されたため、国家機関や企業中の勤務人員と労働者・農民大衆との関係、労働者・農民大衆内部の相互関係、あるいは各民族相互間の関係のいずれをとわず、おしなべていつそう改善をみるにいたつた。反右派闘争と整風運動の勝利によつて、全国人民の社会主義建設にたいする革命的な積極性は空前の高まりをみせた。

建國いらい、たえずぐんぐん發展をつづけてきた革命運動は、一九五八年と一九五九年、つまり第二次五カ年計画の最初の二年間に未曾有の偉大な収穫をおさめたのであつて、これがすなわち国民経済の大躍進である。わが国の第一次五カ年計画の期間における工業生産の増加速度はもとときわめて速いものであつた。しかし、一九五八年と一九五九年には、工業生産の増加速度は、まえの五年間の水準をはるかにしのいでいる。第一次五カ年計画の期間に工業生産総額は毎年平均一八パーセントふえたのであつたが、一九五八年と一九五九年（一九五九年は計画数字による——以下おなじ）の二カ年には平均して四五パーセントふえている。鋼鉄の毎年平均増加速度は最初の五年間は三一・七パーセントであつたが、この二年間は五〇パーセントであり、石炭の毎年平均増加速度は最初の五年間は一四・四パーセントであつたが、この二年間は六〇パーセントである。農業の面では、第一次五カ年計画の期間における農業生産総額は毎年平均して四・五パーセントふえたが、一九五八年と一九五九年の二年間は平均して一七パーセントふえている。食糧の毎年平均増産速度は最初の五年間

は三・七パーセントであつたが、この二年間は二三パーセントとなつており、綿花の毎年の平均増産速度は、最初の五年間は四・七パーセントであつたが、この二年間は一九パーセントとなつている。第一次五カ年計画の期間中に完成した工業建設項目は一万にちかいが、一九五八年の一年間には四万一〇〇〇余項目が完成している。そのうち、投資基準額以上の工業建設項目で、最初の五年間にその全部もしくは一部が完成して操業をはじめたものは五三七項目であつたが、一九五八年の一年間には七〇〇項目にたつしている。

一九五八年と一九五九年にわが国の経済が第一次五カ年計画の期間よりもはるかに高速度で發展をとげることが出来た原因はどこにあるのか？ それは、第一次五カ年計画の期間中に工業化の一応の基礎がうちたてられ、第二次五カ年計画の期間中における経済の急速な發展のための有利な物質的な条件を準備したことによるばかりでなく、さらに重要なものはないとして、最初の五年間の大部分のあいだは、農業、手工業、資本主義的工商業にたいする社会主義的改造がすすめられている最中で、それがまだ完成しておらず、生産過程における人と人とのあいだの真に同志的な協力関係がまだ十分うちたてられておらず、政治戦線、思想戦線におけるブルジョアジーの影響がまだ甚だしく存在しており、これらすべてが勤労人民の生産意欲を制約していたからである。最初の五年間の後半、すなわち一九五五年の下半期から一九五七年にかけて、経済戦線、政治戦線、思想戦線における社会主義革命がつきつきと停頓することなく偉大な勝利をおさめ、社会的生産力と勤労人民の生産意欲がかつてないほど解放されたし、そしてまた、わが党が、こうした有利な情勢にもとづいて、時をうつつさず「大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設する」という総路線をうち出し、これを実行にうつしたのであつて、まさしくこれらすべてによつてはじめてわが国民は、第二次五

五年計画がはじまるや、ただちに一大躍進の新局面をひらき、国民経済の発展速度を第一次五年計画の期間中にくらべてはるかに高めたのであった。

社会主義の生産関係およびこうした生産関係、すなわち経済的基礎に適應する上部構造は、うちたてられてのちも、たえず発展をとり、たえず完全なものとなる過程にあり、固定した、不変のものではありえない。生産力がはびきつづきぐんぐん発展をとげるといふ要求に適應するためには、生産関係の各分野は随時調整の必要があり、それにとりなつて、こうした経済的基礎の上にうちたてられている上部構造の各分野も随時革新される必要があるである。生産力と生産関係とのあいだ、経済的基礎と上部構造とのあいだでは、矛盾がたえず発生し、そして克服され、克服されるとまた発生するのであつて、これは、川の流れるとどまることを知らないように、たえず更新されてゆく弁証法的な過程である。社会主義の生産関係とその上部構造が必要におうじてたえず調整され、革新されてゆくからこそ、はじめて生産力の不断の高まりが保証されるのである。一九五八年のわが国農業生産の大躍進中にあらわれた、全国農村における人民公社化運動の発展こそ、この真理のひとつの新しい証明にほかならない。農業生産と全農村経済の巨大な発展の必要性をまえにして、それまでの高級農業生産協同組合ではもはや適應できなくなつたことが感じられた。全国の七四万余の農業生産協同組合は、各組合あたり平均およそ一六〇戸を擁していたのが、一九五八年の夏から秋にかけて合併し、二万六〇〇〇余の公社に改組され、各公社は平均およそ四六〇〇戸あまりを擁することになり、そのご体制の整備によつて、こんどは二万四〇〇〇あまりの公社に改組され、各公社は平均五〇〇〇戸あまりを擁するようになった。つまり、その規模は、もとの農業生産協同組合の三〇余倍になつたのである。公社は、規模が大きく、力が大きいので、農業、林業、畜産業、副

業、漁業などの各業の生産と建設を急速に發展させることが出来るばかりでなく、農村における工業、農業、商業、文化・教育、軍事の各方面の活動を統一的に指導して、経済組織と基礎権力組織の一体化を実現することが出来る。農村の人民公社は、やはり集団的所有制の経済組織であつて、おもな生産手段はやはり、だいたいもとの農業生産協同組合に相当する生産隊の所有にぞくしているが、公社の級はすでに部分的な生産手段を有しており、また毎年各生産隊からかなりの蓄積を引き出すことが出来るし、社員の収入の分配制度のなかにも一定の範囲の現物給与の要素がふくまれているのである。人民公社化が勝利した一九五八年には、全国の農業生産総額は一九五七年にくらべて二五パーセントふえ、そのうち林業の生産額は一九三・二パーセントふえ、漁業の生産額は二二・八パーセントふえ、畜産業の生産額は五・二パーセントふえている。全国の農地水利建設と造林の面積は、いずれも第一次五年計画期間中の五年間の累計をはるかにしのいでいる。人民公社の工業と運輸業も非常な發展をとげた。さきごろの体制整備後の統計によると、全国の人民公社は約七〇万の工業単位をもつており、その生産総額は前年同期にくらべて二倍ふえている。一九五八年における農村の人民公社の蓄積は一〇〇億元にたつし、一九五七年にくらべて倍以上ふえている。全国の農民の収入水準と生活水準では、一九五八年は一九五七年にくらべて平均一〇パーセント前後高まつている。これらいつさいの事実は、人民公社のもつてきた大きな優越性が疑う余地のないものであること、この運動に反対するものいかなる「理由」もすべてひとたまりもなく覆されるものであることを物語っている。

一億一〇〇〇余万の単独経営の農家が二万四〇〇〇余の公社に転じたということ、これはなんと巨大な変化であろう！これは、マルクス・レーニン主義の連続革命論のなんと輝かしい勝利であろう！

わが国の社会主義革命の過程は、ひとつの連続革命の過程であり、同時にまた、一定の発展段階におうじて順をおつて漸進する過程でもある。党の第八期中央委員会第六回総会の決議は、「われわれは、マルクス・レーニン主義の連続革命論者であつて、民主主義革命と社会主義革命とのあいだ、社会主義と共産主義とのあいだに、これをへだてる万里の長城はないし、またあつてはならない、と考えている。われわれはまた、革命発展についてのマルクス・レーニン主義の段階論者であつて、ことなつた発展段階は事物の質的变化を反映するものであり、これらの質的にことなつた段階をたがいに混同すべきでないと考えらる」とのべている。実際に、われわれは、民主主義革命の任務と社会主義革命の任務とを真剣に区別し、社会主義の原則と共産主義の原則とを真剣に区別し、かならず経なければならぬ、社会の歴史的な発展段階をとびこえることに反対するばかりでなく、それぞれの社会の歴史的な発展段階のなかで、さらに具体的な状況にもとづいて、相対的に量的変化の性質にぞくする、比較的ちいさないくつかの発展段階（比較的ちいさなひとつの発展段階から比較的ちいさなもうひとつの発展段階にたつすることも、もちろん、一種の比較的ちいさい質的变化である）を真剣に区別し、適当な段どりをとおつて、生産関係の一步一步の進展変化と大衆の自覚の逐次の成熟の必要性に適應するようにしている。広はんな農民が、自覚をもち、自発的な意志にもとづいて、単独経営経済から人民公社へと前進することが出来たのは、農民が互助組、經常的な互助組、初級農業生産協同組合、高級農業生産協同組合などの一連の段階を経てきているからである。資本主義的工商業者がたいして無理もなく全業種にわたる公私共営化をうけいれたのも、かれらが工業の面での加工発注、統一買付、一手販賣、商業の面での取次販賣、代理販賣および個別的な企業公私共営化など一連の段階を経てきているからである。同様に、政治戦線、思想戦線における社会主義革命

も、一連の大衆運動を経て、階級闘争の具体的な状況に適應しつつ、あるときは高く、あるときは低く、波瀾のうちすすむように前進し、しだいに深まつていつたのである。党のこうした正しい指導によつて、大衆の革命的な熱情はつねに満ちあふれ、革命の発展が途中で停頓することによつて冷却してしまふようなことのないようにすることが出来たし、また、大衆の自覚を一步一步高めてゆき、革命の発展に心構えを欠くようなこともないようにする事が出来た。このため、社会主義革命の全過程をつうじて、党のすべての呼びかけは、広はんな大衆の熱烈な支持をうる事が出来たのであつた。そしてまた、このためにこそ、社会主義革命の発展はひじょうに急速であつたにもかかわらず、工業の生産は終始高まりをつづけ、基本的にはなんの破壊も生じなかつたのである。

党が連続革命論と革命発展の段連論を運用する面でおさめた成功は、社会主義革命の全過程で党が終始マルクス・レーニン主義の大衆路線という活動方法を堅持したことと切りはなすことは出来ない。党はつねに、自己の指導と広はんな大衆運動を結合することに注意を払い、大衆がたえず革命的な自覚を高め、自分たちの力を組織して一步一步自身自身を解放してゆくように導いたのであつて、革命を大衆におしつたり、または勝利を大衆に恵みあたえたりすることはしなかつた。この点については、われわれはこれまで一再ならず述べてきているのであつて、なぜなら、党が民主主義革命の過程でこうした活動方法を堅持して勝利をおさめたからである。この問題についての新しい事柄は、社会主義建設の事業に運用し、これによつて、党中央と毛沢東同志は、ひきつづきこの活動方法を系統的に社会主義建設の事業に運用し、これによつて、党の社会主義建設の総路線が形成され、ひいては国民経済の大躍進という局面が展開されたことである。党の指導と大衆運動とを結合するという

大衆路線の活動方法をはなれては、党の社会主義建設の総路線はありえないし、また昨年らしいの国民経済の大躍進もありえないということが完全にいえるのである。

党の社会主義建設の総路線の本質は、社会主義建設の事業にあつて人民大衆の自覚、積極性、創意性を高度に重視するということである。総路線は、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設することを要求しているのであつて、それはすなわち、六億五〇〇〇万人にたいして、自己の自覚、積極性、創意性を高め、自己の熱情と知恵と力を社会主義建設事業のなかで十分に発揮せよ、と呼びかけているのである。社会主義建設は多く、はやく、りつぱに、むだなく進めなければならないが、この複雑困難な任務を解決することは可能であろうか？ 帝国主義分子とブルジョア分子はわれわれに、それは不可能だ、という。かれらは、多く、はやくということと、りつぱに、むだなくということとの両者は兼ねることは出来ない、これを兼ねることを要求するのは、「馬を走らせたいが、といつて馬に草は食べさせたくない」というのと異なるところはない、と断言する。われわれの隊伍のなかの右翼日和見主義者も、かれらに調子をあわせて、出来ないという。しかし、われわれは、出来る、ときつぱり答える。なぜなら、われわれの依拠しているのは、なによりもまず、歴史の創造者——人民大衆だからであつて、これこそ、いつさいの帝国主義分子、ブルジョア分子および右翼日和見主義者の理解することの出来ない、または完全には理解することの出来ない力なのである。わが国はきわめて広はん人力を擁しており、そして、勤労者であり、生産用具の創造者、使用者である人間こそ、社会的生産力のなかでの決定的な要素であり、もつとも貴重な「資本」なのである。もちろん、六億五〇〇〇万人民の積極性というこのきわめて偉大な創造の力は、まえにも述べたように、社会主義革命なくして

は發揮できないものである。しかし、社会主義革命の実現いごとにおいても、もしも適当な方法でこれを動員することに注意をはらわなかつたならば、やはり十分にこれを發揮させることが出来ず、したがつて多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという目的もやはり達成できない。党の総路線は、経済生活と政治生活の客観的法則にもとづいて、工業と農業、重工業と軽工業、中央の工業と地方の工業、大型企業と中型、小型企業との関係を正しく按排し、重工業を優先的に發展させるという前提のもとに、工業と農業を同時に發展させ、重工業と軽工業を同時に發展させること、集中的指導、全面的な計画、分業・協業を前提として、中央の工業と地方の工業を同時に發展させ、大型の企業と中型、小型の企業を同時に發展させ、近代的方法による生産と旧式の方法による生産を同時に發展させることを定めている。こうした「二本の脚で歩く」方針を實行することは、各経済部門間の必要な均衡をたもたせるためばかりではなく、さらにまた、第一に各方面の積極的な要素をもつとも十分に動員し、もつとも広い陣地をきりひらいて、もつとも広はん人民大衆の建設の隊列が展開できるようにし、かれらの力を社会主義建設の事業にもつとも十分に活用できるようにして、多く、はやく、りつぱに、むだなくという要求の実現を保証するためである。中型、小型の、旧式な、または半ば旧式で半ば近代的な工業の労働生産性は、大型の、近代的な生産方法をとる工業にはおよばないが、いぜんの簡単な手仕事にくらべると、労働生産性はあきらかに大いに高まつている。わが国の今の条件下では、大型の、近代的な生産方法をとる工業を發展させると同時に、中型、小型の、旧式な、または半ば旧式で半ば近代的な生産方法をとる工業の發展に注意することは、けつして人力の浪費ではなくて、まさしく人力を合理的に利用することであり、けつして工業化の速度をゆるめることではなくて、まさしく工業化の速度を大いにはやめることになるのである。それ

と同時に、どの経済部門、どの企業であろうと、すべて、集中的指導とさかんに大衆運動を展開することを結合する活動方法を実行している。こうして、社会主義建設の中心任務——工業化の任務は、もつとも広はん大衆が直接参加し、積極的に参加する事業となつているのであつて、ある意味では、全人民による工業の経営といつても差支えないのである。

わが党内のいちぶのものが右翼日和見主義の泥沼におちこんだその根本原因のひとつは、建設事業内における人民大衆の主動的な、積極的な役割をかれらが認めなかつたところにある。かれらは党の総路線に反対し、とりわけ中央の工業と地方の工業を同時に發展させ、大型、中型、小型の企業を同時に發展させ、近代的方法による生産と旧式の方法による生産を同時に發展させるといふ、「二本の脚で歩く」方針に反対し、社会主義建設事業のなかで大衆運動の方法をとることに反対し、そんなことをやるのは一種の「小ブルジョアの熱狂的な運動」であり、その結果は、「多く、はやくやれるだけで、りつぱに、むだなくやることは出来ぬ」とか、「得より損の方が大きい」とかいつている。右翼日和見主義者は、活動のなかのごくわずかな、一時的な欠点をとりあげ、それに分析もくわえず、さらにそれを好き勝手に誇張して、大躍進を否定し、総路線に反対する目的を達しようとした。かれらのこうした、大衆を信頼せず、大衆をおそれ、大衆を誹謗するあらゆる論法にたいしては、事実こそもつともよい反駁者である。

社会主義建設事業のなかで大衆運動の方法を採用するということは、はたして一種の「小ブルジョアの熱狂的な運動」であり、はたして「多く、はやくやれるだけで、りつぱに、むだなくやることは出来ず」、「得より損の方が大きい」かどうか？ 周知のように、大躍進のなかで、勤労人民が大いに意気込んだため、多くの重要な

建設工事は予定よりもはやく完成して生産をはじめた。たとえば、武漢鋼鉄会社の、銑鉄の日産量二〇〇〇余トンの現代的な大高炉は、当初の計画では二カ年で完成することになつていたのが、わずか十四カ月で生産に入つている。鞍山鋼鉄会社の、鋼鉄の日産量一〇〇〇余トンの現代的な大型平炉は、当初の計画では十カ月あまりで竣工することになつていたが、わずか四カ月あまりで生産に入つた。まゑに建設した官庁貯水池は、土工・石工量一四五五立方メートル、貯水池の設計貯水量は二億七〇〇〇万立方メートルで、二カ年半をついやして完成した。さきごろ新設した密雲貯水池は、土工・石工量三〇五六立方メートル、貯水池の設計貯水量は四一億立方メートルであるが、わずか一年で一四六七立方メートルを完成し、洪水をふせぐ役割をはたしている。北京の人民大会堂のような大建築も、わずか十カ月あまりのあいだに完成しており、そのすぐれた出来栄は、わが国にもとからあつたおなじような建築物の水準をはるかにしのいでいるばかりでなく、世界でも一流にぞくするものである。それでいて、これらすべての建設にたいする投資額は、いずれも第一次五年計画の期間中におけるおなじような工事にくらべてはるかに少ない。鉄鋼業と石炭工業の建設を例にとると、いぜん大型高炉の建設では、容積一立方メートルあたりの平均投資額は二万五〇〇〇元であつたが、いまでは二万四〇〇〇元ないし一万八〇〇〇元を要するにすぎず、二八パーセントないし四四パーセント方さがつており、いぜん大型炭鉱の建設では生産能力一トンあたりの平均投資額は三三元であつたが、いまでは二三元にすぎず、三三パーセント方安くなつている。こうした事実をまゑにして、これらの建設が多く、はやくやれただけで、りつぱに、むだなくやれなかつたなどと誰がいえるだろうか？ 生産の面でも同様に、多く、はやくということが実現されたばかりでなく、りつぱに、むだなくということも実現されている。一九五八年には、工業製品の生産量は大々的にふえたば

かりでなく、十分に大衆を起ちあげさせ、あらゆる手段をこうして困難を克服したため、多くの新製品の試作に成功をおさめ、その種類は第一次五カ年計画期間中の五カ年間の合計と大差がないし、これら新製品のうちには高級なもの、精密なもの、大型のもの、複雑なもの、尖端的なものが少なからずあつて、すでに世界的な水準にたつするか、またはそれに接近している。同様に、大衆の集団的な知恵を十分に動員したので、わが国の各種生産設備の利用率は、この二年らいたえず高まつている。そのうち、高炉、平炉、機関車などの利用率は、いずれも世界の最高水準にたつしている。第一次五カ年計画の期間中に、中央の各工業部は、五年間に原価をのべ二九パーセントひき下げたが、一九五八年には一年間で原価を一二・五パーセントもひき下げたのであつた。そこで、多く、はやくやると、りつぱに、むだなくやれないとか、工業の中で大衆運動を展開すれば混乱がおこつて、得より損の方が大きいとか考へているかの右翼日和見主義者たちに、君たちはこれらすべてのことをどう解釈するか？ と尋ねたいものである。

右翼日和見主義者は、いちぶの小型の、旧式の方法による生産、とくに初期における小型高炉の製品の質がわりあい悪く、原価が割高だつたのをたねにして党の総路線を攻撃しようと企てた。しかし、ここでもかれらは、やはり木を見るだけで森を見ることが出来ないでいる。かれらは、社会主義建設の大躍進のなかで、これらの生産がいかに大きな役割をはたしているかが目に入らなかつたのである。一九五九年に、わが国は二〇〇〇万トンの銑鉄を生産することになつてはいるが、そのうちおよそ半分は小型高炉によつて生産されるのである。われわれがこの数年らい建設した大型、中型高炉の容積はのべおよそ二万四〇〇〇立方メートルであるが、この二年らい新設され、すでに正常な生産をおこなつてはいる小型高炉の容積はのべ四万三〇〇〇立方メートル以上になつて

いる。小型高炉の生産技術に発展の過程が必要である点にいたつては、大型高炉もおなじことであつて、なおさら少しも奇とするには足りない。今年の上半期の努力をつうじて、小型高炉の利用率と製品の質は大幅に高められ、原価もぐつとひき下げられており、そのうち比較的成績のよいものはすでに大型高炉の水準にちかづいてはいる。現在、小型高炉にはまだ非常な潜在力があり、ひきつづきこれを發揮させることが出来る。第二次五カ年計画の期間中に、小型高炉の出鉄量はのべおよそ五五〇〇万トンないし六〇〇万トンにたつする見込みである。今年の中炭鉱の採炭量は、総採炭量の四〇パーセント前後をしめることとならう。したがつて、われわれのいう「二本の脚で歩く」方針をはなれ、工業化の事業のなかでのこの大衆路線の方法をはなれては、大躍進もなければ、総路線もないのである。

さきごろ、中国共産党第八期中央委員会第八回総会は、右傾的な保守思想に批判をくわえ、右傾に反対し、労働意欲をふるいたたせ、猛烈な勢いで増産節約運動を展開することを全国人民に呼びかけた。この時宜にかなつた決定は、全国の勤労人民のあいだに新しい生産の高まりをすでに巻きおこしている。国家統計局の統計によれば、八月分の工業生産総額は七月分にくらべて一四パーセントふえており、九月分はまた八月分にくらべて二七パーセント前後激増している。鋼鉄の生産量では、八月分は七月分にくらべて一三・五パーセントふえ、九月分はまた八月分にくらべて二〇パーセントふえている。採炭量では、八月分は七月分にくらべて一一・五パーセントふえ、九月分はまた八月分にくらべて一八パーセントふえている。一月から九月までの累計では、工業生産総額は昨年同期にくらべて四五・五パーセントふえており、鋼鉄の生産量は六七パーセントの増加、採炭量は七十二パーセントの増加となつてはいる。全国の貨物輸送量は昨年同期にくらべて六九パーセントふえている。商品の買

付額は昨年同期にくらべて四二パーセントふえ、商品の小賣額は昨年同期にくらべて一六パーセントふえてい
る。九月末の商品の在庫は昨年同期にくらべて二二パーセントふえており、市場への供給状況も良好である。わ
が国の農業生産は、今年はいよいよ自然災害に見舞われたにもかかわらず、水利建設面でのわれわれの大きな成果
にたより、とりわけ新しく誕生した人民公社にたよつて、いく千万農民を指導して災害にたいしはげしい闘いを
すすめたので、多くの地区の災害状況はすでに克服されており、昨年の特大豊作を基礎として、昨年よりもさら
に大きな豊作をかちとる望みがある。

これらすべての状況は、第一に、多く、はやく、りつぱに「むだなく」という要求が完全に現実的なものであ
り、それはすでに実現されはじめており、また、こんご経験が豊富になるにつれて、ひきつづきいつそう完べき
に、いつそう効果的に実現されるであろうということ、第二に、この要求を実現するためには、「二本の脚で歩
く」というまとまつた方針をつらぬきとおし、これによつて英雄的な広はん大衆がみな腕をふるうことが出来
るようにしなければならぬこと、第三に、この要求を実現するためには、どの企業においても指導をあたえつ
つ大規模な大衆運動を展開し、広はん大衆の自覚、積極性、創意性を発揚させ、かれらが大いに意気込み、つ
ねに高い目標をめざすよう指導しなければならないことを証明してあまりがある。事実上、全国的な範囲にわた
つて「二本の脚で歩く」方針を実行し、すべての企業内で大衆運動を展開することこそ、社会主義建設事業のな
かで大衆路線の活動方法を運用する二つの側面なのである。

以上からも分かるように、社会主義革命事業のなかだけでなく、社会主義建設事業のなかでも、大衆路線の活
動方法を運用すること、これによつて、わが国の社会主義事業のきわめて急速な、きわめて順調な発展が保証さ

れているのであり、また、わが国の十年らしいの、とりわけこの二年らしいの飛躍的な発展が保証されているのであ
る。

二年らしいの大躍進をつうじて、第二次五カ年計画の提案に当初定められていた一九六二年のおもな指標は、今
年内に超過完遂することが出来る。そうなれば、われわれは、こんごの三年内に工農業生産をいつそう大きく発
展させることが出来るし、また余力をさいていくつかの薄弱な箇所を強めてゆくことも出来るのである。第二次
五カ年計画の時期が大躍進の五年となるにちがいないことは完全に予想できるところである。これまでの十年間
に、わが国の国民経済がこれほど巨大な変化をとげた以上、こんごの十年間にはさらに大きな変化をとげるにち
がいない。そのときになれば、わが国のおもな工業製品の生産量は、そのほとんどがイギリスをしのぐこととな
るであろう。

もちろん、われわれの躍進はまだはじまつたばかりである。國家と人民の需要からいえば、われわれの仕事は
まだ非常に不十分であり、われわれの経験もまだ非常に不足している。われわれは、ひきつづき刻苦して仕事に
はげみ、学習につとめ、ひきつづきわれわれ自身の仕事のなかで真剣に、経験を総括し、これを積みかさねてゆ
くとともに、ひきつづきソ連その他の兄弟諸國のすんだ経験を真剣に学んでゆかなければならない。だが、な
んといつても、われわれはすでに飛躍的發展の基礎をきざしあげており、また、ひきつづき躍進をとげる道をさ
がしあてたのである。帝國主義者と各國の反動派がいかにわれわれを中傷しようとも、また、国内のブルジョア
ジーの右派ないしわが党内のいちぶの右翼日和見主義者がいかにわれわれに反対しようとも、わが国人民がす
でにきざしあげた基礎をうち壊したり、わが国の人民がすでに選んだ道をかえたりすることは決して出来ないのだ

ある。人民は、自分たちの人民公社を、「雷にうたれてもつぶれない」ものと表現している。これは、われわれの人民公社運動にたいする広はん大衆の結論であるばかりでなく、これはまた、われわれの総路線、大躍進、および全社会主義事業にたいする広はん大衆の結論であり、さらに、わが党と六億五〇〇〇万人民の団結にたいする広はん大衆の結論でもある。

国際的な条件は、国内的な条件とおなじく、われわれの躍進にとつて有利である。第一に、偉大なソ連を先頭とする社会主義陣営の強大さと団結により、侵略に反対し、戦争に反対する全世界人民の闘争の発展により、平和と進歩の力はますますいちじるしく、戦争と反動の力をしのいでいる。この事實は、フルシチョフ同志のアメリカ訪問の成功のなかに、新しく、はっきりと表現されている。次に、わが国人民の社会主義事業は世界の広はん人民の同情と支持をえており、まさききにソ連その他の社会主義諸国およびアジア、アフリカ、ラテン・アメリカの独立と民主主義をめざす人民の同情と支持をえているのである。

わが国人民は、建国十周年を祝うにあつて、ソ連が第一次五カ年計画の期間中にわが国を援助して一六六項目の建設をおこない、昨年と今年はまだ、わが国を援助して一二五項目の建設をおこなう協定を新たに締結し、さらに、この十年間にい前後して経済、文化、教育関係の専門家を一万八〇〇余名派遣して中国で仕事をさせてくれたことについて、とくに感謝しなければならない。同時にまた、その他の社会主義国が、第一次五カ年計画の期間中にわが国を援助して六八項目の建設をおこない、そのごまた、わが国を援助して四〇余項目の建設をおこなう協定を新たに締結し、さらにい前後して一五〇〇余名の専門家を派遣して中国で仕事をさせてくれたことについて感謝しなければならない。われわれのおさめた成果は、兄弟国の人民の大きな援助とまきはな

すことの出来ないものであり、その熱情と友誼はわが国人民の永久に忘れえないところである。われわれは、永遠に愛国主義と国際主義をむすびつけたマルクス・レーニン主義の原則をかたくまもり、たえずかれらとの兄弟的な協力をかため、これを発展させてゆくべきである。

つぎの十年間に、おもな工業製品の生産量の面でイギリスを追い越すために、われわれは、いまの工業体系内におけるいくつかの薄弱な個所を強めることに努力しなければならないし、また、ひきつづき農業を大いに強め、これによつてひきつづき食糧作物の増産を保証するとともに、軽工業に十分な原料の供給源を得させるようにしなければならない。この目標を達成したのちでも、われわれの経済水準はやはり高いとは言えないことは、きわめてはつきりしている。われわれはなお、西方のブルジョアジーの思いもよらない速度で、ひきつづき前進し、いつそ遠大な目標に到達しなければならない。わが国人民は、あまりながくない期間中に、わが国を、高度に発展した現代工業、現代農業、現代科学・文化を有する偉大な社会主義国へと建設しあげ、そして、さいごには共産主義の崇高な理想を実現するというゆるぎない決意を固めている。疑いもなく困難はつねに存在するし、しかもそれは少なくないが、しかし、それは永久にわれわれをおどかすことは出来ないものである。すぐる十年の成果をふりかえり、すぐる十年の経験をしめくるとき、われわれは、あくまで党の総路線をつらぬきとおしさえすれば、あくまで全国人民の大団結と全世界人民の大団結というこの二つの偉大な力にたよりさえすれば、新たな十年内に、われわれがかならず前進の途上にあるいつさいの障害をいつそ順調に克服して、より輝かしい勝利をおさめうるといふ十分な確信をもつことが出来るのである。

われわれ全国人民は、偉大な中国共産党と偉大な人民の指導者毛沢東同志の指導のもとに、マルクス・レー

ニ主義の無敵の旗のもとに、わが偉大な祖国を建設するためひきつづき大いに意気込み、勇躍して前進しよう！

* 一斤は〇・五キログラム（訳注）

** 一担は五〇キログラム（訳注）

*** 一ムーは六・六六七アール（訳注）

党の総路線と毛沢東の軍事思想の

赤旗を高くかかげて勇往邁進しよう

林彪

われわれの偉大な祖国——中華人民共和国は成立十周年をむかえた。中国人民解放軍の全指揮員、戦闘員は、全国人民とともにこの偉大な歴史的意義をもつ、全人民の祝日を熱烈に祝っている。

十年の歳月は、歴史の歩みからみるなら、ほんの一瞬にすぎない。しかし、ほかならぬこの十年間に、われわれの国家は、新民主主義革命の勝利につづいて、またもや社会主義革命の偉大な勝利をおさめた。社会主義と資本主義という二つの道の闘いにおいて、社会主義は各方面で基本的に資本主義にうちかつた。数千年らしい階級搾取制度の歴史は、すでに基本的に終りをつげた。人類の四分の一をしめるわが国の六億五〇〇〇万の人民は、社会主義に歩み入つた。三年間の経済復興を経てのち、一九五三年から一九五七年までのあいだに、わが国は国民経済発展のための第一次五年計画を完遂し、わが国の社会主義的工業化の初歩的な基礎をきざした。一九五八年、毛沢東同志の発意によつて、党は大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、

むだなく社会主義を建設するという総路線をきだめた。この総路線のかがやかしい光にみちびかれて、工農生産と文化・教育事業の大躍進が展開され、それによつて、わが国は第二次五カ年計画の主な指標を三年くりあげて完成することができるようになつた。昨年の秋、二カ月たらずの期間に、全国の農村はめざましいスピードで人民公社化を実現した。それから一年もたたぬうちに、人民公社はしつかりと足を地につけ、健全な発展の道を歩みはじめ、しかもその優越性を日ましにはつきりと發揮しつゝある。わが国の社会主義建設の事業がこのように史上に前例のない高速度の発展をとげ、かがやかしい成果をおさめていることは、偉大な中国共産党と偉大な人民の指導者毛沢東同志の指導のもとでは、勤勉で勇敢な中国人民の歴史を創造する力と英知が限りがないものであることを雄弁に物語っている。しかしながら、帝国主義はかたときもわれわれにたいして破壊をおこなわないときはなく、たえずわれわれをくつがえそうと夢みている。わが国の建国後まもなく、アメリカ帝国主義は、朝鮮で侵略戦争をおこすと同時に、わが国の領土台湾を力づくで占領し、まず朝鮮を占領してからさらに誕生後まもなく中華人民共和国を扼殺しようとたくらんだ。その結果は、彼らが恥ずべき失敗をなめた。わが国の大躍進と人民公社を前にして、帝国主義者は腹の底からふるえおのき、驚愕のあまりなすすべを知らず、わが国にたいして悪辣きわまりない中傷と攻撃をあびせてきた。こんにち、彼らはまたもや恥ずべき失敗をなめた。中国の歴史の車輪は、あらゆる帝国主義と反動派の妨害と破壊を尻目に、「一日が二十年にも相当する」速度で、飛躍的な前進をつづけている！ 中国人民は強大となつた！

過去の十年間に、国防戦線でも、社会主義建設のその他の戦線におけるとおなじく、偉大な成果をおさめている。中華人民共和国の成立後、中国人民解放軍は、すみやかに国民党反動軍の残余を一扫し、全中国大陆を解放

した。中国人民志願軍は、朝鮮人民軍とともに、世界でナンバー・ワンの帝国主義の軍隊をうちやぶつた。アメリカ帝国主義というこのハリコの虎は、全世界人民のまえにその正体をさらけだした。わが軍は、沿岸諸島を解放し、祖国の辺境と海と空を守る闘いで、金門島の蒋介石軍に懲罰をくわえ、台湾解放を準備する戦いで、またチベットの反動勢力の叛乱平定で、祖国の人民からゆだねられた重任をりつぱにはたしてきた。国防前線と縦深戦略要地では、巨大な規模の現代的国防工事がすすめられているが、これによつてわが国は、比較的完全な体系をそなえた現代的な防禦施設をもつ国家となりつつある。軍隊そのものは、わが軍を優秀な現代化した革命軍隊にきずきあげよという党中央と毛沢東同志の正しい方針にみちびかれ、ソ連ならびに兄弟諸国の援助をうけて、わが建軍史上の新たな大転換をとげている。軍隊の技術装備は改善され、軍隊の指揮、編制、訓練、制度などに一連の革新がくわえられた。現在、わが軍は、すでに単一兵種の軍隊から諸兵種連合の軍隊に発展した。陸軍の各主要技術兵種がいちじるしく強化され、強大な空軍が創設され、海軍も相応の発展をとげている。わが軍の現代化の過程において、軍隊にたいする党の絶対的指導が固められ、軍民一致、將兵一致の光榮ある伝統が發揚され、各種の活動のなかで大衆路線がたつたぬかれた。偉大な整風運動をへて、党の社会主義建設の総路線と全国の大躍進に励まされながら、軍隊工作も意気天をつく全面的な大躍進をとげた。われわれの国防力としては、政治的にしつかりした、現代的技術装備をもつ常備部隊のほかに、数億人を擁する民兵の隊伍が組織されている。この隊伍がある以上、帝国主義があえてわが国に攻撃をくわえてきたときには、ただちに全民皆兵を實行し、常備軍と呼応して、敵を全人民あげての戦いの火の海におちいらせることができる。わが軍は、軍じたいの建設に従事すると同時に、またつねづね国家建設や社会改革の仕事にも大規模に参加している。劉少奇同志は、党の第八

期全国代表大会第二回會議で党中央を代表しておこなつた政治報告のなかで、「人民解放軍は社会主義事業の守り手であり、また社会主義事業の建設者であります」①と指摘している。十年来、わが軍は、この光榮ある任務を忠実に遂行してきた。

十年来われわれの国家は民主主義革命の徹底的な勝利から社会主義革命と社会主義建設に転ずる大變革のさなかにあつた。われわれの軍隊は、軍事上で単一兵種の軍隊から現代的な多兵種連合の軍隊に移行したが、これもまた一大飛躍である。こうした状況のもとで、軍隊建設のうえでの一連の重大な問題がわれわれの前に提起された。それは主に、軍隊の現代化の段階でもやはり政治がいつさいを統率するということがあいかわらず、重要であるかどうかという問題である。具体的にいうなら、政治工作、思想工作の地位についての問題、軍人は国家の經濟建設と大衆運動にたいしていかなる態度をとるべきかという問題、軍隊内部の關係をいかに正しく処理するか、また軍隊にたいする党の指導をいかにしてさらに強めるかという問題、これらはすべて軍隊建設の新しい段階でかならず解決しなければならない問題である。十年来、われわれはこれらの重要な問題をわりに適切に処理してきたからこそ、上述の成果と勝利をおさめたのである。建國十周年のこんち、われわれが語りたと思うのは、主にこの面の若干の体験である。

二

社会主義と共産主義を実現することは、わが軍の指揮員、戦闘員が長期にわたつてそのためにこそ勇敢に闘つてきたところの崇高な理想である。民主主義革命の段階にあつても、党はこれまで社会主義と共産主義の理想に

よつてみずからの軍隊を教育することをおこたらなかつた。わが軍の大多数の同志は、民主主義革命の時期に断固として勇敢であつたばかりでなく、また社会主義革命の時期に入つても社会主義のために勇敢に闘う、社会主義の頑強な戦士であつた。しかし、かなりの数をしめる一部の同志は、社会主義にある種のあこがれをもち、またその実現を望みながらも、高度な社会主義の自覚にかけ、社会主義革命がはじまつたときには、彼らのうち一部のものの考えかたは往々まだ民主主義革命の段階にとどまつていた。すくなくとも、社会主義革命の過程で、やつと社会主義革命の心がまえを一步一步すすめるという有様であつた。社会主義革命は、民主主義革命よりもずつと大きな幅と深みをもつ革命であつて、それはいかなる種類の搾取制度をもとりのぞき、生産手段の私有制をなくするものである。この革命の一つひとつの段どりはわが國の數億の人民の生活と思想にきわめて大きな影響をあたえるが、同時に社会におけるさまざまな思想動向もまたかならず直接、間接に軍隊内部に反映してくるにちがいない。革命軍人たるものは、もし社会主義革命についての十分な心がまえにかけ、真剣な自己改造をおこたるなら、社会主義革命のなかで確固たる立場をつらぬくことができなければかりか、また党の社会主義建設の総路線を自覚をもつて、ゆるぎなくつらぬくことも出来ようはずがない。これでは、社会主義が真に到来し、ブルジョアと小ブルジョアとの生産手段の私有制が真に終りをつげるときになつて、唐突な感じをうけ、ついに方向を見失つてしまうことになるだろう。これでは、ブルジョア思想の黴菌がわが党とわが軍の抵抗力の弱いところの部分の筋肉中にひろがり、わが党とわが軍にたいして腐蝕と分裂の作用をおこすことになる。われわれは、社会主義の実現のための闘いのなかで内部からの抵抗にあうことになるだろう。

われわれの軍隊の内部には、労働者階級とブルジョアとといった二つの対立する階級はけつして存在しな

い。しかし、労働者階級の思想とブルジョア思想との闘いは存在する。こうしたイデオロギーの闘いは、過渡期における社会主義と資本主義という二つの道の闘いの反映にはかならない。現在についていうなら、旧い社会経済制度の改造は基本的に完成されているとはいえず、まだ徹底的に完成されてはならず、社会経済制度は変つたとはいえ、ブルジョア思想の残余の思想上、政治上の活動はなお存在し、その社会的基礎は狭まりつつあるとはいえず、なお一部の社会的基礎をもっている。ブルジョア思想と小生産者の習慣の力、これがとりもなおさずブルジョア思想の社会的基礎である。それは一部の人のあいだにまだ市場をもっており、いつたん機会をうるや彼らはたちまち風波をおこし、蠢動しはじめる。人びとの頭脳のなかには、社会主義思想が陣地を占めているか、でなければ資本主義思想が陣地を占めているかである。したがって、過渡期においては、プロレタリア思想を発揚し、ブルジョア思想を一掃する闘いは、終始一貫して軍隊建設における重要な課題である。わが軍のあらゆる活動、わが軍の現代化は、いずれもこうしたイデオロギーの闘いと切りはなしては考えられない。労働者階級とブルジョア思想とのこの政治上、思想上の闘争は、波のうねりのように、あるときは高く、あるときは低く、起伏をくりかえしながらつづけられて、今日にいたるもこの闘争はまだまだ終っていない。この闘争が終りをつげるのは、階級というものが最後の完全に滅亡したときのことである。したがって、われわれの社会主義の思想教育工作は、一度で永遠に片の付くものではなく、かならず階級闘争の起伏にしたがつて、ときには理論、政策の教育をすこしずつ経常的にすすめるなければならないし、ときには大規模な整風運動や思想改造運動をおこなわなければならない。社会主義思想の陣地は、教育と闘争を通じて一步一步と占領し、拡大してゆくものである。革命家たるものは誰しも、思想の領域でたえず革命をおこなつてゆかねばならない。十年來われわれが

おこなつてきたところの三反運動、抗米援朝運動、党の過渡期における総路線についての学習運動、反革命肅清運動、整風運動、反右派闘争、農業の協同化を中心とした社会主義の大弁論、および人民公社、大躍進を中心とした党の社会主義建設の総路線の学習などは、きわめて効果的な政治、思想工作である。もちろん、われわれはこれらの成果にけつして満足はしていないし、また、これだけの成果をおさめたからには、今後の政治、思想戦線の任務を軽減してもいいなどはけつして思っていない。

政治、思想戦線上の闘いをすすめるにあつて、われわれは終始一貫、絶対多数の同志たちにとつては、主に教育と向上の問題だと考えている。わが軍の指揮員、戦闘員は、社会主義を心から愛し、だんことして社会主義のために闘い、どんな大きな試練にもたえうる人びとである。資本主義の道を固執し、意識的に社会主義に反対してゐるのは、軍隊内部にまぎれこんでいるきわめてわずかな階級的異分子にすぎない。しかしながら、わが軍の将兵の絶対多数が農民出身であるために、一部の同志が、ときには小生産者の一時的、局部的な利益から問題を考え、社会主義の変革中の一部の問題をはつきりと認識できないこともまぬかれたいし、また少数の同志が社会主義革命の激浪のなかで、ブルジョア思想、小ブルジョア思想、とくに富裕中農の思想的影響をうけ、しつかりとした立場を見失うこともまぬかれたい。こうした状況は存在しているのであつて、もしそれが発展するままにまかせておくと、ブルジョア思想がわが軍の内部にはらんすることにならう。したがって、われわれは片時といえども思想工作をゆるめるわけにはゆかない。こうした思想問題は、人民内部の矛盾に属する問題であつて、敵味方の矛盾にたいする方法、圧制や打撃をくわえる方法をとつてはならず、ただ民主的な方法、討論の方法、批判の方法、説得教育の方法によつて解決すべきである。

新しい歴史的な時期にあつては、軍隊の政治工作、思想工作はひじょうに重要であつて、せつたいにこれをおこなつてはならない。「政治工作はわが軍の生命線である」これは、わが軍の数十年の革命の実践のなかで証明されている真理である。毛沢東同志は、また「中国の農村における社会主義の高まり」の編集者のことばのなかで、さらに「政治工作は一切の経済工作の生命線である。社会経済制度の根本的変革が発生している時期においては、ことにそうである」と指摘している。この言葉は、当然おなじように軍隊にも適用される。わが軍の現代化の過程で、われわれはもちろん装備の改善、技術の掌握に十分注意をばらわねばならないが、しかしながら、政治工作の面、しかも主導的な面にも注意をばらわねばならない。つまり、政治を忘れてはならず、政治を強調しなければならぬということである。われわれの軍隊は、政治に奉仕し、社会主義に奉仕する軍隊であり、われわれは政治によつて軍事を指導し、政治によつて日常活動を指導しなければならない。政治こそ最も根本的なものであり、政治工作、思想工作をりつばにやらなければ、その他のすべての工作は何一つ談ずることとはできない。十年のわが軍の各工作が大きな成果をおさめたのは、なによりも社会主義の思想が花をひらき、実を結んだ結果にほかならない。マルクス・レーニン主義の理論教育を強化し、社会主義と党の総路線の教育を強化し、またこれらの教育を当面の革命闘争の実践、軍隊の成員の思想的变化と密接に結びつけ、たえず人びとの脳裏からブルジョア思想と小ブルジョア思想の残りかすをとりのぞき、社会主義の自覚を高めることは、今後ともわが軍の建設にあつての基本的な任務である。

三

人民大衆の革命闘争のなから生まれ、成長してきた中国人民解放軍は、ゆらい革命の大衆運動を自己の事業と見なしてきた。人民大衆が立ちあがつて旧い制度をうちこわし、社会と自然の面貌をつくりかえるため苦難にみちた闘いをすすめているときには、人民解放軍はつねに人民とがつしり一体となり、熱情にあふれて人民に大きな支援をあたえ、またみづからも直接に烈々たる大衆運動に身を投じて、最もきびしく最もすぐれた鍛練をうけてきた。敵対勢力が革命の大衆運動をばみ、破壊しようとしたときには、人民解放軍はいつも身を挺して大衆を支持してきた。同時に、怒濤のような大衆運動はこれまた、つねに軍隊を大いに励まし、教育し、軍隊の政治的自覚をきたえ、高める革命のつぼとなつた。人民解放軍がきわめて困難な条件のもとで、装備の点でも力関係の点でも自己よりはるかに優勢な敵をうちやぶることができたのは、人民解放軍が人民大衆と血肉のつながりをもつ兵力だつたからである。人民大衆が十分に動員されたならば、「敵を溺死させてしまふ洋々たる大海となり、武器その他の面での欠陥をおぎなう補助条件となり、戦争のあらゆる困難を克服する前提となる」③のである。人民解放軍と人民大衆のこうした関係は、人民解放軍の本質とその建軍の本旨によつて決定されるものである。民主主義革命の時期にもそうであるし、社会主義革命の時期にもそうである。一九四九年三月、民主主義革命がすでに決定的な勝利をかちとり、あらたな社会主義革命の段階が目前にせまつたとき、毛沢東同志は、党の第七期中央委員会第二回総会の席上、いちはやく、われわれにたいして、「人民解放軍は永遠に戦闘部隊であり、同時にまた工作隊でもある」という偉大なよびかけをおこなつた。

全国の大衆が解放されたのち、わが軍の任務は作戦を主としていた段階から訓練を主とする段階へ移り、農村に分散していた段階から兵營に集中する段階に移つたので、軍隊と人民大衆が直接に接触する機会はずくなく

つた。当時、一部の同志のあいだには、経済建設と国防建設では担当する分野がことなるし、軍隊の訓練の任務は重く、軍隊は人民大衆の革命闘争と国家の経済建設にくわらなくてもよいし、「地方」の問題にかかわらなくてもよい、という考え方をするものもいた。われわれは、こうした誤った見方を遅滞なく批判し、これを断固として是正し、わが軍が戦争もすれば、大衆活動もするし、生産にもくわるといふ三大任務を長期にわたつてなつてきたこの光榮ある伝統をひきつづき発揚するとともに、社会主義的改造と社会主義建設のそれぞれ異なる時期における必要にもとづいて、各方面から大衆運動を支持する活動をくりひろげてきた。およそこの十年來の大きな社会変革や大きな大衆運動であつて、人民解放軍がこれを積極的に支持し、熱情的にこれに参加しなかつたものは一つもない。わが国の社会主義事業を極度に敵視している帝国主義の代弁者は、わが軍が人民大衆の革命運動に積極的に参加していることを「武力弾圧」などといつてはいるが、これはまことにでたらめきまわりの言い種である。その実、ほかならぬ帝国主義の旦那方こそ日ごろ彼らの反動的な武力をもちいて、国内の人民といつさいの植民地人民の民族民主運動に横暴な弾圧をくわえているのである。わが軍にたいするこれらのこのようなデマや中傷は、かれらが、われわれの強大な人民解放軍と六億余の人民との親密な団結をおそれており、自己の醜行を嘘八百でおおいかくそうとして、物語るにすぎない。

一九五八年以來の国民経済大躍進と人民公社化の高まりは、党の社会主義建設の総路線の無限の光をはつきりと示した。党の総路線はいちはやく大衆に掌握されて巨大な物質的な力となり、史上に前例を見ないすさまじい大衆運動をかたちづくつた。このような偉大な大衆運動には、いかなる態度をとるべきであらうか？ 運動のただなかへ身を投じ、熱情をかたむけて大衆を支持するか？ それとも運動の外に立つて、あれこれと大衆を批判

するか？ あるいはまた運動の真向に立ちはだかつて、大衆に反対するか？ 右翼日和見主義者とは正反対に、党と毛沢東同志に長いあいだ教えみちびかれ、人民とがつしり一体となつた人民解放軍は、断固としてこの偉大な大衆運動を支持した。人民解放軍の指揮員、戦闘員は、大躍進と人民公社化運動が客観的な物質的基礎をもつ、わが国の歴史発展の必然的産物であることを、みずからの体験をつうじてよく知つてゐる。党と毛沢東同志は大衆の意志と創意をあつめて、この偉大な運動の発展を促進した。大躍進と人民公社化運動のなかで、広はんな勤労者がかくも強い革命の熱情と社会主義の自覚をしめしたのは、勤労者が一日も早く、わが国経済のたちおくれた状態をあらため、「ひとつには経済的に立ちおくれ、ふたつには文化的に空白にちかい」状態からぬげだし、わが国を高度に発達した現代工業、現代農業、現代科学・文化をもつ偉大な社会主義国にきざきあげようといふ決心でゐるからにはかならない。人民解放軍の指揮員、戦闘員は、人民大衆のこのけだかい願いとちからづよい熱情をよく理解しており、かれらは人民大衆と心と心をふれあい、人民大衆の偉大な意志に深い感銘をうけてゐる。人民解放軍の指揮員、戦闘員は、帝国主義者とその手先がわが国の社会主義建設にたいし虎視眈々としてつねに破壊の機をうかがつてゐること、したがつて、われわれはなおさら、たえず警戒心をたかめ、断固として党の社会主義建設の総路線を貫徹し、これを守り、高速度にわが国の国民経済を發展させなければならないといふことをよく知つてゐる。国民経済が高速度に發展してはじめて、わが国の国防の現代化をつよめることができる。わが国の人民の幸福と安樂を保障することができるのである。人民解放軍の指揮員、戦闘員は、大衆運動をおそれるのは右翼日和見主義者、ブルジョア革命家の本性であること、こうした連中は運動に直面してもつばらあらをさがしまわり、それを大げさに言いたてること、その目的はたるんだ、意気沮喪した、愚痴つばい、悲観

的な気分をまきちらすことにあり、成果を否定し、党の総路線を否定することにあるといふことをよく知っている。われわれは、かならず思いきつて大衆をたちあがらせ、社会主義革命を最後までおしすすめ、社会主義建設の仕事ですさまじい勢いですすめなければならぬ。大衆運動を欲せず、例外的、局部的、一時的な、しかも速やかに克服された一部の欠点をとりあげて大衆運動に反対することは、とりもなおさず、前進しないこと、革命しないことを意味する。人民解放軍の指揮員、戦闘員が、みずから大衆運動に参加してまず最初に見てとるのは、いく億人民の天をつく意気込みと偉大な成果である。これこそ、大衆運動の主流であり本質である。人民公社についていうなら、われわれは、人民公社というこの新しく生まれた社会組織の旺盛な生命力と比類ない優越性、国家の経済、文化の発展と人民の生活の向上のために果しているその大きな役割を見てとっているばかりではない。われわれはまた、行政と社務が一体となり、工業、農業、商業、文化・教育、軍事が結合している人民公社は、いつたん帝国主義がわが国に侵略戦争をしかけて来たときには、全民皆兵を実現して前線を支援し、祖国を防衛し、侵略者を破滅のふちにつきおとすのに最も都合のよい強大な後楯でもあることを知っている。社会主義の進展を推進すると同時に国防建設を推進する人民大衆のこの革命的な創挙にたいしては、真に祖国の富強に関心をもつ人なら、どうして、心からこれを擁護し、熱情をこめてほめたたえずにいられるだろうか？ もちろん、人民公社化運動のような大規模の、急速に発展する大衆的運動では、経験の不足から、一部の欠点が生じるのは、避けられないことである。しかし、われわれが特筆すべきことは、決してあれこれの一部の欠点が生じたことではなく、成果にくらべて欠点がかくも少なく、欠点の克服がかくも早かつたことであり、党と毛沢東同志の大衆運動を指導する手ぎわがかくもすぐれ、かくも敬服と学習に値することである。

前述のように、人民解放軍は政治闘争の道具であるから、革命軍人は政治から離脱してはならず、政治を重視し、政治の学習にとめるべきである。そして、大衆運動、社会闘争の実践こそ、豊富な政治である。われわれはたえず人民大衆との接触をたもち、革命的大衆運動のなから養分をくみとり、自己をたかめなければならぬ。軍隊の指揮員、戦闘員は、積極的、主動的に国家の建設と大衆運動に参加することによつて、眼界をひろげ、知識をゆたかにし、大衆観点と労働観点をつよめることができ、ゆたかな実践と結びつけて理論上、政策上の水準をたかめることができ、また地方の幹部から階級分析の方法と生き生きとした大衆路線の活動方法をまなぶことができる。経験が一再ならず証明しているように、軍隊が大衆運動に参加することは、広はんな指揮員、戦闘員にとつて、もつとも生き生きとした、もつとも豊富な、もつとも意義深い政治課の課程である。この点を重視している部隊では、きまつて幹部と兵士の政治、思想の進歩がわりにはやいが、この点を軽視している部隊では、きまつて幹部と兵士の政治的関心が高まらず、眼界がせまく、思想が情勢に追いつけないでいる。数年前、一部の同志は、大衆運動に参加し、人民の生産をたすけることを余計な負担だと考え、軍事教練だけが訓練であつて、社会主義の闘争の実践にくわむことは訓練になるどころか、かえつて訓練のさまたげになり、「得より損の方が大きい」と見なしていた。こうした見方は、全く誤つてゐる。

四

技術裝備の不断の改善、技術の掌握、技術の向上が以前よりもいつそう重要となつてゐるわが軍の現代化軍隊建設の段階でも、人間はやはり決定的な要因であろうか？ 一部の同志のあいだには、つぎのような見方があ

る。現代の戦争と以前の戦争とはちがう。以前わが軍は兵器装備が劣っていたので、戦争に勝つためには主として人間にたより、人間の勇敢さと英知にたよるほかなかつた。だが、現代の戦争でたたかっているのは、技術であり、鋼鉄であり、機械であつて、こうしたものを前にしては人間の役割も第二次的な地位にしりぞかねばならない。こういう見方をする人びとは、機械だけを重く見るとともに、革命的な兵士を革命的な創造的精神のない、機械的な人間にかえてしまおうとするのである。われわれは、こうした人びとと正反対である。われわれは、装備や技術ももとより重要ではあるが、しかし、人間の要因はさらに重要である、と考える。技術も人間が掌握するものである。人間と物質は統一さるべきであり、しかも、人間が主導的な要因とならねばならない。われわれがつねに考慮しているのは、いかにして一層よくいつさいの積極的な要因を動員し、將兵大衆の主動性を十分に發揮させるかという問題である。十年来、われわれが建軍工作をすすめるにあつて、將校と兵士の関係、上級と下級の関係を親密なものとし、いつさいの活動のなかで大衆路線をつらぬくことにとくに注意をはらつてきたのは、つまりこうした意味あいがあるのである。

中国人民解放軍は、まったく新しい型の人民の軍隊である。この軍隊は、封建的な傭兵制軍隊の軍閥制度をうちこわし、民主、団結の制度をうちたてることから建設されはじめた軍隊である。わが軍は、もつとも權威の指揮制度をもつとともに、革命の大家庭のなかでの將兵一致、上下一致の親密な関係をもつている。わが軍は、集中度のもつともたかい、紀律のもつともきびしい戦闘組織であるとともに、民主生活にもつともめぐまれた隊伍でもある。わが軍の成員はすべて、上から下への統一的な指令によつて事をおこなうとともに、各種の活動のなかでつねに大衆路線を歩んでいる。將校と兵士、集中と民主、統一的な指令と大衆路線、これらはまつた

く矛盾した事からのように見えるが、われわれの軍隊では、きわめてみごとに統一されている。これは、中国共産党と毛沢東同志が長期にわたつて中国人民解放軍のなかにうちたててきたマルクス・レーニン主義の伝統である。十年来、わが軍の兵器装備、組織制度がいかにかわつても、われわれは、つねにこの光榮ある伝統を堅持し、たえまなくこれを發展させてきたのである。

毛沢東同志は、將兵關係がうまくいかどうかは技術や方法の問題ではなく、態度の問題であり、兵士の人格を尊重するかどうかという根本的な態度の問題である、と早くから指摘している。われわれは、ゆらい、將校と兵士は革命の隊伍のなかでの分担がちがうだけであつて、政治的にも、人格的にも上下貴賤の区別はない、と考へてきた。將校は、兵士大衆のうえにぬきんでた特殊な人物ではない。將校が兵士をいたわり、兵士が將校をうやまい、將兵がたがいに尊重しあつてこそ、平等・友愛の關係をうちたて、將兵一致の目的を達することができる。こうした一致があれば、無限の戦闘力がうみだされるのである。一九五八年、わが軍は、毛沢東同志のよびかけにこたえ、將校が毎年一カ月ずつ中隊へおひて兵士となる制度を実施しはじめた。この制度は、各軍区、各軍種・兵種の司令員、政治委員などの將軍の同志たちがまず率先して実施したものである。中隊へおひて兵士となつた將校は、兵士とともに訓練をうけ、ともに労働し、ともに寝起きし、ともに娛樂に興じ、班長の指揮にしたがい、自分のわからないところは小学生のように班長や兵士に教をこうている。かれらは、すぐ兵士たちのなかにとけこみ、兵士たちの親しい友になつた。各部隊が一樣につたえているように、將校が中隊へおひて兵士となつたところでは、きまつて政治的雰囲気とりわけ強く、士気がとりわけ高い。將校が率先して模範をしめすので、兵士の將校にたいするいたわりようも至れりつくせりであり、なにごとにつけても気をくばり、できるだ

け将校の肉体労働を軽くしようとしている。将校が兵士になることは、将校じしんにとつても大きなプラスになる。将校は、労働をつうじ、兵士とつきあつてゆくなかで、平等に人に接する共産主義的風格を身につけ、官僚主義的作風が生ずるのをふせぎ、大衆観点をつよめることができ、また、兵士の角度から指導機関の指示、決定を点検し、指導の作風を点検することができる。将校が兵士になる制度は、実施してから一年にしかならないが、しかし、これによつて、わが軍の将校と兵士がさらに一体となり、心と心をふれあつて無敵の力となるであろうことは、すでに見てとることができる。

毛沢東同志はゆらい、民主生活の発揚をきわめて重視し、この面で多くの指示をおこなつてきた。毛沢東同志は、軍隊は一定の程度の民主を実施しなければならない、そうすれば、将兵一致の目的が達せられ、軍隊の戦闘力がつよまる、といった。毛沢東同志は、どの部隊でも幹部擁護、兵士愛護の運動をおこし、幹部に兵士を愛護するようよびかけるとともに、兵士に幹部を擁護するようよびかけ、相互の欠点と誤りは表面に出してはつきりと指摘し、すみやかに改めるようにすべきである、そうすれば、内部の団結をよくする目的が達せられる、といった。毛沢東同志はまた、人民内部の矛盾を正しく処理する問題は、とりもなおさず、わが党が日頃から説いている大衆路線をあゆむ問題である、といった。毛沢東同志の指示したこのような民主的な活動方法、大衆路線の活動方法は、まず人民の軍隊のなかで実行され、ゆたかな経験が積みあげられたものである。中国人民解放軍では、兵士は管理され、指導されるものであると同時に、管理に参加する権利をもち、活動にあつて案を出し、方法を考える。幹部は管理し、指導するものであると同時に、大衆の監督をうけ、活動にあつて大衆にたよる、大衆を動員する。矛盾につきあたられば、民主的な説得と教育の方法をとり、団結——批判——団結の公式

にもとづいて調整する。こうして、団結がつよめられ、士気がたかめられ、規律がかためられ、広はんな将兵の積極性、創意性が発揚されるのである。十年来、われわれは、この面で大きな発展をとげてきた。中国人民志願軍は、民主主義を高度に現代化した抗米援朝戦争に運用する面でもすぐれた成果をあげた。大きな役割をはたした「地下の万里の長城」——坑道工事は、とりもなおさず上級と下級が一体となり、大衆の知恵をあつめて生み出したものである。われわれは、また、民主主義を現代的な軍事訓練にとり入れた。その結果、大衆路線を立派にあゆんだ部隊では、すべて訓練の成績がすぐれていた。一九五八年に「一つの専門に精通するとともに多方面の技能を掌握し、一人一人の兵士が多くの面で役立つ」ことを目標とした、軍事技術掌握の大衆運動がおこつた。技術装備の改善を中心とする技術革新運動も広はんにくりひろげられ、多くの合理化提案と価値のある発明、創案が次々とおこなわれた。このほか、整風運動いらい全国にわたつて広くおこなわれた、思う存分に意見を発表し、大いに論争し、大字報を出すという民主的な形式も、おなじく軍隊で採用された。このような形式は、大衆を動員して自己教育をおこない、内部の矛盾を解決し、大衆の主動性を発揚し、大衆の責任感を強めるのにもつとも適している。

われわれの実行する民主は、集中的指導のもとにおける民主であり、指導のもとで実行されるものである。われわれは、いかなる時期にも、無政府状態と平均主義に反対する。われわれは軍隊のなかで民主生活をおしひろめるばあい、いついかなるところでも、軍隊の特徴を考慮し、これに配慮をくわえる。われわれは、民主を手段と見なしている。団結をつよめ、規律をかため、戦闘力をたかめることこそ、われわれの目的である。わが軍の将兵は、一致した政治目標をもつており、自己の団結をかため、敵をうちやぶる共通の思想的土台をもつている。

だから、わが軍の民主生活は、一貫して、健全な道にそつて發展することができるのである。われわれは、あくまで大衆の大多数を信頼すべきである。下心のあるものが民主を利用してわれわれの軍隊を破壊しようとしても、各級の指導がこれを許さないばかりでなく、広はんな指揮員、戦闘員も絶対にこれを放置しないであろう。

五

軍隊にたいする党の絶対的指導と、わが軍の広はんな幹部の確固とした党性は、わが国社会主義建設の国防事業が勝利をおさめる最大の保証である。われわれが痛感しているのは、ここ十年來の国防建設と軍事闘争の面で、過去の戦争の時期とおなじく、われわれが重要な鍵となる問題に出あうたびに党と毛沢東同志のところから正しい方向を見つけたし、これを立派に解決してきたことである。たとえば、現代的な革命軍を建設する方針を確定したこと、国防建設と国家の経済建設との関係を正しく処理したこと、抗米援朝の英明な方針を決定し、正しい戦略指導をおこなつたこと、台湾解放の闘争と福建前線の作戦における各項の政策を決定したこと、強大な常備部隊、特種技術部隊、民兵武装を結合したこと、全民皆兵の実現を準備する方針を提出したことなど、これらはどれ一つとして党と毛沢東同志による直接の指導の結果でないものはない。

毛沢東同志は「戦争と戦略問題」と題する文章のなかで、「国家学説に関するマルクス主義の観点からみれば、軍隊は国家権力の主要な構成要素である。国家権力を奪取しようとし、またそれを保持しようとするものは、強大な軍隊をもたなければならない」④とのべている。毛沢東同志はまた、おなじ文章のなかで「共産黨員は個人の兵権を争わない（決して争つてはならないし、二度と張國燾にならつてはならない）が、しかし、党の兵権を

獲得しなければならぬし、人民の兵権を獲得しなければならぬ。……われわれの原則は、党が武器を指揮するのであつて、武器が党を指揮することを決してゆるさない」⑤とのべている。中国人民解放軍は、建国後十年來というものの、戦争の時期と同様に、終始一貫して党と毛沢東同志の指導をだんこ擁護し、党の路線と政策を貫徹するもつとも忠実な頼るべき道具となり、党の指導する人民民主主義独裁と社会主義の事業のもつとも確固たる守り手となつた。したがつて、人民大衆はつねに、人民解放軍にきわめて大きな榮譽をあたえ、これを心から愛してきたし、逆に帝國主義者とさまざまの反動派はつねに、党と毛沢東同志にたいする人民解放軍の無限の忠誠を彼らにとつてもつとも不利な事がらとみなしてきた。われわれは軍隊に勤務する幹部と共産黨員は、たえまなく敵の陰謀を警戒しなければならず、武装した敵の侵犯を警戒する一方、さまざまに「砂糖でくるんだ砲弾」や内部からの破壊をも警戒しなければならない。軍隊に勤務する幹部と共産黨員は、つねにいささかのゆるみもなく人民の利益、社会主義の事業、党の指導をまもり、これに敵のいかなる襲撃や破壊をも蒙らせないと、うとくに重要な責任をになつてゐる。この責任は、なによりもまず、軍隊の幹部と共産黨員が謙虚に学び、自己を改造し、たかい政治意識とつよい党性をそなえることを要求している。

党性とは抽象的なものではない。軍隊に勤務する共産黨員と幹部についていえば、つよい党性は、いついかなる状況のもとでもあくまで党の団結をまもり、一意専心党の綱領と路線のために奮闘するところにあらわれるのでなければならぬ。このためには、政治情勢、政策、路線など方向決定のための諸問題にたえず関心をよせ、注意をはらうとともに、しつかりとした立場にたち、是非を見きわめ、重大な是非善悪の問題に直面してぐらついたり、方向を見うしなつたりしないようにしなければならない。個人と党の関係は、かならず正しく位置づけ

なければならぬ。党には絶対に服従しなければならず、個人的な野心をいだいてはならない。紀律をきびしく守り、いかなるばあいにも党の団結を重んじなければならず、党にかくれて自分勝手なことをやつてはならない。謙虚でなければならず、どこまでも誠実でなければならず、偽善的な手を使つて名譽をえようとしてはならない。謙虚でなければならず、おごりたかぶつてはならない。批判と教育を勇敢にうけいれ、いつさいの誤つた傾向と闘わねばならず、批判をこぼんだり、誤りを固執したりしてはならない。要するに、個人主義はいつさいの悪の根源である。これがすこしでも頭をもたげれば、ただちにきつぱりと批判し、克服につとめるべきであつて、いささかも見過ごしてはならない。わが軍の広はん幹部の党性は、党と毛沢東同志にたえず教え導かれ、たえず強まつている。われわれに党性のつよい多くの幹部がいるからこそ、軍隊にたいする党の指導がたらぬかれ、このように偉大な成果をあげることができるのである。

党と毛沢東同志が一再ならず指摘したように、党性をつよめる根本問題は、プロレタリアートの弁証法的唯物論の世界観をもつて、人びとの頭腦のなかにあるブルジョアジーの観念論的世界観にとつてかわらせることである。このためには、長期にわたつてなみなみならぬ努力をつみかさねなければならぬ。共産黨員たるものは、もし自己の世界観を徹底的に改造せず、ブルジョアジーの世界観で問題を觀察し、処理するならば、かならず誤りをおかすことになる。世界観の改造をはなれては、党性をりつぱに鍛えることはできない。マルクス・レーニン主義の理論と毛沢東同志の著作を真剣に学び、プロレタリアートの世界観を確立することは、わが軍のすべての幹部と共産黨員がかならずつくさなければならぬ義務である。

われわれが十年來の国家建設と軍隊建設のかがやかしい成果を祝つてるとき、わが国の社会主義建設はひき

つづき高速度で躍進しており、国際情勢も平和、民主、社会主義にいつそう有利な方向へと發展している。偉大なソ連とその他の社会主義兄弟諸国はすべて繁榮の氣運にみちあふれ、全世界の反植民主義的解放闘争は怒濤のように發展しているが、帝国主義陣営の内部は矛盾にみち、一片の暗雲におおわれている。「東風が西風を圧倒している」「敵は日一日と腐れはててゆき、われわれは日一日とよくなつていく」という毛沢東同志のこの英明な断定は、ますます多くの事実によつて立証されている。国際緊張をやわらげ、世界平和をうちかためる可能性は日ましに増大している。われわれは、断固として、平和のために奮闘すべきである。もとより、アメリカのひとにぎりの好戦分子はひきつづき冷戦をつよめようとたくらみ、つぎつぎと事件をひきおこして社会主義陣営と民族独立運動に挑発をおこなつていくし、またいちぶの帝国主義分子はいま中華人民共和国に反対する悪意にみちた煽動をたえまなく行なつていくので、われわれはこれに十分な警戒心をはらわなければならないが、しかし、われわれは新生の力がかならず腐敗した力にうちかつかつことを確信している。世界平和、民主、社会主義の事業は、かならず、ひきつづき大きな足取りで躍進するであろう。国内情勢たると国際情勢たるとをわす、現在は光明にみちみちている。六億五〇〇〇万の中国人民は、十年來のわが祖国のかがやかしい成果と党の第八期中央委員会第八回総会の戦闘的なよびかけに励まされ、偉大な中国共産党と中国各民族人民の偉大な指導者毛沢東同志の指導のもとに、かならず社会主義建設の事業のなかで新たな、いつそう輝かしい勝利をかちとるのであらう！中国人民解放軍は、社会主義への勝利の進軍の時期にあつても、かならずその戦闘部署で、党からゆだねられたすべての任務を断固と遂行し、全国人民の期待にりつぱにこたえるであらう！われわれはひきつづき党の総路線と毛沢東の軍事思想の赤旗を高くかけ、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、国防の強化、台湾の解

放、平和の擁護、祖国の建設のため勇みたつて前進しようではないか！

- ① 劉少奇 「第八期全国代表大会第二回會議にたいする中国共産党中央委員会の活動報告」 (中国語版) 人民出版社二九ページ
- ② 中共中央办公厅編 「中国の農村における社会主義の高まり」 (中国語版) 上巻 人民出版社 一二三ページ
- ③ 「毛沢東選集」 (中国語版) 一九五二年 人民出版社 第二版 第二卷 四七九ページ
- ④ 「毛沢東選集」 (中国語版) 一九五二年 人民出版社 第二版 第二卷 五三五ページ
- ⑤ 同上 五三四～五三五ページ

中国人民の大団結と世界人民の大団結

中華人民共和国成立十周年を祝つて、ソ連「プラウダ」紙のために執筆

鄧小平

十年前に、中国人民は、帝国主義と封建主義と官僚資本主義に反対する革命の偉大な勝利をおさめた。この十年らしい、中国人民は、国内外の敵との闘争において、経済戦線、政治戦線、思想戦線のうえの社会主義革命において、社会主義の経済建設と文化建設において、いずれも偉大な勝利をおさめた。中国人民がこうしたあらゆる勝利をおさめることが出来たのは、中国共産党の指導のもとにおける全国人民の大団結によるものであり、同時にまた、中国人民と全世界人民との大団結によるものである。

一九四九年、中華人民共和国の成立を前に、毛沢東同志は「人民民主主義独裁を論ず」のなかで、国内においては、結集することのできるすべての力を結集し、労働者階級の指導のもとに人民民主主義独裁をうちたてねばならないし、国外においては、ソ連およびその他の社会主義国と連合し、全世界各国のプロレタリアートおよび広はんな人民と連合しなければならぬ、と指摘している。「われわれの経験をしくくつて、一点に集約すれば、労働者階級が（共産党を通じて）指導する、労働同盟を基礎とした人民民主主義独裁ということになる。この独裁は国際的な革命勢力と一致団結しなければならない。これがわれわれの公式であり、これがわれわれの主

要経験であり、これがわれわれの主要綱領である」と毛沢東同志はのべている。この十年らい、われわれは終始一貫してこの綱領を実行してきた。

革命は中国の数億の人民を団結させた。民主主義革命を通じ、社会主義革命を通じ、そして革命のたえまない発展にともなつて、中国人民の団結はますます強固なものとなつた。長い間にわたる闘争のなかで、広はんな中国の農民は、労働者階級と共産党を、彼らの永遠に信頼できる唯一の力と見なしてきた。労働者階級の指導のもとに、牢固として抜くべからざる労働同盟が形作られ、そしてその土台の上に、結集することのできるすべての力が結集された。中国各民族の人民は、中国共産党の周囲に、一人の巨人のように団結した。かつて帝国主義者は、中国人を「ばらばらの砂」だといつて嘲笑した。だが現在、彼らは、団結した中国人民の前に、ふるえおのかざるをえなくなつてゐる。

中国共産党は、人民大衆こそ歴史の創造者であるというマルクス・レーニン主義のこの真理を堅く信じ守つてゐる。人民をしぼりつけている鎖や枷は、人民大衆自身の手によつて打ちくだくほかはなく、人民の幸福な生活は、人民大衆自身の手によつて創造するほかはない。この真理から出発して、われわれの基本的な活動方法は、指導者と大衆が互いに結びつき、すべての活動が大衆路線にそつてすすめられ、おもいきつて大衆を起し上げ、指導の線をおしながら嵐のような大衆運動をくりひろげ、大衆の知恵と意見を集め、大衆の力にたよつて徹底的に党の方針と政策を実行するということ、これである。

一九四九年以前、中国共産党は三十年に近い、困難にみちた、曲りくねつた道を歩んできたが、結局のところ、われわれのやつたことはといえば、広はんな人民大衆を、労働者階級の指導する、帝国主義と封建主義と官

僚資本主義に反対する闘いに結集し、組織して、民主主義革命の広はんな大衆運動を形作つたことであつた。この大衆運動の集中的表現が人民革命戦争である。それは数億の貧しい農民を動員するとともに、彼らから全力をあげて支持された人民革命戦争であつた。このために、われわれはついに敵をうちやぶり、完全な勝利をおさめることができた。一九四九年以後の十年間に、われわれが国内でやつたことはといえば、民主主義革命の段階のこした任務を徹底的にはたしたほか、これも一口にいうなら、広はんな人民大衆を社会主義革命と社会主義建設の戦線に結集し、組織して、社会主義革命と社会主義建設の広はんな大衆運動を形作つたことであつた。わが国はすでにプロレタリアート独裁の国家権力をうらたてているが、これはわれわれがあらゆる活動をすすめてゆくうえで強力な武器である。プロレタリアート独裁が力強いのは、それが広はんな勤労人民を国家の眞の主人公としてゐるからであり、幾億人民大衆の主動性の土台の上にうちたてられてゐるからである。したがつて、人民大衆の主動性を無視し、物事はすべて上から下へ、国家の力を通じてやつてゆきさえすればそれでよく、大衆運動などにも組織する必要がないと考える、そうした観点は、あきらかに間違つてゐる。

大衆運動は、わが国の社会主義革命と社会主義建設のあらゆる面に貫かれてゐる。広はんな大衆運動は社会主義革命が徹底的に、かつ迅速にすすめられることを約束するものであり、また社会主義建設が多く、はやく、りつぱに、むだなくすすめられることを約束するものである。

わが国の社会主義革命は、ブルジョアの所有制をなくし、小生産者の所有制に終止符をうち、社会的生産力の徹底的な解放を要求する広はんな人民大衆の強烈な意志を集中したものである。革命のあらゆる重要な歩みは、すべて広はんな大衆運動のなかで推進されるものである。大規模な大衆運動を通じて、われわれは農業、手工業

ならびに資本主義的工商業にたいする社会主義的改造を、迅速かつ順調に実現した。そのすぐあとで、われわれはまた大規模な大衆運動を通じて、政治戦線と思想戦線における社会主義革命の決定的な勝利をおさめた。こうした偉大な大衆運動を前にして、社会的生産力の発展を束縛する一切のふるい生産関係と上部構造は急速に崩潰してゆき、社会的生産力の発展に適合した新しい生産関係と上部構造が急速に成長していった。

わが国の社会主義建設もまた、広はん大衆運動のなかで推進されている。社会主義革命をへて徹底的な解放をかちとつた六億五〇〇〇万の中国人民は、もつとも困難で且つ巨大な任務のなかで、確信をもつて自己の力を試そうとしている。わが国の経済を高速で発展させ、急速にわが国を貧しいたちおくれた状態から脱け出させ、これまでもつとわれこそは「先進国」とうぬぼれてきた帝国主義国に一步一歩追いついてゆくこと、これが中国人民の切実な念願である。中国共産党は、われわれの任務は、人民大衆のこうした完全に合理的な念願を熱情こめて支持し、人民を積極的に指導して組織的に行動させるようにすることである、と考えている。党と毛沢東同志は、一九四九年にすでに、われわれのおかれている条件によれば、中国の社会主義建設は、緩慢なものでなく、急速度のものでなければならぬと指摘している。一九五七年に国民経済発展のための第一次五カ年計画を超過完遂したのち、毛沢東同志の発意によつて、党は一九五八年の春に、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという総路線を定めた。この総路線は、中国六億五〇〇〇万人民の奮起して強大なることをねがう偉大な意志を集中的に反映するとともに、逆にまた、人民大衆を動員する役割をはたし、動員出来るかぎりの一切の力を動員し、社会主義建設の嵐のような大衆運動をうながし、わが国民経済のたえまない躍進の局面をきりひらき、また、農村において歴史的意義をもつ人民公社

運動をくりひろげた。

わが国の社会主義建設において、大衆運動は、ますますはつきりとその役割を發揮しつつある。数億の勤労人民が大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、労働の積極性を最大限に高め、そのうえ、大規模な大衆的な技術革新運動と技術革命運動を展開したことによつて、わが国経済のひきつづく躍進が約束された。わが国の技術革命は、過去の資本主義国の産業革命より何層倍も速い速度ですすめられるであろうと断言することができる。

われわれは重工業を優先的に発展させる前提のもとに、工業と農業を同時に発展させ、重工業と軽工業を同時に発展させており、経済建設にたいする中央の集中的指導を強めると同時にまた、各級の地方の積極性を發揮させることに注意し、大型の企業を發展させると同時にまた、中型、小型の企業を發展させることに注意し、「洋法」*による生産を發展させると同時にまた、「土法」*による生産の発展に注意している。こうした「同時に發展させる」方針をとれば、もつとも広はん大衆を動員し、さまざまな積極的要因を動員して、社会主義建設事業の急速な発展を十分効果的に促すことになる。一九五八年の大規模な製鉄製鋼運動のなかで、われわれは大型企業と「洋法」による生産の大衆運動を展開するとともにまた中型、小型企業と「土法」による生産の大衆運動を展開したが、この運動には数千万の人びとが勇躍参加し、社会主義建設の天を衝く意気込みを發揮して、ついに鋼鉄生産の巨大な躍進をもたらし、また、鉄鋼業の全国における合理的な分布の基礎をきずき、今後におけるわが国鋼鉄業の高速度の発展のために重要な条件をつくり出した。同時に、大規模な大衆運動を通じて、われわれはいちはやく労働における人と人との関係を調整し、いちはやく、経済制度と政治制度のなかの生産力の発展に適合しない一部の部門を調整し、それによつて社会主義の生産関係をたえず完全なものにし、人民大衆の

社会主義的積極性の高まりに拍車をかけた。あきらかに、わが国の社会主義建設においては、広はん大衆運動に依拠することによつてのみはじめて比較的短期間のうちにわが国経済のたちおくれた状態をあらためることができるのである。

われわれの隊伍のなかには、大衆の社会主義的積極性を見てとることができず、そのために大衆運動を疑つてかかる者もいる。彼らはいつも、大衆というものは自覚が足りず、大衆運動などというものは当てにならない、と考えている。ところが実際には、わが国の広はん大衆の社会主義革命と社会主義建設にたいする積極性はきわめて高いのである。決して大衆がおくれているのではなく、大衆に疑いをもつてこうした者自身が大衆よりおくられているのである。もちろん、大衆も社会主義の発展にともなつて、自己教育をおこない、それによつてたえず自覚を高めてゆく必要がある。党の指導する広はん大衆運動が社会主義事業の推進に大きな役割をはたしたのは、こうした大衆運動を通じて、大衆の社会主義的積極性が十分に發揮されたからであり、同時にまた、こうした大衆運動が、大衆が自己教育をおこなううえにもつとも適した学校だからである。わが国の広はん人民大衆は、ほかならぬ社会主義革命と社会主義建設の度かさなる大衆運動を通じて、深く社会主義の教育をうけ、自己の社会主義的自覚を急速に高めたのであつた。

われわれの隊伍のなかには、また、革命のなかではもとより大衆運動は必要だが、建設のなかではおのずから別問題だ、と考えている者もいる。こうした見方もやはり間違つてゐる。革命と建設とは、政治闘争と経済事業とは、大衆運動の形式にもちろん相違点がある。だがわれわれの経済建設は政治活動から切り離してはならず、政治を魂とし、統率者としなければならぬことは、これまたきわめて明らかなことである。経済活動をう

まくやつてゆくには、客観的な経済法則を尊重しなければならない。そして大規模な大衆運動こそは、最大限に人びとの主観的能动性を發揮させることによつて客観的な経済法則を十分に生かすものである。経済建設における大衆運動を否定する者は、政治活動と経済活動を絶対的に対立させており、したがつて、広はん大衆の社会主義的な積極性がわれわれの建設事業のなかでどんなに大きな役割をはたしているかが見てとれないのである。彼らはまた、経済建設のなかで、大衆に依拠すること、技術幹部に依拠すること、この二つの事を絶対的に対立させ、大衆の生産的実践が科学技術の発展にたいしてもつ重要な意義を知らないのである。わが国の社会主義建設は、現在まだ技術幹部が十分であるとはいえず、高い水準に達しているすぐれた科学者や発明家その他の技術専門家にいたつては、いっそう必要とされている。しかし、専門家がその才能と役割を發揮するには、どうしても大衆と結びつき、大衆の実践のなかから、たえず新しい経験を汲み取つてゆかなければならない。建設にあつては企業の管理者や少数の専門家が号令をかけさえすればそれでよいと考え、そして大衆を消極的な受動的な要因とみなし、大衆運動は必要でないと考え、そうした観点が間違つてゐるのは明らかである。

新しい生活を創造しようとする人民大衆の熱情と彼らのイニシアチブは、社会主義事業を發展させるうえの汲めども尽きぬ泉である。人民大衆の主動性と創造力をはなれては、真の社会主義事業はありえない。「いきいきとした、創造的な社会主義は、人民大衆自身の創造物である」①とレーニンは言つてゐるが、まったくその通りである。従来からマルクス・レーニン主義は、書物の上の既成の公式にあてはめて生活のなかの新鮮な問題を解決することに反対してゐる。われわれは、人口の多い、しかも経済的にひじょうにたちおくれた国で社会主義の事業をおしすすめようとしてゐるので、どうしても、おおくの特殊な困難やいろいろな複雑な問題にぶつからな

いわけにゆかない。そうした困難にうちかち、そうした問題を解決してゆくためには、どうしても大衆闘争の生きた経験にたよらなければならぬ。中国共産党と毛沢東同志は終始一貫マルクス・レーニン主義の普遍的な真理を中国革命の実際と結びつけるべきことをあくまで主張してきたが、これもつまりは、中国人民大衆の実際闘争を通じてマルクス・レーニン主義を運用し、発展させようとするものである。幾億幾千万の大衆がいつたん党の指導のもとに行動しはじめた時には、もともと至難と思われていたおおくの事がまたたくまになしとげられるばかりでなく、すでに時代おくれとなつたさまざまな古い尺度を突き破り、生活そのものの論理にしたがつて、われわれの事業のために、それにふさわしい各種の新しい形式を発見してゆくものである。わが国の広はん農民大衆が、人民公社というこうした社会組織の形式を創り出したのは、決して偶然ではない。もともと比較的規模の小さい農業生産協同組合は、すでに社会的生産力の躍進の要求にこたえることができなくなり、そこで、規模の大きい、工業、農業、商業、文化・教育、軍事の結びついた、行政と社務の一体化した人民公社が生まれ、しかも全国の農村をいちやく人民公社化のはげしているつばのなかにまきこんだのであつた。中国共産党と毛沢東同志は、いちやく、そして、正しくこの大衆運動を指導した。人民公社は、それが中国の幾億幾千万大衆の創造になるものだつたからこそ、このように急速に、普遍的に発展しえたのであり、しかも農村の経済と文化の発展、農民の生活水準の向上に巨大な役割をはたしたのであつた。こうした大規模な、歴史の法則にかなつた大衆運動は、もちろん少数の者の命令一本でわつと起るような性質のものではありえないし、また少数の者の反対ぐらいでいつべんに消えてなくなるようなものでも絶対にありえない。人民公社は異常に強大な生命力をもつていて、農民たちも公社は「雷がおちてもつぶれはしない」と言つている。わが国の条件のもとでは、人民公

社は、農村における社会主義建設の速度をはやめる強力な武器であると同時にまた、将来農村が集团的所有制から全人民的所有制に移り、社会主義から共産主義に移つてゆくうえに、もつともすぐれた社会組織の形態である。

数億の人民が参加する新しい巨大な事業のなかで、なにがしかのごくわずかな、局部的な、一時的な欠点が生ずることは、いついかなる場合にも免かれがたいことである。しかし、われわれは「むせるからといって食事をよす」わけにはゆかず、こうした欠点をおそれて大衆運動を否定するわけにはゆかない。われわれの大衆運動は党の集中的な指導のもとにある大衆運動で、指導者は、大衆とともに前進し、大衆とともに実際経験のなかから学ぶのであり、したがつて、欠点が生じても容易にこれを発見し、克服することができる。わが党内の少数の右翼日和見主義者は、一九五八年いろいろの大躍進運動と人民公社運動の偉大な成果に目をふさぎ、大衆運動のなかのすでに克服されたいいくつかの欠点を極力誇大にいふらし、それを口実に党の社会主義建設の総路線を非難している。一九五八年の大規模な製鉄製鋼運動がわが国国民経済の急速な発展にたいしてはたした積極的な役割は、実際生活のなかですます明らかとなつているのに、彼らはこの運動が破壊的な役割しかはたせなかつたというふうに考えている。人民公社は初期の経験をしめくつてのち、さらに成長し、健全なものとなつているのに、彼らは、人民公社はいま「後退」しつつかつて、人民公社を解散するほかに活路はないというふうに考えている。広はんな人民大衆はわが国国民経済の躍進の局面をすばらしいと考えているのに、彼らは「無茶苦茶」だと考えている。こうした右翼日和見主義的な観点は、あきらかに、大衆をおそれ、大衆運動を敵視するブルジョアジーの反動的な観点のわが党内における反映にすぎない。

ブルジョア政党とは反対に、プロレタリアートのマルクス・レーニン主義的政党は、あえて人民大衆の創造力を最高度に発揚し、永遠に大衆運動の先頭に立ち、たえず大衆に正しい方向を指し示し、適時に大衆に新たな闘争任務を提出して、大衆を勝利から勝利へとみちびいてゆく。われわれの党はまさにこんなふうをやっている。われわれの党はマルクス・レーニン主義の党であり、大衆性をもった党である。われわれのあらゆる活動方針と政策は、「大衆のなかから生まれ、大衆の中へもちこまれる」ものである。広はん大衆運動を通じて、わが党と大衆の間には血の通つた密接なつながりがうちたてられている。党の社会主義建設の総路線の勝利によつて、国民経済の大躍進と人民公社運動の勝利によつて、党と大衆の密接なつながりはいつそう強まり、人民大衆の間における党の威信はいつそう高まつている。

長期にわたる闘争のなかで、中国共産党は中国人民の大団結の核心となつてきている。この偉大な団結こそは、わが国の社会主義事業が勝利をおさめ、今後もひきつづき勝利をおさめるための根本条件である。

中国人民と全世界人民との一致団結は、われわれの革命と建設事業が勝利をおさめるうえに必要な国際的条件である。

プロレタリアートの革命事業は、はじめから国際的な性質をもつたものである。どの国のプロレタリアートの闘いも、すべて全世界プロレタリアートの共同の闘いの一部である。われわれの時代にあつては、全世界の人民が団結して平和と人民民主主義と社会主義の崇高な事業をめざすことが、帝国主義に反対する世界的な共同の闘いを形作つてゐる。全世界のあらゆる国々には、その大小をとわず、あらゆる民族は、その進んだ民族であると後れた民族であるをとわず、いずれもこの共同の闘いのなかに自分の占めるべき地位をもつてゐる。どの国ど

の民族の人民も、みずからを動員し、組織し、結集し、十分に自己の力を發揮するかぎり、自分たちの闘いを成功裏にすすめ、それによつて、全世界人民の共同の闘いに貢献することができるのである。そしてそれと同時に、彼らもまた、この共同の闘いのなから援助と支持をうけることができるのである。

中国革命は、全世界プロレタリアートの社会主義革命の一構成部分であり、偉大な十月社会主義革命の継続である。中国革命の勝利は、十月革命の偉大な影響をひろげ、世界平和と人類進歩の事業に重大な意義をもつてゐる。六億五〇〇〇万の人口をもつ中国という大きな国が、革命の勝利をおさめ、帝国主義の東方戦線を突き破つたことは、帝国主義体制にとつてはひじょうな打撃であつた。勝利した新中国は、偉大なソ連を先頭とする社会主義陣営に加わり、世界の社会主義体制の優勢を大々的につよめた。ソ連、中国その他の兄弟諸国がつくつてゐる社会主義の大家庭の一致団結と日ましの強化は、国際間の階級の力関係を根本的に変えている。中国人民は、プロレタリアートの指導のもとに、帝国主義に反対し、封建主義に反対する民主主義革命を徹底的になしとげるとともに、社会主義の革命と建設を通じて、いまや貧困と落後の姿を急速にあらためており、植民地、半植民地国における民主主義革命から社会主義革命への転化、おくれた農業国からすすんだ工業国への転化の見本となるものをうちたてているが、このことは、あらゆる被圧民族の民族解放と人民民主主義、社会主義の前途をめざす闘いに大きな激励をあたえないではおかない。中国の革命と建設の勝利は、中国共産党と毛沢東同志が、マルクス・レーニン主義の普遍的な真理を中国の実際と結びつけた結果であり、マルクス・レーニン主義の勝利である。マルクス・レーニン主義が東方の大きな国でひろく伝播されるようになり、しかもたえず偉大な成果をおさめてきたということは、マルクス・レーニン主義の限らない生命力をかさねて証明するものであり、これによつ

て全世界の、進歩を要求するすべての人びとは、ますますマルクス・レーニン主義に引きつけられるようになっていく。

中国人民は、全世界人民の偉大な団結のなから、広はんな同情と支持をえており、われわれは闘いのなかで一度も孤立したためしはない。中国人民は、どんな状況のもとにあつても、つねに自分の力で立ち直りつつ、断固としておのれの闘いをすすめてきた。だがそれと同時に、世界の革命勢力の援助と支持もまた、われわれの闘いの勝利にとつて重大な意義をもっている。毛沢東同志はわが党の第八回代表大会において、「国際的な規模においては、われわれが勝利をかちえたのは、ソ連を先頭とする平和、民主主義、社会主義の陣営からの支持、および平和を愛する全世界人民のふかい同情によつている」②とのべている。われわれの革命と建設事業は、ソ連から巨大な、兄弟のような援助をうけ、その他の社会主義諸国の援助をうけ、また世界各国の勤労人民とあらゆる進歩勢力の援助をうけている。中国人民はこうした偉大な国際的な援助に心から感謝するものである。

プロレタリア国際主義は、各国の革命事業の勝利の重要な条件であり、プロレタリアートが全人類を解放するための重要な武器である。中国共産党中央と毛沢東同志は、終始一貫プロレタリア国際主義の精神をもつて全党と全国人民を教育し、さまざまな大国主義や偏狭な民族主義といったブルジョアの反動思想に反対してきた。ブルジョア民族主義は、ブルジョア的世界観のあらわれである。ブルジョアジーは搾取階級としての私利私欲から出発し、あるいは大国主義の旗をかざして自民族を他民族の上において、他民族を圧迫、搾取する目的をとげたり、あるいは偏狭な民族主義の思想によつて、自民族を世界における人類進歩の軌道と対立させたりするのである。プロレタリアートがもしこうした反動的なブルジョア思潮にかぶれたならば、革命事業にゆゆしい損害を

たえることになる。帝国主義と各国の反動派は、つねに民族感情を利用してブルジョア民族主義の徹菌をばらまき、これをもつてプロレタリアートの革命事業を破壊し、世界各国の民族のあいだの団結に水をさすための重要な手段としている。ユーゴスラビアの支配者グループを代表者とする現代修正主義者は、ブルジョア民族主義でもつてプロレタリア国際主義に反対し、民族という看板でもつて国際的団結に反対し、まったく帝国主義の追随者になりさがつている。中国共産党中央と毛沢東同志は、全世界のプロレタリアート、全世界の人民と永遠に団結し、プロレタリア国際主義をわれわれの行動の準則としなければならないことをわれわれ全党と全国人民に繰り返し教えている。

偉大なソ連は、中国人民のもつとも忠実な友である。中華人民共和国の成立後、ソ連と中国のこの二つの偉大な社会主義国は、強固で親密な同盟をむすんだ。中ソ両国の一致団結は、全世界人民の一致団結にたいして、きわめて大きな役割をはたしている。毛沢東同志は、中ソ両国の団結は、「必然的に中ソ両大国の繁栄に影響をおよぼすばかりでなく、また必然的に人類の将来に影響をおよぼし、全世界の平和と正義の勝利に影響をおよぼすであろう」③とのべている。中国共産党中央と中国人民は、中ソ両国の友好協力の強化を、つねにわれわれの重要な国際主義的な責務とみなしている。

ソ連を先頭とする社会主義陣営は、世界平和と人類進歩の事業を保障する確固たる力である。中華人民共和国はこの陣営に加わり、この陣営と運命をともにし、呼吸をともにしている。社会主義の大家庭のなかにあつて、われわれ社会主義諸国の国民経済はともに高まり、われわれ諸国間の友誼と団結も日まじに深まり、強固になつている。われわれ社会主義陣営における諸国間の関係は、プロレタリア国際主義を基礎とした、互いに尊重しあ

互いに激励しあい、互いに助けあう、平等な、兄弟の関係であり、まことの友愛にあふれた、新しい型の国際関係である。社会主義陣営の団結をたえず強固にし、発展させることは、社会主義諸国の人民の根本的な利益であり、また全世界人民の利益にもかなつてゐる。

ソ連を先頭とする社会主義陣営の団結とソ連共産党を中心とする国際共産主義運動の団結は、さらに広はんなあらゆる国際的団結の核心である。偉大な歴史的意義をもつ一九五七年の世界各国の共産党と労働者党の代表のモスクワ会議を経て、この核心はいつそう強化され、うち固められた。このような堅固な核心があればこそ、全世界の労働者階級、全世界の勤労人民、全世界の被圧民族、全世界の平和をまもり進歩をもとめる勢力は、いつそうかたく団結し、全人類にかぎりない光明と希望をもたらしているのである。

ソ連、中国およびすべての社会主義国の大団結、全世界人民の大団結は、帝国主義と各国反動派のとうてい破壊することのできないものである。帝国主義と反動派がわれわれの偉大な団結に悪辣な攻撃と破壊をくわえてくればくるほど、われわれはますますわれわれの団結を固め、発展させるために努力しなければならない。われわれの偉大な団結の前には、帝国主義と反動派のどのようなあがきも、彼らの必然的な滅亡の運命をすくうことはできない。平和の力は、かならずや帝国主義の戦争勢力にうちかち、被圧民族は、かならずや植民主義の反動的支配をくつがえし、社会主義制度は、かならずや資本主義制度にとつてかわるのであろう。これはさからうことのできない歴史の法則である。われわれの時代は、人類が資本主義から社会主義へ移つてゆく偉大な時代である。われわれの事業はかならずやますます大きな勝利をおさめるであろう。われわれの勝利をはばみうるほどの力は世界のどこにもないのである。

① 「レーニン全集」(ロシア語版) 第四版 第二六卷 二五五ページ

② 「中国共産党第八回全国代表大会の開会の辞」

③ ソ連から帰国するにあつて、モスクワ駅でおこなわれた毛沢東主席の演説「新華月報」一九五〇年三月号

* 近代的な方法 (訳注)

** 旧式の方法 (訳注)

中国の解放——中ソの友誼——人類の未来への躍進

宋慶齡

全世界の人民は、いま解放の十周年を祝つてゐる中国に目をむけてゐる。かれらはわが全国各地の人びととなじように、大きな喜びにつつまれてゐる。かれらは、わが国の人民がこの十年來おさめてきた偉大な成果を熱烈に評価している。かれらは、それがアジア、アフリカ、ラテン・アメリカの人民にもたらした吉報に注意している。かれらはわたしたちと一緒に未来を展望し、中国の進歩が全人類に前以つてなを示しているかを見ている。

十年前に、毛沢東主席は人民中国の成立を宣言したが、これは、百年前に始まつた革命の歩みの最後の結果である。この革命の歩みは、中国人民が、アヘン戦争（一八四〇年）で、わが国に対する帝国主義の最初の侵略に抵抗した時から始まつてゐる。つづいて現われたのは、反封建、反帝国主義の太平天国農民革命（一八五〇——一八六四）である。この闘いが失敗すると、つづいて孫中山の革命活動が登場した。そして、最後に、中国労働者階級の先鋒——中国共産党によつてこの革命の任務がなしとげられた。中国共産党は、三十年にわたる英雄的な闘いを指導し、この闘いで中国人民は、その三つの大きな敵——帝国主義、封建主義、官僚資本主義をうちやぶつて、決定的な勝利をおさめた。

こうして、わが国の人民は鋼鉄のように鍛えられた。この闘いで、わたしたちは、逆境にあつても毅然としてたじろがない伝統をたもつて来たが、これは、中国の働く人びとが数千年このかた、圧迫者に反抗する闘いのかかであつた。たじろがない伝統である。このような戦闘的精神に最後にマルクス・レーニン主義の偉大な真理が注ぎ込まれたことによつて、わたしたちは、民族を救い、民族を復興させるための主な先決条件をそなえるようになった。

わが国の人民が、中国共産党の指導のもとに権力を手におさめ、半封建的・半植民地的な旧中国が中華人民共和國に變つたということは、世界をゆるがすような成果である。これは、その先駆者であり、手本である偉大な十月社会主義革命のち世界に起こつた最大の事件である。広々とした、豊饒な土地のうえで、人類の四分の一が鎖を断ち切つたのである。わたしたちは、新民主主義革命をなしとげると、すぐに社会主義革命をはじめた。この革命は、プロレタリアートが権力を握つたのちに平和な方法で進められた。注目すべきこれらの歴史的な成果は、中国人民の努力の結果である。これらの成果は、また、マルクス・レーニン主義の学説の正しさを立証する極めて重要な証拠人である。中国人民は、その勝利によつて、この世界綱が普遍的に適用されるものであることをかき立て立証した。

この十年來、中国共産党は、ひきつづきわたしたちを正しく指導し、そのためにわが国の人民は、勝利から勝利へと進み、日ましにその力を強めることができた。国内問題と国際問題の發展における重要な時機に際会するたびに、党と毛沢東主席は、いつも立派にマルクス・レーニン主義の原理を運用して、主な矛盾をつかみ、正しい解決法を提出し、適切な行動をとることができた。党は、あらゆる面で、忠実に大衆路線をつらぬき、人民大衆が民主的な形で最も広範に、わたしたちの政治生活、生産活動および社会とイデオロギーの面の改革に参加す

るよう力づけた。

わたしたちの人民政府は、わたしたちの歴史と社会慣習を考慮しながらプロレタリアート独裁を中国の具体的条件に適用した、輝かしい手本である。おなじように、党はまたわたしたちが、歴史の齒車を逆転させようとして無駄骨をおつている国内の旧社会の残渣および外部からの敵帝国主義者にうちかつよう断固として指導している。

中国人民は、中国共産党と毛沢東主席にたいし、もつとも深い愛情と尊敬の念を抱いている。中国人民は、党は、中華民族のもつともすぐれた伝統を代表しており、わが民族の利益を断固守るものであると考えている。そのために、党が行動と建設をよびかけ、武器をとつて祖国と世界平和を守ることがよびかけると、わが国の人民は、あたかも一人の人間のように団結して、このよびかけにこたえるのである。

中国の長い歴史をつうじて、わが国は、今日ほど団結したためしはなく、プロレタリアートの兄弟の情誼によつて、五〇余りの民族は一つの睦まじい大家庭に結ばれている。中国の工業と農業の生産性はいまだかつてこの十年らしいような高さにまで達したことはなく、わたしたちが一段の発展をとげるといふ輝かしい見通しもまたかつてなかつたところのものである。わたしたちの文化・教育は、かつてまだ今日のように百花咲きほこり、生氣濺刺とした状態にあつたことはない。中国は、国際間で今日ほど高い地位をしめたことはないし、また、ほかの国々と人民、とりわけアジア、アフリカ、ラテン・アメリカの国々と人民から今日みるようなこれほどの共鳴と祝福をうけたこともなかつた。

わが人民と國家は、僅か十年の間に、非常に長い道のりを歩んできた。いままで、わが国は生産水準と文化水

準が非常に低く、非常にたちおくれたので、わたしたちは、自分の計画をなしとげるためには、これからもまだかなり長い道のりを歩み、大きな努力をばらつてたくさんの仕事をしなければならない。しかし、わたしたちは、自分の力をすでに試しており、前進の道をはばむ高い山があれば、それをよそへ移すことも出来るのだということを知つている。わたしたちは、自分の事業と自分自身に対して、確固とした信念をもつている。わたしたちには中国共産党の指導がある。あらゆる条件がととのつているので、わたしたちは、今後の十年内にはこれまでの十年間よりはるかに大きな成果をおさめて、中国をいつそう強大にし、わが国の人民にいつそうの幸福をもたらすことが出来るのである。

一九一七年以来、はじめは、わたしたちの長期にわたる解放闘争の過程で、のちには、わたしたちが勝利をおさめて以後、中国人民は、さいわいにもずつと、ソ連の人民、その偉大な共産党と政府から革命的な、同志としてのよしみをうけてきた。ソ連の人民、共産党と政府は、真のプロレタリア国際主義の精神にもとづいて、かぞえきれないほどしばしばわたしたちに大きな、決定的な援助をあたえてくれた。わたしたちはつぎのことを永遠に忘れはしない。それは、順調な時も、そうでない時も、わたしたちはつねにソ連人民の支持を期待できるということ、そしてそれと同じ時に、帝国主義はわが国をほろぼそうと企んでいるのだということ、これである。もしもソ連の支持がなかつたならば、中国人民の闘いは、いつそう長期の、そしていつそうきびしいものとなつたであろう。したがつて、わたしたちが、ソ連の人民を自分の家族のように思うのはすこしも不思議ではない。わたしたちはソ連と中国の友誼は永続的な、うち破ることのできないものであるといつてゐるが、それには客観的な根拠があるのである。

中ソの友好關係が急速な、全面的な發展をみたことは、中國革命のいちじるしい成果の一つである。中國とソ連の兄弟のような協力の政治的意義は、

(一) 中國の勝利によつて、社会主義陣營が、九億以上の人口をもつ広大な地域にわたつて一つに結ばれたこと。

(二) このことによつて、ヨーロッパとアジアが、マルクス・レーニン主義の理論の上にうちたてられた新しい型の民族關係、國家關係にもとづいて結ばれたこと、の二点にある。

中ソの友誼は、すでに、社会主義世界体制の開拓者の精神の象徴となつてゐる。この体制は、第二次世界大戦後に一連の人民民主主義國が出来たことによつて生まれたものである。ソ連の人民が最初の社会主義國を成功裏にきずきあげたことにより、人類の發展は、質的な變化をきたした。中ソの友誼はとりもなおさずこうした質的變化の直後に生まれたものである。

二十世紀は、人類が世界を認識しようとするだけでなく、世界を變革しようとする時代である。この時代において、科学の決定的に重要な分野に、一連のめざましい發展が見られ、人びとは、科学を生産過程に奉仕させることに努力している。こうして、人類は、自然を自分の意志に従わせ、生活のなかの最もすばらしいものをあらゆる民族に例外なく供給できるほどに生活必需品の生産を高める力と能力をもつようになった。したがつて、この時代が人類にあたえた課題は、經濟制度（生産關係）を適切に改めることによつて、人民の創造力を解放し、生産の面で全人類のために大きな努力をほらうことであり、こうした努力の成果は、全人類によつて平等に享受され、いかなる形の搾取、差別扱ひも絶対に存在しなくなるであらう。

これこそは、世界のどの地域の勤勞人民もが要求するところである。なぜならば、わたしたちの時代は、民主主義が広範に發展する時代であり、人民大衆が国内政治と國際政治に参与する時代だからである。これもまた近代的生産の社会的性格によつて決定されるものである。人びとは集中され、そのうえ大規模に組織されて財貨の生産にたずさわつてゐる。このため、人びとは、集團の慧知と労働のもつ潜在力を知り、こうした潜在力のみが自然界の万物から物質的財貨をつくり出しうるのだということを知るようになってゐる。いまなお依然として世界の広い地域に危害をおよぼしている根深い貧困と愚昧をなくすために、人びとは現在、こうした潜在力を思う存分發揮することを要求している。人びとは現在、人が人を搾取するような現象をなくすべきことを主張し、勤勞人民には工具と自己の労働の果実を所有するという奪うことのできない権利があることを主張しているが、これはきわめて当然のことである。

歴史の發展は、この問題を提起しており、人類は、この問題にこたえてこそ進歩をつづけ得るのである。人びとは、かつて、資本主義制度を改良することによつてこの問題を解決しようとしたところだが、しかし、資本主義制度はもはや改良するべきがないということを發見した。というのは、資本主義は、不可避免的にますます富と權力を集中させる道を歩み、そのために労働者階級にたいする搾取を強め、それによつて社会の矛盾を深めただけだからである。人びとは、また、生産力の發展が往々にして恐るべき戦争、戦争準備および他民族にたいする収奪と一つに結びついており、これらはすべて、ただ少数の人にだけおどろくべき利潤をもたらす、数限りない人びとには貧困と災難をもたらすものであることを發見した。歴史上、資本主義はかつて進歩的だつたことがあり、人類をいかにして封建主義から脱却させるかという問題で積極的な役割を果たしたが、しかしこんにちこの時代

では、資本主義はすでに人類の大部分の前進をまたげる障害物となつてい

わたしたちの時代の中心問題を解決する方法はマルクス、エンゲルス、レーニンによつて発見された。彼らは時代遅れの資本主義の罪悪をあばく科学的な理論をうちたて、人びとに新しい明確な哲学的観点と実際のな政治綱領をあたえたが、これによつて人びとはこの時代の基本的任務、すなわち資本主義から社会主義へ移つてゆくという基本的任務をはたすことができるようになった。中国の革命と他の社会主義国の革命の手引きとなつた十月社会主義革命は、全世界の変革の主流を明示した。それは、労働者階級の政党が人民を解放へと導き、人民が権力をにぎり、生産手段を手に入れ、そしてそのあとで計画的に系統的に効果的に各人が暖衣飽食しうる新社会を建設するということが、これである。こうすることによつてのみはじめて、歴史の上の短い時日の間に、幾世紀もの間人類がたえしのばなければならなかつた苦痛にみちた立ちおくれた状態、寄生現象と搾取を取り除くことができるのである。

マルクス・レーニン主義はすでに実践を通じてその正しさを疑問の余地のないまでにはつきりと証明している。それはすでに世界の三分の一の人口に大きな利益をもたらし、彼らに社会主義の幸福な生活と共産主義への限りない希望をあたえた。マルクス・レーニン主義は進歩的な人類全体にとつての灯台である。全世界の共産党と労働者党は、マルクス・レーニン主義を創意的にそれぞれの国の具体的条件に適用した。こうして彼らは正しく、全面的に生活を反映し、また人びとを指導して、勤労人民の権利をかちとり、民族の解放をかちとり、反対に反対し、戦争に反対するために闘うことができるようになった。

わたしたちは、この偉大な思想体系と経験の概括をきわめて貴重な財産とみなしている。中ソ友好の中心的な原則の一つは、はつきりとした態度でマルクス・レーニン主義の純潔性を守り、マルクス・レーニン主義を修正主義で歪曲し、あるいは、教条主義で硬化させようとするあらゆる企てに断固反対することである。わたしたちは、マルクス・レーニン主義をもつとも革命的な階級の輝かしい武器とすることによつて古い社会を新しい社会に変え、それとともに、世界のどの地域の人民をも友愛と幸福と理想にみち、高い文化をもつた生活へとみちびいてゆくために努力するものである。

無敵のマルクス・レーニン主義の理論は中国とソ連を一つに結びつけているが、この理論は生活のあらゆる面にわたつて適用されている。わたしたちの両国はあらゆる方式による圧迫に反対する闘争に献身している。わたしたちの信条は、いつさいの勤労者はすべて兄弟であり、いつさいの国家はその大小にかかわらず一律に平等であるということである。これによつてわたしたちは、世界における当面のもつとも緊迫した問題の解決に助力する場合、重要な役割をはたすことができるのである。問題というのは、政治と経済と文化のうえでそれぞれの民族と国々を束縛している罪悪にみちた植民主義を永久になくするという問題である。

社会主義世界体制が存在しているために、植民地と半植民地国および最近独立をかちとつた各国の勤労人民は自分の力にますます自信をもつようになった。世界各地の被圧迫民族はますます勇気をふるいおこして、この闘争にたちあがつている。なぜなら、かれらは、社会主義陣営が民族の独立を守るすべての人びとを支持することを知っているからである。このような支持があればこそ、社会主義諸国からの政治、経済、技術上の援助があればこそ、植民地、半植民地国は帝国主義にうちかち、また彼らの最初の勝利をうち固めることができるのである。

それぞれの民族はすべて、自由をかちとり、自己の運命を決定することを強く望んでいるし、そのうえ彼らはうたがひもなく社会主義陣営から同情と支持を受けることができる。このようにしてひとつの力が形づくられ、それが近年來アジア、アフリカ、ラテン・アメリカにあらわれた激烈で急激な政治変革を推進している。植民主義体制は、いま急速にその末路をたどっている。これらの決定的な意義をもつ地域の幾億万の人民は、もはや資本主義と帝国主義の予備軍ではなくなつた。世界における政治のバランスはここ数百年來の方向とは反対の方向に動きだしており、民族独立、平和、民主主義の目標にむかつている。

このような変化はむろん帝国主義者を喜ばせるものではない。彼らはこれまでずっとあらゆる手を使つてその支配的地位を奪回しようとしている。彼らの主な手口の一つは、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカにおけるいちぶの民族独立の力を右の方向にねじまげることである。帝国主義者は反共宣伝によつて彼らをあざむき、経済援助の約束で彼らを誘わくし、そのうえ彼らのあれこれの行動をおだてあげ、そうすることによつて、時にいちぶの国の指導的人物を、一時的にもせよ、社会主義思想をそしり、ソ連と中国をそしる合唱隊のなかに加わらせている。

あきらかに、これは何らのよい役割をもはたさない。それはアジア、アフリカ、ラテン・アメリカの人民の力を分散させる。これらの地域の人民と社会主義世界の人民には共同の敵——帝国主義がある。つぎに、今日の世界においては、反共、反ソ、反中国でありながらも帝国主義にたいし、部分的にせよ全面的にせよ、身賣りしないというようなことは、全く不可能なことである。これらの国の人民全体をたぶらかし、彼らをして彼らの民族独立闘争の主だつた支持者に反対させようとしても、それは出来ない相談である。彼らは、反共を基調

とする民族的ショービニズムの旗をかざす度ごとに、彼らの独立が、彼らの最も凶悪な敵によつて抵当にとられはじめることをいやでも知らされるのである。

事實はどこまでも事實である。事實は生活そのものから生まれる。ある一時的な政治上の利益のために勝手に事實を変えたりゆがめようとしても、それは不可能である。このような企みを抱いているものは冒険者にすぎない。歴史のなかには野心と近視眼のために、いちぶの人が間違つた道を歩んだ例は枚挙にいとまがないほどある。これらの人はすべて最後には人民によつて責任を問われている。今日、つぎのことが他のあらゆることにもましてはつきりしている。それは、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカの人民は、彼らの苦難な境遇にあつての眞の友人がほかならぬソ連、中国およびその他の社会主義陣営の諸国であることを知つていふことである。如何なる力をもつてしても、わたしたちの間の比類のない信頼關係を変えることはできないのである。

アジア、アフリカ、ラテン・アメリカの人民と社会主義陣営の人民の間の親密な關係は、世界情勢の発展の上に大きな意義をもつている。それはとくに平和勢力が戦争勢力にうちかつのをたすけることができる。ソ連と中国は行動が一致しており、両国は終始一貫その大きな力を利用して国際緊張の緩和をはかり、話し合いを通じて問題の解決をはかり、世界の平和と正義を守つている。わたしたちは一貫して、団結できるあらゆる人達と団結してこの輝かしい事業のために努力している。この十年の間に、社会主義陣営の力が日まじに大きくなつたために、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカおよびその他の地域の人民が行動をもつて人類を原子戦争の恐怖から救い出さねばならぬことをさとするようになったために、平和運動は大きな発展をとげている。社会主義陣営とアジア、アフリカ、ラテン・アメリカの平和を愛する国々はすでに広大な平和地域をかたちづくつていふ。今日、

平和運動は、戦争を發動しうる唯一の勢力である西方の独占資本家をして手をさしひかえさせるだけの力をもっている。この力がこのように強力であるために、わたしたちは今日つぎの言うことができる。人民が警戒心をもち積極的に戦争に反対する。かぎり、戦争はもはや不可避なものではない、と。

わたしたちの時代の主な特徴は、二つの相反する、たがいに競争しあう世界体制が同時に存在することであり、一つはおよそ三百年の歴史をもつ古い資本主義体制であり、他の一つはわずか四十年ほどの歴史をもつ新しい社会主義体制であるということである。人々は戦争を避けることの必要性をますます自覚してきており、平和共存は必要なばかりでなく、可能であることを知るようになってきている。平和競争は二つの体制の間でおこなわれなければならない。この競争はいまおこなわれつつある。そのなかからわたしたちはすでに未来の事物の輪郭とおおのの体制の特徴を見てとることが出来るようになってきている。

最近の数カ月間に、ソ連と中国およびその他の社会主義国が一貫して平和共存を基礎とした国際間の雰囲気をつくりあげること努力して来た結果、一つの重大な意義をもつ取りきめがおこなわれた。フルシチョフソ連閣僚会議議長とアイゼンハワーアメリカ大統領の相互訪問がそれで、フルシチョフ首相がアメリカを訪れ、アイゼンハワー大統領がソ連を訪れるのである。世界の世論はこのソ・米両大国間の政治関係を改善する行為を熱烈に歓迎している。人びとは、この行為が国際間の緊張のいつそうの緩和と、世界平和事業の促進のうえにかならず役立つであろうことを知っている。中国人民はこのような相互訪問の方法を歓迎しており、これは「冷たい戦争」を鼓吹する者にたいする勝利であり、世界情勢の緩和を欲しないアメリカのある一部の人士の態度にたいする勝利であると考えている。わたしたちは、これはすべての社会主義国が共同で、また単独で採っている外交政策の基礎を形づくる主要な原則の勝利であると考えている。その原則というのは、社会制度や政治制度を異にする国々は平和の条件のもとで共存することができるし、また共存しなければならないということ、そして、このような関係がより友好的であればあるほど各国人民がそこから受ける利益もより大きいということ、である。

資本主義国はひきつづき古い道を歩み、全般的危機の徴候になやまされている。この徴候には、常に膨大な失業労働者群をかかえていること、膨大な国債と個人債務を背負い込んでいること、長期にわたつて農業が不均衡であること、経済の発展が緩慢であることなどがふくまれている。これに反して、ソ連はすでに共産主義建設の全面的展開を開始しており、中国やその他の社会主義国でも、西方の一部の人々がいつていような「生産力のおどろくべき発展」があらわれている。

ソ連がいま共産主義の建設をおこなっているというこの事実は、きわめて大きな意義をもっている。これはマルクス・レーニン主義の敵にとつては、まづこうから一撃をくらわれたようなものである。かれらはこれまで、社会主義が成功裏にうちたてられるというようなことはいちども考えたことがなかった。しかし、人民が権力をにぎっている国の生産上の統計数字と日まじに向上する生活水準をみてからは、かれらも、社会主義社会の実現について、もはや疑われないようになった。いま、かれらは共産主義が建設のさなかにあるときかされ、おそらくいい気持はしないにちがいないが、しかし、その実現の可能性はかれらもあえて否定できなくなっている。

一九五七年一月四日というこの歴史的な日に、最初のソ連の人工衛星が地球のまわりを回転しはじめてからは、かれらは一再ならず見積りをあらためざるをえなくなっている。最初のソ連の人工衛星があらわれてから、つづげさまに第二、第三のソ連の人工衛星があらわれ、その後、ソ連の国旗のついた人工衛星が太陽のまわりを

回転しているが、さいきんではまた、数匹の動物をつみこんだ、上層大気研究用の高層地球物理学ロケットのうち上げに成功し、しかもこれらの動物を安全に地球にもどしている。こうしたおどろくべき成果は、もつとも強大な資本主義国であるアメリカの、これらの領域において到達しうる成果をもはるかにしのいでいる。こうした成果は資本主義のもつとも熱心な支持者のあいだに大きな衝撃をあたえている。こうした偉大な科学上の成果は、集団社会のなかで生みだされた大きな創造力の象徴であり、工業、科学、技術など人類の物質的進歩の工具の領域で支配的な地位をしめようと妄想するアメリカと西方諸国のあまい夢をシャボン玉のようにかき消してしまつた。

しかも、問題はこれだけにとどまらない。ソ連共産党が共産主義社会の全面的な建設にとりかかる用意のあることを公表したとき、すべての社会主義国と全人類の前進の輪郭がいよいよはつきりしてきたのである。とりわけはつきりしているのは、相互援助による促進のもとに、社会主義世界の、これらの目標をめざす前進の足どりがますます速くなつてきているということである。

資本主義世界では、すべてが大企業の利潤のためのものであり、ある国が生産の比較的発達した強国としての地位をえようとすれば、不可避的に、生産のあまり発達していない弱小国を犠牲にするようになる。同じようにひじょうに目立っているのは、こうした差異がひきつづき存在し、拡大していることであり、まるで一部の国々には永久に従属的な地位を運命づけられているかのようなことである。それらの国々がひきつづき資本主義の軌道にとどまるかぎり、ほかに活路はない。強国にたよろうとすれば、かれらは搾取をたえしのぶほかはなく、資本主義の発展法則を国際経済に適用すれば、こうなるよりほかないのである。ドルの最高利潤を人生の唯

一、目的にしている者が、いきなり慈善家になるなどということとは、まず望めないことである。

社会主義の世界では、事情は異なつた方式で発展している。各国間の関係の基礎は、わたしたちに共通のマルクス・レーニン主義の観点におかれており、すべての国が全人民の利益を代表する社会主義的な生産関係をもつていることにおかれている。わたしたちのすべての国々にとつて、わたしたちの社会の目的はすべて、社会主義建設をはやめ、共産主義建設の日を一日も早く来させ、わたしたちの人民が自然界の提供しうるもつとも豊かな生活資料を手にいれることができるようにすることである。社会主義国間の兄弟そのままの高度の相互援助と協力を通じて、強い方が弱い方をたすけ、大きい方が小さい方をたすけ、わたしたちの共通の目標を実現する過程で、おのおのの国とその人民の最大の利益が満たされてゆくのである。

たしかに、社会主義諸国の間には、経済の発展水準のうえになおいくらかのひらきがある。しかし、このひらきは歴史によつて生みだされたものであり、しかもこのひらきこそは、わたしたちが心をついにし、力をあわせてそれをなくすために努力している目標なのである。事実が証明しているように、社会主義国間の経済的発展水準のうえのへだたりは現に計画的に、均衡をたもちながら縮められていつており、最後には完全になくなつてしまふであらう。

この気高い、喜びにみちた任務をやりとげることは、きわめて大きな歴史的影響力をもつている。社会主義の経済発展の速度は、もつともすすんだ資本主義国のそれよりもはるかにやく、これらの国々の経済がまれに最高能力を発揮したときさえ、それにかわりはなかつた。社会主義諸国は一つの集団として、こうした速度で社会主義建設をかため、完成し、そののちに、ソ連がいまおこなつていような共産主義の全面的な建設をおこな

うであらう。

このことは社会主義国の発展をはやめるばかりでなく、全世界にたいしても深遠な影響力をもっている。このことは、社会主義陣営の国際貿易促進の能力を大いにたかめるであらう。このような貿易は、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカのさいきん独立した国々に直接もしくは間接の利益をもたらすであらうが、これはひじょうに大切なことである。これを通じて、社会主義国は、それらの国々にいつそう多くの援助をあたえ、経済の独立をめざし、また、帝国主義の侵入と支配に反対してたたかっているそれらの国々にの闘争をたすけることができるであらう。それと同時に、経済の面で二度と帝国主義にたよらないですむ他の活路をさがしあてたことによつて、これらの国々には、帝国主義者をして、市場からしめ出されないための譲歩を余儀なくさせるようになるであらう。互恵の原則にもとづいて貿易を発展させることは、世界平和の基礎全体をいつそうかため、同時にまた、長いあいだ植民地制度にしばられてきた国々にの生活水準を普遍的に向上させることになるであらう。

うたがいのなく、社会主義世界体制の存在、とりわけ強大な経済力をもつソ連の存在は強大な要因であり、ソ連はすべての人民民主主義国が今日社会主義を建設し、将来共産主義を建設するのをたすけ、また、いまなお植民主義の搾取をうけている各国人民がその状況を改善するのをたすけるとともに、国際貿易を通じて友誼を発展させることができる。他方、社会主義体制内部のつきることのない相互の支持と援助は、この体制そのもののひきつづく発展にとつてもきわめて重要である。N・S・フルシチョフ氏はソ連共産党第二十一回大会で「それぞれの社会主義国の発展は、いづれも社会主義世界体制全体をつよめるであらう。ここにこそ、われわれの力があるのであつて、これがすなわち社会主義が資本主義との平和競争で勝利をかちとるうえの保証である」と指摘してい

る。

中国人民は社会主義を建設するなかで、ソ連の各方面にわたる、私心のない、兄弟そのままの援助をうけている。わたしたちはまた、その他の社会主義国の貴重な援助をうけており、そしてまた全世界の勤労者とその他の友人の同情をえている。中華人民共和国建国十周年に際し、わたしたちはこのような支持に深甚な謝意を表すものである。このような支持はわたしたちのいままでの成果にとつてきわめて大切であり、わたしたちの将来の進歩にとつても同じような意義をもっている。

ソ連の輝かしい手本に学び、全世界の最良の経験をうけいれ、これら一切のものを中国の具体的な状況とむすびつけること、これが中国共産党のゆるぎない政策である。この政策は、わたしたちがわが国で社会主義を実現するという目標に急速に到達し、わが国の人民にかぎりなくひろびろとした前途をもたらす共産主義を建設する準備をととのえることを保証している。

今日、中国人民のまえにおかれている仕事とは、国内で社会主義をうちたてる任務を急速に、効果的になしとげ、しかるのちに、原子力、電化と電子学、オートメーション化と機械化、生物化学の技術などをふくむいつそう大きな水利、電力施設と最大範囲内の科学技術の発展に努力することである。こうしたものはすべて歴大な仕事であり、社会主義国が力をあわせてはじめてなしとげうるものである。将来、全人類が社会主義と共産主義のひろびろとした大道をあゆむようになったあかつきには、これらの仕事は全世界的な規模においていつそう効果的になしとげられるようになるであらう。

偉大なマルクスとエンゲルスの時代にあつては、社会主義と共産主義は一つの理想でしかなかった。しかし、

今日の世界では、社会主義はもはや生き生きとした現実であり、共産主義も遠からずして実現されるであろう。今日、社会主義は資本主義よりすぐれていることが鉄の事実によつて証明されている。これをはかる基準はなにか？ それは、社会主義が人民に生活の保障があることを感じとらせ、輝かしい前途をみてとらせることができることである。これは、資本主義が永久に太刀打ちできないところであつて、いぜん資本主義の力が頂点に達したときでさえ、とても太刀打ちできなかったのである。

思想は抽象的なもので、空論ならいくらでもできる。しかし現実には客観的であり、実在的であり、したがつて否定することのできないものである。げんざい、各国の人民はマルクス・レーニン主義と社会主義が行動となつているのを見てとることができるし、それがソ連、中国その他の社会主義国でいちじるしい成果をあげているのを見てとることができるようになった。これらはすべて、人びとに理解されうる事実であり、げんに全世界の各地で広はんな影響をよびおこしている。それは、日ましにもりあがる労働者階級の運動を推進する原動力であり、各国人民の思想の養分の源泉であり、この源泉はうたがいがいもなく、かれらをマルクス・レーニン主義の全世界における勝利へ導いてゆくであろう。そしてすべての国の人民はいつ、どんな方式で未来への大躍進を実現するかを自分で決めることができる。これこそ、たえまない進歩と幸福へむかう時代、人類の恒久平和へむかう時代にどうしても通過しなければならぬ道なのである。

中国が解放と国家建設の第二の十年に入るときにあつて、わたしたちは確信にみちあふれている。わたしたちは、「東風が西風を圧倒する」という全般的な世界情勢によつてはげまされている。

平和はいま戦争にうちかつている。民族独立はいま帝国主義の束縛にうちかつている。社会主義はいま資本主

義にうちかつている。わたしたちは、人類の未来への進軍の前列にたつており、それをほこりとしている。わたしたちはわたしたちが十年前にした約束をあらためて言つておきたい。わたしたちは、永久に、人が人を搾取する現象がなくなり、貧困がなくなり、民族の圧迫がなくなり、戦争がなくなるまで、偉大な共産主義の理想のために奮闘するであろう。

世界平和と人類進歩の事業のために奮闘した十年

ソ連「イズベスチヤ」紙のために執筆

陳毅

中華人民共和国が成立してから、すでに十年になる。十年らしい、中国人民は、中国共産党と毛沢東同志の英明な指導のもとに、国内の各戦線でかがやかしい勝利をおさめ、国際事務の面でも大きな成果をおさめてきた。中華人民共和国成立らしいの十年は、中国人民が世界平和と人類進歩の事業のために断固としてゆるぎなく奮闘してきた十年であつた。

中国革命の勝利と中華人民共和国の成立は、偉大な十月社会主義革命ののち、人類の歴史上におこつた、いまひとつの偉大な意義をもつ出来事である。毛沢東同志が指摘しているように、「偉大なソ連の十月社会主義革命が勝利したのち、世界の人民の勝利の局面は確定した。いまでは、中華人民共和国の成立と人民民主主義諸国の成立によつてこの局面は発展し、強固なものになった。」①中国革命の勝利は、帝国主義に痛烈な打撃をあたえ、社会主義世界体制を大いにつよめ、すべての被圧迫民族の解放闘争を力づよく励まし、さらにいちだんと世界の面貌をかえた。

十年らしい、国際的な闘争の力関係には、さらに、世界の平和と人類の進歩の事業にいちだんと有利な変化がお

こつた。ソ連を先頭とする社会主義陣営はめざましく繁栄し、かつて見ない強大なものとなつてゐる。また、社会主義勢力が支持しているアジア、アフリカ、ラテン・アメリカ諸国の民族民主運動は、怒濤のように高まり、たえまなく発展をつづけている。これにひきかえ、帝国主義勢力は、自国の人民をもふくむ全世界の人民の反対にあつて、敗北につぐ敗北をこうむり、あたかも西にかたむく夕日のように、いよいよ没落の態をさらけ出している。

中華人民共和国が社会主義国であるということ、このことは中国の外交政策の根本的性質を決定している。中国共産党と毛沢東同志がマルクス・レーニン主義の普遍的な真理と中国の具体的な条件にもとづいて決定したわが国の外交政策は、ソ連を先頭とする社会主義陣営の団結をつよめ、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカ諸国の民族民主運動を支持し、世界の平和を愛するすべての国々および人民とのあいだに友好関係をうちたて、発展させ、帝国主義の戦争政策と侵略政策に反対し、わが国の独立、主権および領土の完全性をまもることである。われわれは、社会主義制度の優越性とわれわれの事業の正義をかたく信じており、社会主義がかならず資本主義にとつてかわることをかたく信じている。すべての社会主義国と同様、われわれは、社会制度のことなる国家間で平和共存を実現し、平和競争をおこなうことを主張するとともに、帝国主義の侵略と干渉にたいしては、いかなるときでもこれに断固たる反撃をくわえる用意がある。

中国人民は一貫して自己の革命を世界社会主義革命の一部分とみなしてきた。長期にわたる革命の過程で、中国人民はソ連と全世界の革命勢力の支持をえてきた。中華人民共和国は、成立後ただちに、ソ連その他の社会主義諸国とのあいだに団結、友好、互助、協力というまったく新しい型の外交関係をうちたてた。毛沢東同志は、

「ソ連との団結をかため、すべての社会主義国家との団結をかためること、これはわれわれの基本方針であつて、基本的利益の存するところである」⑩とのべている。中華人民共和国が成立してまもなく、中ソ友好同盟相互援助条約が調印された。毛沢東同志は、「すでに条約によつて確定された中ソ両大国民の団結は永久のものであり、とうてい破壊することのできないものであり、何人もひきさくことのできないものである。そして、このような団結は、必然的に中ソ両大国民の繁栄に影響をおよぼすばかりでなく、また必然的に人類の将来に影響をおよぼし、全世界の平和と正義の勝利に影響をおよぼすであろう」⑪と指摘した。わが国はその他の社会主義諸国とも、友好と団結の強化、経済、文化面の連繋と協力の発展などを目的とする一連の条約と協定をつぎつぎにむすんだ。十年らい、わが国とソ連その他の社会主義諸国との友好関係は飛躍的な発展をみている。

共同の理想と共同の利益が、われわれ社会主義陣営の諸国をしつかりと結びつけている。帝国主義の侵略に反対し、平和をまもる闘争のなかで、社会主義と共産主義を建設する事業のなかで、われわれは一致団結し、苦難をともし、たがいはげまし、たすけあいながら、かたく協力し、ともに発展し、一連の大きな勝利と成果をおさめてきた。帝国主義者は一貫して、社会主義陣営の団結をひきさき、社会主義諸国を各個撃破しようとたくらんできた。しかし、全社会主義陣営は、帝国主義とくりかえし闘争することによつて、さらに強固となり、さらに団結をかためている。

一九五七年一月モスクワでひらかれた各国共産党・労働者党代表者会議によつて、ソ連を先頭とする社会主義陣営の団結と、ソ連共産党を中心とする国際共産主義運動の団結は、新しい段階に入った。現在では、われわれの敵でさえも、ソ連を先頭とする社会主義陣営がさらに強固となり、さらに強大となつていふこと、どの社会

主義国を侵しても、全社会主義陣営の断固とした反撃にあうであろうということを、しだいに認識せざるをえなくなつてきている。

しかし、帝国主義はいぜんとしてこの団結を内部から破壊しようとしてくわだてている。ユーゴスラビアの現代修正主義はアメリカ帝国主義のこうした政策の産物であつて、その出現はこの必要に応じたものである。マルクス・レーニン主義の純潔をまもり、社会主義陣営の団結と国際共産主義運動の団結をまもるためには、どうしてもユーゴスラビアの修正主義を徹底的に暴露し、これと断固たる闘争をおこなわなければならない。この闘争で、われわれはすでに大きな勝利をえており、われわれの団結はさらに強まつているのである。

わが国とソ連その他の社会主義諸国との友好関係はまた、社会主義と共産主義を建設するうえでの相互援助と協力にもあらわれている。経済と文化の共同の発展をはかるため、われわれ各国は国際主義的精神にもとづいて、たがいに大きな援助をおこない、経済、文化の面でいよいよ広はんな協力をすすめるとともに、相互の学習と各方面にわたる経験の交流をつよめてきた。われわれ各国の経済と文化がよりいっそう高まるにともなつて、われわれのあいだのこうした相互援助と協力の関係がさらに速い、さらに大きな発展を見るであろうことは、はつきりと断定できる。

中国人民は革命と建設のなかで、ソ連その他の社会主義諸国の支持と援助をうけた。われわれは、アメリカ帝国主義がわが国の台湾を力づくで占領していることと「二つの中国」をつくりだそうとしている陰謀に反対するにあたり、国際間の一連の闘争で、これら諸国からちからづよい支持をうけた。わが国の社会主義建設にたいしても、これら諸国は多方面にわたる大きな援助をあたえてくれた。中ソ両国政府のたびたびの協定にもとづい

て、ソ連がい前後してわが国を援助してくれた重要な建設項目は二九一項目にたつしている。こうした兄弟のような援助にたいして、中国人民は心から感謝の意を表するものである。

われわれはこれからもひきつづき社会主義諸国、とりわけソ連のすすんだ経験を学ぶことにとめるであろう。中国人民は、ソ連を先頭とする社会主義陣営の団結の強化を永遠に自己の神聖な国際的義務と見なすであろう。われわれのこうした偉大な団結を破壊しようとする帝国主義者とその手先どもの陰謀は、永遠にとげられないであろう。

中華人民共和国の成立は、全世界のすべての圧迫されている民族と人民から熱烈な歓呼をあげた。六億五〇〇〇万の中国人民の徹底的な解放と、その社会主義建設における偉大な成果は、全世界のすべての圧迫されている民族と人民の解放闘争にきわめて大きな激励をあたえた。かれらは中国人民に自己の将来を見てとつている。かれらは、中国人にやれることなら、自分たちにもやれるはずだ、と感じている。かれらは中国人民の勝利のなから無限の確信と勇気をえたのである。

中国人民はすべての被圧迫民族に自己の過去を見ている。中国人民はアジア、アフリカ、ラテン・アメリカの人民の帝国主義反対、植民主義反対、侵略反対、干渉反対の闘争に深い同情をよせている。十年らい、中国人民は、ソ連を先頭とする社会主義陣営諸国の人民とともに、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカ諸国の人民の、民族独立と民主と自由をかちとり、これを擁護する闘争のたびごとに、できるかぎりの支持と援助をあたえてきた。同時に、これら諸国の人民も、わが国人民の、アメリカの侵略に反対し、わが国の主権と領土の完全性をまもる闘争に有力な支援をあたえてくれた。こうした相互の支持によつて、わが国とアジア、アフリカ、ラテン・

アメリカ諸国の人民とのあいだの友誼と団結はいつそう発展し、強固なものとなつている。

十年らい、わが国はアジア、アフリカの民族独立運動のなから生まれだつた一連の民族主義国家とのあいだに外交関係をうちたて、発展させてきた。これらの国々の絶対多数は、戦争に反対し、侵略的な軍事ブロックにひきこまれるのを拒絶し、平和中立の政策を実行している。これら諸国は、たとえ社会制度の点ではわれわれ社会主義国と異なつていても、独立をまもり、平和をまもり、帝国主義の侵略政策と戦争政策に反対するといふ点ではわれわれと一致するところがある。この共同の基礎のうえになつて、われわれはアジア、アフリカの民族主義国家とのあいだに広く友好協力関係を発展させることが完全にできるのである。一九五四年に中国、インド、ビルマが共同で提唱した平和共存の五原則と、一九五五年にバンドンのアジア・アフリカ会議で採択された十原則は、こうした共同の願いを反映しており、国と国とのあいだの友好協力のために良好な準則を提供した。こうした原則はアジア、アフリカ地域と全世界に大きな影響をもたらした。中国は、アジア、アフリカの民族主義国家との友誼を非常に貴重なものと考えており、これら諸国のおしすすめている平和中立政策を断固として支持するものである。中国は五原則にもとづいて、これら諸国と友好関係をうちたて、発展させている。政府と政府のあいだ、人民と人民のあいだの友好往来、とくに国家の指導者たちのあいだの相互の訪問と直接の接触をつうじて、相互のあいだに日まじりに深まりゆく理解がうまれている。貿易関係や文化交流、また、わが国が一部のアジア、アフリカ諸国に提供した経済・技術援助をつうじて、相互のあいだには日まじりに密接な相互援助と協力の関係がうちたてられている。このような関係は、すでに大きな発展を見ており、今後いちだんと発展してゆくであろう。

帝国主義は一貫して、民族主義国家の右派を利用してこれら諸国と中国との仲をさき、これら諸国人民の中国人民にたいする友誼をそこなおうとしている。このため、ときにはこれら諸国と中国との友好關係に逆流が生じることもしかかありうる。けれども、中国は民族主義国家との關係をうちたてて發展させてゆくうえで一貫して五原則をまもつてゐる。こうした友好關係は中国の利益にも合致すれば、民族主義国家じしんの利益にも合致しており、しかも、五原則は民族主義国家の広はん人民の心の中に深くはいつてゐるので、帝国主義と、民族主義国家におけるその代理人がすすめてゐる離間行為はけつきよく目的をとげることはできないのである。

中華人民共和国は、アメリカ帝国主義にたいするねばりつよい闘争のなかで成長してきた。十年らい、アメリカ帝国主義は新中国にたいして一連の侵略活動と戦争による威嚇をおこない、みずから中国人民の敵であることを十分に示してきた。中国人民は平和を心から愛してゐるが、侵略はぜつたいにこれを許さないし、どのような戦争による威嚇をも決して恐れるものではない。中国人民は朝鮮人民とともに、朝鮮の戦場でアメリカの進攻を撃退した。台湾海峡では、中国人民はアメリカ帝国主義と断固たる闘争をおこない、アメリカ帝国主義の侵略計画と挑発活動に痛烈な打撃をあたえた。われわれは、アメリカ軍が台湾地域から撤退することをだんこ要求する。台湾は中国の領土である。中国人民はかならず台湾を解放する。世界には、中国人民がその偉大な祖国の完全な統一を完成するのを阻みうるような力も存在しないのである。

アメリカ帝国主義は新中国を敵視する政策によつて、ますます多くの困難につきあたつてゐる。こうした窮地からぬけどすとも、ひきつづき台湾を力ずくで占領するため、アメリカ帝国主義はこんどは「二つの中国」をつくりだす陰謀を執拗にたくらんでゐる。中国人民はいちはやくこの陰謀を暴露し、世界人民のまえに自己の

厳正な立場を明らかにした。中国人民は「二つの中国」にだんこ反対しており、國際間に「二つの中国」の局面が出現することを絶対に許すものではない。中国人民のこの厳正な立場は、すでに世界でますます多くの国家の支持をえている。イギリスと日本は、アメリカに追隨して、「二つの中国」をつくり出す陰謀にくわつてゐるが、かれらはこのことによつてみずから不利な結果をまねくだけである。

新中国は、決して孤立するようなことはありえない。中国革命の勝利の大きな影響と、中国の建設面での大きな成果は、世界各国の人民をますます力づよくひきつけてゐる。かれらは中国人民との往來をもとめており、新中国の状況を知りたがつており、新中国の各種の經驗を研究し、考察したいと望んでゐる。十年らい、世界各国人民と中国人民のあいだの友好往來は大きく發展し、世界の多くの国々の、さまざまの政治的傾向をもつ人物がわが國を訪問してゐる。わが國の人民も多くの国家にたいして友好的な訪問をおこなつた。わが國人民は世界各國人民とのあいだに經濟、文化、科学・技術の各方面における連繫と交流の關係をうちたてた。われわれの友は全世界にゐる。アメリカ帝国主義はわれわれを孤立させようとくわだてたが、けつきよく孤立させられたのはあべこべにかれら自身であつた。

当面の國際情勢はわれわれにとつて有利である。毛沢東同志が指摘したように、当面の情勢の特徴は、敵が一日とくされはててゆき、われわれが日一日とよくなつてゐることにある。げんざい、ソ連はすでに共産主義建設を全面的に展開する歴史的な時期に入つてゐる。中国人民は、一九五八年の大躍進の土台のうえに立つてひきつづき躍進をとげており、ひきつづき人民公社をうちかため、發展させており、第二次五カ年計画の主な指標を今年中に完遂、超過完遂するために奮闘してゐる。その他の社会主義諸国もすべて經濟建設の高まりを見つつか

る。ソ連の宇宙ロケットが月に到達したことは、またもや社会主義制度の比類ない優越性をはつきり示した。社会主義陣営の強大さは空前のものである。アジア、アフリカ、ラテン・アメリカの民族民主運動はひきつづきぐんぐん発展しており、世界の人民はますます断固とした決意をもって平和をまもる運動に身を投じている。他方、資本主義経済は危機と衝撃の暗いかげにおおわれている。西方の資本主義諸国における人民の革命闘争は日まじに発展しているし、帝国主義の植民地体制は崩壊の一端をたどるのみで、もはや救うすべもない。帝国主義国相互間の公然または暗々裏の闘争は日まじに激しくなっている。新しい世界戦争をひきおこそうとするアメリカ帝国主義の計画は、いく多の困難に直面している。

ソ連が国際緊張緩和のためにこうじた一連の措置、とりわけ、フルシチョフ同志のアメリカ訪問と、ソ連政府がこのほど提出した全面的な完全な軍備縮小にかんする提案は、すべての社会主義国と、平和を愛するすべての国々および人民から熱烈な擁護と支持をうけた。フルシチョフ同志とアメリカのアイゼンハワー大統領は会谈の後共同コミニケを發表したが、そのなかには、国際紛争を武力によらず平和な話し合いの方法で解決することについて双方の意見が一致したということがのべられている。アメリカは一貫して武力をひけらかし、いわゆる「力の立場」の政策をおしすすめてきたが、いまとなつてはそのアメリカも、武力をもちいて国際紛争を解決すべきではないということに同意せざるをえなくなつていたのである。これは疑いもなく歓迎に値することである。しかし、今日にいたるまで、アメリカはまだその侵略政策と戦争政策を放棄してはいない。アメリカは依然として冷戦をおしすすめ、依然として軍縮を拒絶し、ひきつづき全世界の各地に軍事基地をつくつている。アメリカは執拗にも西ドイツの軍国主義を復活させ、やつきとなつて日本を武装させ、ひきつづき台湾を力づくで占

領している。さいきん、アメリカはまた、ラオスをそのかしてジュネーブ協定とビエンチアン協定をふみにじらせ、ラオスの内戦をひきおこし、緊張した情勢をつくりだすのに狂奔している。こうしたことはすべて、国際緊張を緩和するためには全世界の人民が今後ともアメリカ帝国主義と長期にわたつて繰りかえしくりかえし闘争しなければならぬということを証明している。

十年らい、わが国は対外関係の面ですでに大きな成果をおさめた。これはわが国の平和外交政策の勝利である。この勝利は、わが国の社会主義建設の事業の順調な進展を保証するとともに、世界平和と人類進歩の崇高な事業のためにも重要な貢献をしている。中国人民はこれまでと同様、断固としてゆるぎなく、ソ連を先頭とする社会主義陣営の諸国とともに、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカ諸国の民族独立と民主と自由のためにたたかう人民とともに、また、全世界の平和を愛するすべての国々および人民とともに、帝国主義の侵略政策と戦争政策を徹底的にうちやぶり、人類の恒久平和と進歩の事業を実現するため、うまずたゆまず努力してゆくであらう。われわれはすでに偉大な勝利をかちとつた。こんど、さらに偉大な勝利をかちとるであらう。

① 中国人民政治協商会第一届全国委員会第三回会議における毛沢東主席の開会の辞

② 毛沢東著「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」(中国語版)人民出版社 三八ページ

③ ソ連から帰国するにあたって、モスクワ駅でおこなわれた毛沢東主席の演説「新華月報」一九五〇年三月号

わが国の社会主義建設の大躍進について

李 富 春

マルクス・レーニン主義の普遍的な真理を中国の具体的な実践といかにむすびつけるか、これは、わが党が革命のなかでも建設のなかでもかならず解決しなければならない課題である。民主主義革命の徹底的な勝利と社会主義革命の全面的な勝利は、わが党がこの課題を革命のなかで創造的に解決したことを立証した。では、われわれは建設のなかで、マルクス・レーニン主義の普遍的な真理を中国の具体的な実践とむすびつける課題をすでに解決したといえるだろうか？

社会主義建設でもつとも重要な課題は、建設の速度の問題である。われわれは、第一次五カ年計画の期間にわが国の歴史上かつて見ない、資本主義国の歴史にもまれな発展速度を実現したのち、わが国の社会主義建設をさらにはやい速度で発展させることができるかどうか、これは、マルクス・レーニン主義の普遍的な真理を中国の建設の具体的な実践とむすびつけるこの基本原則をかたくまもる面でもかならず解決しなければならない、もつとも重要な、もつとも中心的な課題である。

一九五五年の冬、わが国で生産手段の所有制についての社会主義革命がなしとげられようとしていたとき、毛沢東同志は、国民経済のより高速度の発展の可能性を科学的に見とおし、また、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するというスローガンをいち早く提起し、つづいて、十二年（一九五六—一九六七年）全国農業発展要綱草案や「十大関係」についての演説など、この客観的な可能性を実現させるうえでの一連の綱領的な主張を提出した。一九五六年と一九五七年における社会主義建設の実践の経験にもとづき、毛沢東同志の思想の発展にもとづいて、党の第八期代表大会第二回会議は、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという総路線と、いくつかの同時発展の一連の方針を正式に決定した。こうして、われわれは、中国の具体的な条件にかなった、より高い速度で社会主義建設を發展させてゆく道をさがしたのである。

右翼日和見主義思想の持主、これには経験主義者と教条主義者がふくまれるが、かれらは貧しい、立ちおくれした状態を速かにあらためようとする全国人民のつよい願いとゆるぎない意志を見てとることができず、古い制度から解放されて社会主義という新しい制度をうちたてた数億の勤労者の偉大な力とゆたかな知恵を見てとることができず、第一次五カ年計画の期間につくりあげられた物質的、技術的な条件のはたす役割を見てとることができないのである。かれらは、古い考え方と古い経験にしばられて、第一次五カ年計画の期間における速度はすでに非常にはやいものであり、しかも、基礎数が大きくなればなるほど發展はそれにもなつておそくなるものであるから、第二次五カ年計画の速度は第一次五カ年計画のそれよりもゆるめるほかはなく、はやめることなどはできない、と考えている。右翼日和見主義者は、六億人民の意志を反映した総路線が広はん大衆のものとな

り、それがきわめて大きな力を發揮しており、社会主義建設の事業がすさまじい發展をしめじているそのときになつても、やはり総路線に疑いを持ち、われわれと勝負をつける機会をみつめて、党の総路線に攻撃をくわえてきたのである。

実践は、真理を判断するただひとつの基準である。いつたい、真理はわれわれの側にあるのか、それともかれらの側にあるのか？ いつたい、第二次五カ年計画の期間での速度は第一次五カ年計画のときよりもはやくなるのか、それとも第一次五カ年計画のときよりもおそくなるのか？ 昨年いらい、総路線にみちびかれてあらわれた大躍進と人民公社は、この問題にたいして、すでにはつきりとした肯定的な答えをあたえている。事實は、われわれが理論的にも、実践的にも、より高い速度で社会主義建設を發展させてゆく問題を基本的に解決したことを立証している。

二

一九五八年の大躍進によつて、わが国の工業生産と基本建設の速度は、第一次五カ年計画の期間の年平均増加速度をはるかにしのぎ、そのもつとも増加のはやかつた年の速度をもしのいだ。

第一次五カ年計画の期間に、工業生産総額の年平均増加速度は一〇・九パーセントで、そのうち、工業生産総額（手工業の生産額をふくむ、以下おなじ）の速度は一八パーセント、農業生産総額の速度は四・五パーセントであつた。それにひきかえ、一九五八年の工業生産総額は一九五七年にくらべて四八パーセントふえ、そのうち、工業生産総額の速度は六六パーセント、農業生産総額の速度は二五パーセントであつた。増加額について

いえば、工業生産総額が第一次五カ年計画の期間に増加した額は五六〇億元であつたのが、一九五八年の一年間に増加した額は六〇〇億元になつている。①

第一次五カ年計画の期間には、基本建設への投資総額は五五〇億元、完成またはいちぶ完成をみて操業をはじめた投資基準額以上の工業項目は五三七項目、増加した灌漑面積は二億一八〇〇余万ムー*であつた。ところが、一九五八年には、基本建設への投資総額は二六七億元、完成またはいちぶ完成をみて操業をはじめた投資基準額以上の工業項目は七〇〇項目、増加した灌漑面積は四億八〇〇〇万ムーであつた。

工業生産および基本建設の大躍進とならんで、国民経済のその他の部門も急速な發展をとげた。一九五八年を一九五七年とくらべると、近代的な運搬用具による貨物総輸送量の増加量は二億二〇〇〇万トンで、前の五年間の総増加量二億四〇〇〇万トンの九一パーセントにあたり、商品の一般小賣総額の増加額は七四億元で、前の五年間の総増加額一九七億元の三七パーセントにあたる。文化・教育の面では、大学・専門学校だけをとりあげてみても、一九五八年の一年間に募集した新入生は三二万人で、前の五年間に募集した新入生総数五六万人の五六パーセントにあたる。一九五八年の大躍進は、個々の部門、個々の面における大躍進ではなく、国民経済全般にわたる全面的な大躍進であり、社会主義の経済建設と文化建設の全面的な大躍進であつた。

一九五八年における国民経済の全面的な大躍進は、以前とくらべてどんな特徴をそなえているだろうか？

第一、第一次五カ年計画の期間には、工業生産の年平均増加速度は一八パーセント、農業生産の年平均増加速度は四・五パーセントで、工業の増加速度は農業の四倍にあつてた。一九五八年には、工業生産の増加速度は六六パーセント、農業生産の増加速度は二五パーセントで、工業の増加速度は農業の二・六倍になつてた。

これからみても、農業の発展速度が工業の発展速度よりおくれしていた過去五年間のわが国の状況は、いちじるしく改められつつあることがわかる。工業が急速な大発展をとりつつあると同時に、生産力の大きな解放をみた農業はいまや急速にこれに追いつきつつある。

第二、第一次五カ年計画の期間には、重工業生産の年平均増加速度は二五・四パーセント、軽工業生産の年平均増加速度は一二・八パーセントであった。一九五八年には、重工業生産は一〇三パーセント、軽工業生産は三四パーセントの増加をみた。一九五八年の増加速度を第一次五カ年計画の期間の年平均増加速度とくらべると、重工業では四倍、軽工業では二・七倍になつてゐる。一九五八年に重工業生産がとりわけ急速な増加ぶりをしめた結果、重工業の各部門にいつそう多くの生産手段を提供することができたし、軽工業と農業にもさらに多くの生産手段を提供することができたのである。これによつて、一九五八年における軽工業と農業の急速な発展が保証されたばかりでなく、そのこの年度における軽工業と農業の急速な発展も保証されることとなつた。重工業と農業が急速に発展し、軽工業の必要とする機械と原料がますますふえるという条件のもとでは、軽工業はひきつづき急速な発展をみ、重工業と農業の発展にいつそう歩調を合わせてゆけることとならう。こうした傾向は、現在すでにますますはつきりと見てとれるのである。

第三、第一次五カ年計画の期間に、重工業の各部門はすべて大きな発展をとげた。年平均増加速度についていえば、わりにはやかつたものとして、たとえば鋼鉄は三一・七パーセント、機械製造工業の生産額は三四・六パーセントであり、わりにおそかつたものとして、たとえば石炭は一四・四パーセント、発電量は二一・六パーセント、原油は二七・三パーセントであつた。一九五八年には、製鋼をかなめとして各部門の生産を推進した結

果、重工業の各部門はさらにはやい発展をとげ、鋼鉄が四九・五パーセント、機械工業の生産額が二〇四パーセントの増加をしめすとともに、いぜんわりに発展のおそかつた石炭は一〇八パーセント、発電量は四二パーセント、原油は五五パーセントの増加をみた。以前わりに薄弱だつたいくつかの部門も、あるものはすでに薄弱でなくなり、あるものはしだいに改善をみつつある。

第四、一九五八年には、重工業の大きな発展、とりわけ鉄鋼業と機械工業の大きな発展によつて、鋼材類の自給率は第一次五カ年計画の期間の平均七五パーセント前後から八〇パーセント以上に高まり、機械設備の自給率は第一次五カ年計画の期間の平均五五パーセント前後から八〇パーセント前後に高まつた。第一次五カ年計画の期間にわれわれが新設または拡張した重要な大型企業の多くは、ソ連から設計上の援助をうけ、プラントの供給をおおぎ、ソ連その他兄弟国の専門家の援助のもとに建設したものであつた。わが国の広はんな労働者・職員が学習にとめたため、われわれはすでに多くの重要な企業を自力で設計できるようになつてゐる。この面で、われわれは一九五八年にいつそういちじるしい成果をおさめた。

第五、第一次五カ年計画の期間に、われわれは、わが国の社会主義的工業化に中核としての役割をはたすかたりの現代的大企業を建設したほか、華北、華中、西南、西北の各地区で、新しい工業基地の建設に手をつけた。

一九五八年、われわれは、それまでに着手していた五〇〇項目にちかいかい投資基準額以上の工鉱業企業の建設をつづけるほか、あらたに一〇〇〇余項目にのぼる投資基準額以上の工鉱業企業の建設をはじめた。それと同時に、われわれは全国の広大な中小都市と農村に小型の工業企業を多数新設したが、その数は数十万にたつしている。

一九五七年には、内蒙古、江西、浙江、福建、河南、広西、貴州、甘肅、寧夏、チベットなどの省や自治区では

一トンの鋼鉄すら生産できなかった。ところが、一九五八年の大躍進ののちには、チベットをのぞく全国のどの省、市、自治区でも鋼鉄を生産できるようになった。この一年間に、われわれはもたらあつた一八の鉄鋼業重点企業を拡張したほか、二〇あまりの中型製鋼所と三〇〇あまりの小型製鉄基地を新設した。機械工業についていえば、一九五八年には、二二〇の大工場を新設または拡張したばかりでなく、万をかぞえる中小工場を建設した。かつては機械工業をまったくもつていなかった専区や県、いちぶの区や郷も、一九五八年には多かれ少なかれ、大小さまざまな機械製造工場と修理工場を新設した。ほとんどの省、市、自治区は、いまでは一部の冶金設備、電動機、工作機械、動力機械、農業機械を自力でつくれるようになってきている。こうした状況は、鉄鋼と機械を中心として、大型、中型、小型の企業をむすびつけた、しかも地域的分布のわりあい合理的な、全国的な、完備した工業体系が急速に形づくられつつあることをしめすものである。こうして、協力作業をおこなう各地区と多くの省、自治区で、今後さまざまな水準をもつ、それぞれの特徴をそなえた工業体系を確立する条件も同時にうみ出されているのである。

第六、第一次五カ年計画の期間における実践での鍛練と大学・専門学校での養成によつて、われわれの技術幹部の隊伍は、おおいに拡大された。一九五八年、盲信を打破し、思想を解放し、大胆に考え、大胆に意見をのべ、大胆にやつてのける共産主義的な風格を発揚せよというスローガンを党がかかげたことによつて、技術革新といちぶの技術革命の面に百花齊放のすばらしい情景がくりひろげられた。一九五八年に、試作に成功した新しい工業製品の品目数は第一次五カ年計画の総数にひとしい。農業の面では、各種の農作物に多収穫の典型があらわれた。われわれは、広はん農民がながい年月にわたつてつみあげてきた豊かな経験をまとめ、これを

発展させて、実際的な効果のある農業生産の「八字憲章」をつくりあげた。

第七、わが国の農村では、高級協同組合を土台とし、党の総路線にはげまされ、農村における生産、建設事業の大きな発展によつて、偉大な人民公社化が実現した。行政と社務が一体となり、工業、農業、商業、文化・教育、軍事がむすびつき、農業、林業、畜産業、副業、漁業がむすびついたこの人民公社は、大衆の生産意欲を発揮させ、労働力の利用率を高め、労働生産性をひきあげ、農地水利の建設の規模をひろげ、農村における工業を発展させ、農業の技術改革と農村の文化革命をすすめ、公共福祉事業を発展させるなどの面で、高級農業生産協同組合よりさらに大きな優越性をしめしている。

第八、国民経済各部門の大きな発展によつて、旧い中国がのこした都市の失業現象はまったく一掃された。都市では、あらたに労働力が増加したが、それでも工業生産と建設の発展に即応できなくなつていく。農村では、人民公社化が実現したのち、おびただししい婦人の労働力が家事から解放されて農村の生産と建設にくわつたが、やはり労働力の不足を感じている。われわれのこの六億余の人口をもつ大國に労働力の不足という現象があらわれはじめていくこと、これはいうまでもなく、ちいさな出来事ではなくて、大きな出来事であり、悪いことではなくて、結構なことである。それは、われわれの社会主義建設が各方面で日に日に発展をとげ、繁栄をづつていくことをしめしており、また、それは技術革新と技術革命をいそぎ、労働生産性をたえまなく向上させるという任務をわれわれに提起しているのである。

第九、工農業の大躍進と社会的労働生産性の向上を土台として、一九五八年の国民所得は一九五七年にくらべ三二三億元の増加、すなわち三四パーセントの増加をみた。ところが、第一次五カ年計画の期間における国民所

得の増加額はやつと三二二億元、年平均増加額は六四億四〇〇〇萬元、増加速度は八・九パーセントであつた。国内外の反動派とその追隨者である右翼日和見主義者は、われわれが昨年おこなつた大がかりな製鋼、製鉄、水利建設、豊作田の設置、工業の基本建設はいずれも「得より損の方が大きい」と言つてゐる。だが、一九五八年の一年間におけるわれわれの国民所得の増加額は、第一次五カ年計画の期間の総増加額よりもさらに多いのである。この事実だけでも、かれらのあやまつた見解を粉砕するのに十分でないだろうか？

第十、国民所得の増加によつて、一九五八年の蓄積は一九五七年より九七パーセントふえた。この増加速度は、第一次五カ年計画の年平均増加速度一五パーセントの六倍あまりにあたる。蓄積が急速にふえたので、基本建設の規模を急速にひろげることができるようになり、こんごの社会主義的拡大再生産のきわめて有利な条件がつくりだされた。一九五八年の基本建設にたいする投資は前年にくらべて九三パーセントふえた。こうした速度は、これまでのわが国には、見られないところである。この一年間に、重工業の生産が一〇三パーセントの増加をみたことにより、基本建設は資金面ばかりでなく、物資面でも保証されることになつた。

蓄積のおびただしい増加とともに、一九五八年には国民所得のうちの消費部分もこれまでのどの年よりもはやい速度で増加した。農民の自家消費量が往年よりはるかに増加しているという状況のもとでも、一九五八年の商品の一般小賣総額は前年より一六パーセントふえており、そのうち農村では二〇パーセント以上ふえている。都市建設は、労働者・職員の住宅や都市の公共事業をふくめ、その規模がこれまで以上の年をものした。文化面では、この一年間にほぼ三〇〇〇万の学齡児童が入学し、七〇〇万の生徒が中等学校へすすんだ。また、保健衛生事業もそれにおうじた発展をとげている。帝国主義は、わが国の大躍進が人民の福祉を「犠牲」にして

えたものだと言つておぼしているが、事實はこのデマを粉砕した。わが国の工業生産の大躍進は、人民の生活をきりあげたのではなく、逆に人民の物質面と文化面の生活水準を急速にひきあげたのである。われわれの蓄積の大幅な増加は、消費をひきさげるといふ方法でえられたのではなく、国民所得の大幅な増加を土台として、人民の消費水準の急速な向上という状況のもとで実現されたものである。一九五八年いらい、生活消費物資の生産はめざましい速度でふえているが、社会購買力の増加のほうがさらに速いため、いくつかの副食品とごくわずかな種類の日用品は一時的に不足をつげた。こうした現象は、すこしも怪しむにたりない。この現象は、人民の生活水準の低下をしめすものではなくて、反対に、人民の生活水準の急速な向上をしめしているのである。

以上のようなこうした特徴はすべて、わが国国民経済の発展のうえで、高速度の発展をとげるとともに比例的な発展をとげるといふ新しい局面があらわれていることを反映している。一九五八年の大躍進を経て、国民経済各部門の基本的な比例関係がいつそう釣りあつていくという状況のもとで、工業生産総額のうち工業のしめる比重は一七五七年の五六・五パーセントから一九五八年には六三・六パーセントに高まり、農業のしめる比重は四三・五パーセントから三六・四パーセントになつた。また工業生産総額のうち重工業のしめる比重は一九五七年の四八・四パーセントから一九五八年には五七・三パーセントに高まり、軽工業のしめる比重は五一・六パーセントから四二・七パーセントになつた。このことは、わが国の社会主義的工業化の事業が一九五八年に大きく一歩前進をとげたことを物語るものである。

一九五八年の全面的な大躍進は、もちろん、偶然に生じた現象ではなく、わが国の経済発展の必然的な産物であり、わが党の指導のもとでわが国の六億余の人民の主観的な能動性と経済の高速度の発展の客観的な可能性とがむすびついた必然の結果である。

一九五八年にわれわれの社会主義建設の速度を第一次五カ年計画の期間よりもさらにはやめえたのは、われわれが以前よりもいっそう多くの有利な条件と有利な要因をもつていたからである。

第一、われわれは、民主主義革命を最後までやりとげたのち、さらに社会主義革命を徹底的におしすすめた。われわれは、生産手段の所有制についての社会主義革命をなしとげたのち、さらに政治戦線と思想戦線での社会主義革命で決定的な勝利をおさめた。われわれは、昨年の大躍進のさい、農業協同化を土台として、さらに人民公社化を実現した。こうしたことによつて、各種の古い制度を根底からくつがえし、古い制度を反映するさまざまな古い思想や古い観念に打撃をくわえ、これによつて、過去数千年のあいだ眠りつづけていた社会的生産力を目ざめさせた。

第二、わが国は人口の多い大国である。人間は社会のなかでもっとも貴重な富である。人が人を搾取する制度とこの制度をうみだす根源が一扫されたのち、六億をこえる人間の威力が十分に発揮されるようになった。

第三、六億をこえる人民が古い制度から解放されたのち、工農業生産は急速に発展し、わが国は世界のいかなる国もつことのできないもつとも広い国内市場をもつようになった。この国内市場は、わが国に経済の飛躍的な発展の大きな可能性をあたえた。

第四、わが国は土地のひろい、気候のよい国であり、ゆたかな天然資源は長いあいだ開発されていなかった。

人民は社会の主人公になつたのち、しだいに自然界の主人公となり、これによつて、ゆたかな天然資源はわが国の社会主義建設をいっそうはやく発展させる重要な要因のひとつとなつていく。

第五、第一次五カ年計画が超過完遂され、社会主義的工業化の初歩的な土台がうちたてられたことによつて、国民経済をさらに発展させるうえでのいっそうすぐれた近代的な物質的、技術的条件が準備された。

第六、ソ連を先頭とする社会主義陣営の国際的な援助は、われわれがこれまでの社会主義建設で成功をおさめた重要な要因のひとつである。いま、ソ連は偉大な七カ年計画の建設をすすめており、その他の兄弟国の経済もそろつて高まりをみせており、社会主義諸国の建設についての経験も日一日とゆたかになつていく。このことによつて、われわれはひきつづき国際的な援助をうけ、兄弟国の建設の経験をよりよく学ぶことができるようになっていく。

右翼日和見主義思想をもつものはすべて、社会主義革命が全面的な勝利をおさめたのち、いくつかの有利な条件を浅く、ばんやりとはつかんでいたのであるが、中国は人口が多く、農民が多いということをきわめて大きな負担と考え、これをわが国の社会主義建設が高速で発展できないひとつの根拠とみなしてきた。こうした連中の悲観的な論調とは正反対に、毛沢東同志は、もつとも高度な戦闘的熱情ともつとも革命的な楽観的態度をもつて、「党の指導のほかに、六億の人口こそ、ひとつの決定的な要因である。人が多ければ議論も多く、熱意も高く、意気込みも大きい」、「べつの特徴がいかに、中国の六億の人口のいちじるしい特徴はひとつには経済的に立ちおくれ、ふたつには文化的に白紙だということである。これは一見したところ、わるいことのようにだが、そのじつ良いことである。窮すれば変を思い、懸命に働こうとし、革命をやらうとする。白紙にはなにも書いてな

いので、もつとも新しいもつとも美しい文字を書き、もつとも新しいもつとも美しい絵をかくのに好都合である」とわれわれに教えた。毛沢東同志は、五億をこえる農民は革命のなかばかりでなく、建設のなかでも、もつとも偉大な力のひとつである、とわれわれに指摘した。問題の鍵は、労働者階級とその前衛である中国共産党が正しい政策と適切な形式をとつて、五億余の農民をふくむわが国の六億余の人民の積極性と創意性を最大限に發揮させるということにある。

大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという党の総路線は、毛沢東同志が上述の特徴をしっかりとつかみ、社会主義建設についてのマルクス・レーニン主義の普遍的な真理を創造的に運用して提起したものにほかならない。大いに意気込み、つねに高い目標をめざすには、政治がいっさいを統率するようにし、社会主義経済の発展の客観的な法則にもとづいて人びとの主動性を十分に發揮させねばならない。多く、はやく、りつぱに、むだなくということを実現するには、生産と建設のなかで、發展速度をできるかぎりひきあげ、経済的な効果を十分に發揮させ、物質的、技術的な基礎をたえまなくつよめてゆかなければならない。いいかえれば、政治と経済を統一することである。

つぎに、党の総路線のいくつかの基本点について、それぞれすこしばかりのべてみよう。

重工業を優先的に發展させることを前提として、工業と農業を同時に發展させること、これは総路線の重要な基本点のひとつである。この基本点には、重工業と軽工業を同時に發展させるということがふくまれている。重工業は主として生産手段を生産し、農業と軽工業は主として消費物資を生産するのであるから、上述の方針は、生産手段の生産を優先的に増加させることを前提として二大部門の比例関係をたもたせるという客観法則の要求

を反映しており、マルクス・レーニン主義の拡大再生産の原理と中国の具体的な実践との結合をあらわしている。この方針によつて、われわれは、工業のみを重視して農業を軽視し、重工業のみを重視して軽工業を軽視するという一面性をさげることができた。そのため、われわれは、幾千万という労働者・職員の積極性をくみあげるとともに五億をこえる農民の積極性をもくみあげることができ、また重工業部門の労働者・職員、軽工業部門の労働者・職員、職員の積極性をもくみあげることができたのである。この方針にみちびかれて、われわれは、都市では工業だけを發展させ、農村では農業だけを發展させるという古い考え方をうちやぶり、一方では都市で主力を結集して工業を經營するとともに、その周辺地区で都市に奉仕する農業を積極的に發展させ、いま一方では農村で主力を結集して農業を經營するとともに、力のおよぶ範囲で農業に奉仕する工業を發展させているのである。とくに指摘しておかなければならないのは、農村で工農業を同時に發展させる人民公社というもつともすぐれた社会組織の形態をわれわれが探しあてたことである。したがつて、都市と農村とを問わず、工業と農業、重工業と軽工業が同時に躍進したのは、なんら偶然の現象ではない。

現代的な大企業をかなめとすることを前提として、大型企業と中・小型企業を同時に發展させ、近代的方法による生産と旧式の方法による生産を同時に發展させること、これは総路線のもうひとつの重要な基本点である。社会主義建設をすすめるには工業の現代化を実現し、現代的な技術で農業その他のあらゆる経済部門を裝備しなければならぬということ、これは普遍的な法則である。資本主義發展の歴史の過程をみても、後進国が先進国に追いつく重要な方法のひとつは、先進的な技術を取り入れて追いついてゆくことである。社会主義国が資本主義の發達した国に追いつき、追いつくには、社会主義制度がすぐれたものであるため、この方法を採用する

ことがいつそう必要であり、また、そうすることがいつそう可能である。われわれが技術的に立ちおくれた状態をあらためるには、一群の現代的な大型中核企業を建設し、あらゆる先進技術の採用につとめなければならぬ。これは、いかなる時期においても動かすことのできない方針である。しかし、こうした企業を建設するには、多額の資金とながい建設期間を必要とするし、技術も手取りばやく身につけるわけにはゆかず、設備の供給にも一定の限度がある。もしもわれわれがそうした企業をおこすだけにとどまれば、社会の需要に完全に適応することも、われわれのさまざまな力を十分にふるうことも不可能であり、ひいては社会主義建設の速度をゆるめることにもなる。大型、中型、小型の企業を同時に発展させ、近代的な方法による生産と旧式の方法による生産を同時に発展させるといふ方針によつて、われわれは、大型企業だけに注意をはらつて中・小型企業には注意をおこたり、近代的な方法による生産だけに注意をはらつて旧式の方法による生産には注意をおこたるといふ一面性をさけることができた。そのため、技術水準のわりに高い労働者・職員の積極性をくみあげるとともに技術水準のわりに低い労働者・職員の積極性をもくみあげ、また工業経営に通じるものにしたいていつそうりつぱに工業を経営するようはげますとともに、これまで工業経営に通じていなかったものにもたいしても大胆に工業を経営するようはげました。とくに指摘しておかなければならないのは、全国の二万四〇〇〇余の人民公社がすでに数十万の小型工場を経営していることである。その規模はちいさく、技術水準は低けれども、それはたしかにわが国の広はん農村の貧しい、立ちおくれた状態をあらためる重要な出発点である。こうした人民公社の経営する工業には、つぎのようないく多のずばぬけた長所がある。(一)それは農村で経営され、農民の生産と生活に直接奉仕するものである。その利点は農民がその目で直接に見てとつており、さらにその必要とする資金もわ

りにすくなくすむ。だから、工業経営の資金を蓄積しようという農民の積極性をくみあげるのに好都合である。(二)地もとにわりあい分散している鉱物資源や農産資源を利用するのに都合がよく、生産を地もとの農民の具体的な需要にいつそうよく適合させることができる。(三)農村の技術改造に役立つ、農業の労働生産性をひきあげるのに役立つ。(四)大型、中型の企業が払いあげた古い設備をあまさず利用して、これらの設備の使用年数をのばし、社会の資金を節約することができる。(五)社会主義的工業化と農業の現代化に技術面の予備軍を提供するのに役立つ。いちぶの人びとは、これらの企業ができたばかりのころ製品の質がわりに低く、原価が割高で、労働生産性の向上がわりにおそかつたところから、これをみくびつた。こうした人びとは、公社が初期におこした工業を現代的な大企業とくらべるだけで、広はん農村の当面の立ちおくれた農業技術とはくらべてみようともしない。かれらの誤りは、五億をこえる農民の積極性をくみあげるといふことがわからず、公社が工業を経営することはこの偉大な力を動員して社会主義的工業化の事業に参加させるもつとも適切な形式であるということがわからず、また、あらゆる事物の発展の過程が小さなものから大きなものへの過程、低いところから高いところへの過程であるということがわからない点にある。かれらは新しく生まれだした事物を軽視している。だが、新しく生まれだした事物こそ、もつとも生命力にあふれ、もつとも偉大な前途をもっているのである。一九五八年、われわれが大型、中型、小型の企業をむすびつけた全人民による工業経営という方針を実行したからこそ、「小土群」*と「小洋群」***の工鉱業企業が満天の星のように分布し、いたるところに花をひらかせるというすばらしい情景が全国にあらわれたこと、これはその力づよい証明ではないだろうか？

集中的指導、全面的計画、分業・協業を前提として、中央の工業と地方の工業を同時に発展させること、これ

は総路線のいまひとつの重要な基本点である。工業だけでなく、その他の経済事業、文化・教育事業にたいしても、すべて、中央と地方が級別に管理する原則を實行しなければならぬ。わが国のような大きな国で計画的な社会主義建設をおこない、わりに短い期間内に現代工業、現代農業、現代科学・文化をもつ社会主義国をつくりあげるには、中央の集中的指導と全面的計画なしには不可能なことはいうまでもないし、同様に、中央集権のみで、適当な地方分権がなければこれまた不可能なことはもちろんである。中央は省、市、自治区の積極性を發揮させることに注意し、省、市、自治区は専区、県の積極性を發揮させることに注意し、専区と県は公社と企業の積極性を發揮させることに注意し、また公社は生産隊、生産小隊の積極性を發揮させることに注意し、企業は職場、班・グループの積極性を發揮させることに注意しなければならない。こうした方針を實行すれば、指導についていっそう多くのものが案を出し、対策を考え、責任を分担することになる。そうすれば、中央はもつとも重要な、全局にかかわりのあることがらの管理に力を結集することができ、各級の地方は地もとの特殊な状況と特殊な条件にもとづいて地もとでやりうることを、やらねばならぬことを土地柄に応じてやることができ、こうすることによつて、仕事の能率をあげ、官僚主義やさまざまな一面性をさけることができる。こうしてはじめて、われわれの事業は普遍的な、急速な発展をみることができ、全国各地の経済と文化は一様に高まることのできるのである。

これらの基本点、ならびに製鋼をかなめとして全面的な躍進をはかる方針、集中的な指導とさかんに大衆運動をおこなうことをむすびつける方針、政治を統率者とし、政治工作と経済工作をむすびつけ、大衆にたいする政治教育と物質的な奨励をむすびつける方針、生産の指導と生活のあんばいをむすびつける方針などによつて、わ

れわれは社会主義建設のそれぞれの戦線と持場の広はん人民大衆をたちあがらせ、すべての積極的な要因とすべての利用しうる力を動員し、さらに、人民大衆の労働意欲と天をつく意気込みをつねに維持してゆくことができるのである。

四

ある人びとは、一九五八年に全面的な大躍進があらわれたことには必然性があると認めながらも、こうした大躍進は一時的なもので、長つづきはしないと考えている。われわれの見方はかれらと反対であつて、大躍進は一時的なものではなく、長つづきするものだと思つてゐる。一九五八年の大躍進は、わが国の社会主義建設の事業が躍進の段階にふみこむスタートであつた。なぜなら、客観的な経済法則と六億余の人民の要求を反映した党の社会主義建設の総路線は長期にわたつて作用するものであつて、それは今後ますます大きな威力を發揮するからであり、また前にのべた、わが国の社会主義建設がより高い速度で発展できるさまざまな有利な条件と有利な要因もこれまた今後いよいよ重要な役割をしめすことになるからである。一九五八年の全面的な大躍進は、右翼日和見主義者が言つてゐるように、こんごの躍進に困難をうみだしたのではなく、それとは逆に、こんご大躍進をつづけるためによりよい物質的条件を用意し、多くの経験をつみあげたのである。

事実もこのとおりである。一九五九年の国民経済は、一九五八年の全面的な大躍進を土台として、ひきつづき大躍進をとげるといふ新しい勝利をおさめた。今年の一月から八月までの累計の数字を昨年の同期とくらべると、工業生産総額は四八・五パーセントふえ、そのうち、鋼鉄の生産量は六六・六パーセント、出炭量は七八・

五パーセント、発電量は五パーセント、工作機械の生産量は四九パーセント、綿糸の生産量は三一・七パーセントそれぞれ増加している。その他の重工業製品と軽工業製品の生産も、すべて、ひじょうに大きな増加をみている。農業生産は、ひどい自然災害に見舞われたが、夏に収穫した作物はやはり特大豊作だった昨年より二五億斤^{***}の増産をみている。鉄道による貨物輸送量は四六・八パーセントふえている。商品的一般小賣総額は一八パーセントふえている。党の第八期中央委員会第八回総会が右傾に反対し、意欲をふるいたたせよという指示を出している。国民経済の各戦線には、いつそう力づよい発展をせよ増産節約の新しい高まりがあらわれた。鋼鉄の平均日産量だけをとりあげてみても、八月上旬には三万三〇〇〇トンだったのが、中旬には三万七〇〇〇トン、下旬には三万八〇〇〇トン、九月上旬には四万一〇〇〇トン、九月中旬には四万五〇〇〇トンにたつし、九月中旬には八月上旬より三六パーセントの増加をしめている。人びとは、この事実をはじめ他の各方面における事実をつうじて、われわれが今年の国民経済計画の指標を完遂、超過完遂することができ、それによつて、もときめられた第二次五カ年計画のおもな指標を今年中にくりあげて完遂できることを確信している。こうして、われわれは三年の時間をかせぎ、より大きな規模とより高い速度で第二次五カ年計画の建設をすすめてゆくことができるようになった。

一九五八年と一九五九年の二年つづきの大躍進は、われわれが第一次五カ年計画による国民経済のめざましい発展を足場としてより高い発展速度をもちうることを事実によつて立証しており、また、第二次五カ年計画の期間の国民経済発展速度は第一次五カ年計画の期間の速度とせいぜいおなじであるか、あるいはそれよりもおそくなるにちがいないという考え方が誤つていることを事実によつて立証している。もちろん、基礎数が大きくなれば、

ひきつづき速度をはやめるのに一定の制約がある。だが、わが国の当面の状況についていえば、労働生産性を向上させ、天然資源を開発し、技術革命をすすめてゆくなどの面には、なおはかり知れぬ大きな潜在力がのこされている。そのうえ、工業生産がますます発展し、物質的、技術的な基礎がいよいよ拡大すれば、こうした潜在力もますます大きなものになつてゆくのである。われわれが党の総路線と、いくつかの同時発展の方針をあくまでつらぬきさえすれば、われわれの工業生産は長期にわたつて躍進的な速度を維持しうるということ、これは疑いをいれないところである。

われわれが、わが国の国民経済はこんごもずつと躍進的な発展をつづけるといふのは、毎年の発展速度がすべとおなじであるというのでは決してない。わが国の国民経済のなかでわりに大きな比重をしめている農業生産は自然条件の影響をまだひじょうに大きくうけており、作柄のいい年もあれば、わるい年もある。新しく増加する生産能力も毎年おなじであるということは不可能であつて、いくらか多い年もあれば、いくらか少ない年もある。そのうえ、国民経済の発展のなかでは、その他まったく予測しがたい要因があらわれてくる可能性もある。こうしたところからみて、国民経済の発展はどうしても波のうねりのように前進するのであり、速度のいくらかはよいときもあれば、いくらかおそいときもあるということ、これは正常な現象なのである。が、いずれにせよ、われわれの経済は年を追つて増大し、われわれの建設は高速度で発展してゆく。われわれが十年前後の期間内におもな工業製品の生産量でイギリスに追いつき、追い越すことは完全に可能である。

大躍進はわれわれにとつてひとつの新しい事物であり、われわれの経験はいうまでもなくまだ不十分である。国民経済のたえまない躍進を維持するには、一方ではさまざまな右傾的な気分や右傾的な思想をいち早く克服

し、右翼日和見主義と断固とした闘争をおしすすめてゆかねばならず、また、いま一方ではつねに経験をつみあげ、経験をしめくり、つねづね各種の比例関係に注意をはらい、主観的な能動性と客観的な可能性とをたくみにむすびつけて、われわれの経済計画をほんとうに党の総路線の要求をあらわしたものにしてゆかなければならない。

党の第八期中央委員会第八回総会の増産節約運動展開についての決議は、「総路線、大躍進、人民公社、これらはわが国の勤勉で勇敢な六億五〇〇〇万の人民の偉大な決意と偉大な知恵のあらわれであり、わが党とわが国各族人民の偉大な指導者毛沢東同志が、マルクス・レーニン主義の普遍的真理を中国の実際と創造的にむすびつけてうみ出したものである」と指摘している。毛沢東同志は、民主主義革命の時期と社会主義革命の時期において、中国の具体的状況にもとづき、マルクス・レーニン主義の原理を自在に運用して、革命の過程に生じた一連の問題を解決し、このことによつて、マルクス・レーニン主義を中国でいつそう発展させ、いつそうゆたかなものにした。社会主義建設の時期には、毛沢東同志はいちはやく建設の経験をまとめて、理論的に大きな貢献をし、思想上で全党と全国人民を武装し、われわれの社会主義建設にたえず勝利をもたらした。無数の事実は、毛沢東思想こそ、われわれの無敵の思想であることを証明している。したがつて、われわれは、毛沢東同志の著作を真剣にまなび、人民内部の矛盾を正しく処理することについての毛沢東同志の原理をつねに、真剣に指針として、工作をすすめる、問題の解決にあたらなければならぬ。われわれは、よくマルクス・レーニン主義をまなび、毛沢東思想をまなんでゆきさえすれば、総路線の輝かしい光のもとで、国民経済のたえまない大躍進を維持してゆくことができるのである。

① ここにかかげた第一次五カ年計画の期間の増加額は一九五二年の不变価格にもとづいて計算したものであり、一九五八年の増加額は一九五七年の不变価格にもとづいて計算したものである。第一次五カ年計画の期間と一九五八年に重工業製品がかなり値下りしたため、一九五七年の不变価格は総じて一九五二年の不变価格よりも低い。もしも同一の価格で計算すれば、一九五八年の増加額は六〇〇億元をこえることとなろう。

* 一ムーは六・六六七アール(訳注)

** 大衆の力による旧式の小型企業(訳注)

*** 大衆の力による近代的な小型企業(訳注)

**** 一斤は〇・五キログラム(訳注)

総路線のかがやかしい光にみちびかれて

軍事工作をひきつづき躍進させるため奮闘しよう

賀 龍

一九四九年一〇月一日、毛沢東同志は全世界にむかつて、中華人民共和国の誕生をおごそかに宣言した。あのときから現在まで、ちょうど満十年になる。この十年は光榮ある十年であり、偉大な十年であった。このごく短い期間に、全国の人民は中国共産党と毛沢東同志の指導のもとで、長期にわたる戦争のいたでを急速にいやし、社会主義革命と社会主義建設を勝利のうちにおしすすめた。わが国は、農業、手工業、資本主義的工商業にたいして全面的な社会主義的改造をすすめ、生産手段の所有制の面で社会主義革命の任務を基本的に完遂した。わが国の人民はまた、全人民による整風運動と反右派闘争をすすめ、思想戦線と政治戦線の面で社会主義革命の偉大な勝利をかちとつた。こうして、社会主義は各方面で基本的に資本主義にうち勝つた。同時に、わが国の社会主義建設もまたきわめて大きな進展をみせ、第一次五カ年計画の完遂、超過完遂によつて、わが国に社会主義的工業化の初歩的な土台がうちたてられた。一九五八年らしい、全国の人民はまた、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという党の総路線のかがやかしい光にみちびかれて、すさまじい全面的な大躍進の高まりをもちあげ、工業、農業、科学・文化事業のすべてにわたつて史

上空前の大発展をとげた。げんざい、わが国の人民は二年間で第二次五カ年計画のおもな指標をくりあげ完遂するため、確信にみちて奮闘している。中国人民解放軍の全同志は、全国の人民とおなじように、かぎりないよるこびをもつて、わが偉大な祖国の、革命を建設におけるかがやかしい勝利を祝つている。

十年まえ、中国人民の偉大な領袖であり、中国人民解放軍の創設者、指導者である毛沢東同志は、中国人民政治協商会第一回会議の閉会の辞のなかで、わが軍のあらたな歴史的任務を明確に指摘した。毛沢東同志は、「われわれの国防はかためられ、もうわが国土にたいするいかなる帝国主義者の侵略も許さない。試練をへた英雄的な人民解放軍の土台のうえに、われわれの人民の武装力はかならず保存し発展させなければならない。われわれは強大な陸軍をもつだけでなく、強大な空軍と強大な海軍をもつようになるであろう」とのべている。十年らしいの歴史の発展によつてすでに明らかなように、わが国の社会主義革命と社会主義建設の飛躍的な発展にともない、わが祖国の国防建設と人民解放軍の建設もおなじようにかがやかしい成果をおさめた。十年らしい、中国人民同志の偉大なよびかけは、すでに現実のものとなつたし、また現実のものとなりつつある。十年らしい、中国人民解放軍は党と毛沢東同志の指導のもとに、軍事戦線で国内外の反動派にたいする勝利の闘争をおしすすめ、わが偉大な祖国を侵犯し破壊しようとする彼らの陰謀を粉碎し、国家の主権、領土の完全性および安全をまもり、わが国の社会主義建設の事業をまもり、極東と世界の平和をまもるとともに、これらの艱苦にみちた、しかも光榮ある闘争のなかで自己をきたえあげ、強大にしてきた。

中華人民共和国が成立したのち、わが軍は、残敵を一掃し、大陸を統一し、海南島、舟山列島などの島々を解放する任務を迅速に完遂すると同時に、大規模な匪賊討伐戦をくりひろげて、わが国の有史らしい一度も一掃

されたことのなかつた匪賊の災禍を一掃した。わが軍は十年一日のように、つよい警戒心をもつて祖国のきわめて長い国防線をまもり、祖国のきわめてひろい領空と領海をまもり、空と海と陸地から侵入する敵にきびしい打撃をくわえている。わが軍は、兄弟民族の広はん大衆と緊密に協力して、反動的上層分子の叛乱を平定し、兄弟民族の地区の社会改革事業に力づよい援助をあたえた。わが軍は台湾、澎湖、金門、馬祖の解放のために、長期にわたる複雑な闘争をすすめ、多くの準備工作をおこなつた。一九五八年八月、わが軍の福建前線部隊は金門島の蒋介石軍に砲撃をくわえ、国と人民に災いをもたらす彼らの犯罪行為に懲罰をくわえただけでなく、極東に緊張した情勢をつくり出そうとするアメリカ帝国主義の陰謀にきびしい打撃をあたえた。

一九五〇年六月、アメリカ帝国主義は朝鮮にたいする侵略戦争をおこした。同時に、アメリカ帝国主義者は横暴にもわが国の領土台湾を力づくで占領した。アメリカ帝国主義の侵略の目的は、朝鮮を全部占領してから、中国大陸に攻めこみ、誕生後まもない中華人民共和国をつぶすことにあつた。したがつて、アメリカ帝国主義は、中国人民と中国政府の警告をあえてかえりみず、戦火をわが国の表玄関にむけて燃えあがらせ、わが国の領土を爆撃した。抗米援朝、祖国防衛のために、中国人民は中国人民志願軍を組織して朝鮮にゆき、朝鮮人民および朝鮮人民軍とともに、アメリカをかしらとする侵略軍にたいして、英雄的なねばり強い戦いをすすめた。そして、三年の歳月をへてのち、ついに劣つた装備をもつて、高度に現代化した装備をもつ敵をうちやぶり、朝鮮停戦の偉大な勝利をかちとつた。この勝利は、朝鮮民主主義人民共和国とわが祖国の安全をまもるとともに、ハリコの虎としてのアメリカ帝国主義の正体を全世界の人民のまえにさらにはつきりと暴露し、戦争に反対し平和をたたかいとる全世界の人民の闘争心をかぎりなく励まして、極東と世界の平和をまもるうえにきわめて大きな深い意義をもつものであつた。

義をもつものであつた。

わが軍は以上にのべた任務を遂行するとともに、建軍の新段階への移行をみごとにやりとげた。毛沢東同志は、新段階におけるわが軍の建軍の方針を正しくさだめた。それは、中国人民解放軍はこれまでの土台のうえに、ソ連のすすんだ経験をまなび、すぐれた現代化した革命の軍隊をつくりあげることである。わが軍はこの方針にみちびかれて、しだいに現在の新段階へと移行した。これはわが軍の建軍史上におけるきわめて大きな転換である。この転換はまず、わが軍の技術装備の改善からはじまり、軍隊の指揮、編制、訓練、制度など一連の変革におよんだ。党の正しい指導、全国人民の大きな支援、ソ連と兄弟諸国の真心からの援助、さらに、全軍の同志たちの努力によつて、わが軍のこのきわめて大規模な変革はわりに順調に遂行された。げんざい、わが軍はすでに単一兵種の軍隊から諸兵種連合の軍隊に発展した。われわれは、現代的な各兵種をふくむ強大な陸軍をもつているだけでなく、強大な空軍をうちたてたし、海軍の力もそれ相応の発展をとげている。軍隊の技術装備も大きく改善され、向上した。数年らしいの戦闘訓練と技術訓練をへて、現代作戦の戦術と技術を掌握する全軍將兵の能力も、いちじるしい進歩をとげた。数年にわたる探索の過程をへて、わが軍の実際状況にわりによくかなつた各種の制度と条令が制定され、統一した正規の秩序がうちたてられた。とりわけ重要なのは、数回にわたる大規模の思想教育と整風運動をつうじて、わが軍將兵の社会主義的、共産主義的自覚が大いに高まり、軍隊にたいする党の指導が一段と強固なものとなり、軍隊内部および軍隊と人民のあいだの緊密な団結が強固なものとなり、わが軍固有のすぐれた伝統がうけつがれ、発揚されたことである。要するに、わが軍は党の指導のもとに、軍隊の建設という事業で大きな成果をおさめ、われわれはすでに、すぐれた現代化した革命の軍隊を建設するた

めにりつばな土台をきずきあげたのである。

中国人民解放軍が十年あい歩んできた光榮ある道をふりかえるとき、とくに指摘しなければならぬのは、一九五八年いろいろ、軍隊工作が党の総路線のかがやかしい光にみちびかれ、全国における大躍進の情勢にはげまされ、推進されて、全国の工業生産の大躍進とともに、全軍にわたる大躍進の高まりをもちあげたということである。この高まりのなかで、わが軍の各方面における活動は面目を一新し、軍隊の建設事業は空前の成果をかちとつた。

軍隊工作の大躍進は、全国の各分野における大躍進とおなじように、整風と反右派闘争の勝利の土台のうえにすめられたものである。軍隊における反右派闘争も、同様に、きわめてはげしい、鋭い階級闘争であつた。闘争の結果、ひとにぎりの右派分子の、社会主義にたいする気違いじみた攻撃は徹底的に粉碎され、ブルジョア思想はきびしい批判をうけ、社会主義思想が全軍にわたつて決定的な勝利をおさめた。はなはだしい個人主義思想をもつ一部の同志も、闘争のなかで深く教えられるところがあつた。これによつて、全軍の将兵の共産主義的自覚は大いに高まつた。全軍の将兵は社会主義の建設と社会主義をまもる人民の軍隊の建設を従来にもまして自己の切実な事業とみなし、主人公としての態度と共産主義的な高度の責任感をもつて自己の仕事にあたるようになった。革命的な意気込みと革命的な進取の気象は大いに高まつた。また、軍隊における整風運動の勝利によつて、大胆に考え、大胆に言い、大胆にやつてのける共産主義的風格が発揚され、高度の積極性と創造的精神が発揚された。活動方法のうえでは、わが軍の歴史上効果をさかめてきた大衆路線の多くの方法が、さらにいちだんと発展をとげた。また、軍隊は地方の活動のなかからも、活動方法についての多くの新しい経験をくみとつた。

こうした土台のうえに、広はんの大衆性をもつ、意欲にみちあふれた、意気天をつく軍隊工作の大躍進運動がうまれたのである。

軍隊の大躍進は、まず、軍隊の平時における中心活動すなわち訓練のなかでおこされた。この大躍進の高まりのなかで、党组织は大衆を指導して規定や制度のなかのいちぶ不合理な部分をあらため、広はんな将兵を組織して条令や教材を編纂する活動にくわわらせた。大衆はすすんで先進的な訓練の目標をうちだし、实际的で実行できる措置をさため、そのうえ訓練のなかで大衆路線のすぐれた伝統をいちだんと發揮し、勤勉にねばり強く学習にはげむ精神を発揚した。こうして、一九五八年の訓練では、戦術の面でも技術の面でも、その前の年より多くの課目がふやされるとともに、訓練に必要とする時間も一般にその前の年より一、二カ月短縮された。訓練の方法と内容の面では、理論と實際をむすびつけることにいちだんと注意をはらい、わが国とわが軍の具体的な特徴にいつそうよく適応するようになった。各軍区、各部隊では普遍的に野営訓練など多種多様な方法をとられ、空軍では発着場の緊急移動訓練をおこない、海軍では海域の移動訓練をおこなつた。こうして、学習と応用をさらにうまく結びつけ、訓練の質と軍隊の戦闘力をたかめた。

訓練の大躍進は、軍事技術の面でもさらにめざましい成果をおさめた。それは、おもに、「一つの専門に精通するとともに多方面の技能を掌握する」という大衆運動が広はんにくりひろげられたことにあらわれている。この運動は、一九五六年に全軍にわたつてくりひろげられた、優秀な射撃手とすぐれた技能者をうみだす運動から発展したものである。この運動は、現代的な軍事技術をなるべく早く、なるべく多く身につけたいというわが軍の広はんな将兵の願いをあらわすものであつたために、全軍の熱烈な支持をうけ、技術をまなぶ大衆運動の高まり

がぐんぐんもりあがり、技術訓練の進度が大きいにはやめられ、その質も大いに高まった。技術訓練のおなも課目である射撃について見れば、一九五八年にはずばぬけた成績がおさめられた。射撃の総合成績で優秀の折紙をつけられた師団、連隊、大隊、中隊の占める比重は、大幅にふえた。多くの将兵はすでに、万能射撃手、万能砲手、万能戦車兵の標準にほぼたつしている。多くの将兵はこの運動のなかで、自己の専門技術に習熟しただけでなく、自己の仕事に関係のあるその他多くの技能をも一応こなせるようになった。一つの専門に精通するとも多方面の技能を掌握するという運動はひじょうに多くの長所をもっている。すべてのものが多方面にわたる技術をまなびとつたために、「一人ひとりの兵士が多くの面で役だつ」ことができ、戦闘と活動のなかでの密接な協同動作をおこないうるようになった。この運動によつて、民兵のために大量の軍事技術教員を提供し、軍隊のために多くの軍事技術中堅幹部を育てあげることができるようになった。また、これによつて、国家の工農業建設のために技術者を提供することができるようになった。この運動は、昨年の福建省沿岸の戦闘で、すでにめざましい効果をあらわした。

全軍、とりわけ技術兵種のなかで、大躍進をしめすもうひとつの広はんは大衆運動は技術革新運動である。この運動の成果も同様にめざましく、これによつて、わが軍の訓練と作戦の準備工作は大いに促進された。広はんはな将兵が仕事にうちこみ、仕事をうまくやる精神を発揮したため、ごく短期間に、各部隊で実際のな価値をもつ多くの発明、創造がなしとげられた。そのうち、すくなからぬものが当面のもつとも先進的な水準にたつしている。これらの発明、創造によつて、効果的に、一部の技術装備の戦闘能力がつよめられ、部隊の機動性と快速性がつよめられ、部隊の訓練の効果がたかまり、また大量の資材が節約された。この運動のなかで、数多くの技術

兵種と部隊が艦艇、飛行機、戦車、砲、車輛、用具などの技術装備を自力で修理する運動をおこした。これによつて、平時には兵器装備の使用期間をのばし、その保護と修理に要する費用を節約することができ、戦時には破損すればただちに修理し、兵器装備の破損のため戦闘に不利な影響がもたらされるのをすくなくすることができる。こうして、各種の技術装備の戦闘能力が相対的に高められることになる。とりわけ特筆すべきことは、国防施設の工事で、技術革新運動が重要な役割をはたしたことである。技術革新運動をひろく深くくりひろげたため、国防施設の工事で、大いに施工能率があがり、労働強度が減じた結果、施工の任務をくりあげ完遂し、超過完遂することができるようになった。これは、わが偉大な祖国の国防をかためるうえでひじょうに大きな意義をもつことである。わが国になんらの防禦施設もなかつた過去の状態は、いまでは根本的にあらためられた。全国人民の支援のもとに、中国人民解放軍がみずからの手で築きあげた「万里の長城」が、やがて祖国の神聖な境界に厳然とそそり立つ金城鉄壁となるであろうことは、はつきりと断言できる。あえてわれわれを侵す敵は、いづれも、この金城鉄壁につきあたつて、さんざんな目にあうであろう。

十年らい、われわれは、軍隊建設のなかで、軍隊にたいする党の絶対的指導を確立するという原則、すべての活動のなかで政治・思想工作を優先させるという原則、また軍民一致、将兵一致、上下一致の原則など、建軍の根本原則を堅持してきた。われわれは一連の措置をこうして、これらの原則からはなれるすべての誤つた傾向とだんこ闘争し、これによつて、わが軍が党と人民の手ににぎられた従順な道具となるようにするとともに、たえず軍隊内部の親密な団結をつよめ、軍隊と人民大衆の緊密な連繫をつよめてきた。ここ数年らい、社会主義革命が勝利のうちに発展し、全軍の将兵の社会主義思想の水準が一步一步たかまるにともなつて、集中的指導のもと

におけるわが軍の民主生活も、これまた新たな発展をとげた。全国の人民とおなじように、軍隊の整風運動のなかでも、思つたとおりの意見をどしどし発表し、大いに論争し、大字報を出すという方法がとられた。団結の願いから出発し、批判または闘争をつうじて、新たな基礎のうえで新たな団結に到達するというこの原則にもとづき、軍隊の内部で広はんな徹底的な民主運動がくりひろげられた。この運動は、広はんな将兵が自覚を基礎として批判と自己批判をすすめることを、おもな内容とするものであつた。運動の結果、欠点と誤りが発見、是正され、仕事改善されたばかりでなく、また、人びとの政治、思想水準がたかまり、将兵の団結もつよまり、部隊の各方面の仕事で大躍進が促進された。去年、将校が一定の期間兵士になる制度を全軍にわたつて実施したが、これはわが軍が大躍進のなかで軍隊の内部関係を密接なものにした一つの創舉であつた。これはきわめて深い意義をもつものである。すべての将校が毎年一カ月ずつ、兵士とおなじものを食べ、おなじところに寝起きし、おなじ訓練をうけ、おなじ労働をし、おなじ娯楽に興ずるといふことは、将校にとつても兵士にとつても、生きたマルクス主義の課程といえる。広はんな将兵はこの課程をつうじて、わが軍の将校と兵士が平等であるという精神を深く体得することができる。これは、将兵のあいだの親密な団結をつよめるのにいつそう役立つものである。指導的な幹部についていえば、この課程をつうじて基礎組織の状況をありのままに知ることができるので、指導上の主観主義と官僚主義の作風をふせぎ、これを克服するのに役だつ。この制度がいちじるしい優越性をもつことは、これを全軍に実施した実際の結果からみても明らかである。この制度を、わが軍が長期にわたつてだんこ実行してきた民主制度や大衆路線とむすびつけるなら、わが軍の内部関係は永久になごやかな、うちとけあつた状態をたもつことであろう。軍隊のなかには、集中もあれば民主もあり、規律もあれば自由もあり、意志の

統一もあれば個人の気持の伸びやかさや潑刺とした生氣もあるという政治的局面が生まれている。これはわが軍が永久に敵に圧倒されることのない基本的な保証である。

大躍進のなかで、わが軍は、国家の建設を支援し、これに参加するという面でも、きわだつた成績をあげた。

わが軍は一貫して戦闘隊と工作隊の二つの任務をになつてきた。建国後十年らい、わが軍の全将兵は、熱情にみちあふれて各種の社会改革と大衆活動に参加してきた。建国の初期には、軍隊は多くの工作隊をおくつて、ちよくせつ土地改革運動に参加した。そのご、農業協同化の高まりがおとずれると、軍隊のなかでも農業協同化を支援する高まりが急速にもりあがつた。一九五八年の夏から秋にかけて、工農業の大躍進に応じて人民公社化運動がおとると、広はんな将兵はかの右翼日和見主義分子とは正反対に、人民公社にたいして熱烈な支持と歓迎をした。昨年冬から今年の春にかけて、わが軍の大多数の将兵は人民公社へ行つて、参観と学習をおこない、労働にくわわり、これによつて、人民公社の比類ない優越性とその無限に美しい発展の展望をいちだんと深く認識した。全人民による大がかりな製鉄製鋼運動にさいしては、軍隊は大量の車輛をくりだして輸送をたすけるとともに、軍隊じたいも鉄鋼生産運動をくりひろげ、また一〇万トンをはるる屑鉄をあつめて国家に献納した。国家と人民の負担をかるくし、軍隊の食事を改善するために、わが軍はまた農業と副業を主とする生産運動をくりひろげ、すでに初歩的な成績をおさめた。このほか、建国いらいすすめられてきた国家の工業、農業、交通運輸業の基本建設には、いづれも多くの部隊がくわつており、多くの有名な建設工事での突撃隊となつてゐる。軍隊が国家の建設に参加することは、社会主義建設をちからづよく支援し、工農業の発展を促進するだけでなく、同時にまた軍隊と政府のあいだ、軍隊と人民のあいだの団結をもつよめている。国家の建設に参加し、大衆の生

産労働をたすけることによつて、部隊の将兵の労働観点と大衆観点は大いにつよめられた。いちぶの同志にみられた官僚主義の気風やおごり高ぶる気風、困難をおそれる弱々しい気風もまた大いにあらためられた。生活はいちだんと勤儉、質朴なものとなり、作風はさらに親しみやすいものとなつた。「ありふれた勤労者」としての風貌もいつそうはつきりしてきた。労働のなかで、祖国の建設事業が日まじに發展してゆく状態と、そのかがやかしい未来の姿をその目でみ、勤労者の偉大な力とその愛すべき淳朴な性格をみずから体得することによつて、軍隊の同志たちの心から祖国を愛し、人民を愛し、労働を愛し、社会主義を愛するけだかい信念はいちだんと強められ、祖国を建設し、祖国を守る決意と信念はいちだんと強められた。この信念にはげまされて、軍隊の同志たちは社会主義事業の守り手、建設者としての光榮ある任務を勇敢になつてゐる。

一九五八年の秋、人民公社化運動のめざましい發展を土台として、わが国の人民は、帝国主義がわが国にたいしておこなう可能性のある侵略をふせぐために、全国各地で大々的な民兵師団創設の高まりをまきおこした。ごく短期間に、全国にいく干という民兵師団がつくられ、おびただしい数の人民が民兵の隊伍に組織された。これによつて、将来いつたん帝国主義の侵略をうけたばあいに、わが国で「全民皆兵」を実行するための準備がととのえられた。これはきわめて深い戦略的意義をもつ大きな出来ごとである。長期にわたる中国の革命戦争のなかで、民兵はひじょうに大きな役割をはたしてきた。建国後の十年らい、民兵は部隊と呼応して土匪を討伐、殲滅し、叛乱を平定し、辺境をまもり、治安を維持し、もぐりこんできた特務と闘うなどの闘争でも、同様にひじょうに大きな役割をはたし、民兵が欠くことのできない国防力の一つであることを十分にしめしてきた。予備役制度と民兵制度が合体してのち、民兵はまた予備役の兵員をたくわえ、これを訓練する良好な組織形態となつた。

大々的に民兵師団をつくつたこと、これは、一九五八年における全国大躍進の重要な産物のひとつである。これは、わが軍の建設事業の大躍進とともに、わが国の国防建設の事業を大きく前進させた。世界に比類のない大きな力をもつ民兵の隊伍、それにくわえて、強大なりつばな現代化した革命の軍隊、これがわが国の安全をまもるうえでゆるぎない力であるということ、われわれはかたく信じている。もしも敵があえてわが国にたいする侵略戦争をおこなうならば、彼らはかならず、わが国における「全民皆兵」のはてしない大海のなかに自分の墓場を見出すことになるだろう。

一九五八年の軍隊工作の大躍進は、全軍にわたる全面的な大躍進であり、軍隊工作のすべての部門、すべての部署をふくんでいる。軍隊建設の急速な強化をもとめる広はんな将兵の願い、祖国の社会主義建設をまもる広はんな将兵のつよい責任感、さらに軍隊における党の高い威信によつて、社会主義建設の党の総路線は軍隊工作の各方面でだんこ貫徹され、遂行されているのである。党のうちだした社会主義建設の総路線の光が工業、農業、科学・文化事業の大躍進の道を照らしたばかりでなく、軍事工作の大躍進の道をも照らしているということは、事実によつて明らかにされている。一九五八年の軍隊工作が大躍進をとげ、一九五九年の軍隊工作がひきつづき躍進している事実は、「総路線は軍隊工作にはあてはまらない」という右翼日和見主義のただらめな言い種を完全にくつがえした。

十年らい、とりわけ一九五八年の大躍進いらい、軍隊工作は党の指導のもとできわめて大きな成果をおさめてきた。だが、われわれはいささかもおごり高ぶつたり、うぬぼれたりしてはならない。われわれのまえにはまだ、完遂しなければならぬ任務がのこされている。われわれは、アメリカ帝国主義者とその

手先どもが、ひきつづき、わが国の人民を敵視する罪悪活動にやつきとなつてゐることを、はつきりと見てとらなければならぬ。台湾、澎湖、金門、馬祖などの祖国の領土は、いまなお解放されてゐない。われわれは、これまで一度も他人を侵略したことはないし、今後とも他人を侵略することは永久にありえない。しかしながら、われわれはたえず警戒心もち、外からのいかなる侵略もだんこ撃退しなければならぬ。われわれはまた、祖国の神聖な領土を解放するための準備をととのえるときに、たゆみない闘争をつづけなければならない。台湾、澎湖、金門、馬祖が解放されないかぎり、われわれの闘争は一日たりとも停止しない、これがわれわれの神聖な使命である。そのため、中国人民解放軍の全同志は、ひきつづき大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく、現代化した革命の軍隊の建設という光榮ある任務をやりとげなければならない。

十年らい、とりわけ一九五八年いらいの建軍の経験から明らかなように、党のうちだした社会主義革命と社会主義建設の総路線は、われわれにたいして明確な政治的方向をさしめしたばかりでなく、われわれにきわめて大きな推進力をもたらした。わが軍が各方面の活動でさまざまに大躍進をとげることができたのは、なによりもまず、党の総路線を貫徹した結果である。経験から明らかなように、党の総路線を貫徹する過程は、また各種の右翼的保守思想にたいしてたえず断固たる闘争をすすめてゆく過程でもある。げんざい、右翼日和見主義思想は、躍進の継続をさまたげるおもな危険となつてゐる。右翼日和見主義分子は、党の総路線の正しさをうたがひ、人民公社の優越性をうたがひ、大躍進の成果をうたがつてゐる。彼らはまったく目をして現実を見ず、大躍進と人民公社運動は「小ブルジョアジーの熱狂的な運動である」と言つて、これを公然と中傷してゐる。これ

はあきらかに完全な誤りである。彼らの謬論は、すでに全党、全軍、全国人民からきびしい批判をうけた。断固として党の総路線をまもり、これを貫徹することは、わが軍の光榮ある使命である。全軍の同志はかならず党の第八期中央委員会第八回総会の文献を真剣にまなび、右翼日和見主義思想をだんこ克服し、右翼日和見主義思想の影響を徹底的に一掃しなければならない。これは軍隊工作がひきつづき躍進することを保証する前提である。

十年らいのわが軍の建軍の経験と三十年らいのわが軍の歴史の経験からあきらかなように、毛沢東同志の軍事思想をまなぶことにとつとめ、毛沢東同志の軍事思想を軍事工作の指導方針とすることは、わが軍がすべての勝利をおさめる決定的な要素である。毛沢東同志の軍事思想は、とりもなおさずマルクス・レーニン主義の軍事思想であり、マルクス主義の理論と中国の革命戦争の実践とをかたく結びつけた輝かしい手本である。それは、わが軍の三十年にわたる建軍と作戦の経験の結晶であるばかりでなく、マルクス主義の軍事学説を構成する重要な一部分でもある。党中央はわが軍三十周年を記念するにあつて、われわれにつきぎのように指示してゐる。「党と毛沢東同志のさだめた人民戦争の作戦原則と人民の軍隊の建軍原則は、以前きわめて困難な条件のもとで中国の革命戦争を勝利から勝利へとみちびいたばかりでなく、こんご現代化した革命の軍隊を建設し、帝国主義の侵略を粉碎する闘争のなかでもひきつづきわが軍が断固として守らなければならない指導思想である」と。十年らいのわが軍の建設の発展過程は、党中央のこの断定が完全に正しいものであることを十分に立証してゐる。げんざい、わが軍の広はん幹部は毛沢東同志の軍事著作を熱心にまなんでいる。こんどの学習をつうじて、毛沢東同志の軍事思想がかならずわが軍の広はん幹部に掌握され、軍隊の建設と祖国を守る事業のなかできわめて大きな指導的役割をはたすことを、われわれはかたく信じてゐる。

中華人民共和国成立十周年を祝うにあたって、全軍の同志は党中央と毛沢東同志の周囲にかたく団結し、総路線のかがやかしい光にみちびかれ、毛沢東同志の軍事思想の指導のもとに、軍事工作をひきつづき躍進させるため、軍隊の建設と祖国防衛の偉大な任務を勝利のうちに完成するため勇往邁進しよう！

中華人民共和国における十年らしいの財政上の偉大な成果

李 先 念

中華人民共和国が成立してはやくも十年たつた。十年というのは人類の歴史上からみれば、ごく短い時間にすぎないが、わが国の人民からいえば、なみなみならぬ十年であり、飛躍的な十年であつた。全国が解放されるまえの一九四九年三月に、毛沢東同志は、党の第七期中央委員会第二回総会で、「われわれはもうすぐ全国的に勝利をおさめるであろう。この勝利は、帝国主義の東方における戦線をつき破るのであつて、偉大な国際的意義をもつであろう」と予言した。毛沢東同志は、「われわれはふるい世界を破壊することに長じているばかりでなく、さらに新しい世界を建設することにも長じている。中国人民は、帝国主義者のお情けにすがらなくとも生きてゆけるばかりでなく、帝国主義国よりもつと立派に生きてゆけるであろう」とのべた。毛沢東同志の予言はまったく正しかつた。十年らしい、起ちあがつた中国人民は、中国共産党と毛沢東同志の指導のもとに、偉大な社会主義革命と社会主義建設をおすすめて、史上に前例のない速さで旧中国を改造し、新中国を建設し、きわめて偉大な勝利をかちとつた。一九五八年の大躍進と農村の人民公社化運動は、わが国の社会主義建設をさらに新しい段階へとおすすめた。十年らしいの財政工作も、国民経済の急速な発展を基礎として、これまた偉大な成果をおさめた。

われわれの財政工作は、社会主義の建設に奉仕するものである。経済は財政の基礎であるが、逆に、われわれが財政工作を立派にやつてゆけば、かならず経済の発展をうながすことにもなる。われわれの財政工作は、まさしく党中央と毛沢東同志のさしめしたこの道にしたがつて前進しているのである。

われわれの偉大な建設は、経済的にも文化的にもきわめておくれた出発点から開始されたのである。帝国主義と中国の反動派がわれわれに残したものは、生産は破壊され、民生は萎縮し、通貨は膨脹し、物価は急騰するというぼろ屋台であつた。われわれは、こうした基礎のうえになみなみならぬ建設にとりかかるほかなかつた。われわれの財政工作は、全国民経済の発展にともなつて、十年らい、次のような過程をたどつてきた。すなわち、中華人民共和国成立後の三年間、つまり一九五〇年から一九五二年までの国民経済の復興期には、われわれは、一九五〇年三月にはやくも財政経済の管理を統一し、収支の均衡を実現し、通貨の膨脹と物価の急騰という事態をくいとめた。つづいて、わが国の人民は抗米援朝の戦争を遂行せざるをえなくなり、「一方では抗戦し、一方では物価の安定をはかり、一方では建設する」という状況下で、物価の安定を一段と強固にし、国民経済の復興と発展をうながした。土地改革の完成、工商業の合理的調整、「三反」、「五反」運動の勝利をへて一九五二年末に、すなわち三年とたたぬうちに、財政経済状況の根本的な好転をかちとつた。第一次五カ年計画の期間、つまり一九五三年から一九五七年までに、財政工作は、党のうちだした、「社会主義的工業化を一步一步実現し、農業、手工業および資本主義的工商業にたいする社会主義的改造を一步一步なしとげる」という過渡期の総路線、基本任務にもとづいて、経済建設事業と文化・教育建設事業のために巨額の資金を動員し供給し、五カ年計画に当初定められていた建設投資の任務を超過完遂した。最初の五年間に、国の工業化のいちおうの基礎がきざ

きあげられた。この時期に、財政工作は、貸付金の放出、税制の改革などの方法をつうじて、農業、手工業および資本主義的工商業にたいする社会主義的改造を促進し、支持した。第二次五カ年計画の時期には、一九五八年から、党のうちだした、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという総路線にもとづき、工農業生産の大躍進の基礎のうえに立つて、財政工作の大躍進を実現した。一九五八年と一九五九年の二年間に国家財政から基本建設に投入した資金は、第一次五カ年計画の期間中の投資総額を上回つており、こうして、資金の蓄積と分配という重要な面から、第二次五カ年計画の工農業生産のおもな指標を一九五九年内にくりあげ完成するよう保証した。これがすなわち、十年らいのわが国財政工作の発展過程のあらましである。

十年らい、国家財政の様相は、全国民経済の様相とおなじく、これまた大きく変貌をとげた。

十年間の国家財政の収入総額は二六五九億元（億元以下は四捨五入した。このうち、一九五九年のは予算数字である。以下おなじ）、支出総額は合計二六一一億元であり、収入が支出より四八億元多い。一九五九年の収入予算を一九五〇年にくらべると、約七倍ふえており、毎年平均二六パーセント前後ふえていることになる。一九五〇年の国家財政収入は六五億元にすぎず、一九五二年、つまり、復興期のさいごの年になると、財政収入は一七六億元にたつし、一九五〇年にくらべて一六九パーセントふえた。一九五七年、つまり第一次五カ年計画のさいごの年になると、財政収入はさらに三一〇億元にたつし、一九五二年にくらべて七六・六パーセントふえた。一九五九年の財政収入はさらに一段とのびて五二〇億元にたつし、一九五七年にくらべて六七・七パーセントふえている。十年らい、国家財政は、収支の均衡の基礎のうえに、高速度の増加を実現した。おなじ期間内に、わ

が国の工業生産は一〇・七倍ふえ、農業生産は一・五倍ふえ、商品の小賣額は二・六倍ふえた。財政収入の高速の増加は、国民経済の急速な発展を反映し、この二年らしいの工業生産の巨大な躍進を反映している。

十年間の財政支出のうち、基本建設にあてられた投資は合計一四三億元である。基本建設投資とは、国家が工場、鉱山、鉄道、自動車道路、水利工事などの面にふりむける投資であつて、基本建設をふやすことは、生産の規模を拡大し、最新の技術をもつて国民経済を改造する基本的な方法である。一九五九年の基本建設投資は二四八億元で、一九五〇年にくらべて二二・八倍ふえ、一九五二年にくらべて五・七倍ふえ、一九五七年にくらべて倍ちかくにふえることになる。一九五三年に第一次五カ年計画がはじまつてから一九五八年までの六年間に、新設または拡充した、投資基準額以上の建設項目は二〇〇あまりにのぼり、投資基準額以下の建設項目は数万をかぞえ、平均一日あまりで一つずつ近代化した大型工場の建設に着手し、二日あまりで一つずつ近代的な大型工場が操業をはじめたことになる。一九五〇年から一九五八年末までに、建設をおえて新しくふえた固定資産額は七一九億元にたつしている。十年間にこれだけ多額の資金を投じて、これだけ大規模な建設をしたということは、中国の過去の歴史ではまったく思いもよらなかつたことである。わが国では、清朝末年の張之洞から、北洋軍閥をへて蒋介石にいたるまで、七十年のあいだに興した近代的企業は、民族ブルジョアジーの興した企業をふくめ、それに日本が支配していた時期に東北地方で興した企業をもふくめて、その総固定資産額は二〇〇億元前後にすぎなかつた。われわれの十年間の建設はすでに、かれらの七十年間の数倍に達しているのである。

十年らしい、財政収支の構成状況は、国民経済の変化にともなつて、これまた根本的な変化をとげた。建国当初、われわれは官僚ブルジョアジーの企業を没収して、社会主義の国营経済をうちたてた。この種の経済は、最

初から全国国民経済の中で指導的地位にあつたが、しかし当時はまだ非社会主義的経済要素がやはり相当大きな比重をしめていた。一九五〇年の財政収入のうち、国营企業と協同組合からの上納額が三四・一パーセントをしめ、私营工商業からの納税が三二・九パーセントをしめ、単独経営の農民からの納税が二九・六パーセントをしめていた。一九五九年になると、国营経済は大きく発展をとげて強大なものとなつた。資本主義的工商業のほとんどは全業種にわたる公私共営化を實行し、定額の利息を支払う制度が実施されたが、これらの企業は、定められた割合で株金にたいする利息を資本家に支払うがいはいは、基本的に国营企業とおなじになつた。全国の農民はごくわずかな地区をのぞいて、すでに集団的な勤労者にかわり、人民公社の社員となつた。この年の財政収入源は、国营経済の上納額が八七・九パーセントをしめ、農村の人民公社の納税が一・三パーセント（国家が公社におろした企業の上納額をふくめなければ、七・四パーセントにすぎない）をしめ、まだ残つている私营の資本主義的工商業、単独経営農民その他の面からする納税は〇・八パーセントをしめるにすぎない。わが国の財政はすでに、社会主義経済の基礎のうえにしっかりと確立されているのであつて、これは重大な意義をもつことである。支出の構成では、国家建設の支出のしめる比重は、経済建設と文化建設をふくめて、一九五〇年には三六・六パーセントであつたが、一九五九年には七〇パーセント以上にあつて、一九五〇年には一六・五〇年には六〇・八パーセント（このうち国防支出は四一・五パーセント）であつたが、一九五九年には一六・四パーセント（このうち国防支出は一・二パーセント）にさがつている。きわめて明らかなように、収入の九〇パーセントちかくは国营経済から来ており、財政力は強化され、巨大になつて、支出の七〇パーセント以上が建設にふりむけられていることは、わが国の財政が積極的に生産を發展させる財政であり、平和建設

の財政であることを物語っている。

十年らい国家財政は、国の工業化を積極的に促進すると同時に、農業の協同化、手工業の協同化および農村の人民公社化にたいしても、積極的な支持をあたえてきた。十年間に、国家財政から農業と水利の建設にふりむけられた支出は一三八億元である。銀行の放出する農業貸付金と手工業への貸付金も、年ごとにふえている。一九五六年の協同化の高まりにさいしては、国家は農業への貸付金を二〇・三億元、手工業への貸付金を二・四億元それぞれ増額した。この年の農業貸付金中には、長期の貧農協同化基金貸付額七億元がふくまれており、これによつて、組合加入基金払込みにさいしての貧農の困難の解決をたすけた。農村の人民公社が出来ていごは、一九五九年に国家財政から一〇億元を支出して投資し、農村の人民公社への補助にあて、経済条件のややおとつている人民公社と生産隊が生産を發展させるのをたすけた。この年に銀行から貸し出した農業貸付金もかなりふえている。十年らい、国家はさらに農業税、その他の税収と価格政策の面で、協同化、公社化に有利な措置をとり取りをこうじた。資本主義的工商業の改造にあつては、国家財政は、利用、制限、改造という党の政策にもとづき、生産を發展させ、経済を繁榮させることを基礎として、税収問題と定額利息の問題をめぐつて、ブルジョアジーと適切ではあるが、尖锐な闘争をおこない、大きな勝利をかちとつた。レーニンが「協同組合について」の中でべているように、あらゆる社会制度は、特定の階級の財政的な支持がある場合に、はじめて生まれるものである。わが国における社会主義的改造のなかで、財政税収というこの手段は重要な役割をはたしたのであつた。

十年らい、財政工作は、生産の發展を基礎として、国家の建設と人民の生活を合理的にあわせ考え、国家、集

団と個人の利益をあわせ考えるという原則のもとにすすめられてきた。十年間にわれわれは、旧社会がながいあいだ残してきた失業現象を根本的になくし、人民の生活は、生産の發展にともなつてしだいに向上した。十年間に労働者・職員の数は四倍あまりふえ、労働者・職員一人あたりの平均賃金は、復興期には七〇パーセントふえ、第一次五カ年計画の期間中には四二・八パーセントふえ、一九五八年には、前からいた労働者・職員の賃金はさらに三パーセントふえ、就業面は急速に拡大した。農業生産の發展と農民の負担が基本的に安定したことによつて、農民の収入は一九五八年には一九五二年に比べて四三パーセントふえた。社会福祉事業と文化・教育・衛生事業も非常に大きな發展をとげた。十年らい、物価は安定している。人びとが物価の値上りによつてたえず不安におびやかされていた日々はもはや歴史の痕跡と化してしまつた。全国の卸賣物価指数は、一九五〇年の三月を一〇〇とすると、一九五八年末は九二・七となつており、小賣物価指数は、北京、上海、天津、瀋陽、西安、武漢、重慶、広州などの八大都市の統計によれば、一九五〇年の三月を一〇〇とすると、一九五八年末は一〇一・四である。これは、生産の急速な發展の結果であり、そしてまた、財政収支の均衡がとれ、さらにいくらかの黒字をだした結果でもある。

この十年らい、国家は、主として財政収支をつうじて建設資金を調達したほか、さらに銀行による信用貸付の方法をつうじて大量の資金を調達し、建設事業に役だてた。われわれは、官僚ブルジョアジーの大銀行を没収し、また、私営の中、小銀行をしだいに改造して公私共営の銀行にし、統一した、強大な社会主義の銀行網をつくりあげた。銀行は、信用貸付をつうじて、一方では企業、公社、機関、団体および住民の手中に一時遊んでいる資金をあつめ、他方ではこれを計画的に工農業生産と商品の流通資金回転の需要にふりむけている。十年ら

い、銀行の預金と貸出しは急速に拡大し、手持資金も急速にふえた。一九五八年の預金は一九五〇年にくらべて八・四倍ふえ、貸付は二五・四倍ふえ、手持資金（国家の支払と銀行の蓄積）は一九・七倍ふえている。人民券の価値は、つねに安定しており、人民のあいだで高い信用を保持している。

十年らい、ソ連およびその他の社会主義国は、設備、技術、借款の供与などの面で、わが国に兄弟としての援助、支持をあたえ協力してくれた。わが国の人民はこれらの援助にたいしてふかく感謝している。これらの援助は、建国当初にソ連がわが国にあたえた一部の低利借款をのぞいて、主として平等互恵の貿易上の往来、相互交換の方法によつて行なわれた。外債収入がわが国の全財政収入の中でしめる比重は、まる十年の数字からみて、収入総額の二パーセントにすぎず、それもすべて建国初期の借款であつた。われわれの建設資金は、基本的に内部の蓄積にたよつており、自力更生にたよつている。わが国の財政が日まじに強固になるにつれて、われわれは、完全に国内の蓄積にたよつて建設をすすめる条件が一段とそなわつてきた。

以上すべての事実は、わが国の財政が社会主義的財政であり、生産の発展と経済の繁栄を基礎とする財政であり、人民の幸福をはかる財政であり、日まじに力づくよく発展する財政であることを物語っている。わが政府は、もつとも廉潔であり、しかも能率的な政府である。中国史上、どの政府が財政資金をつかつて人民のためにこれほど多くのよい事をしただろうか？ どの政府の財政的基礎がこれほど強固で、しかも発展がこれほど急速だったのだろうか？ 帝國主義と国内反動派の支配下で、旧中国の財政は、ごく少数の支配者が人民を搾りあげ、抑えつけるための財政であつた。財政収入は主として、広はんな勤労者を搾取することに依拠していた。財政支出は主として、歴大な反動軍隊と官僚機構を飼つておくことにあてられ、それにひきかえ経済建設と文化建設の面へ

の支出はまことに微々たるものであつた。国民党政府の財政は、つねに収支つぐなわず、赤字つづきであつた。かれらはひたすら帝國主義からの歴大な負債にたより、無制限に紙幣を発行することにたよつて、その日暮しをしていた。その結果、負債は山をなし、通貨は膨脹し、経済は破産し、人民は安心して生活してゆけなくなつた。反動支配者は、一方では主権をうしなない国をはずかしめ、他方では不当に私腹を肥やした。旧中国の財政とは、つまりこのようなものであつた。

以上の事実はすべて、帝國主義のお情けにすがらなくとも、中国人民は生きてゆくことが出来るばかりでなく、しかもいぜんに比べてもつともつと立派に生きてゆけることを物語っている。わが国の人民は、自己の双手をつかつて、刻苦奮闘し、建設につとめ、いかなる資本主義国も到達できないほどの高速度の躍進につぐ躍進をとげている。経済的におくれ、文化的には白紙にちかかつたわが国の状態はまだ完全にあらためられてはいないが、資本主義の発達した国々に追いつき、追い越す期間が大幅にちぢめられたことは、はつきりと断言できる。

わが国の人民は、この目標を達成する気力と確信をもっている。偉大な十月社会主義革命ののち、ソ連の建設がきわめて輝かしい勝利をおさめていご、わが国十年らいの建設の偉大な成果は、ふたたび一つの例証を提供している。それは、もともと経済的、文化的に非常におくれた国であつても、マルクス・レーニン主義で武装されたプロレタリアートの政党による指導があり、すぐれた社会主義制度がありさえすれば、めざましい勢いでぐんぐん躍進をとげることができ、しかも、資本主義との平和競争でかならず勝利をおさめうる、ということである。

この事実は、いつさいの被圧民族といつさいの搾取されている人民のあいだで、偉大な吸引力を發揮しないではおかない。

歴史上のいつさいの反動階級、反動的な政治勢力は、もともとから、客観世界を如実に観察することが出来なかつた。かれらは、人民の力にたいし、革命運動にたいし、新興の社会制度の成長にたいして、あくまでこれを信じようとし、また認めようとしなかつた。わが国の人民が解放戦争の勝利をかちとり、全国的な範囲にわたつて権力を奪取したばかりのところ、帝国主義者と反動的なやからはかつて、中国の解放戦争は勝利したが、財政経済の困難は克服するすべがない、と断言したものであつた。当時、国内のブルジョアジーのなかの一部のものも、共産党は軍事にかけては満点で、政治は八点だが、経済は零点だといつていた。間もなく、われわれの財政経済状況がすつかり好転し、計画的な建設がはじまると、帝国主義者と反動的なやからはまたしてもとび出してきた。五カ年計画は野心満々たるものだが、建設資金の問題は解決できないだろう、と言いだした。その後、われわれは資金の困難を解決し、第一次五カ年計画をやりとげ、さらに大躍進の足どりで第二次五カ年計画にとりかかつた。事実を否定することが出来なくなると、かれらはまたしても悪意にみちた種々のデマをつくり出して、われわれをのしつた。しかし、デマは事実をおおいかくすことは出来ない。これらの誹謗や中傷は、六億人民の社会主義という巨大な建物をびくともさせることが出来ないばかりが、われわれのやつたことがどれほど正しく、どれほど立派であり、そして敵がさかんに喚び立てているのは、いつたい何故なのか、なにを恐れているのかをいつそうよくわれわれに分からせただけである。

いちぶの善良な友人も、こういう疑問を出したことがある。中国のようなこんなひどく貧しい、おくれた国で、どうしてごく短い期間内に、こんなに大量の建設資金を蓄積することが出来たのだろうか？ 人民の負担を重くしたからではなからうか？ と。この問題に答えるには、まず第一に、われわれのこの国のかつての貧困と

立ちおくれがいつたいていどうして生じたのかを、さかのぼつてみる必要がある。周知のとおり、わが国は土地がひろく、人口が多く、物産がゆたかで、人民は勤勉かつ勇敢なことよく知られている。それが貧しく、立ちおくれしていたのは、まったく帝国主義、封建主義、官僚資本主義がむごたらしく搾取し、略奪した結果であり、かれらの支配が生産力をつよくしぼりつけ、痛めつけた結果である。帝国主義は、軍事的略奪、商品の投資、中国での投資などの方法で、わが国人民の数限りない富を略奪しており、そのうち、「義和團事件賠償金」だけでも白銀五億両をもち去つてゐる。蔣、宋、孔、陳の四大家族は、政府機関と商社をつうじ、公の名をかりて私腹をこやし、公物を私物化するといつた方法で、人民の財産を搾りとり、金融、商業、工業、土地などの面でのかれらの独占財産およびかれらの国外にある預金と財産を合わせると、黄金にして約五億両もあつた。旧中国の大小の地主が農民からとりたてていた小作料は、毎年食糧でほぼ七〇〇億斤*もあつた。これらの数字はまったく、中国の労働者、農民の血と汗のかたまりであつた。これらの数字は、解放前の中国が建設資金をもつていなかったのではなくて、帝国主義者、地主、官僚ブルジョアジーのポケットにごつそりねじこまれていたことを物語つてゐる。中国の人民革命が勝利していご、かつて帝国主義、地主、官僚ブルジョアジーから略奪され、搾りとられていた富は、いまでは人民自身が生活を改善し、自国を建設するのに使うことが出来るようになった。かつて民族ブルジョアジーからしぼりあげられていた一部の富は、公私共管化していご、定額利息を支払うがいはいは、国家がこれを計画的につかつてゐる。わが国の建設資金が高速で蓄積できるいつそう重要な原因は、なんといつても社会主義の生産関係がうちたてられたことによつて生産力が大々的に解放され、六億人民の生産意欲が十分に發揮されていることにある。社会主義的、共産主義的自覚をもつ、組織化された人民があるからこ

そ、おのずと旧中国にくらべてはるかに多くの、膨大な富をつくりだすことが出来るのである。毛沢東同志はかつて、「世間のあらゆるものなかで、人間こそ最も貴重なものである。共産党の指導のもとで、人間さえあれば、世の中のどんな奇跡もうみだすことが出来る」①とのべている。これこそ、わが国の蓄積の根本的な源泉であり、またわれわれが、経済のおくれた状況の下で自力で建設資金を解決できた鍵でもある。さらにまた、われわれは勤儉をむねとして国を建設し、勤儉をむねとして家事を切りもりし、勤儉をむねとしていつさいの事業を経営する方針を実行しているため、蓄積した資金を合理的につかい、おなじ額の資金でより多くの事をやる事が出来るのである。われわれが人民の負担を重くしてはならないかという点にいたつては、税収の増加が生産と所得の増加をこえているかどうかを見る必要がある。市場の物価が安定しているかどうか、人民の生活がしだいに改善されているかどうかを見る必要がある。われわれの状況はどうであろうか？ わが国がいま農民から徴収している農業税および農村におけるその他の税収は、国家財政収入の七・四パーセントをしめているにすぎない。一九五二年から一九五九年までの七年間に、農業生産は七一パーセントふえているが、農業税はずつと三〇億元前後に安定しており、ふえてはいない。農民さんたいの負担（農業税、地方附加税および農村におけるその他の税収をふくむ）が農業生産額のなかでしめる割合は、一九五二年の一パーセントから一九五九年の八・五パーセントへと低下しており、農民の負担は重くなるどころか、相対的に軽減されている。価格政策の面については、まえに述べたとおり、十年らいわが国の小賣物価指数は安定しているのに、農産物の買付価格はいくらか値上りをみせている。こうして、工業製品と農産物の価格差がちぢまつているので、農民は価格の面ですくなからぬ利益をえている。五億をこえる農民は、革命闘争にあたつても、国の建設にあたつても、そのいず

れをとわず、偉大な力であつて、労働者階級は、この偉大な同盟軍にたよることによつてはじめてつねに無敵なのである。

中華人民共和国の十年らいの財政工作の偉大な勝利は、偉大な人民民主主義制度、偉大な社会主義制度の勝利であり、わが党がマルクス・レーニン主義を運用してわが国の財政問題を解決した勝利であり、毛沢東同志の財政思想の勝利である。

十年らいの財政工作の実践は、毛沢東同志の一貫して主張している、「経済を發展させ、供給を保障する」というこの方針がまつたく正しいことをさらに証明している。財政問題は分配の問題である。生産は分配を決定し、分配は生産に影響をあたえる、これはマルクス・レーニン主義の重要な原理である。はやくも革命闘争の時期に、毛沢東同志は、「財政政策の良否はもとより経済に影響をあたえるが、しかし財政を決定するものは経済である。経済の基礎なしに財政上の困難が解決されたためしはないし、経済の發展なしに財政が充実されたためしはない」②と述べている。革命戦争の時期に、われわれは、毛沢東同志のこの方針を実行して、いくどかの重大な財政上の困難を克服してきたし、社会主義建設の時期には、われわれは新しい条件の下でこの方針をひきつづき実行したために、財政工作の面で偉大な成果をおさめたのであつた。

わが国の人民は、国民経済を高速度に發展させて、経済的におくれた状態を早急にあらためることを要求している。大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するといふ党の総路線は、まさしく人民のこうした要求を集中的に反映したものである。われわれの財政工作は、一般的に経済の發展をうながすばかりでなく、さらに経済の高速度の發展をうながさなければならぬのであつて、こ

れこそ財政工作の根本的な任務である。したがって、財政収支の按排は、生産の発展を基礎として、客観的な可能性にもとづき、国の建設の発展と人民の生活の改善をあわせ考え、潜在力を十分掘りおこし、資金を蓄積し、収入をふやさなければならぬし、党の総路線と「いくつかの同時発展」の方針（重工業を優先的に発展させることを前提として、工業と農業を同時に発展させ、重工業と軽工業を同時に発展させ、中央の工業と地方の工業を同時に発展させ、大型企業と中・小型企業を同時に発展させ、近代的な方法による生産と旧式の方法による生産を同時に発展させること）にもとづいて、合理的に資金を分配し、出来るかぎり生産建設への投資をふやし、資金の効能を十分に發揮させなければならない。財政予算は、国家の経済活動の各分野ときわめて密接なつながりをもっている。財政収支を積極的に行なうて出来るかぎり収入をふやし、収入を十分に組んで出来るかぎり需要をみたし、収入を多くし支出を多くしてゆく。こうして各分野が互いにうながしあい、わりあいにひきしまつていて、はじめて国民経済の高速度の発展をうながすことができ、「多く、はやく、りつぱに、むだなく」という要求を達成することが出来るのである。言いかえれば、もしも収入と支出を保守的に組めば、みなは楽々と任務を完遂できるようになるだろうが、それでは、建設事業の発展の速度をおくらせることになり、「少なく、おそく、悪く、むだになる」ことは避けられない。わが国の財政は生産建設の財政であり、財政支出は主として生産建設にふりむけられており、収入が少なればもとより支出を制限しなければならないし、支出が少なくなれば、ある程度収入にもひびいてくる。党の方針と政策にもとづき、可能な、そして必要な範囲内で、収入をふやし、支出をふやし、建設をふやすことである。より多くの収入、より多くの支出、より多くの建設、これが財政収支をつうじて国民経済の高速度の発展を保證する正しい道である。われわれは高速度を強調するが、それは客

観的な状況のゆるす条件をのりこえて自己の行動を計画してもよいというのではなく、また均衡をゆるがせにしてもよいというのではない。問題は、いかにして客観的な可能性をよく認識し、利用して、出来る範囲内で主観的な能动性を最大限に發揮するかということであり、問題は、積極的な均衡をもとめるべきであつて消極的な均衡をもとめるのではない、ということである。かならず経済を發展させる観点から出発し、収入をふやして支出をふやし、収支の均衡をたもち、いくらか黒字をだすよう努力しなければならないのであつて、一面的な財政的観点から出発し、建設の速度を不当にゆるめる方法によつて、収入を減らして支出を減らしたり、収入をふやして支出を減らし、過分に黒字をのこしたりするといつたことはすべきでない。積極的な均衡の中でも、収支の均衡がとれないという状態がおこりうるが、増産節約にはげみ、国家計画を調整してゆきさえすれば、問題はたやすく解決できるのである。総路線と、「いくつかの同時発展」の方針を正しく実行してゆけば、国民経済の長期にわたる全面的な均衡を保證することが出来るのである。十年らしいの事實は、われわれが完全に高速度を維持することが出来るし、また収支の均衡もとれることを証明している。速度がはやいと収支の均衡をたもちえないという観点には根拠がない。一九五八年のわが国民経済の全面的な大躍進により、工業生産額は前年にくらべて六六パーセントふえ、農業生産額は二五パーセントふえた。これを基礎として、財政収入は前年にくらべて三五パーセントふえたが、第一次五年計画の期間中における財政収入の増加率は毎年平均一二パーセントであつた。この年の予算の実施にあつては、また、収入がたえずふえるという状況にもとづき、つきからつきへと生産、建設の面への支出を追加していつた。一九五八年の財政支出は前年にくらべて三五パーセントふえたが、そのうち、基本建設への投資は前年にくらべて七〇パーセントふえている。この年の生産建設の發展はもつとも速

く、支出はもつとも多く、収入はもつとも多かつた。この年には收支の均衡がとれたばかりでなく、さらにいくらかの黒字までのこした。経済が繁栄すれば財源がゆたかになる、事実はこれでもはつきりしないというのだからか？ 右翼日和見主義者は、一九五八年の大躍進は比例の調和をくるわせ、全面的な手づまりをうみだしたなどどでたらめを言っているが、これは、かれら自身が事実を見ることの出来ない盲であることを証明したにすぎない。

事實はまさしくこうである。すなわち、経済発展のなから財源を開拓し、収入をふやしたのであり、収入がふえるところなどはまた逆に経済の発展をおしすすめていつたのである。経済が財政を決定し、財政が経済に影響をあたえるというように、両者が互いに促しあい、影響しあうことによつて、国民経済の高速度の発展をもちと、また、財政収支の均衡をも保持するというのが、われわれの財政工作の基本的な公式である。経済を進展させ、供給を保障するということが、これが、十年間の財政工作での第一の基本的な経験である。

十年らしいの財政工作の実践は、毛沢東同志の一貫して主張する、大衆を起ちあがらせ、みんなにたよつて財政をきりもりするという方針がまつたく正しいことを一段と証明している。人民大衆は歴史の創造者であり、人民大衆の知恵はつきることのないものである。いつさいの革命工作と建設工作はすべて大衆路線をとらなければならず、いつさいの革命と建設の任務はすべて集中的指導下における大衆運動をつうじて遂行されなければならないのであり、いつさいの正しい方針は、集中的指導と大衆運動とを結合させてはじめてつらぬき通すことが出来るのである。

社会主義経済は人力、物力、財力を合理的に按排し使用するために、統一的な経済計画と財政計画を必要とする。

る。これが一つの面であり、他の面では、社会主義経済はまた、広はん大衆の積極性と創意性を十分に發揮させ、かれらの革命的な意気込みを發揮させなければならぬのであつて、こうしてはじめて、多く、はやく、りつぱに、むだなく、ということが達成できるのである。財政工作の大衆路線とは、民主集中制の原則と、毛沢東同志の「十大関係」についての指示にもとづいて、中央と地方、国家と企業、国家と建設部門の関係を正しく処理し、国家、集団、個人の三者の関係を正しく処理し、指導者と大衆の関係を正しく処理して、統一的指導と具體的な状況への適応の原則を十分に結合させ、中央の力と地方および企業を十分に結合させ、国家の力と大衆の力を十分に結合させることである。中央財政と地方財政の関係では、中央財政と地方財政の職権の範囲を合理的に区分し、集中的指導と統一的な按排の原則も堅持すれば、級ごとの管理と責任の分担の必要性も考慮するようにしなければならない。国家財政と企業の財務の関係では、企業の財務を国家の統一的な管理下において、企業収入のおもな部分を国家財政におさめてこれを統一的に使用するようにしなければならないし、また、企業がその仕事の成果におうじて一定の割合の利潤をうけとり、これを企業の機動財力とすることが出来るようにしなければならない。国家と基本建設部門の関係では、国家計画の要求にもとづいて建設任務を完成することを保証しなければならないし、また、定められた投資額の範囲内で建設部門に適当な融通権を与えなければならない。こうすれば、各地方、各企業、各部門の積極性を發揮させることも出来れば、また、国家の全財政計画の完遂をよりよく保証することも出来る。指導者と大衆の関係の面では、必要な、合理的な規定・制度と管理方法を堅持しなければならないし、また、大衆の積極性と創意性をも十分に發揮させなければならない。どの規定・制度もすべて、促進しようとする面と拘束しようとする二つの面をもつている。制度は拘束力をもつているが、そ

の拘束力を恐れるからといって制度が要らないというわけにはいかない。ところで、拘束というものはよりよく促進するためのものであつて、不適当な拘束によつて大衆が積極性を發揮するのに影響をおよぼし、事業の進展に影響をおよぼしてはならない。財政部門は、各関係部門、関係職場にたいしては、これに依拠し、これを信頼し、熱心に援助する態度をとるべきであり、また、必要な財政上の監督をしなければならぬ。これらはすべて、各方面の積極的な要因をもつとも十分に發揮させるがためであり、みんながともに努力して、より多くの資金を蓄積し、いつそう節約して資金を使うようにするためである。ある同志は、統一的指導を一方的に強調して、級ごとの管理をおろそかにしたり、財力の集中を一方的に強調して、当然あるべき融通性をおろそかにしたり、規定・制度を一方的に強調して大衆を起ちあがらせることを軽視したりして、もともと統一できる二つの面をまったく対立させ、たんに上からの命令による方法を、いきいきとした大衆路線にとつてかわらせようとしているが、それはまったく誤つてゐる。

大衆路線が財政工作にとつてきわめて重要であることは、一九五八年の大躍進の事実がこれをもつともよく証明している。この年に、われわれは、財政の管理体制と税収の管理体制を改善し、いちぶの権力を適当に下部へひきわたしたし、企業の財務管理制度を改善し、利潤の何割かを企業にのこす方法を実行したし、基本建設の財務管理制度を改善し、投資の請負という方法を実行したし、いちぶの不合理な規定・制度を廃止した。とりわけ、党の社会主義建設の総路線の輝かしい光に導かれて、大衆の政治的自覚は大いに高まり、こうして各地区、各部門、各職場の積極性が真に發揮され、広はん大衆が真に起ちあがり、天を衝くようなめざましい大衆運動がうまれ、嵐のような、突飛猛進する、破竹の勢いをなす局面が現われ、多くの感動的な、先進的事績が生まれ

たのであつた。そのおびただしい例のなから、ここでは、石景山製鋼所の拡充工事にあたつて、大衆を起ちあがらせ、資金の使用を節約した例をあげよう。この工場の拡充工事は、当初の計画では、二億四〇〇〇万元を投資して、五年内に年間一四〇万トンの銑鉄と六〇万トンの鋼鉄を生産する鉄鋼コンビナートにする予定であつた。そのさい「投資の請負という方法」をとつたので、生産能力を下げず、工事の引渡期日をおくらず、投資総額を超過せず、工事の質に影響させず、非生産的な建設の比重をふやさないという条件で、投資を工場側に渡し、工場側が責任をもつて建設にあたることにした。工場の党委員会の統一的指導のもとに、大衆を徹底的に起ちあがらせ、知恵をしぼり、潜在力を掘りおこし、工事費をひきさげて資金を節約する方法が探求された。この工場の労働者・職員は、同額の投資で、このコンビナートを年間一七〇万トンの銑鉄、一二〇万トンの鋼鉄を生産する工場に拡充し、当初の設計生産能力にくらべて三〇パーセントないし一〇〇パーセントふやすことを提案したが、この規模拡大計画は主管の計画部門の承認をえた。そして、いま全工場の労働者・職員は、この躍進指標をめざして前進をつづけている。われわれは、同額の金で、建設の規模をたとえ一〇パーセント、二〇パーセント、三〇パーセント拡大できても、それは大いに提唱に値すると思われる。ここでまた、大衆にたよつて大いに水利工事をおこした例をあげることも出来る。一九五〇年から一九五七年までの八年間に、国家は淮河の根本的治水のために合計一四・五億元の資金を投じて、一六億立方メートルの土工・石工量の工事をやりとげた。それが、一九五七年の冬と一九五八年の春に、大衆を起ちあがらせて大いに水利工事をおこしたところ、安徽、河南の両省だけで、半年間に、主として農民自身の労力と財力、物力にたよつて、一二〇億立方メートルの土工・石工量をやりとげた。これらの工事は、今年の早害防止の闘いのなかできわめて重要な役割をはたした。国家の投

資だけにたよつていたのでは、これは絶対にやれないことである。こうした事績は、ふるい見方からすれば、まったく不思議である。しかし、関係部門と広はん大衆の積極性をふるいおこさせることによつて、こうしたことが毎日のようにたえず出現している。大衆をはなれては一步もすすむことは出来ないが、大衆を起ちあがらせれば、一瀉千里の前進が出来るということが、これでもまだはつきりしなうと言えらるうか？ 少数のものにたよつて財政を切りもりするのではなくて、大衆を起ちあがらせ、大衆にたよつて財政を切りもりしてゆくと、これが十年らしいの財政工作の第二の基本的経験である。

十年らしいの財政工作の実践は、政治工作が永遠にあらゆる工作の魂であり、統率者であることについての、毛沢東同志の原理がまったく正しいことをさらに証明している。財政は政治に奉仕するものである。財政はもともと、国家権力が自己の政治的任務を実現するうえでの重要な手段の一つであり、もともと階級闘争の重要な手段の一つである。われわれの財政工作は、党の総路線を実現するという、この政治的任務に奉仕するものである。財政上での一銭の蓄積にせよ、分配にせよ、すべて社会主義建設と広はん人民の切実な利益と密接につながっている。財政上の収入と支出は蓄積と消費の関係、国家、集団と個人との関係、各民族間の関係、各階級、各階層間の関係、各経済部門間の関係、各地区間の関係等々をふくんでおり、これらすべての問題は、いずれも党の指導のもとに、総路線の要求にもとづいて、正しく処理されなければならない。これらの問題は、経済問題であるばかりでなく、まず第一に政治問題なのである。したがつて、財政工作者は問題を処理するにあつて、まず政治的な角度から出発しなければならない。われわれは財政工作者であるが、まず第一には総路線の実行者、社会主義の建設者、労働者階級の戦士でなければならない。もちろん、われわれは党の指導と、政治がいつさいを

統率することを強調するが、といつて、それは、具体的な業務をおろそかにしたり、業務問題の学習と研究をおろそかにしたりしてもよいということでは決してない。経済工作はますます綿密におこなつていかなければならず、具体的な業務をはなれては政治的任務も実現のしようがない。しかし、業務はかならず政治に服従しなければならず、業務だけに気をとられて政治を眼中におかないならば、盲人が盲馬にのるような羽目におちいり、事務主義の凡俗屋と化し、まちがつた道をすすむことになる。右翼日和見主義者は、大躍進は「やりそこなつた」、公社化は「はやすぎた」、大がかりな製鉄、製鋼は「得より損の方が大きい」と言つているが、これは徹頭徹尾ブルジョア思想である。政治がいつさいを統率するようにしなければ、こうしたまちがつた思想におかされ、その虜となる危険がある。われわれは党の指導と、政治がいつさいを統率するということを強調するが、といつて、経済計算制と物質的な奨励をゆるがせにしてもよいという訳では決してない。経済計算制は社会主義経済を管理する重要な方法であつて、経済計算制に注意をはらわなければ、経済をもつとも合理的に、もつとも効果的に管理し、最小限度の消耗で最大限度の経済的效果をあげることは出来ない。経済計算制の強化につとめることは、やはり当面の重要な任務の一つである。物質的な奨励の方法を正しく規定して、集団の利益、個人の利益と国家全体の利益を結合させることは、各方面の積極性を発揮させるうえに重要な役割をもつている。しかし、経済計算制と物質的な奨励は、共産主義の政治・思想教育をつよめるといふ前提のもとで、はじめてよい効果をおげることが出来る。財政工作にたいする党の指導をさらにつよめ、政治がいつさいを統率するやり方をつよめ、政治と業務をむすびつけ、思想教育と物質的奨励をむすびつけること、これが財政工作を立派にやつてゆくための根本的な保証である。党の指導、政治がいつさいを統率すること、これは十年らしいの財政工作の第三の基本的

経験である。

十年らしいの財政工作の勝利は偉大なものであり、この勝利は、党中央と毛沢東同志の英明な指導の結果であり、各級党委員会、各級人民政府ならびに六億人民がともに努力してえた結果である。この勝利はまた、ソ連および兄弟諸国の援助とよりはなすことは出来ない。いま全国人民は、党の第八期中央委員会第八回総会によつてはげまされ、右傾に反対し、大いに意気込んで、新しい増産節約の高まりをまきおこし、今年中に第二次五カ年計画のおもな生産指標の完遂をめざして奮闘している。これまでの十年は、勝利にみちた十年であり、燦然と光り輝く十年であつた。われわれは、未来の勝利がこれまでのものよりさらに輝きにみち、いつそう偉大であることを確信している。すぐる十年間におさめた勝利は、世界のいかなる反動勢力といえども抹殺することの出来ないものであり、これからかちとる勝利もまた、世界のいかなる反動勢力も阻止することの出来ないものである。

① 新華通信社 社説「六たび白書を評す」一九四九年九月一七日付「人民日報」

② 「毛沢東選集」(中国語版)一九五三年 人民出版社 第二版 第三卷 八九三ページ

* 一斤は〇・五キログラム(訳注)

工業戦線における大衆運動について

柯慶施

工業戦線でさかんに大衆運動をおこなうことは党の一貫した方針である。毛沢東同志は、あらゆる活動のなかで大衆路線をあゆまなければならないと、一貫してわれわれを教え導いてきた。毛沢東同志はいつも、人民大衆こそ真に偉大であり、大衆の創造力は無限であり、人民大衆のみが歴史の創造者である、といっている。毛沢東同志は、われわれ共産党が他のいかなる政党とも区別されるはつきりした標識は、ほかでもなく、われわれがもつとも広はんな人民大衆ともつとも密接なつながりをもっていることだ、ということをおぼえておくようにと、いつもわれわれに要求している。われわれは、階級闘争におけると生産闘争におけるとを問わず、全心全意人民のために奉仕し、あくまで人民を信頼し、人民にたより、おもいきり大衆を起ちあがらせるとともに、完全に大衆と打つて一丸とならなければならない。われわれがそのようにするかぎり、どのような困難も克服できるし、どのような敵もわれわれをおし倒すことはできず、ただわれわれによつておし倒されるだけである。われわれの党は、まさしく毛沢東同志の一貫した思想にもとづき、革命と建設のあらゆる活動は大衆路線をあゆむべきであり、革命と建設の一切の任務は大衆運動によつて実現すべきであると考えている。これはわが党が中国の革命と建設を指導するうえのもつとも根本的な路線である。

労働者階級の政党が大衆を指導して革命と建設をすすめる根本の目的は、徹底的に社会的生産力を解放し、急速に社会的生産力を発展させることにある。労働者は、社会的生産力のなかの決定的な要因である。まさにマルクスがのべたように、「最大の生産力は、革命的階級そのものである」①。社会的生産力の発展は、歴史のたえまない前進、社会のたえまない更新のために客観的に必要とされるものである。社会的生産力の解放とは、まず第一に広はんな労働者を解放し、広はんな労働者の知恵と力をしぼりつけている鎖をたち切り、広はんな労働者が知恵と力を発揮するのをさまたげている障害をとりのぞくことである。だが大衆の体をしぼりつけている鎖は大衆の手によつてたち切るほかになく、大衆自身の幸福な生活も大衆の手によつて創造するほかはない。そこで、社会的生産力の解放であると社会的生産力の発展であるとをわすれず、いずれも大衆自身の力にたより、大衆運動によつて実現しなければならぬ。これはマルクス・レーニン主義の根本原理であり、また、わが党が革命の総路線と建設の総路線をきめ、そしてさかんに大衆運動をおこなうことを総路線実現の基本的な方法とした根拠でもある。

中華人民共和国の誕生は、わが国が資本主義から社会主義への過渡期に入ったことをしめしている。階級による搾取と生産手段の私有制を徹底的にとりのぞき、社会主義的所有制をわが国の唯一の経済的基礎とし、わが国を偉大な社会主義国にきざきあげることに、これは、解放された中国人民が、プロレタリアートがすでに権力をにぎっているという条件のもとで提出した革命的な要求である。党の過渡期における総路線、すなわち社会主義革命と社会主義建設を同時にすすめていくという総路線は、わが国人民のこの要求を集中的に反映している。この総路線にみちびかれ、大がかりな大衆運動をつうじて、農業、手工業および資本主義的工業にたいする社会主

義的改造がしだいに実現され、それによつて、ブルジョア的所有制と小ブルジョア的所有制の束縛から社会的生産力が解放された。党は、長い間経済的な立ちおくれと文化的な立ちおくれの苦しみをなめてきた中国人民が、そうした状況を徹底的にあらためようとするつよい願望をいだいていることをひじょうによく知っていた。かれらは、革命闘争のなかでおどろくべき勇敢さをしめし、また第一次五カ年計画の遂行にあたつても天をつく意気込みをしめした。あるふるくからの労働者は、「この両腕は、昔も今もかわりはないが、いまは働くのが実に愉快で、力がいっぱい！」と言っている。勤労人民は、いつたん自分の運命をその手に握ると、搾取階級のためにではなく、自分や自分たちの社会のために労働するので、必然的にいつさいの常規を打破し、革命的な速度で社会主義の新しい生活を建設するようになる。一九五八年の春に党がさだめた、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りっぱに、むだなく社会主義を建設するという総路線こそは、わが国六億五〇〇〇万人のそうした強烈な願望を集中的に反映したものである。

わが党のなかには、人民大衆のこの強烈な革命的意志について認識していない、あるいは認識の足りない同志がいる。かれらは、大がかりな大衆運動をやるか、やらないかは、別に大した問題でなく、建設速度などはやるのもおくらせるのも「われわれ」が好きなようにきめることができるかのように考えている。かれらは、人民大衆の願望と意志が終始歴史のすすむ方向をきめるのだという真理を忘れていたのである。労働者階級の指導のもとに人民が社会の主人公になつていらい、六億五〇〇〇万人の人民がやろうとすることには、誰もさからうことはできないし、反対に、六億五〇〇〇万人の人民がやりたがらないことは、誰がやつても成功はしないのである。これは、人間の意志によつてどうこうすることのできない客観的な法則である。わが国の現在の条件の下では、

大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという総路線は、まさにわが国の社会的生産力発展の客観的要求を適切に反映したものであり、また、この総路線を徹底的に遂行し、大がかりな大衆運動を組織していくことによつてのみ、はじめて社会的生産力の高速度の発展をうながすことができるのである。

わが党内では、社会主義建設のなかで、とりわけ工業戦線において大がかりな大衆運動をおこすという問題について、すくなくならぬ論争がおこなわれた。あるものは、「革命闘争のなかでは大衆運動をやつてもよいが、建設事業のなかでは大衆運動をやつてはいけない」といい、あるものは、近代工業はきわめて複雑なものである、一連のいわゆる「正常な秩序」をうちたてうるだけであつて、大衆運動はやれないといい、あるものは、工場企業内での政治改革には大衆運動をやつてもよいが、技術改革はきまつた段取りをふむ「科学的な方法」にたよるべきであつて、大衆運動はやれないなどといった。かれらの根本的な観点は、党の社会主義建設における大衆路線を一連のいわゆる「正規化」の方法にすりかえ、いきいきとした活発な大衆運動を単純な行政命令にすりかえようというのである。そればかりか、かれらは、自分たちの一連の方法を「正常なもの」、「科学的なもの」といい、真のマルクス・レーニン主義だといひ、そして大衆運動を「不正常的なもの」、「非科学的なもの」、マルクス・レーニン主義的でないものとしつけた。これらいつさいの間違った議論は、あるものは認識のあいまいさから来ているし、あるものはゆゆしい右翼日和見主義思想をもつことから来ているが、しかし実際には、工業生産を、党の指導からはなれ、政治からはなれ、大衆からはなれた誤つた道へみちびこうとするものである。事実かれらは、真のマルクス・レーニン主義がどういふものであるかをすこしも知つておらず、かえつて、直接マ

ルクス・レーニン主義に違反しているのである。レーニンは、一九一七年一月四日、全ロシア中央執行委員会の会議でおこなつた演説のなかで、「社会主義は上からの命令によつてつくりだされるものではない。社会主義の精神は、お役所的官僚主義的な行為とは縁もゆかりもない。いきいきとした、創造的な社会主義は、人民大衆自身の創造物である」とのべているが、そのとおりである。すなわち、革命的な大衆運動こそが、もつとも正常な革命的秩序であり、もつとも科学的な指導方法なのである。ところが右翼日和見主義思想の持主たちが誤りをおかすのは、かれらが建設事業のなかでの人民大衆の積極性と主動性をみとめないためであり、かれらが社会主義建設事業のなかでさかんに大衆運動をおこなうことに反対するのは、実質的には党の総路線に反対することにはかならない。なぜならば、この総路線の根本的な出発点は、六億五〇〇〇万人民の無限の力にたよることだからであり、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく偉大な社会主義国をささげあげる六億五〇〇〇万の人民にたよることだからである。もつとも広はん人民大衆を起ちあがらせることなくして、いつたい誰が「大いに意気込み、つねに高い目標をめざす」というのだろうか。いつたい誰が「多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設する」というのだろうか。ききたいものである。大衆にたよるか、それとも大衆からはなれるか、さかんに大衆運動をやるか、それとも大衆運動をやらぬか、これがプロレタリア革命家とブルジョア革命家との根本的な相違点であり、社会主義建設における革命的プロレタリアートの路線とその他の非プロレタリア的路線との根本的な相違点でもあるということ、われわれは知つておくべきである。われわれはあくまでも革命的プロレタリアートの路線を堅持しなければならない。建國らしい、わが国の工業戦線には三たび生産の高まりがあらわれた。それは、一九五二年と一九五六年の増産節約運動と一九五

八年いらいの大躍進である。この三度の高まりは、いずれも大がかりな大衆的政治運動の偉大な産物であった。この三度の高まりは、つきつきといつそう高まりの度をつよめ、一九五八年いらいの高まりはとりわけすばらしいものとなつた。これは、社会主義革命が社会的生産力をますます徹底的に解放し、広はん大衆の生産にたいする積極性をますます大きく鼓舞したためであつた。それと同時に、わが党は、さまざまな右翼的観点をたえず明るみにひきだし、これに批判をくわえ、多年來わが国が生産、建設を指導してきた経験をしめくり、ここに党の社会主義建設の総路線および「二本の脚で歩く」というひとつのまとまつた方針が生まれたが、これによつてわが国の社会主義建設のたえまない躍進が保証されたのであつた。

実践がすでに証明しているように、党の社会主義建設の総路線は社会的生産力発展の客観的要求にまつたく合致しているばかりでなく、党の総路線の基本的内容の第一項が「一切の積極的な要因を動員して、人民内部の矛盾を正しく処理する」ことであるところから、われわれは自覚的に、適時に生産関係と生産力とのあいだの矛盾、上部構造と経済的基礎とのあいだの矛盾を調整し、いつそう力づくよく社会的生産力の発展を促進することができるのである。毛沢東同志は、「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」のなかでつぎのように指摘している。「社会主義的生産関係はすでにうちたてられ、それは生産力の発展に適応している。だが、それはまだきわめて不完全であり、これらの不完全な面と生産力の発展とはまた互いに矛盾している。生産関係と生産力の発展とがこのようにたがいに適応しあつてもいればまた矛盾しあつてもいるという状況のほかに、上部構造と経済的基礎とがたがいに適応しあつてもいればまた矛盾しあつてもいるという状況がある」。そこで、社会主義的生産関係がすでにうちたてられたのちにあつては、生産関係は、それが生産力の発展に適応しているところか

ら、生産力をうながして、旧い社会にはかつてなく、またありえない速さでこれを発展させることができる。だが、ブルジョア意識がまだ相当に大きな影響力をもっているため、われわれのごくいちぶの幹部のなかには、程度の差こそあれまだ官僚主義的な作風がみられ、企業管理のなかのある個所にはまだいくらかの欠陥がのこつており、そのために、社会主義的生産関係にはまだ不完全なところがあり、生産関係と生産力、上部構造と経済的基礎とはしばしば、たがいに適応しあつてもいればまた矛盾しあつてもいるという状況のもとにおかれるのである。このたがいに適応しない部分は、社会的生産力の急速な発展の客観的可能性を一定の期間おさえつけることになつて、前進の障害物となる。もしもこうした障害物をとりのぞかなければ、大衆の積極性と創意性を十分に發揮させることはできない。もちろん、毛沢東同志が指摘しているように、こうした矛盾は資本主義社会の矛盾とはことなるものである。資本主義社会の矛盾は資本主義制度自身によつては解決できず、資本主義を滅亡へとみちびくだけである。しかし、社会主義社会の矛盾は、社会主義制度自身によつてしだいに解決してゆくことができ、それによつて社会の発展を繁栄の新しい段階へとみちびくのである。生産力と生産関係とのあいだの、経済的基礎と上部構造とのあいだの旧い矛盾が解決されると、また新しい矛盾があらわれてくるが、これは川の流れるようにとぎれぬ、永遠に新鮮な弁証法の過程である。生産力をひきつづき発展させるといふ要求にこたえるためには、生産関係の各方面をたえず調整し、上部構造の各方面をもそれにとりなす革新してゆく必要があるが、これは生産力のたえまない高まりを推進するための保証である。毛沢東同志が明らかにし、発展させた、マルクス・レーニン主義の、社会主義社会における生産力と生産関係とのあいだ、経済的基礎と上部構造とのあいだの矛盾についての原理は、思想的に広はん幹部と人民大衆を武装させ、社会主義社会における矛盾を

処理する道をわれわれにはつきりつかませるとともに、これが社会的生産力のたえまない躍進を保証する強力な思想的武器であり、またわれわれがさかんに大衆運動をすすめるうえの有力な理論的根拠でもあるという確信をわれわれにもたせてくれた。その意義はきわめて大きく、その影響もまたきわめて深遠である。

一九五八年いろいろ、上海の党組織は、党中央と毛沢東同志の、人民内部の矛盾を正しく処理する問題についての一連の正しい指示にもとづき、大衆運動をつうじて、いちはやく、生産労働の面における人と人との相互関係、まず第一に指導者と大衆との関係を調整し、適時に、工業企業生産管理制度のうち生産力の発展に適應しないいくつかの個所を調整した。また、思想解放のよびかけをしたことによつて、勤労人民は精神的な束縛から抜けだし、大胆に考え、大胆に意見をのべ、大胆にやつてのけ、なにもものをもおそれず勇往邁進する共産主義的風格が発揚されるようになった。これによつて、生産関係はたえず完全なものとなり、人民大衆の社会主義的積極性のかぎりないたかまりがいっそう促され、すすんだものと比べあい、すすんだものに学び、すすんだものに追いつくという嵐のような労働競争の高まりがまきおこり、こうして生産の躍進は、滔々たる揚子江の流れ、さては疾駆する千軍万馬にも似たあたるべからざる勢いをもつようになった。

一九五八年の大躍進と一九五九年のひきつづく躍進という情勢のもとに、いぜん、さかんに大衆運動をやることに疑いをもつていたものも、大衆の意気軒昂たる熱情にはげまされ、運動のなかで教育され、さかんに大衆運動をやつてゆくことが生産を高速度に発展させるためにはどうしても通らなければならぬ道であることを知り、ついに、この燃えあがる運動のなかにすすんで身を投ずるようになった。広はんな幹部は、この運動のなかで、きたえられ、見識をたかめた。この嵐のような大衆運動の出現によつて、すべての幹部と大衆は、党の大衆

路線についてふかく教えられた。「なによりも党の指導が第一だ。なによりも大衆路線が最上だ」これがわれらの共通の体験であつた。とりわけ、党の第八期中央委員会第八回総会いご、上海の各級の党組織は、マルクス主義者はどのように革命的な大衆運動に対処するかの問題について討論し、思想上の認識をいちだんと高めた。われわれの社会主義建設の速度がどの程度まではやめられるかは、まず第一に党の指導にかかつており、党が大がかりな大衆運動を正しく組織できるか否かにかかつており、われわれが大衆のもつ潜在能力を大々的にほりおこしうるか否かにかかつており、われわれが大衆のもつ主観的能動性を十分に發揮させるか否かにかかつているということをも、みんなはいっそうよく認識するようになった。

党中央と毛沢東同志のたびたびの指示にもとづき、この一年あまりの實踐を経て、わたしたちは、工場企業においてさかんに大衆的な生産運動をやつてゆくことについての比較的にととのつた一連の経験をさぐりあて、つまかさねた。これらの経験をまとめれば、主としてつぎのようないくつかの問題の解決にとりわけ力をそそがなければならぬことになる。

第一は、指導にあたる者が広はん大衆とむすびつくことは、一貫して党の指導方法の根本問題であるということである。この問題がうまく解決できるか否かは、工業企業が大衆的な増産節約運動を展開するうえに決定的な影響力をもつている。上海での経験によると、指導にあたる者と広はん大衆との結合の問題を解決する基本的な方法は、整風運動の精神を堅持して、工場企業内の人民内部の矛盾を正しく処理し、たえず人と人との相互関係を調整し、たえず指導上の作風と工作方法を改善していくことである。社会主義社会では、労働者階級は生産者であるとともに、国家と企業の主人公でもある。企業の指導にあたるものと労働者・職員大衆との根本的利

益はまつたく一致しており、かれらは互いに助けあい、協力しあうという同志的な関係にあり、まつたく平等な地位にある。ただし、かれらのおかれてある持場がちがひ、分業がことなるため、問題を観察し処理するさいの角度がちがひ、ときには一致に向かうことができず、あるいは、完全には一致できないこともある。また、いちぶの幹部は擗取階級のこうした官僚的な気風にそまり、説得教育の方法でことを処理するのが不得手で、そのため、これが大衆のそうした一部の指導者を十分に信頼するうえのさまざまなたげとなり、また、いちぶの労働者にとつては、これが主人公としての態度で社会主義労働と取り組むうえのさまざまなたげとなつていた。一九五七年の整風運動によつて、そうした相互の關係に大きな変化がもたらされた。指導にあたる幹部は官僚的な気風を投げ捨て、尊大な態度を捨て、人のさきになつて労働に参加し、「試験田」をつくり、大衆のなかにふかくはいり、生産の第一線に身をおいてカギとなる問題を解決し、普通の勤労者としての態度で大衆とひとつにとけあい、新しい気風をつくりだした。相互關係の改善を基礎として、指導方法にも新しい転換がもたらされた。大抵の指導幹部は、大衆の思想、工作、生活、学習について全面的に関心を持ち、すすんだ大衆だけでなく、中間的な大衆、おくれた大衆にも関心をもつことができるようになった。かれらは、大衆を十分に信頼し、あくまで大衆にたより、真剣に「大衆のなかから、大衆のなかへ」という原則にのつとり、「徹底的にやりぬく」という方法によつて、大衆に明確な戦闘目標をしめし、情勢と任務、理由と方法をはつきり説明し、思つたとおりの意見をどしどし発表する、大字報をはりだす、大々的に論議しあうという方法によつてつこんだ思想上の動員をおこない、大衆に、認識をたかめさせ、全局についての理解をもたせ、主人公としての積極性を發揮させ、企業の生産計画をそのまま自分たちの行動綱領とし、企業の生産任務完遂のために奮闘するようにさせた。一九五八年の大躍進い

は、こうした社会主義的な相互關係と大衆路線の指導方法がいつそう發展し、強固になつたといわなければならぬ。

しかし、いちど整風をやればそれで永久に事が解決するというようなものではない。わが党内には、この一年有余の期間における党の多くの正しい措置について、いままお思想的に納得できないでいる同志があり、誤つた観点をもちだしてきて對抗するものさえいる。あるものは、指導幹部が生産労働に参加するのは「本職をおろそかにすることだ」とか、「あまりにも大きな代価を支払うことになる」とかいつている。かれらの目からみれば、指導者の持つて生まれた「本職」とは、上につつたつて命令をくだすことであつて、大衆の思想や生活に関心を持ち、大衆とひとつにとけあうことなどはあたまから不要だというわけである。これは、経済工作を政治からひきはなす誤つた観点のもつとも代表的なものである。またあるものは、インテリ出身の幹部は労働に参加すべきだが、労働者出身の幹部はまつたくその必要がないといつているが、これももちろん誤りである。整風らしい経験は、どのような生産部門の指導幹部でも、その出身の如何をとわず、つねに大衆のなかにふかく入つて生産労働に参加することができなければ、りつぱに生産を指導し、企業を管理してゆけないことを証明している。大衆のなかへ入ることは、事務室に座つている時間をいくらか「つぶす」ことになるが、実際にはそうすることこそ、ほんとうに本職にいそしみ、「お役人」稼業をすてるものといえるのである。これは決して「大きな代価を支払う」ことではなく、指導幹部としての本分をつくし、大躍進という豊作をおさめることである。労働者出身の幹部であつても、長いあいだ生産からはなれていれば、大衆から比較的にはなれがちになるので、生産労働に参加することはかれらにとつても同様に大切である。われわれの広はん幹部がプロレタリアートの旺盛

な戦闘的な意欲を永久にたもつようにするためには、かたときも大衆とのつながりを失わぬことがもつとも大切である。今年のはじめ、ある紡績労働者は、「整風運動は終つたが、整風の精神はすててはいけない」と大字報に書いたが、この同志の熱情にあふれた言葉はまったく正しい。われわれは、ひきつづき整風の方法によつて、指導幹部と労働者大衆との互いに助けあう同志的な関係をいつそう発展させなければならない。多くの部門でも、たしかに、整風の精神を堅持し、そして、思つたとおりの意見をどしどし発表し、大字報をはりだし、大々に論議しあうという整風のさいの一連の方法をさらに活用し、整風と構想を語る会をつねにおこない、広はんな幹部がたえず自分自身を戒め、大衆と密接なつながりをもつようにしている。すくなくからぬ党委員会書記と工場長は、生産上で弱い部門やもつとも大きな困難のあるところへいつも姿をあらわして、その労働者・職員といつしよに話し合つて、生産上の問題を解決している。今年の夏、酷暑のおり、工場企業の指導幹部は高温職場にいつて生産労働に参加し、困難にうち勝とうという大衆の意欲を大いにふるいたさせた。整風の精神が一時ゆるんできていた幹部も、右傾に反対し、大いに張切ろうとのよびかけのもとに、ふたたび現場にいつて事務をとる、もつとも困難な部門へいつて仕事をやるようになった。「大躍進がまたやつてきたぞ！」といつて大衆はこころからこれを歓迎した。

整風という方法は、指導するものと指導されるものとの関係を効果的に改善したばかりでなく、労働者・職員同志のあいだ、職場同志のあいだ、工場企業同志のあいだの相互関係を効果的に改善した。ひきつづき躍進を実現するという共通の目標のもとに、相互支援、相互促進、経験交流、有無相通の共産主義的な協力の精神が大的に発揚された。重点的な建設と完全な製品の完成を保証するために、みんなは、人の方をさきにやつて自分

の方はあとまわしにし、おのれをすてて人のためにつくした。たがいに関係のある班、組、職場、課・室は支持しあい、すすんで協力しあつた。まえの工程を受け持つ者はあとの工程のために奉仕し、まえの班は交代するあとの班のために有利な条件をととのえた。こうした互いに助けあう協力の精神と互いに相手に追いつこうとする競争熱がむすびついて、大衆的な生産運動のいつそう健全な、力づよい発展をうながした。

第二は、工場企業内で大衆運動を展開するには、技術者と労働者大衆の力をむすびつけなければならないということである。これは、昨年の大衆運動の実践のなかでもつとも重要な経験のひとつである。技術革命と技術革新が増産節約運動の中心をなすものであり、生産大躍進のカギでもあるので、この問題はいつそう浮き出してきた。技術革命と技術革新をくりひろげてゆくなかで、工具、設備、操作の面のある種の改革は、広はんな労働者大衆が自分で解決することができる。しかし、重要な技術上のカギとなる問題、新しい技術の研究、重要な創造や発明といったものは、往々にして一個人ないし数名のものでは解決できず、またたんに技術者だけあるいは労働者だけにとよることではこれまた解決できないものであつて、それにはどうしても指導にあたる者と技術者と労働者がむすびつく方法をとる、各方面の積極性を動員してかからなければならぬ。この道理は、いまではますます多くの人びとに理解され、効果的な結合形態がたくさん考えだされている。上海電気機械工場では、こうした方法を採用して、出力二万五〇〇〇キロワットの蒸気タービン発電機の生産過程を各工程ともに革新し、製作期間をつきつぎにちぢめていつて、ついに八一日を二〇日にまでちぢめるにいたつた。ここではまた、大きな戦闘隊を十隊編成し、技術の十大関門に猛攻をくわえて多くの隘路を打開し、大きな成果をあげた。

一九五八年の大躍進までは、いちぶの同志は科学技術を神秘なものともみなし、少数の技術専門家を盲信し、書

物を盲信し、労働者大衆の労働の実際経験を眼中におかず、大衆を起ちあがらせて技術革命と技術革新をまきおこそうとしなかつた。労働者や技術者のなかにも自分を卑下する気持がいちぶにあつて、精神的な束縛をうけていた。だが実際には、いつさいの科学技術のみなもとは生産上の実践であり、直接に物質的手段の生産にたずさわる勤労者が、科学技術の発展をおしすすめる無限の創造力をそなえているのである。まさにエンゲルスがのべているように、「社会にひとたび技術上の需要がおきると、この需要は十の大学よりもつと科学の進歩をたすける」②のである。大躍進らしい、科学技術についてのこうした神秘的な観念はうちやぶられ、広はん大衆は大胆に考え、大胆に意見をのべ、大胆にやつてのけるといふ何ものをもおそれぬ精神と、うまずたゆまず刻苦研鑽する気力を発揮した。「歩いているときでも、座っているときでも考える。技術を革新しないでは気持がおさまらない」というのが、労働者大衆の気持である。いぜん到底できそうにもないと思われていたことがいまはやれるようになった。いぜん当分の間は実現できないと思われていた技術改革の重要な項目が、大衆の手で数回、数十回、数百回試験をくりかえすことによつて、ついに実現した。事實はまた、ものごとに精通すれば自然に巧みになるように、労働の実践における大衆のゆたかな経験を十分に集中することは、工具改良の面にきわめて大きな役割をはたすばかりか、製品の設計を改善するうえにも重要な意義をもつものであることを証明した。大衆のもつ革命的な創造精神は、同時に技術者をも教育した。技術者たちは、「実践のなかできたえ、生産と運命をともにし、労働者と心をひとつにしよう」という決意をひれきした。かれらは、現場で労働者といつしよになつて討論し、いつしよに試験をやり、いつしよに設計し、いつしよに創造した。技術者は、労働者大衆とむすびつくことによつて、生産におけるかれらの役割をいつそうよく発揮し、また、かれらの理性的知識と感性的知識、

理論と実践をもよりよく結合させるようになった。技術者と労働者が互いにむすびつくつこうした方法は、互いに学びあう過程であり、生産上のカギになる問題を解決するのに有利であるだけでなく、労働者と技術者の技術水準を同時にひきあげるものであり、労働者階級の技術人材の隊伍を育てあげる重要な方法の一つでもある。

第三は、大がかりな大衆運動のなかで、広はん労働者・職員の思想がたえず解放され、大胆に考え、大胆に意見をのべ、大胆にやつてのける共産主義的風格がたえず発揚されるので、いきおひもとからあるいろいろな合理的な規定、制度の束縛をうち破らなければならないということである。われわれの社会主義の工場企業において、企業の管理をりつばにやるには、欠くことのできない行政命令と規定、制度がぜひとも必要である。欠くことのできない、そしてすべてのものが厳格にまもるべき規定、制度がなければ、われわれの生産を正常にすすめてゆくことも、われわれの生活秩序を維持することもできなくなつてしまう。これはごくあたりまえの常識である。規定、制度はなくてもよいといつたような考えは、一種の小ブルジョア的な無政府主義思想の反映にはかならない。しかし、われわれの社会主義の工場企業においては、科学的な規定、制度は社会主義の経済的基礎を反映するものであり、社会主義の経済的基礎を固め、発展させるために奉仕するものである。それは、生産運動を指導し、組織するための有効な工具となり、大衆の創造精神を組織し、発揮させるための工具となり、生産力の発展をうながすための工具とならなければならない。大衆が積極性を発揮するのをさまざまに、生産の発展をさまざまに要求するものであるところから、固定した、こちこちの、いちどつくつたらそのまま永久にかわらないといったような規定、制度はありえない。したがつて、問題の本質は、われわれが熱烈に大衆の革命的な創造精神を支

持するか、それとも、いまだ不合理なものとなつて既存の規定、制度にあくまでしがみつくか、という点にある。大躍進とひきつづく躍進のなかで、広はん大衆は生産発展の必要にもとづいて各種の規定、制度を点検し、生産の発展に不利なものはこれを廃止し、生産の発展に有利なものはこれを新しく設けていつているが、規定、制度の改廃と新設は、生産の発展過程における正常な現象であり、また経済的基礎に奉仕する上部構造が生産の発展にもなつてたえず健全なものになり、完全なものになつてゆくようこれをうながすものでもある。

ある同志は、時代おくれの、不合理な規定、制度にあくまでしがみつき、こうするのが企業の管理をつよめるのにいいと考えている。ところが、事實はかれらの願いとまはつたく裏腹で、企業管理の水準は生産の発展にもなつて一歩一歩高めていかなければならないものであり、時代おくれになつた不合理な規定、制度をあらためることなしには、企業の管理はつよめてゆけないのである。また、ある同志は、いかなる変化にもおうじることのできる不変の規定、制度があればいつも考えているが、それによつていちどきめてしまえば、永久に事が解決し、あとはのんびりと日をすごし、一日中あくせくするようなことをしないで済ませようというわけである。かれらはいつも、「つくつたばかりの規定、制度を君たちはまたがたがたさせる」、「いつたい何時になつたら最後の運動になるのか?」といつて大衆をせめる。状況はたえず変化するのに、永久にかわらぬ規定、制度をつくることのできるのだろうか。革命家は変革を歓迎すべきである。なぜならば、そうした変革のもたらすものはかならぬ社会主義建設事業の大発展だからである。したがつて、指導者は、ゆるぎない態度をもつて、革新者が古い不合理な規定、制度をうち破るのを支持し、それと同時にまた、大衆をつうじて新しい合理的な規定、制度をうちたてていかなければならない。そうすれば、われわれの工場企業の姿をたえずあらためてゆ

き、大衆運動を停顿させずに猛然とおしすすめることができるのである。これまでのある期間に、ある部門ではいくつかの不合理な規定、制度を廃止した。これは正しい。だが、新しい合理的な規定、制度をすぐにつくることをしなかつた。こうした事情のもとで、右傾的な保守思想の持主は、この欠点をとりあげ、すでに廃止した制度をただちに復活せよと要求した。これはあきらかに正しくない。この問題については、あらゆる問題にたいすとおなじく、分析的な態度をとるべきである。それと同時に、旧い不合理な規定、制度を廃止するにせよ、新しい合理的な規定、制度をつくるにせよ、すべて大衆路線をとるべきである。あるものは、新しい規定、制度をつくるさいは、大衆をつうじないで済ませようとするが、そういうことをすれば失敗は目にみえている。われわれのすべての規定、制度が、生産の発展に奉仕するものであり、また大衆の創意性がこれまた生産発展のもつとも強力な原動力である以上、われわれは、規定、制度を大衆の創造精神をさまたげるのでなくて、これを促進するための工具にかえ、われわれの規定、制度と大衆の創造精神をむすびつけなければならぬし、またそうすることができるのである。

第四は、大躍進とひきつづく躍進のなかでは、数人、数百人、数万ではなく、数十万人、数千万人のものが寝食を忘れ、報酬を考えずに幸福な新しい生活を創造するために奮闘しているのであつて、この事實は、党の労働者・職員にたいする政治思想教育と物質的奨励をむすびつけるという方針がまったく正しいことを証明している、ということである。わが党内にはかつて、一面的に物質的奨励のはたす役割を誇大視して、政治思想教育のはたす偉大な役割を軽視ないし否定する同志がいちぶにいた。かれらは、人には頭脳があり、人の思想状況の如何が、その人の生産労働にけつして低く見積ることをゆるさぬ影響をおよぼすことを忘れていたのである。しかも

われわれの社会主義建設という偉大な事業は、社会主義の自覚をそなえた人間にたよつてなしとげなければならぬ。われわれ共産黨員には、どのような状況のもとにあつても、最善をつくしてマルクス・レーニン主義を宣傳し、プロレタリア思想をおこし、ブルジョア思想を一掃し、これによつて広はん大衆に真に社会主義、共産主義を建設する高い熱情と遠大な理想をもたせるようにする義務がある。政治思想工作を弱めるどのような考えや行為も、マルクス・レーニン主義の思想的陣地を弱めずにはおかない。これはけつして許せないことである。これはもちろん大衆の物質的な利益にたいする関心をおろそかにしてもよいなどという意味ではない。社会主義という歴史的時期においては、物質的な奨励が必要であるとわれわれは考へている。われわれの現在の分配制度は労働におうじての分配でなければならない。われわれは、活動のなかで、大衆の生産、工作、学習に関心をよせるだけでなく、大衆の物質的福祉にもかならず関心をよせ、生産の発展を基礎として、広はん労働者・職員の物質的生活を年ごとに改善し、また企業の賃金制度と奨励制度をたえず健全なものにしていかなければならぬ。だが、こうした活動はすべて政治思想工作とむすびつけなければならぬ。しつかりした政治思想工作をやらずに、もつぱら物質的奨励にたよるのでは長続きせず、そのうえきわめて容易に逆の方向へ走り、大衆の革命的な積極性をくじき、消散させ、個人主義思想を助長することになる。人民大衆の政治的自覚の向上こそもつともたよりになる、しつかりした、長続きのする原動力である。したがつて大衆運動のなかでは、われわれは、大衆の生活に全面的に関心をよせ、労働におうじた分配の原則を堅持し、またひきつづきたえずマルクス・レーニン主義によつて人民大衆を教育し、かれらに個人の目さきの利益だけでなく、集団の遠大な利益にも関心をもたせるようにし、この方面での人民内部の矛盾を正しく処理していかなければならぬ。人民大衆のなかの先進的

なもの、まず第一に共産黨員と共産主義青年団員にたいしては、かれらが報酬にこだわらぬ共産主義的な労働態度を奨励し、全心全意人民のために奉仕し、自己の模範的な行為によつて広はん大衆をひきつれて、社会主義の樹立と将来における共産主義への移行の実現のために奮闘するよういつそう教育すべきである。

さきこのべた指導にあたる者と広はん人民大衆との結合、技術者と労働者大衆との結合、合理的な規定、制度と大胆に考え、大胆に意見をのべ、大胆にやつてのける共産主義的風格との結合、大衆にたいする政治思想教育と物質的奨励との結合をつうじて、そのカギとなるものは党の指導である。これらいくつかの面における結合をりつばにやつてゆくためには、どうしても党の統一的指導をつよめなければならない。広はん人民大衆の自覚性、積極性、創意性はわが国の社会主義建設事業のもつとも根本的な保証であり、広はん人民大衆の積極性、創意性を發揮させることが党組織のもつとも根本的な任務である。また、党委員会の統一的指導のもとにおいてのみ、はじめて大衆を起ちあがらせ、大衆の自覚性、積極性、創意性を十分に發揮させるとともに、どこまでも大衆運動を堅持していくことができるのである。この任務の実現には、工場内の他のいかなる組織も絶対にこれにとつてかわることはできない。もちろんこのことは、その他の組織の役割を軽視してもよいという意味ではない。企業の行政管理のうえで、党委員会の指導する工場長責任制をとるということは党中央がとつてきめているところであつて、だんことして徹底的にこれを実行しなければならない。労働組合、共産主義青年団などの組織は、これまで労働者・職員を教育し、生産を組織するうえできわめて大きな役割をはたしてきたが、こんどもやはり党委員会の統一的指導のもとに、各自のいつそう大きな役割をはたしてゆかなければならない。

われわれの工業戦線における大衆運動は日一日と高まつている。この運動によつて、われわれは一九五八年の

大躍進を実現し、いままた一九五九年のひきつづく躍進を実現しつつある。上海の工業生産総額の今年一月から九月までの累計は、昨年同期より四七・一パーセントの増加をしめし、はやくも、国家がきめた年度計画の七三パーセントを完成している。一〇月いらい、増産節約の波はひきつづき高まりをみせ、生産は量質ともにひきつづき上昇線をたどり、躍進の速度はひきつづき高まつている。目下の生産水準からみれば、今年の国家計画はかならず大幅に期限をくりあげて完遂、超過完遂することができるし、今年の上海の工業生産総額は昨年の四〇パーセント以上の増加が十分に可能であると完全に断定することができる。この指標を実現すれば、今年の増産額だけで一九四九年の上海の工業生産総額三〇億九〇〇〇万円の二倍以上に相当することになる。しかも一九四九年の生産総額は百余年にわたる発展過程を経てはじめて到達したものである。客観的事実をみとめることをのぞむものなら誰でも、これが一九五八年の大躍進を基礎とした、ひきつづく躍進であることをみとめないわけにいかない。客観的事実をみとめることをのぞむものなら誰でも、わが党の総路線がまったく正しいものであり、したがって巨大な威力をそなえていることをみとめないわけにはいかない。われわれは、われわれが確固としてゆるぎなく党の総路線を徹底的に遂行し、昨年いらいすでに身につけたゆたかな経験の上に立つて、ひきつづき大がかりな大衆運動を組織してゆくかぎり、かならずいっそう広はん大衆を社会主義建設の戦線に動員し、組織することができるかと確信している。大衆運動は、つねに波状をえがいて前進するものであり、毎年の躍進速度も完全におなじというわけにはゆかないが、しかし、われわれの大衆運動は一波は一波より高くもりあがりながら前進し、われわれの社会主義建設がつねにいつまでも躍進の局面を保ちつづけるであろうことは、疑う余地のないところである。

① マルクス「哲学の貧困」「マルクス・エンゲルス全集」(ドイツ語版)一九五二年 第四卷 一九三ページ

② エンゲルス「シユタルケンブルグへの手紙」「マルクス・エンゲルス二巻選集」(ドイツ語版)一九五〇年 第二卷 四

人民公社はわが国の社会発展の必然的な産物である

李 井 泉

中国人民の偉大な創造をあらわし、限らない生命力をもつ人民公社が誕生してからすでに一年たった。人民公社は、工農業生産の大躍進の要求に応じて生まれたものであり、広はんな農民の社会主義的自覚の大きな高まりから生まれたものであつて、高級農業生産協同組合を基礎として発展してきた社会組織である。人民公社は、体制の整備をへて、強固で健全な発展の道を急速に前進しており、農業を進展させ、工業を支援するために偉大な貢献をしている。ところが、いま国をあげて人民が、人民公社の偉大な成果に歓喜し、奮いたつてそのときに、内外の敵はかえつて、これにたいし悪らつきまわる中傷をくわえ、攻撃をおこなつており、われわれの隊伍の中でもひとにぎりの右翼日和見主義者があらわれて、内外の敵の喚きとあい呼応し、ほしほしに人民公社を非難して、人民公社は「早くつくりすぎた」とか、「やりそこなつた」とか、人民公社は「少数のものの主観でつちあげたものであつて、広はんな農民の要求ではない」とか言い、「社会主義社会には共産主義の芽ばえがあつてはならない」、「賃金制と現物給与制をむすびつけた分配制度は失敗した」、「共同食堂はおしつけ命令でつくつたものだ」等々と言つてゐる。かれらは、人民公社がわが国の社会主義建設の大躍進の必然的な産物であり、わが国の社会発展の必然的な産物であることを否定し、人民公社のとつてゐる若干の新しい制度が、わが

国の貧しい、おくれた状態を早急にあらためたいという広はんな農民大衆のさし迫つた要求を反映するものであることを否定し、人民公社がわが国の社会主義建設中にはたした、また、こんごはたそうとする偉大な作用を否定している。

内外の敵が人民公社を中傷し、攻撃するのは、ほかでもなく、人民公社が立派なものだからである。右翼日和見主義者は内外の敵の人民公社にたいする悪どい攻撃の追隨者になり、人民公社をいろいろと非難しているが、そうした非難は反駁されればまつたくひとたまりもないものであり、広はんな幹部と大衆のだんご反対しているところである。そして、個々の点に疑いをもつてゐるものでさえも、それには賛成してゐないのである。

一

毛沢東同志はかつて、「社会主義社会では、基本的な矛盾はやはり、生産関係と生産力とのあいだの矛盾、上部構造と経済的基礎とのあいだの矛盾である。ただ、社会主義社会のこれらの矛盾は、旧社会の生産関係と生産力との矛盾、上部構造と経済的基礎との矛盾とは、根本的にその性質と状態がちがつてゐるだけにすぎない」①と指摘した。矛盾があれば解決しなければならぬ。一つの矛盾が解決されれば、また新しい矛盾が解決を必要とするようになる。われわれの農業協同化は、単独経営経済と社会主義経済とのあいだの矛盾を解決した。この矛盾が基本的に解決されていご、こんどは農業生産協同組合では規模がわりあい大きく、経営範囲がわりあひせまくて、生産力を大いに発展させる要求にこたえられないという矛盾がうまれた。この矛盾を解決するために誕生したのが、ほかならぬ人民公社なのである。

土地改革から農業の協同化へ、協同化から人民公社化へということは、われわれの革命の発展が段階的であると同時に、足ふみしないものであることを示している。

毛沢東同志は、マルクス主義の革命発展段階論の命題と連続革命論の命題を発展させた。われわれはまさに、毛沢東同志の革命発展段階論と連続革命論を結合した思想にみちびかれつつ、革命を勝利から勝利へと転化させていった。人民公社化は、われわれのとくに顕著な、偉大な勝利であり、この勝利は、同時にまた、革命発展段階論と連続革命論を結合した毛沢東同志の思想が無敵であることを証明するものである。

解放いらいのわが国の農村における一連の変化の過程をふりかえつてみると、われわれは人民公社の誕生と発展が決して偶然でないことが分かる。

解放当初、われわれは全国にわたつて土地改革の勝利をかちとり、農村の生産力の発展をつよく東ばくしていた封建的な生産関係を根こそぎうちくたしてしまつた。これは、生産力の発展にひろびろとした道をきりひろく第一歩であつた。つづいてまた、党の指導のもとに、農村で農業協同化運動をくりひろげ、もともと極度に貧しくて、はげしい革命的要求をもつていた中国の農民に資本主義への道をすてさせ、かれらを社会主義の道へとすませた。最初は、単独経営経済の基礎のうえに、集団的に労働する、社会主義の芽ばえの性質をもつた互助組織をつくつた。そのご、さらに互助組を發展させて、土地を出資し、統一的に経営することを特徴とする、半社会主義的性質をもつた初級農業生産協同組合をつくつた。そのごさらに、土地およびその他の主な生産手段の集団化を一步すすんで実現し、完全な社会主義的性質をもつた高級農業生産協同組合をつくつた。この一連の生産関係の変化は、いずれもそのときの生産力の発展の要求に適應したものであつて、生産関係の變革ごとに、すべ

て生産力の発展を大きくうながしたのであつた。このことは、農業生産のたえまない増産という事実によつて実証されている。四川省における毎年の食糧総生産高の増加ぶりについて見ると、一九五四年に農村の互助組織が大いに發展をとげていご、同年は一九五三年より六・六パーセントふえたし、一九五五年の冬に初級農業生産協同組合化が実現していご、一九五六年には、互助組当時の一九五四年にくらべて一四パーセントふえたし、一九五六年の冬に高級農業生産協同組合化が実現していご、一九五七年は、「盲進」反対の影響をうけて増産の幅は大きくなかつたが、一九五八年には、党の社会主義建設の総路線にはげまされて、生産は特大躍進をとげ、食糧の生産高は一九五六年にくらべて四六パーセントふえたのであつた。

農業の協同化は、生産力の発展のためにひろびろとした道をきりひろいた第二歩であつた。

農業協同化が実現していご、われわれは農村で偉大な整風運動と社会主義教育運動をおこなつた。この運動にともなつておとずれたのは、広はんな農民の社会主義的自覚と生産にたいする熱情の普遍的な高まりであつて、農民たちは、生産を高速度に發展させることを切実に要求し、わが国農村の貧しい、おくれた状況から急速に脱出することを要望した。全国農業發展要綱(草案)にはげまされて、一九五七年の冬から一九五八年の春にかけて、農村では大がかりな農地水利建設運動、土壤改良、植樹・造林運動が展開された。党が社会主義建設の総路線をうちだしていご、農村における生産・建設の高まりはさらに大きな規模でぐんぐん發展していつた。一九五八年の夏には、農具の改革と旧式の方法による化学肥料の製造を中心として、大々的に地方工業をおこす運動が展開されたし、わが国における農業生産上のゆたかな経験をとりまとめ、これを基礎としてつくられた農業生産の「八字憲章」は農業の技術革新をうながした。生産の大々的な發展は、農業の機械化、電化、耕作の園芸化と

いう、農村のすばらしい未来図を人びとのまえにえがいてみせ、多くの地方では、こうしたすばらしい未来図を実現する雄大な計画をつくった。これらはすべて、一九五八年の農業生産の空前の大躍進という、新情勢のもとで、生産関係を生産力の発展にいつそう適応させることがさしせまつた要求となつたことを証明するものであつた。

もとの高級農業生産協同組合は、生産運動を展開し、各種の生産・建設計画を実現する実践のなかで、すくなくからぬ問題に直面していた。まず第一に、いつそうひろい範囲にわたつて、いつそう合理的に労働力を按排し、使用する必要があつた。当時の典型調査によれば、単に水利建設、土地の深耕、合理的な密植などの先進的な農業技術をとりにいれるだけでも、倍前後労働力をふやす必要があつた。作付の季節をおくらせないようにするため、災害にうち勝ち、部分的な植えなおしと蒔きなおしをおこなうため、林業、畜産業、副業などの多角経営を發展させるため、そしてまた、ぜひとも必要な地方工業をおこなうために必要な労働力はもつと多かつた。つぎに、生産の發展は、生産手段をさらに合理的に按排し、使用することを必要とした。たとえば、大いに水利建設をおこなうには水源をいつそうよく按排することを必要とし、地形や気候条件、土質の状況において、区画をきめて作付をおこない、専門的な経営をおこなうには、さらに広範囲にわたつて土地および他の生産手段を具体的な状況において按排しなければならぬ、というふうであつた。第三に、先進的な農業技術をとりにいれて、「八字憲章」を実現するには、経営範囲をひろげ、農業に奉仕する工業をおこし、農村の建設人材を十分に養成できるだけの学校を設けるといつたことが必要であつた。第四に、集団耕作をやりやすくし、労働の度合いをかるくするためには、非常に分散している居住条件をしいにあらため、運搬に便利な道路をさすき、また、所要の社会福祉事業なども経営しなければならなかつた。これらのすべての問題が、当時の数十戸または一〇〇

戸あまりしかない、農業だけを経営する、高級農業生産協同組合では解決できないことは明らかであつた。生産の發展にとりなつて、権力による生産の指導はいつそう強化する必要があつた。ところが、当時の下部権力は郷が単位になつており、それが工業、農業、商業、文化・教育、軍事の各方面の活動を指導はしていたものの、行政と社務を一体化した統一的な指導なしには、いつそう広範囲にわたつて上にのべた各種の巨大な任務を実現することはやはり不可能であつた。これらすべての問題は、当時の生産関係のいくつかの面が生産力の發展に適應しないという矛盾をよく反映しており、また、当時の下部の生産単位と下部権力との矛盾を反映していた。

この矛盾をどう解決するか？ これこそ、広はんな幹部と広はんな農民のさし迫つて回答を要求していたところであつた。したがつて、人民公社がまだ出現しないうちから、各地の大衆は、いぜん数百戸、一〇〇〇戸あまりもの大きな組合をつくつた経験に照らして、農業生産協同組合の組織と制度に、各方面から変更をくわえていた。当時、四川省では、多くの農業生産協同組合が合併して大きな協同組合をつくつており、なかにはすでに、合併して一つの郷に一つの協同組合というような大きなものもあり、しかも経営範囲をひろげ、農業に奉仕するための、自分たち自身の小規模な工業を發展させはじめていた。多くの農業生産協同組合はさらに、労働組織を改善し、組合内外の労働上の協力と生産上の連合をつよめており、こうした協力と連合は、時としては郷の境界をこえていたばかりか、県の境界までこえることもあつた。およそ農業生産協同組合の三分の一は、共同食堂と託児所の組織をつくつていた。多くの農業生産協同組合では、豚を金に換算してこれを組合に入れ、集団的な養豚事業を發展させはじめていたし、自家用としてのこしていた土地の大部分もこれを組合のものにして統一的に経営していた。広はんな大衆は、もつと大きな集団になつてこそはじめて、一段と力づくよく貧困にうち勝つこと

が出来るのだと確信していたので、小さな組合を合併して大きな組合をつくるということはすでに避けられない勢いとなっていた。毛沢東同志と党中央は、生産関係が生産力の性質に適応しなければならぬという客観的な法則にもとづき、大衆の当時の要求にもとづいて、時をうつつさずこの運動を指導した。党中央は、農村に人民公社をうちたてることについての決議をおこない、大衆の創造をしめくり、これをさらに高めて、「ひじょうな弾力性のある」人民公社というこの組織形態を發展させたのであつた。人民公社化運動は、生産関係と上部構造の面に重大な変革をもたらした。それはつまり、従来からの集団的所有制を拡大し、高度化するとともに、若干の全人民的所有制の要素を付加したこと、従来からの単一の農業生産組織を工業、農業、商業、文化・教育、軍事をむすびつけ、農業、林業、畜産業、副業、漁業を統一的に経営する、社会の下部組織にかえたこと、従来からの農村における下部権力機構と下部の生産単位を統一したことであつた。こうした変革は、すぐさまはねかえつて、生産力のよりいっそうの躍進をうながした。この点については、まあと同様、人民公社が成立してから一年いらい生産發展の面でおさめた偉大な業績が証明しているところである。四川省の人民公社は、成立いらい、農業生産とひどい自然災害にうち勝つ闘争のなかで、強大な生命力をはつきりとしめし、全省の農業生産を、昨年の大躍進を基礎としてひきつづき躍進させたばかりでなく、昨年の冬には、いく百万の労働力をさいて大がかりな製鉄、製鋼をおこない、鉄鋼業の大躍進を力づくうながしたのであつた。

右翼日和見主義者の、人民公社は「早すぎた」とか、「やりそこなつた」とかいうたわ言が、マルクス・レーニン主義の原則にまつたく反するものであり、客観的事実にもまつたく反するものであることは、極めてはつきりしている。

右翼日和見主義者の言うところと反対に、人民公社化は、わが国の農業協同化を基礎として、さらに一段と生産力を發展させるためのひろびろとした前途をきりひらいたのである。

二

一九五八年の大躍進を基礎として、生産が大きな發展をとげるにつれて、広はんな農民は、従来の農業生産協同組合の分配制度を適当に改めることを要求するようになった。このため、人民公社の内部では、賃金制と現物給与制（主として食糧の給与）をむすびつけた分配制度がつづいてあらわれた。わが国のいまの人民公社で、なぜこうした制度をとらなければならないのか？ それは第一に、わが国は五億余の農民を擁する大国であつて、広はんな農民大衆の食の問題を見事に解決しないでは、いつさいの活動をより以上順調にやつてゆくことが出来ないからである。そこでわれわれは、建国いらい、一連の方針と政策をとつて、農業の發展をうながすとともに、農民の生活水準を一步一步ひきあげてきた。たとえば、土地改革のあとで、段どりを追つて、しかもわりあい短い期間内に農業協同化運動をやりとげたこと、社会主義の建設にあたつては、工業と農業を同時に發展させる方針をとつたこと、国家と農民の利益との関係では両者の利益をあわせ考慮する政策と等価交換の政策をとつていることなどである。これらの政策と方針は疑いもなくまつたく正しいものであり、しかもいちじるしい成果をおさめている。しかし、いぜんわが国は農業生産水準のきわめて低い国であつたため、数年らしいの努力をうじて農業生産の水準がひじょうに高まつたとはいへ、食の問題はやはり大きな問題であつて、広はんな農民は、毎年純収入の六〇ないし七〇パーセントを食の問題の解決にあてなければならなかつた。人民公社化いせん、農

村では、家族が多くて労働力が少ないため、自然災害に抗しきれない「赤字の農家」がまだ三〇パーセント前後あり、これらの農家は、国家の食糧貸付、資金貸付、農業税の減免、社会的救済により、協同組合による社会保険、公共福祉金による配慮、食糧の定量分配、賃金の超過借受けの認可などの一連の措置にたより、さらにまた、大衆の相互援助、相互救済などにたよって食の問題を解決しないわけにはいかなかった。人民公社化のご実施された食糧の現物給与制は、まさしく国家と農業生産協同組合がずつと実施してきた社会保険と集団的な相互援助の方法をうけつぎ、これを発展させたものであり、しかもそれを制度として確定したものにはかならない。この制度によって、農民は食の問題について保証を得、広はん農民、まず第一に貧しい農民は「年中食うことに追われる」という重い負担がとりのぞかれ、したがつてのびのびとした気持で農業労働に従事できるようになったことは疑いをいれないところである。これは、社会主義制度の解決しなければならぬ一つの大きな問題であつた。

第二に、人民公社はこの制度を實行して、はたしてやつてゆけるかどうか？ やつてゆける、というのがわれわれの回答である。まえに述べたとおり、人民公社の集団的な力は高級農業生産協同組合のそれにくらべて大きく、生産力はいつそう発展をとげており、自給のための生産と商品化のための生産はたえまなく増大している。人民公社内部で食糧の現物給与制を採用する条件がそなわつていたのである。たとえひどい災害に遭つたとしても、人民公社は、農民の力を十分に動員して災害にうち勝つだけの能力をもつてゐる。今年四川省はわりあい大きな災害にみまわれたが、人民公社の力にたより、部分的な植えなおしと蒔きなおしをおこなうとともに、節約しながら生活をしたので、災害をみごと乗りきつて、全農民の食の問題を保証することが出来たのであつた。

た。

右翼日和見主義者は、農民の食の問題を解決することがいまのわが国の状況下で大きな意義をもつてゐることがすこしも見えず、広はん農民、とりわけまず第一に貧しい農民のさし迫つた要求にすこしも関心をよせないで、人民公社が現物給与制をとるのは「労働におうじて分配する原則にそむく」、これは「絶対平均主義だ」と攻撃し、「とりやめるべきだ」と喚びたててゐる。しかし、絶対にこれをやめるべきでない、というのがわれわれの回答である。党の第八期中央委員会第六回総会の「人民公社についての若干の問題に関する決議」は、人民公社は賃金制と現物給与制をむすびつける制度を実施すると規定し、今の人民公社においては、基本的に、労働におうじて分配する賃金制を実施することを確定し、同時に、必要におうじて分配する芽ばえとしての性質をもつ現物給与制をも確定してゐるのである。これはひじょうによい制度であり、大きな前途をもつ制度である。こうした制度のもとで、四川省のいまの一般的な状況によれば、およそ労働能力のあるものならば、そのうけとる現物給与の中には、労働の量におうじてうけとるべき一部分の報酬がふくまれているのである。この部分の報酬と賃金をあわせると、およそ社員の総収入の七〇パーセント前後にたつする。完全に公社から現物を給与されるものは、労働能力を失つた老人と労働能力のない子供だけである。この現物給与の部分で社員の総収入の中でしめる比重は三〇パーセント前後にすぎない。社会主義制度のもとで、一定の程度の社会保険と集団的相互援助を実施することは、社会主義制度の当然おうべき責務であり、また、広はん農民大衆の当面の実生活上における必要にも合致するものである。賃金制と現物給与制をむすびつけた分配制度は、基本的にはまだ社会主義的な労働におうずる分配であつて、共産主義的な、必要におうずる分配ではない。賃金制の部分にいたつては、われ

われはやはり、党の第八期中央委員会第六回総会の「人民公社についての若干の問題に関する決議」中にしめされた原則にもとづいて、ことなる労働にたいしては適当な賃金差をもたせるよう定めている。四川省内江県の順江人民公社では、一九五九年には、この原則にもとづいて配分をあらかじめ計算してみた結果、社員が集団から分配をうける収入は、労働力のつよい農家では一九五八年にくらべて六五パーセントふえており、一般の農家では二六パーセントふえていて、労働力のつよい農家の収入の増加率は労働力のよわい農家にくらべて倍以上高い。そして、公社全体についていえば、社員の内九四・六パーセントはすべて昨年にくらべて収入がふえている。

この公社が一九五九年に予定した配分によれば、賃金の形で分配する部分と現物給与の形で分配する部分の比例は、七対三となつている。以上の事實は、人民公社が賃金制と現物給与制をむすびつけた分配制度を実施することは、労働におうじて分配する原則に違反するものではけつてなく、したがつて絶対平均主義でもないことを物語つている。

労働におうじて分配することが社会主義的分配の原則であることは否定できないが、だからといつてそれは、社会主義制度のもとにおいて、必要におうじて分配をうける共産主義的な要素が出現するのを排除するものではない。こうした要素の出現は必然的であり、しかも生産の発展にもなつて、しだいに大きくなつてゆくのである。

さらにまた、社会主義制度下における物質的奨励と、政治がいつさいを統率するということは不可分であることも認めなければならない。いいかえると、社会主義の段階では、われわれは労働におうじて分配するという原則を実施しなければならないが、しかし、報酬にこだわらないで、己を忘れてはたらくという共産主義的精神を

排斥するものではなくて、逆に、われわれはそうした精神を奨励しなければならないのである。社会主義建設は、広はん人民大衆自身の事業である。わが国の、貧しい、おくれた状態を早急にあらためること、これはわが国六億五〇〇〇万人民のつよい願いである。党の政治宣伝と呼びかけをつうじて、広はん人民の社会主義建設への積極性は、かならずささげることの出来ない勢いで行動のうえにはとほしりである。いぜん、革命根拠地では、われわれの部隊、機関、学校はいずれも現物給与制を実施していたのであり、広はん幹部と大衆をもつて献身的に奮闘したのである。大躍進らしい、広はん人民大衆は、天をつく意気込みで、自らすすんで己を忘れて働き、経済建設が飛躍的に発展をとげるといふ局面をうみだした。これらはすべて、政治がいつさいを統率するという党の方針がわれわれの事業にとつてきわめて重要であり、決定的なものであることを物語つている。したがつて、物質的な報酬と、政治がいつさいを統率するというこのことを結合すべきであつて、物質的な報酬をあたえるという原則を否定するのは正しくないし、政治思想工作をおろそかにすることもまた誤つてゐる。

農村における生産のめざましい発展にもなつて、農業労働力の不足という問題が生じ、労働の潜在力をさらにほりおこすこと、とりわけ婦人の労働力を解放して、大躍進の需要にこたえることが必要となつた。こうして、大躍進のさなかに、多数の共同食堂と託児所、幼稚園などの集団福祉事業の組織があらわれたのは、これまたきわめて当然なことであつた。共同食堂の出現によつて、社員労働時間が確保され、社員労働出勤率が高まり、労働能率が高まつた。こうして、大躍進らしい、農業労働量の激増によつて生じた労働力の手づまりとい

う困難はいちじるしく軽減された。共同食堂は、集団生活の組織形態でもある。当面の状況下では、広はんな農民は、共同食堂と、人民公社の実施している食糧の現物給与制とをむすびつけて考え、共同食堂が自分たちの生活を保証するものと確信しているため、集団にたよつて貧困にうち勝ち、災害をのりきるといふ確信をいつそうつよめている。したがつて、共同食堂はおのずと、農村における生産の発展、生活と宣伝教育活動の中心の場になつていたのである。四川省の農民が、「わしらの食堂は、倒そうたつて倒れん、潰そうたつて潰れはせん、追つ払おうたつて追つ払われるものか」と言つてゐるのはなんら怪しむに足りない。共同食堂はりつばに経営できるだろうか？ 出来る、というのがわれわれの回答である。われわれは、人民公社が農業の増産を指導して、農民に必要な食糧を確保するとともに、必要な野菜類をつくり、養豚をやつてゆく条件をそなえてゐると確信している。この三者があり、しかも所要の管理制度を確立したならば、どうして農民が共同食堂の経営に反対を唱えるだろうか？ もう一つ、共同食堂ではきつと浪費になるのではなからうか？ これにたいする回答は、食糧について、「各人の定量をさだめ、各戸へ分配し、食堂で食事をとり、節約して余つた分は本人のものとする」という政策を實行し、節約して生活することを提唱しさえすれば、浪費は完全にさげられる、ということである。右翼日和見主義者は、共同食堂を一から十までけなしつけ、あまつさえこれに解散を命じた。これらの右翼日和見主義者が共同食堂を解散させたその狙いは、人民公社をつぶすことにある。共同食堂を解散させることが、広はんな人民の願いにそむくものであり、大躍進の要求に合致しないものであり、まったく誤つてゐることは明らかである。

三

一年らしいの実践は、人民公社というこうした社会組織が、わが国の農村における社会主義建設をはやめる強力な武器であり、しかも、社会主義の集団的所有制から全人民的所有制へと一步一步移行し、将来は農村が社会主義から共産主義へと一步一步移行してゆくうえでの最良の組織形態であることを、いつそうはつきりとわれわれに認識させてくれている。

農業生産協同組合から人民公社に転じたことによつて、もともとあつた集団的所有制は、拡大され、高められ、また、全人民的所有制の要素をもいくぶんふくまれるようになった。そうした要素のしめる比重はいまのところまだきわめて小さいが、それは、わが国の農村における社会主義的所有制の発展の主な方向であり、農村経済にたいしてますます積極的な主導的作用をはたすことになるであろう。生産の発展、大衆の自覚の向上にもなつて、全人民的所有制の要素はいよいよ大きくなつてゆくであろう。これが、ぜひとも見てとらなければならぬ一つの面である。もう一つの面では、われわれは、農民を一步一步みちびいて、かれらをわりあい小さな集団的所有制から離脱させ、わりあい大きな集団的所有制を経て、全人民的所有制へとすすませる以外にないということ、ぜひとも認めなければならぬ。しかも、不完全な公社所有制から完全な単一の公社所有制へとすすむことは、わりあい貧しい生産隊の生産水準を、わりあいゆたかな生産隊のそれにまで高める過程であり、また、公共蓄積をふやし、公社の工業を發展させ、農業の機械化、電化を實現し、公社の工業化と国の工業化を實現する過程でもある。つまり、われわれが、集団的所有制から全人民的所有制へと移行する歴史的任務をやり遂げるには、こうした移行を實現するのに必要な各種の条件を積極的に、段どりをとおつて解決しなければならぬのであつて、その鍵は人民公社に強大な経済力をもたせるということである。

まず第一に、わりあい貧しい生産隊にたいする指導をつよめ、生産を組織し、生活を按排し、公共蓄積をおさめる面で適当な配慮をくわえ、そのうえさらに国家の援助をあたえ、これによつてわりあい貧しい生産隊の生産水準をわりあいゆたかな生産隊の水準にまで比較的はやく追いつかせるようにしなければならぬ。四川省での若干の典型調査によると、いまのところ、一万人前後を擁する人民公社のなかで、わりあい貧しい生産隊とわりあいゆたかな生産隊の収入の水準は、一般にその開きが二〇ないし三〇パーセントであり、一万戸前後を擁する人民公社のなかで、わりあい貧しい生産隊とわりあいゆたかな生産隊の収入の水準は一般にその開きが五〇ないし六〇パーセントである。ところで、農業の増加速度は、若干年のうちに、年間平均一〇パーセント以上の増加を維持することはまったく可能である。したがつて、公社がわりあい貧しい生産隊にたいする指導と援助をつよめさえすれば、二、三年、または四、五年のうちに、わりあい貧しい生産隊の生産水準をわりあいゆたかな生産隊の生産水準にまでひきあげるか、またはそれを凌駕させることは、これまたまったく可能である。

人民公社がいつそう強大な経済力をそなえるようにし、その公共蓄積をふやしてゆくには、人民公社は、国家と農民の両方面の食糧需要を保証するという前提のもとに、多角経営を發展させ、自給のための生産と商品化のための生産とを同時に發展させるという方針をとらなければならない。また、農業に必要な労働力にさしつかえず、そして、国家がこれを許すという条件下で、農業生産と社員の生活に必要な工業および企業を創設しなければならぬのであつて、一つの公社でやれないものは、地区委員会、県委員会の指導のもとに、いくつかの公社が連合して経営するか、または、県連合公社の枠内で経営してもよい。そうすれば、人民公社の経済力を早急に増大させることが出来るし、公社の全人民的所有制の要素もしだいに増大するであろう、重慶市郊外区の紅旗人

民公社は「一万人組合」であつて、生産が大きな躍進をとげたので、今年おこなつた公共蓄積は一九五八年の二倍半にふえた。公共蓄積の増大によつて、公社の経済は巨大なものとなり、今年この公社が直接経営する工業およびその他の多角経営の生産額は、五八万元にたつする見込みであり、全公社の工業生産総額の二五パーセントをしめるようになる。そして、一九六一年になれば、公社の直接経営する工業およびその他の多角経営による生産額は、全公社の工業生産総額の六五パーセントに達するようになる。ほかでもなく、こうした状況下で、大衆はあくまで公社の所有制を基本的なものとし、生産隊の所有制を部分的なものとするよう要求しているのである。いまのところ、こうした状況に類似した人民公社は少ないが、これらの公社の生産の急速な發展の中から、公社経済が大きく發展してゆく必然的趨勢をはつきりと見てとることが出来るのである。

人民公社により強大な経済力をもたせるには、上にのべたいくつかの重要な措置を実現するほか、さらに農業の機械化を早急に發展させなければならない。農業生産の大躍進という情勢下にあつて、しだいに労働の度合いをかるくし、生産力を大幅に高めるには、面積はひろいが人口のすくない地区で急速に機械化を実現する必要があるばかりでなく、人口の稠密な地区でさえもその例外ではない。問題は、人民公社に十分な資金の蓄積があるかないかということであり、とりわけ国の工業化の速度如何にかかつている。資金の面では、主として人民公社が逐年公共蓄積をつうじ、逐年再生産の拡大をつうじ、さらに必要な国家の援助をうけて、これを解決すべきである。これら人民公社がいまそれをやる以上、条件のわりあい劣っているいちぶの人民公社でも、ある期間努力をはらえば、どうして同じようにやれない理由があるだろうか？ わが国工業の發展速度が農業の機械化

の要求にこたえ得るかどうかについては、われわれは可能であると考え。わが国は、重工業を優先的に発展させることを前提として、工農業を同時に発展させる方針をとっているが、このなかには農業の機械化がふくまれる。われわれは、大躍進のなかで工業の配置の基礎をきずきあげたので、こんごはしだいに農業機械の生産をふやして、農業を支援することが出来るようになった。それと同時に、われわれは、全面的な機械化への過渡的段階として半機械化をおこなっている。農業機械化の技術的条件がととのえられ、したがって農業機械化のための時間をちぢめ、農村における農業機械化の可能なすべての面において、一步一步、しかもわりあいはやい速度で農業の半機械化と機械化を実現することが出来るようになった。

われわれは、人民公社をつうじさせれば、一定の期間内に、わりあい貧しい生産隊の生産水準を、わりあいやつたかな生産隊の生産水準にまでひきあげることが出来るし、人民公社が自給のための生産と商品化のための生産を同時に発展させるという方針を実施し、さらに必要であり、また国家の許す、公社経営の工業を発展させさせれば、人民公社にいつそう強大な経済力をもたせ、したがってまた公共蓄積をふやすことも出来るのである。われわれが、重工業を優先的に発展させると同時に、農業機械の生産を積極的にふやしさせれば、農業の半機械化と機械化をくりあげて実現するのをうながすことが出来るのである。そして、農業の機械化の発展はまた、人民公社がその組織の規模と各種の制度をこれに応ずるよう改善することを要求することとなる。したがって、中央の北戴河会議の決議の精神にもとづいて、三、四年、五、六年またはそれよりいくらか長い期間内に、大部分の地区の人民公社が集団所有制からしだいに全人民的所有制へ移行しうると考える完全な根拠がわれわれにあるのである。この任務が実現されたあかつきには、人民公社は、社会主義からしだいに共産主義へ移行

するといふ歴史的な任務をさらに一歩すすんで担つてゆくであろう。

① 毛沢東著「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」(中国語版) 人民出版社 一〇ページ

たえずわが国各民族の大団結を發展させよう

ウランフ

わが国各民族の人民はかぎりないよろこびをもつて、熱烈に中華人民共和国成立十周年を祝っている。

十年らい、われわれの国は、中国共産党と各民族人民の偉大な指導者毛沢東同志の英明な指導のもとに、歴史上もつとも偉大な社会変革をへて、民主主義革命の徹底的勝利と社会主義革命の全面的勝利をかちとつた。社会主義制度はすでにわが国において強固にうちたてられている。各民族地区の社会的面貌は根本的な変化をきたした。一九五八年からは、党と毛沢東同志によつてうち出された、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという総路線のかがやかしい光のもとに、社会主義建設の大躍進と人民公社化を実現し、社会主義建設の各戦線にわたつて歴史に前例のないかがやかしい勝利をおさめた。わが国の統一と民族の団結は、社会主義の土台のうえに、すでに一枚岩のように強固なものとなつている。

わが国は多くの民族が結合して成る統一した国家である。長い歴史の發展の過程で、各民族の人民のあいだに、経済の上のつながりと文化の上の交流が發展し、ひじょうに早くから統一した国家がうちたてられた。しかしながら、いぜんは、反動的支配階級の民族的圧迫の制度のもとで、わが国の各民族のあいだの地位は不平等であつた。帝国主義の侵入は、わが国内各民族人民の苦難をふかめた。こうしてわが国各民族の団結と發展はゆゆ

しい阻害をうけた。この百年らい、とりわけこの三十余年らいは中国共産党の指導のもとに、各民族の人民はともに反帝、反封建の革命闘争をすすめてきた。長いあいだの共同の革命闘争によつて、わが国の各民族人民はさうにかたく結合し、切りはなすことのできない血肉の關係が形づくられた。中国の人民革命の勝利、中華人民共和國の成立によつて、わが国における帝国主義、封建主義、官僚資本主義の反動的支配がくつがえされ、民族的圧迫の制度が徹底的にとりのぞかれ、国内各民族の間の平等、団結が実現し、わが国の民族關係が根本的にあらたまり、わが国は各民族の友愛協力、共同發展の新しい時代にはいつた。

十年らい、われわれの党と人民政府は全国にわたつて民族の平等と団結の政策を徹底的に遂行し、各民族の平等の権利と自治の権利を十分に保障し、民族の地域的自治を實行した。げんざいわが国にはすでに、内蒙古自治区、新疆ウイグル自治区、広西チワン（僮）族自治区、寧夏回族自治区とチベット自治区準備委員会および二九の自治州、五四の自治県ができてゐる。全国に自治区域と自治機關をもうける任務はすでに基本的になしとげられてゐる。各少数民族は、自治区域においていづれも憲法の規定にもとづき、主人公としての自治権を十分に享有してゐる。雜居し、また散居するすべての少数民族の平等の権利もまた、十分な保障をうけている。各民族は祖国の大家庭のなかで、いづれも平等の地位をもつて國務の管理と決定に参与し、いづれも国の主人公となつてゐる。

民族の平等と民族の地域的自治政策の徹底の実施によつて、各民族のあいだの団結、協力は急速に強まり、各民族人民の愛国心は大いに高まり、祖国の統一は一段と強固になり、各少数民族の人民がともに祖国の建設に参加し社会主義の道をすすむという積極性が十分に發揮され、各民族地区の経済と文化の建設事業の急速な發展が

促進された。

中華人民共和国が成立したとき、わが国の各少数民族のあいだでは当時なお、およそ三〇〇〇万ちかくの人口をもつ地域に封建地主の土地所有制度がたまたれ、およそ四〇〇〇余万の人口をもつ地域に封建的農奴制度がたまたれ、およそ一〇〇〇万の人口をもつ地域に奴隸制度がたまたれており、そのほか、およそ六〇〇万の人口をもつ地域に原始共同体制度の名残りが強くのこっていた。各少数民族地区の経済、文化の発展水準はいずれも一般に漢族地区より立ちおくれていた。多くの少数民族地区ではあい変らず「火田式」の耕作方法もちい、あるいは遊牧生活、狩猟生活をおくるものさえあつて、生産水準はきわめて低かつた。多くの少数民族はまた文字をもたず、そのうち一部の民族はものを記録するのに、依然として、木に刻みつけたり、繩に結び目をつけたりする大昔のままの方法によつていた。解放ののち、党と人民政府は少数民族の人民を指導して社会改革をすすめた。げんざい、少数民族人口の九五パーセント以上をしめる地域では、あい前後して民主改革と社会主義的改造をなしとげるとともに、整風運動と反右派闘争をすすめ、各種のブルジョア民族主義の傾向を批判し、政治戦線と思想戦線における社会主義革命の決定的な勝利をかちとつた。一九五八年にはまた漢族地区とともに、社会主義建設の大躍進の勝利をおさめた。また、農村では人民公社化を実現したが、人民公社に加入した農家は、すでにこれらの民族地区の農家総数の九〇パーセント以上をしめている。広はんな少数民族の人民は、すでに封建制度、奴隸制度ないしは原始共同体制度の束縛から解放され、ひとつまたはいくつかの社会発展の段階をとびこえて、直接社会主義社会に移つていった。チベット地区の民主改革運動も、いま嵐のような勢いですすんでいる。チベット人民もまた、民主改革をなしとげてのち、必要な発展過程をへて、かならず社会主義革命、社会主義建設と人

民公社化の大道をすすむことが予測できるのである。

十年らい、各少数民族地区の経済と文化の建設事業はいずれもひじょうに大きな発展をとげ、人民の生活はいちじるしく改善され、歴史的にのこされた各民族間の経済のうえの実際上の不平等は、一步一步改められつつある。とりわけ一九五八年の大躍進いらい、少数民族地区の経済、文化の面貌はさらに飛躍的な変化をとげた。全国の少数民族地区における一九五八年の食糧収穫高は、一九五七年より四一パーセント増加し、一九四九年の解放当時の二倍あまりに達した。工業生産総額は一九五七年より八四パーセント増加し、一九四九年の二倍あまりに達した。少数民族の畜産区の家畜数は、一九四九年から一九五八年までに二倍あまりにふえた。少数民族の人民の購買力は大幅の高まりを見せ、一九五八年の少数民族地区の商品販賣総額は、一九五二年の五倍あまりにふえている。文化・教育事業の面では、一九五八年、全国の少数民族の大、中、小学生の数は合計四六五万人となつている。これを解放まえにくらべると、大学生は三五倍、中学生は一〇〇倍、小学生は八倍あまりの増加である。いぜん文字をもたなかつた一部の少数民族は、げんざいすでに文字をつくり、さらに、その民族の文字による書籍、新聞、雑誌を出版している。社会主義の民族文化はいまめざましい発展をとげつつある。衛生事業の面では、一九五八年には、少数民族地区にすでに病院七五〇、療養所二五〇、ベッド数三万四〇〇〇あまり、衛生技術人員一七万余人をかぞえ、医療、保健、婦人・嬰兒衛生機構がひろく少数民族地区に設けられて、人民の健康にひどい危害をおよぼす一部の疾病はすでに基本的にいくいとめられるようになった。人民の生活が改善され、衛生・医療事業がすすめられたために、多くの少数民族の人口は、いずれも急激な増加をしめている。たとえば内蒙古自治区の蒙古族の人口は、自治区ができた一九四七年から一九五八年までのあいだに三〇余万人ふえた

が、これは同地区の蒙古族のものと人口の三六パーセントにあたつている。新疆の少数民族の人口は、一九五〇年から一九五七年までのあいだに五八万人あまりふえたが、これはもとの人口の一三パーセントあまりにあたつている。

少数民族の経済、政治、文化の急激な発展は、国家の力強い援助や漢族人民の力強い援助と切りはなすことができない。解放後の数年らしい、国家はまい年少数民族地区に巨額にのぼる財政上の補助をあたえ、各種の貸付金や救済金を出し、少数民族の教育事業にたいする補助費や衛生・医療補助費などの項目を設け、また多くの民族自治区に直接資金を投じて重点的な建設をすすめ、各民族自治区の経済、文化の建設事業の発展をたすけた。一九五二年から一九五八年にいたる七年間に、各民族自治区の工業基本建設にたいする国家の投資額はあわせて三四億一〇〇〇余万円になつた。同時にまた国家は計画的に、全国各地から青壮年を動員し、労働力の援助を切実に必要としている辺境の少数民族地区へ送つて、社会主義建設に参加させた。辺境の少数民族地区にいる人民解放軍も、すすんで、現地の人民による経済、文化の発展を助けた。彼らは、少数民族地区における工農業生産あるいはその他の経済、文化戦線にわたつて、ひじょうに大きな成績をあげた。幹部、技術人材などの面における国家の少数民族地区にたいする援助は、ことさらにのべるまでもない。こんご社会主義建設がひきつづき躍進をとげ、人民公社の優越性があますところなく發揮されるにつれて、われわれの国家と漢族人民の少数民族にたいする援助は、うたがいがいもなく、ますます大きくなるであらう。これらの援助は、各少数民族の急速な発展と繁栄にとつて、決定的な意義をもつている。各少数民族の人民はこうした援助にたいして心からの感謝の念をいだいている。もちろん、社会主義革命と社会主義建設の過程で、少数民族もまた積極的に国家の建設を支援し、

漢族人民を援助したが、これも同じようにひじょうに重要なことである。社会主義革命と社会主義建設事業のたえまない勝利にともない、社会主義的民族関係がすでにわが国各民族のあいだに普遍的に形づくられ、発展をとげている。中国人民革命の勝利、中華人民共和国の成立、労働者階級の指導する、労働同盟を基礎とした人民民主主義独裁制度の全国にわたる実現は、わが国に社会主義的民族関係をうちたて、これを発展させるための根本的前提であり、政治的土台である。民主改革の完成ののち、社会主義的改造が実現したことによつて、わが国の社会主義的民族関係のために、強固な経済的基礎がうちたてられた。全人民の整風運動の勝利、社会主義建設の全面的な大躍進と人民公社化の実現は、わが国の社会主義的民族関係を一段とかため、発展させるものであつた。こうした関係のおもな特徴は、各民族人民の、共産党の指導のもとにおける、そして、社会主義の土台の上に立つ、平等と相互援助、大団結と大協業、共同の労働と共同の発展である。

一九五八年いらい、わが国の各民族人民は、水利建設、大規模な鉄鋼生産およびその他いつさいの、工農業生産の高速度の発展をめざす社会主義建設大躍進の大衆運動のなかで、民族のけじめと地区の境界をうちやぶつて、大団結、大協業をおこなつたが、その規模の大きさ、範囲の広さ、熱意の高さはいずれも歴史に前例のないものであつた。甘粛省における洮河の水をひく工事は、わが国の各民族人民が大躍進のなかでしめした大団結、大協業の数多いきわだつた例のなかの一つである。洮河の水をひく施設は、海拔一〇〇〇余メートルから二〇〇〇余メートルの山のうえに設けられるが、全長一四〇〇キロにおよび、漢族、回族およびその他の民族が集り住みまた雑居する二〇あまりの県、市を貫流するものであつて、世界に有名なスエズ運河の八・五倍、パナマ運河の一七倍あまりにあたつている。せんぶの工事が完成すれば、一五〇〇万ムー*から二〇〇〇万ムーの畑を水田に変

え、一〇〇〇余万ムーに植樹造林をおこない、五万平方キロにわたつて水土保持を促進し、草原一五〇〇余万ムーを拡大することができるようになる。同時にまた、水路の落差を利用して、中型・小型の水力発電所を一〇〇あまりつくることのできるようになる。水運の面では、二〇トンから一〇〇トン程度の船が海拔一〇〇〇ないし二〇〇〇メートルあまりの山上水路を自由に航行できるようになる。この大工事は一九五八年から着工したが、甘肅省における漢族、回族、チベット族およびその他の各民族人民の心をひとつに合わせた協力によつて、岷県の古城から隴西県の大営梁までの六〇〇キロにわたる第一期工事は、今年のうちにはほぼ完成する見込みである。同地の漢族、回族、チベット族など各民族の人民は、この工事において無二の英雄的気魄をこめしめた。全省内の各民族人民は、わずか三カ月のあいだに、一二〇〇〇余万元の資金をあつめるとともに、自民族の優秀な人を工事支援のために派遣した。各民族の人民が互いに助け合つて行っている例は、全国にひじょうに多い。内蒙古自治区を例にとれば、一九五八年に漢族地区の「紅星」公社が大水害をうけて生活に困難をきたしたと聞くと、トモト旗「民族団結」公社は「紅星」公社にたたちに無償で馬鈴薯と白菜をそれぞれ一万斤*、飼料一〇万斤をおくつた。ウーユワン、ブトハなど農業地区の旗や県が燃料に欠乏した時は、牧畜地帯のウラト中後連合旗、チエンバルホ旗が一〇余万斤の燃料をあつめて彼らを助けた。また広西チワン（僮）族自治区の隆林各族自治县では、去年の鉄鋼大生産運動のさい、チワン族、ミヤオ（苗）族、ヤオ（瑤）族からなる六万人あまりの遠征軍をつくり、十日あまりの日数をついやして数百華里*の道のりを歩いて百色県と田林県をたすけた。各民族の人民はすべて、国家の社会主義建設にすすんで参加し、ほかの人をたすけることを無上の光栄としている。相互支援と協力の範囲は工業、農業から交通運輸業におよび、労働力、技術人員から生産手段や建設資金におよび、郷、公

社相互間から県と県のあいだ、州と州のあいだ、さては各省（市）、区のあいだにおよんでいる。相互の協力と支援の規模についていえば、数十人、数百人、数千人、数万人から数十万人という規模にたつしている。国家が内蒙古に建設した包頭鉄鋼コンビナートや新疆に建設したクラマイ石油工業基地など現代の大工業は、いずれも全国各地の各民族人民の大きな援助によつて建設されたものである。

大躍進の勝利をかちとるために、わが国の各民族人民は一九五八年いろいろ、先進者に学び、先進者に追いつく広はんな活動をくりひろげ、互いに見学しあい、互いに生産技術と建設の経験を交流しあい、友情にみちた競争をくりひろげたが、これはたちおくれたものを先進者に変えるうえにきわめて大きな推進的役割をはたした。たとえば広西チワン族自治区の三江トン（侗）族自治区は、もとは比較的におくれた県で、長年食糧不足になやんでいたが、一九五八年に同県の農業生産は一躍自治区第一となり、自治区ぜんたいの食糧増産の旗じるしとなつた。ところでその重要な原因の一つは、よその地区やその土地の先進的な増産経験を学び、これをひろめたことであつた。一九五七年の冬から一九五八年の末までに、同県ではよその地区の見学や自県内各地の見学を前後一〇〇回あまり組織している。そして三江の増産経験は、全国の数多くの民族地区の重視するところとなつて、見学者がひきもきらずおしよせてくるという有様であつた。一九五八年の秋にはさらにここで全国民族工作現場会議がひらかれて、彼らの先進経験がひろめられた。

人民公社はわが国各民族の経済、文化を發展させ、民族の団結を強めるための最もこのましい形態である。人民公社はいつそう広い範囲にわたつて、いろいろな民族の人びとが、おなじ人民公社のなかで、ともに働き、ともに生活し、互いに学びあい、ともに進歩するようにしてゆく。人民公社は、歴史的にのこされた民族間のへだ

てや民族的偏見を徹底的になくし、各民族の人びとのあいだの兄弟としての信頼、同志としての協力をたえず強めてゆくうえにこの上なく好都合である。また、各民族の人びとのあいだで互いに言語、文字を学びあい、たがいに先進経験やすぐれた文化の成果を吸収してゆくうえにこの上なく好都合であり、ひいては、わが国各民族の共同の発展と進歩にとつてもこの上なく有利である。

人民公社は規模のきわめて大きい、多くの種類の経済をいとなむ、工業、農業、商業、文化・教育、軍事を結合し、行政と社務の一体化した、もつとも新しい社会組織形態である。人民公社は農村における各民族の労働力をもつとも効果的にあますところなく動員し、合理的に按排し、各民族の生産についての特長をあますところなく發揮させ、各民族のあいだの相互協力を實現し、農業生産協同組合ではとてもやれなかつた各種の建設事業をおこし、各種経済の急速な発展をはかり、各民族人民の生活を急速に改善してゆくことができる。

人民公社はもとの農業生産協同組合にくらべていっそう多額の、いっそう増加速度のはやい共同蓄積をもち、公社内各民族の生産と生活をいっそう計画的に、合理的に按排することができる。人民公社ができたので、生産のうえでまだ比較的に立ちおかれており、そして生活のうえでまだ比較的困難のある一部の民族を援助して、彼らが、彼らより先を歩んでいる民族とともに共同の発展をとげることができるようにし、また、各民族人民の間の経済生活と文化生活の面における歴史的にのこされた実際上の不平等を、一步一步と、しかも急速になくしていつて、各民族の人民がのこらず幸福で豊かな社会主義の生活をいとなめるようにしてゆくことがいつそう容易になつてゐる。

社会主義革命と社会主義建設事業のたえまない発展のなかで、わが国各民族のあいだの接触はますます頻繁に

なり、つながりはますます緊密になり、互いに学びあい影響をあたえあうこともますます多くなつてきた。こうした状況は、各民族の人びとが同じ人民公社、工場、機関学校とともに働き、互いに学びあう面であらわれているだけでなく、各民族地区のあいだのつながりのかつてない強化のうえにもあらわれている。十年らい、われわれは各少数民族地区に一〇万キロちかくの自動車道路と数千キロの鉄道線路をきずくとともに、一七本の航空路をひらいた。これらの自動車道路、鉄道線路、航空路は漢族地区の交通線とむすびつき、そのために各民族地区のあいだの距離が大幅にちぢまり、中央と辺境のつながりが強まり、各民族地区間の経済と文化の交流および人と相互間の接触が便利になつた。同時にまた、国营商業網はすでにあまねく漢族地区と各少数民族地区に設けられ、へんびな農村や山地、牧畜地帯にもゆきわたつて、各民族の人民に奉仕しており、物資の交流をつうじて、わが国の各民族地区を、経済の面からいっそうよく一つに結びつけるようになってゐる。

いぜん、わが国の各民族のあいだには、社会の経済的しくみや政治制度の面、経済と文化の発展水準などの面で差異があつたが、こうした差異は、十年らいの大変革をつうじて、あるものはすでに根本的にあらためられ、あるものはげんざい急速にあらためられつつある。社会経済の所有制の面では、漢族地区と大抵の少数民族地区にいずれも共通の社会主義制度がうちたてられた。経済、文化の発展水準の面では、少数民族地区が漢族地区より立ちおかれていた状況が目立つてあらためられてきている。こうしたすべてのことによつて、わが国の各民族は、ともに発展し繁栄してゆくなかで、共通性が増すふえてきている。うたがひもなく、社会主義建設の大躍進と人民公社の強化、発展につれて、わが国の民族関係におけるこうした進歩的な趨勢はますますはつきりともあらわれてくるであろう。民族関係におけるこうした進歩的な趨勢にたいして、われわれは、これを熱烈に歓迎

し、積極的に贊助する態度をとらなければならない。

偉大なレーニンはかつてこうのべている。「社会主義の目的とするところは、小国家への人類の細分状態と諸民族のあらゆる分立とをなくし、諸民族の接近をはかるばかりか、さらに諸民族を融合させることである。」①レーニンはまたこうのべている。「プロレタリアートは、民族主義のどんな固定化も支持することはできない、——それは反対に、プロレタリアートは、民族的差異の払拭と民族的隔壁の消滅とをたすけるすべてのものを支持し、民族間の結びつきをますます緊密にするすべてのもの、諸民族の融合へ導くすべてのものを支持する。」②もちろん、わが国は現在まだ各民族の共同の発展と繁栄の歴史の時期にあるのであつて、各民族の融合までにはまだひじょうに大きな距離がある。各民族の融合はひじょうに長い歴史発展の過程である。各民族の高度の発展、繁栄という土台ができてはじめて、共産主義の実現をまつてはじめて各民族の融合は一步一步達成できるのである。レーニンはこうのべている。人類は、被圧階級の独裁のおこなわれる過渡期を経てはじめて階級の階級に到達できるのであるが、それと同じように、人類は、すべての被圧民族の完全な解放の過渡期を経てはじめて、諸民族の不可避的な融合に到達できるのである、③と。げんざい、わが国各民族のあいだには、言語と文字、風俗習慣、心理や素質などの面に差異があるだけでなく、経済、文化の発展水準の面もまだひじょうに不均衡で、経済、文化の領域における各民族間の事実上の不平等がまだ完全にはとりのぞかれていない。われわれはすべての活動のなかで、かならず各民族の発展の特徴に十分な配慮をくわえ、各民族のあいだの事実上の不平等をなくすために努力しなければならない。それぞれの特徴をそなえた各民族の文化は、社会主義経済の高度の発展を土台にして、発展と繁栄の時期をむかえるであろう。各民族の経済、文化の高度の発展と繁栄の土台があつ

てこそはじめて、ともに共産主義社会へはいつてゆけるのである。

げんざい、全国各民族の人民に課せられた光栄ある任務はすなわち、毛沢東同志をはじめとする党中央の指導のもとに、党のうち出した社会主義建設の総路線にもとづいて、社会的生産力を高速度に発展させ、こんご十五年か二十年、あるいはそれよりいくらか長い期間のうちに、わが国を、高度に発展した現代的な工業、現代的な農業と現代的な科学・文化をもつ社会主義の強国にきざきあげることである。これは光栄あるなみなみならぬ歴史的使命である。この任務をやりとげれば、わが国各民族地区の経済、文化の立ちおくれは根本的にあらためられ、わが国各民族の経済と文化の共同の繁栄が達成されるのである。この偉大な歴史的任務を達成するために、われわれはひきつづき、たえず国家の統一をかため、各民族のあいだの大団結を發展させてゆかなければならない。毛沢東同志は、「国家の統一、人民の団結、国内各民族の団結、これはわれわれの事業がかならず勝利するための基本的な保証である。」④とのべている。

わが国六億五〇〇〇万の人口のうち、漢族はおよそ九四パーセントをしめており、また、経済、政治、文化の発展のうえで、どの少数民族よりも先をあゆんでいる。漢族はわが国の各民族のなかで、先進的な、主導的な役割をはたしており、わが国の革命と建設事業の主力軍であり、少数民族の発展を助ける光栄ある責任をになつていく。少数民族の人口は、全国総人口の六パーセント前後をしめるにすぎないが、その総数は三、四千万人のぼるとともに、わが国の総面積の五割から六割にたつする広大な地域に分布している。少数民族の住んでいる地域には、各種の資源がきわめて豊富で、祖国の社会主義建設のなかで重要な地位をしめ、漢族人民の発展にとつてもひじょうに大きな助けとなつていく。したがつて、偉大な社会主義革命と社会主義建設の事業のなかで、わ

が国の各民族人民はかならず中国共産党と毛沢東同志の指導のもとに、統一された祖国の大家庭のなかで、漢族を中心とする大団結をたえずかため、発展させてゆき、そうすることによつて、社会主義建設をひきつづき躍進させなければならない。

祖国の統一をさらにいつそうかため、社会主義的民族関係をさらにいつそう発展させるため、また、わが国各民族地区の社会主義建設事業のいつそう大きな躍進を実現するためには、各民族の幹部と人民大衆にたいしてひきつづき社会主義、共産主義、国際主義、愛国主義の教育をおこない、各種のブルジョア民族主義的傾向に反対し、とりわけ各民族の幹部にたいしてプロレタリアートの民族観についての教育をすすめて、彼らが自覚をもつて各種のブルジョア民族主義あるいはそのこりかすを克服するようにしなければならない。

ブルジョア民族主義——大漢民族主義と地方民族主義は、ブルジョア思想が民族関係に反映したものであつて、一種の反社会主義の思潮である。これと、プロレタリアートの国際主義、愛国主義の思想とは根本的に対立するものである。こういう思想の存在は、わが偉大な祖国の統一と各民族間の団結、協力によつて不利であり、わが国の社会主義革命と社会主義建設事業にとつて不利である。

わが国の各民族人民は、中国共産党と毛沢東同志の指導のもとに、かつて全国にわたつて各種のブルジョア民族主義思想にたいするだんこたる闘争をすすめて、プロレタリアートの国際主義と愛国主義の思想は、すでにわが国各民族の心をつよくとらえており、ブルジョア民族主義の思想は社会的に相手にされなくなつていゝる。しかしながら、ブルジョアシヤの民族主義思想がわが国で絶滅されるまでにはまだほど遠く、大漢民族主義のこりかすであると地方民族主義のこりかすであるとをわすれず、これらのものは、今後なおいろいろな場合

に、とりわけ階級闘争の緊要な時期に、いろいろな形をとつてあらわれるであらう。これは長いあいだくりかえし政治闘争と思想闘争をすすめることによつてのみはじめて徹底的に克服することができるのである。

搾取階級はまだ最後的になくなつておらず、ごく一部の少数民族地区（たとえばチベット）ではまだ社会主義革命がおこなわれていないことを見のがしてはならない。帝国主義はいまなおわが国の各民族にたいして離間挑発の挙に出ている。搾取制度と生産手段の私有制が完全になつたのちでさえも、ブルジョア思想の影響はまだ人びとの頭のなかに長い期間のこるであらう。こうした影響は、民族問題の領域ではその他の領域におけるよりも一段と執拗にあらわれてくるであらう。なぜならここでは民族の外衣のもとに巧妙な偽装をこらすことができるからである。だからこそ、われわれはブルジョア民族主義あるいはそのこりかすにたいして、長期にわたるねばりづよい闘争をつづけなければならないのである。

毛沢東同志はわれわれに指示している。わが国の漢族と少数民族との関係がうまくいくようにする鍵は、大漢民族主義を克服することである。地方民族主義が存在している少数民族のあいだでは、同時に地方民族主義を克服しなければならない、⑩と。われわれは今後、實際活動のなかで、ひきつづきこの指示を徹底的に遂行しなければならぬ。一方において大漢民族主義の傾向にたいしてひきつづき警戒し、これを克服するとともに、他方ではまた、地方民族主義の傾向にたいしてもこれをおろそかにするようなことが絶対にあつてはならない。民族主義の傾向は、それがいかなるものであろうとも、かならずだんこたる批判をくわえ、これを克服しなければならない。

帝国主義と国内外のすべての反動派は、中国における彼らの失敗に甘んじるものではない。彼らはあいかわら

ずあらゆる手段をつくして、われわれの国家の統一と民族の団結を破壊しようとたくらんでおり、社会主義に反対し、わが国各民族の人民をふたたび奴隷化しようとする彼らの罪惡にみちた目的をとげようとくわだてている。もちろん彼らはその目的をとげることはできない。なぜなら中国の各民族人民はすでにかたく団結し、高い自覚をもっているからである。帝国主義と国内外反動勢力のいかなる陰謀、術策も、わが国各民族人民の団結の力によつて粉碎されるであろう。今年の三月、チベット上層の反動一味が帝国主義と外国反動派の策動のもとにおこした反革命叛乱がたちまち失敗におつたことは、このことをもつともよく証明するものである。しかしながら、われわれはやはり帝国主義と国内外のすべての反動勢力のがわからしめてくる、わが国の民族関係にたいする離間と破壊をかならず警戒し、絶対に敵の陰謀を実現させてはならない。

さらに一歩すすんで祖国の統一をかため、各民族のあいだの団結を發展させるためには、各民族の特徴に配慮をくわえ、人民内部に發生する各種の民族問題を正しく処理しなければならない。いろいろな民族の成員をもつすべての機関、団体、学校、工場、人民公社では、各民族の平等と団結、相互援助、相互学習、共同の進歩の原則を、ひきつづき徹底的に遂行しなければならない。いくつかの民族から成る人民公社では、社務委員会と社員代表大会のなかに、各民族がみな適当な数の委員と代表をもつように注意をはらうとともに、各民族の幹部の養成と抜てきに注意をはらわなければならない。生産と生活の面における各民族の特徴にたいしては、適当な配慮をくわえ、各民族の人のすぐれた点を十分に發揮させるようにしなければならない。各民族の風俗習慣については、かならず互いに尊重し合うとともに、互いに言語、文字を学び合い、各種の生産建設の經驗をたえず交流しなければならない。こうしてこそはじめて、各民族人民の互助協力と共同の發展に役立つのである。

中国共産党は、わが国各民族人民の中核的指導力である。毛沢東同志は、わが党と全国各民族人民の偉大な指導者である。党と毛沢東同志の指導は、われわれがすべての活動のなかで偉大な成果をおさめるためのもつとも根本的な保証であり、わが国各民族人民の最大の幸福である。各民族の人民は党と毛沢東同志に限りない愛情をいだいている。いぜんわが国各民族の人民は、中国共産党と毛沢東同志の指導のもとに、帝国主義、封建主義、官僚資本主義の三つの大きな山をくつがえして、人民民主主義革命の全国的勝利をかちとり、中華人民共和国が成立してからはまた社会主義革命と社会主義建設のかがやかしい勝利をかちとつた。

党の第八期中央委員会第八回総会は、われわれが一心同体となり、一致団結して、毛沢東同志をはじめとする党中央の指導のもとに、総路線と大躍進と人民公社の光榮ある旗じるしを高くかかげて、今年の国民経済計画を実現するため、三年くりあげて今年中に第二次五カ年計画のおもな指標を完遂するために奮闘することを、われわれによびかけている。わが国の各民族人民はこの偉大なよびかけにこたえ、さらに一段と団結をかため、社会主義建設のいつその大躍進をとげるために勇往邁進しよう！

① 「レーニン全集」(ロシア語版) 第四版 第二二卷 一三五ページ

② 「レーニン全集」(ロシア語版) 第四版 第二〇卷 一九ページ

③ 「レーニン全集」(ロシア語版) 第四版 第二二卷 一三五—一三六ページ

④ 毛沢東著「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」(中国語版) 人民出版社 一ページ

⑤ 毛沢東著「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」(中国語版) 人民出版社 二三ページ

* 一ムーは六・六六七アール (訳注)

** 一斤は〇・五キログラム (訳注)

*** 一華里は五〇メートル (訳注)

共産党員はマルクス・レーニン主義者

たるべきであり、党の同伴者たるべきではない

康 生

中華人民共和国の十年は、全国の人民が中国共産党と毛沢東同志の指導のもとに社会主義革命と社会主義建設事業の偉大な勝利をおさめた十年であり、マルクス・レーニン主義がわが国において偉大な勝利をおさめた十年である。

マルクス・レーニン主義は、闘争のなかで発展する。十年らしいわが国社会主義事業の勝利は、すべてマルクス・レーニン主義がブルジョア思想にたえずうちかつという条件のもとでおさめられたものである。全国の人民が中華人民共和国の成立十周年を熱烈に祝おうとしている前夜に、全党は第八期中央委員会第八回総会の呼びかけにこたえ、右翼日和見主義に反対し、総路線をまもり、堅持するための闘いを展開した。今日われわれはすでにこの闘争のなかできわめて大きな勝利をおさめている。わが国の広はんな勤労大衆は、工農業生産と社会主義建設のあらたな高まりをまきおこし、総路線、大躍進および人民公社にたいする右翼日和見主義者のさまざまな攻撃と中傷に力強い回答と反駁をあたえている。この闘争は、わが国における十年らしいのブルジョアジーとプロレタリアートの尖鋭な闘いの、新しい歴史的条件下における継続である。この闘争の勝利は、思想戦線、政治

戦線におけるわれわれのあらたな、きわめて大きな勝利であり、またわが国におけるマルクス・レーニン主義の、ブルジョア思想にたいする、新たな、きわめて大きな勝利でもある。

党の第八期中央委員会第八回総会の席上において、毛沢東同志は、党内の右翼日和見主義者がはじめからプロレタリアートの革命家ではなくて、プロレタリアートの革命の隊列にとびこんできたブルジョアジー、小ブルジョアジーの民主派にすぎないこと、彼らをはじめからマルクス・レーニン主義者ではなくて、党の同伴者にすぎないことを指摘した。プロレタリアートの指導するすべての偉大な革命運動のなかには、つねにさまざまな同伴者が参加してくるものである。レーニンはいっている。「大衆的な労働者党では、比較的大きな党派ならばいずれも、實際上、ブルジョア革命の時代においては、多かれ少なかれ種々の色合いの『同伴者』が参加して来るのはさげがたい。この現象は、ブルジョア革命を完全になしとげた、もつとも発達した資本主義諸国においてさえ、避けられないものである。なぜなら、プロレタリアートは、小ブルジョアジーのじつに多種多様な層とつねに接触し、これらの層のなかからつねに新しく補充されるからである」①と。レーニンはまたこういつている。「ブルジョア民主主義革命の過程で、わが党にはいつてきた人々のなかには、わが党の純プロレタリア的な綱領にひきつけられたのではなくて、主として民主主義のための党のめざましい精神的な闘争にひきつけられ、社会主義的プロレタリアートの闘争全体と関連なしに、プロレタリア党の革命的民主主義的スローガンをうけいれた一連の分子がいる」②と。

一九四二年の整風運動がはじめられてまもなく、毛沢東同志は、「多くの黨員は、組織のうえでは入党しているが、思想のうえではけつして完全には入党しておらず、ひどいのはぜんぜん入党していない」③と指摘した。

彼らは党内にとびこんだ非プロレタリア的な革命家であり、けつして真のマルクス・レーニン主義者ではない。毛沢東同志のこの分析は、全党員幹部の教育、彼らのマルクス・レーニン主義的自覚の向上にきわめて大きな役割をはたした。今日、毛沢東同志が、新しい歴史的条件、すなわちわが国の社会主義革命がさらに深化し、社会主義建設がすばらしい勢いで高まつているという条件のもとで、右翼日和見主義者の本質を指摘したことは、全党のマルクス・レーニン主義的自覚の水準を高めるうえに、おなじようにきわめて大きな意義をもっている。

わが党の歴史は、わが党が光榮ある、偉大な、正しいマルクス・レーニン主義の党であることを、反駁の余地なく立証している。わが党は、毛沢東同志をはじめとする党中央の指導のもとに、終始一貫プロレタリアートのだんこたる革命の方針によつて中国革命をみちびいてきた。わが党は大衆的な党であり、広はん大衆の間きわめて高い威信をもっている。わが党はきわめて広はん小ブルジョアジーを擁する国のなかできずかれ、発展してきたものである。わが党が過去長い間にわたつて指導してきた革命運動は、ブルジョア民主主義の性質をもつものであつた。したがつて、すくなくブルジョア民主主義者と大勢の小ブルジョア民主主義者が、プロレタリアートの隊列に活路をもとめ、プロレタリアートの前衛のなかにまで加わつてきた。これはなにも悪いことではない。プロレタリアートは彼らを改造するという歴史的任務をになつているのであるし、また彼らのなかのおおくのものを改造することができるのである。党は「若干の歴史的な問題にかんする決議」のなかで、「プロレタリア化されていない小ブルジョア分子の革命性は、どのようなものであるかと、その本質において、プロレタリアートの革命性とことなつており、しかも、そのちがいは、しばしば対抗的な状態にまで発展する可能性がある」④ということをとくに指摘している。したがつて、プロレタリアートの政党は、ブルジョアジーと小ブル

シヨアジの民主派の、彼らの本来の姿によつて党を改造しようとする企図にたいして、だんことして闘わなければならぬし、それと同時にまた、さまざまな方法によつて、彼らに大衆の革命闘争のなかでの実地の鍛練とマルクス・レーニン主義の思想教育をうけいれさせ、彼らを思想のうえで次第にプロレタリア化してゆかなければならない。わが党がたびたびおこなつてきた整風運動は、とりもなおさずこのことを目指したものであり、しかもきわめて大きな効果をおさめている。

ブルジョア、小ブルジョア、小ブルジョア、小ブルジョアの民主主義者は、プロレタリアートの革命の隊列に参加してのち、ひじょうにおおくのものが長い間にわたる革命闘争の鍛練のなかで、マルクス・レーニン主義の思想教育をうけいれ、しだいにブルジョア的な立場と世界観を捨て、プロレタリアートの前衛戦士としての立場と世界観をきずいていった。こうして彼らは、ブルジョア、小ブルジョア、小ブルジョアの民主主義者から、プロレタリアートのマルクス・レーニン主義者になつた。しかし、ブルジョア思想の深い影響をうけているうえに、自分を改造しながらも、終始それは少数ながらつねに在るもので、彼らのブルジョア的世界観は、長い間にわたる革命闘争のなかでも、終始それほどの変化をおこさず、全然もとの状態のままであるものさもある。彼らは、民主主義革命の段階においては、程度のちがいこそあれそれぞれ民主主義革命への積極性をもっているもので、マルクス・レーニン主義党の最低の闘争綱領には部分的に同意することもできるし、したがつて、党の指導と援助のもとで、革命のためにいくらかの有益な仕事をすることもできる。しかしながら、彼らと党との間には、はじめから原則上のくいちがいがある。党は民主主義革命におけるプロレタリアートの指導権を堅持し、民主主義革命の徹底的遂行を堅持し、それによつて、民主主義革命を徹底的に遂行したのち、停顿することなくただちに社会主義革命の軌道に転じてゆ

く。ところが、彼らは民主主義革命の指導権をブルジョアにわたすことを主張し、しかも、この革命を徹底的に遂行する決意をもたず、社会主義革命の心構えなどはなおさらもっていない。彼らのなかの一部のものは、民主主義革命の段階のある決定的な瞬間に党から脱離し、ひどいのは陳独秀、張国燾などのように革命の敵にさえなりさがつた。また一部のは、党内にふみとどまつたとはいへ、党の指導、党の正しい路線に抵触することとしよつちゆうあつた。社会主義革命の段階にはいり、幾百幾千万の大衆が党の指導のもとに、生産手段にたいするブルジョアの、小ブルジョアの所有制を廃止しようとしたその時、彼らと社会主義革命の間の矛盾はますます尖鋭となり、これらブルジョア、小ブルジョアの民主主義者の反社会主義的な姿はついにさらけ出されたのであつた。

革命の歴史は、もつとも容赦のない証人である。人びとはすべてその前で試練をうけ、また、自分のほんとうの姿をはつきり示さないわけにはいかない。スターリンはいつている。「方向転換——それは重大な問題である。方向転換は党の馬車にしっかりとつていない者にとつては危険なことである」⑤と。わが党内の同伴者は、革命の機関車がカーブをきつて新しい段階にさしかかつた時、一部のものが右翼日和見主義者に転落したが、これはまことにロジックになつたことであつて、けつしてなにもロジックにあわぬことではない。

こんにち、わが党と右翼日和見主義者とのあいだの政治上のくいちがいは、党の社会主義建設の総路線を堅持するが、それともこれに反対するかという問題のうえに集中的にあらわれている。党は、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという総路線を堅持し、右翼日和見主義者は、この総路線に反対している。党は広はん大衆がまきおこしたすさまじい社会主義建設のもりあが

りに、かぎりない熱情と希望をよせるとともに、だんこととして大衆の隊列のただなかに立ち、彼らを指導して偉大な目標にむかわせている。これに反して、右翼日和見主義者は、偉大な大衆運動に肝をつぶし、あたまから、これでは「大変な事」になるだろうと考え、いつもわきに立つてあれこれとあげつらい、大衆に冷水をぶつかけようなことをしている。党はいついかなる時であるかと問わず、革命のときであると、建設のときであるとを問わず、すべて政治を統率者の地位におき、党の指導的役割をつよめ、党と革命の隊伍の規律を強め、党の団結と人民の団結を強めなければならぬと考えている。これに反して、右翼日和見主義者は、プロレタリアートが権力をかくとくしたからには、革命はもう成功したとみてよく、党の指導的役割は弱めていつて差支えないと考えている。彼らはブルジョアジーの面貌に準じて党を改造し、世界を改造せんがためには、党と革命の隊伍の規律と団結を破壊することもいとわず、分裂をつくり出して、社会主義事業にきわめてゆゆしい損害をあたえようとたくらんでいる。

さしあたり、われわれと右翼日和見主義者との矛盾は、一般的にいつて、やはり人民内部の矛盾であり、敵味方の矛盾ではない。右翼日和見主義者は二面性をもっている。一方で、彼らはブルジョアジーの立場にたち、党の総路線に反対し、大躍進に反対し、人民公社に反対し、党の指導に反対する。これは彼らの反動的な一面である。他方、彼らは愛国心もち、また帝国主義に反対し、そのうえ、あいまい模糊としてはいるが社会主義を要求する傾向ももっている。これは、彼らの革命的な一面である。右翼日和見主義者がこのような二面性をもっているために、党は彼らにたいして「前の誤りを後のいましめとし、病を治して人を救う」、「批判はきびしく、処理は寛大に」という方針をとり、彼らの反社会主義的な思想に徹底的な批判をくわえ、そして、彼らが誤りを

あらためる決心をしさえすれば、彼らのどのような進歩をも歓迎するのである。

毛沢東同志が言っているとおり、「プロレタリアートは自己の世界観にしたがって世界を改造しようとし、ブルジョアジーも自己の世界観にしたがって世界を改造しようとする」⑩のである。ブルジョアジーとプロレタリアートの政治路線をめぐる闘いは、本質的には、この二つの階級の世界観の闘いである。党と同伴者との間の政治上のくいちがいは、とどのつまりは、世界観のうえのくいちがいにもとづくものである。

プロレタリアートのマルクス・レーニン主義の世界観は、弁証法的唯物論と史的唯物論である。わが党は一貫してマルクス・レーニン主義の弁証法的唯物論を堅持し、一貫して観念論と形而上学に反対してきた。毛沢東同志をはじめとする党中央は、まさにこのように厳格に弁証法的唯物論の世界観にもとづいて、党の基本任務と方針、政策を確定している。わが党はわが国の革命と建設のなかの問題を研究し、また政策を決定する場合、静止的に見ないで、運動のなかで見、過去に目をむけるだけでなく、将来にも目をむけ、緩慢な変化という進化論の凡庸な観点にしたがわずに、事物の弁証法的発展の法則にしたがっている。

しかし、党内の一部の同伴者は、まさにレーニンが言っているとおり、「一般にブルジョア的世界観、とくにブルジョア民主主義的世界観の、すべての伝統と決定的に絶縁できないで、マルクス主義のいくつかの側面や、新しい世界観の個々の部分や、個々のスローガンや要求を会得しているだけ」⑪である。そしてまた毛沢東同志の言っているように、彼らは問題を見る場合、つねに主観的で、一面的で、表面的である。今日彼らはまさにその調子でぶつぶつ文句を言い、党の総路線を非難し、大躍進を非難し、人民公社を非難している。彼らは客観的な分析にもとづいて社会の発展法則にかなった結論を出すのではなくて、彼らの主観的な願望にもとづいて物事

を判断する。彼らはいえ、何事にせよ彼らの主観的な願望にかなつておれば賛成し、主観的な願望にかなつていなければ反対するのである。彼らの主観的な願望といつても、実はブルジョアジーの願望である。こうした反動的な、主観的観念論のブルジョア的世界観こそが、あの右翼日和見主義者たちが反社会主義の泥沼にはまりこんだ思想的根源なのである。

主観的観念論が極端にまでこうすると、唯我論となる。一部の右翼日和見主義者は、党の批判をうけたのち、自分のまちがった思想を「経験主義」だと言っている。その実、彼らの「経験主義」は、ブルジョアジーの一種の主観的観念論である。こうした「経験主義」が極端にまでこうじると、つまり唯我論となる。彼らは、長い間党に対立してきた。あるものはさらに個人的な野心家にまで発展していったが、これこそ彼らのそうした唯我論的なブルジョア的世界観と切りはなすことのできないものである。彼らは人民大衆が歴史の創造者であることを否定し、おこがましくも自分で自分を救世主に見立てている。「インターナショナル」の歌も、世界にははじめから救世主などというものは存在せず、自分を救うものは、神様でも皇帝でもなく、ただ自分自身あるのみだといつている。この有名な歌の文句を、彼らは自分でも歌つていながら、すっかり忘れていたのである。

右翼日和見主義者の主観的観念論の世界観とわが党の弁証法的唯物論の世界観との闘いは、わが国の過渡期における当面の階級闘争の一種の反映である。

過渡期における階級闘争にたいする理解というものは、自己の経験と実践をとおしてはじめて一步一步深められるものである。今度の右翼日和見主義に反対する闘争は、過渡期における政治戦線、思想戦線での階級闘争が、たしかに長期の、曲折した、複雑な闘いであることをはつきりと証明している。この闘争が長期にわたるの

は、古い経済制度の改造がまだ徹底的に完成されていないためばかりでなく、ブルジョアジーと小ブルジョアジーの慣習の力、それに人びとの頭の中に存在するブルジョアジーの影響というものが、短い期間に拭いさられるものでなく、まだひじょうに長い時間をかけなければ徹底的に克服できないそのためである。一部の人は、経済戦線での社会主義革命が基本的に完成すれば、階級闘争は「終熄」するものと考えている。一九五七年の春のブルジョア右派の気違いじみた攻撃、今年の右翼日和見主義者の攻撃は、こうした無邪気な考え方をうちやぶつた。この闘争は曲折したものであり、起伏しながら波状に発展するものである。社会主義という条件のもとにおける階級闘争も、やはり時には高まり、時には低くなり、ふたたび高まり、ふたたび低くなりながら、時に尖鋭化し、時にやや緩和し、ブルジョアジーの思想的、政治的影響が完全になくなつたとき、はじめてこの闘争は停止するのである。この闘争は、敵味方の矛盾の問題もあれば、人民内部の矛盾の問題もある、複雑な闘争である。

一部の人は過渡期における階級闘争の法則について十分な認識をもたず、思想的に麻痺している。彼らは今度の右翼日和見主義に反対する闘争を意外に感じている。しかし、また一部の人は、党の力と大衆の自覚にたいする評価の不足から、党が右翼日和見主義の影響を急速に克服しうることを十分に評価していない。こうした考え方がまつたく誤つたものであることは、すでに事実が証明している。わが党は、ひさしきにわたつて鍛練と試練をへてきた、広はん大衆から熱烈に支持されているマルクス・レーニン主義の党であり、わが党には偉大な指導者毛沢東同志をはじめとする党中央の英明な指導があり、わが党には思想的に成熟したおおくの指導幹部がおり、われわれ全党は、毛沢東同志と党中央の周囲に堅く団結しており、われわれの戦闘は、向かうところ敵な

しである。わが党は一貫してさまざまな右翼日和見主義や「左」翼日和見主義とのたえない闘いのなかで発展し、成長してきた党である。右翼日和見主義の思想的影響を克服してのち、わが党と革命の隊伍はさらに堅固となり、わが党と革命の隊伍の団結はさらに強固となるであろう。

この右翼日和見主義との闘いにおいて、すべての共産党員は、わが国の過渡期における階級闘争の法則についてさらに認識を深め、プロレタリアートの革命家とブルジョアジー、小ブルジョアジーの革命家のちがいをさらにはつきりと見分け、プロレタリアートの世界観とブルジョアジーの世界観のちがいをさらにはつきりと見分け、だんことして右翼日和見主義に反対する闘いに参加し、さらによくマルクス・レーニン主義を学び、毛沢東思想を学び、徹底したマルクス・レーニン主義者となつて、党の同伴者にはならないという決意をかためるべきである。総路線の旗を高くかかげ、マルクス・レーニン主義の旗を高くかかげ、毛沢東の旗を高くかかげて、勇往邁進しよう！

- ① 「レーニン全集」(ロシア語版) 第四版 第一五卷 四二一ページ
- ② 「レーニン全集」(ロシア語版) 第四版 第一五卷 四一〇ページ
- ③ 「毛沢東選集」(中国語版) 一九五三年 人民出版社 第二版 第三卷 八七六ページ
- ④ 「毛沢東選集」(中国語版) 一九五三年 人民出版社 第二版 第三卷 九九三ページ
- ⑤ 「スターリン全集」(ロシア語版) 第一〇卷 三八九ページ
- ⑥ 毛沢東著「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」(中国語版) 人民出版社 二七ページ
- ⑦ 「レーニン全集」(ロシア語版) 第四版 第一六卷 三一八ページ

農業の技術的改造という偉大な任務の 実現を速めるために奮闘しよう

薄 一 波

毛沢東同志が「農業協同化の問題について」と題する論文のなかで提出した、わが国の農業協同化の段取りはわが国の社会主義的工業化の段取りと照応すべきであるという方針にもとづいて、われわれは一九五六年に農業の協同化をやりとげ、さらに、農業生産協同組合の強化と農業生産の急速な発展を基礎として、一九五八年には、党の社会主義建設の輝かしい総路線の光にみちびかれて、全国農村で人民公社化を実現した。人民公社化運動は、農業生産力をさらに一段と解放し、これによつて農業生産は工業生産と同様に大躍進をとげた。こうして、農業の発展は、いつそう工業の急速な発展の要求に適應するようになり、また工業の発展をもうながした。工業と農業が、よりいつそう歩調をあわせつつ、たえずぐんぐん大躍進をとげることが出来るようにするため、われわれの当面の任務は、社会主義的工業化をはやめると同時に、積極的に、しかも一步一步と、農業の技術的改造を実現し、農業の機械化と電化を実現することである。これこそ、重工業を優先的に発展させることを前提として、工業と農業を同時に発展させるという、党の方針の新しい情勢下における新しい内容なのである。具体的にいえば、つまり、わが国の農業生産を、主として人力によつて動かされる道具と畜力によつて動かされる道具

を使用している状態から、主として機械をつかう状態へと改めることであり、主として人力と畜力をつかう状態から、主として機械力と電力をつかう状態へと改めることであり、主として人力で加工した肥料をつかつている状態から、主として機械でつくつた肥料（化学肥料と有機肥料をふくむ）をつかう状態へと改めることであり、これによつてわりあい短い期間内に、わが国の農業を、いまのおくれた技術から、近代的な技術的基礎の上によつすようにすることである。

わが国を、おくれた農業国から社会主義の先進工業国へとかえていく過程はまた、おびただしい農業人口を、しだいに工業人口へとかえてゆく過程でもある。社会主義的工業化の過程で、農業の発展を工業および国民経済のその他の部門の要求にこたえられるようにし、これによつてそれらの発展をうながすためには、一方では、われわれは農産物の生産をますますふやし、農産物の商品化の率をいよいよ大きくしてゆかなければならぬし、他方では、農業にふりむける労働力をますます減らし、農業の労働生産性をいよいよ高めてゆかなければならぬ。

農業協同化の完成と人民公社化の実現は、農村における生産関係をたえまなく改革しており、これによつて、わが国の農業はなお基本的に人力によつて動かされる道具を使用しているという条件下にありながら、たえず発展をとげている。一九五八年のわが国の食糧の収穫高は五〇〇億斤*、綿花の収穫高は四二〇〇万担*にたつし、人口一人あたり平均して、食糧は七七〇斤、綿花は六・四六斤となり、前年よりも一人あたり食糧は一九〇斤、綿花は一・三一斤ふえており、これは疑いもなく非常な躍進である。だが、全人民の食糧需要をわりあい十分に満たし、繁殖してゆく家畜への飼料の需要を十分に満たすには、わが国の食糧の収穫高はすくなくとも今の

水準よりさらに倍以上ふやす必要がある。わが国人民の衣服の需要をわりあい十分に満足させるには、積極的に化学繊維の面から方法をこうじるがいに、綿布、綿糸、くり綿にたいする人民の需要だけについていても、綿花の生産高をこれまた少なくとも現在の水準よりさらに二倍前後たかめる必要がある。そして、その他の農産物と畜産物についていえば、いつそう大幅に増加させる必要がある。これが一面の状況である。

もう一つの面の状況は、一九五八年に、工業、農業その他の各事業の大躍進によつて、わが国が労働力のありあまる国から、労働力の相対的に不足した国にかわつたことである。都市で新しく増加した労働力が、都市の工業その他の事業の発展上の需要をみたしえなくなつていけばかりでなく、農村では、人民公社化が実現したのち、おびただしい婦人の労働力が家事から解放され、農村の生産と建設にくわつたにもかかわらず、やはり労働力の不足を感じている。河北省寧津県の紅光人民公社を例にとると、この公社では、一九五七—一九五八年度には一九五六—一九五七年度にくらべて、土壤改良にふりむけた労働力は二倍にふえ、肥料方面にふりむけた労働力は四倍にふえ、水利方面にふりむけた労働力はそれよりもつとふえた。この期間には、入念に耕作することがますますさかんにおこなわれ、平均一ムー*あたりの小麦畑に投入した労働量は三・六倍ふえ、平均一ムーあたりの綿畑に投入した労働量は六六パーセントふえ、その他各種の主要作物の栽培に投入した労働量も大幅にふえている。この公社の一人前の労働力と半人前の労働力はもとと一万八九五八人であつたが、一九五八年の九月から二月にかけて、国の工業建設を支援するために二〇〇〇人ほどを都市へおくり、公社経営の工業その他の事業に合計二〇〇〇人あまりをふりむけたため、公社にのこつて農業生産に従事する労働力はまえよりも減つてしまつた。昨年いろいろ技術革新をくりひろげ、労働組織を改善したし、今年の春からはいちぶの労働力を

公社の経営する工業から農業へひき戻したにもかかわらず、全公社の労働力の配置はいまなお困難を感じており、畜力もおなじく不足をつけている。

この両方面の状況は、わが国の国民経済の発展のなかで、新しい矛盾が日一日とはつきりあらわれて来ていることを物語っている。それはつまり、国の建設と人民の生活が、農業生産を倍ないし数倍ふやすことを要求しているのに、農業生産につかわれる労働力は、今の状況からみても、将来の趨勢からみても、増加できないばかりか、むしろ逆にたえず減つてゆく、ということである。これが、われわれのまに横たわっている一つの新しい問題であつて、この重大な問題は明確な方針によつて解決すべきものである。では、いかにしてこの矛盾、この問題を解決すべきか？ もちろん、われわれは、ひきつづき社員の労働意欲を高め、労働力を合理的に使用し、労働組織をあらため、先進的な生産方法をひろめ、管理制度を健全にし、労働規律をつよめるといった面から対策をこうじて、労働力のもつ潜在力をひきつづき掘りおこしてゆくべきである。実際、われわれはこの面でもいちじらしい成果をおさめている。だが、広はん農民が人力によつて動かされる道具を使用して生産をおこなっているといういまの条件下では、そうした潜在力の發揮には結局一定の限度があるということを知るべきである。したがつて、この矛盾を解決する根本的な道は、農業の技術的改造をはやめ、農業の機械化と電化を実現することである。

農業の技術的改造の実現は、農業それ自体だけでなく、工業のさし迫っている要求でもあり、広はん農民ばかりでなく、広はん労働者のつよい願望でもある。単独経営の経済の条件下では、これは、もちろん、実現するすべとてない。協同化の時期には、わが国の工業の基礎がまだきわめて弱く、また協同組合の規模もわりあい

ちいさかつたため、当時における農業の技術的改造は、ただ典型的な例で模範をしめすという方法をとつて、小規模にすすめるほかなかつた。ところが今では、人民公社化が成功し、社会主義的工業化のいちおうの基礎がうちたてられたことによつて、農業の機械化と電化のためのよい条件がうみだされているのである。

人民公社は、高級農業生産協同組合にくらべて、組織の規模がずっと大きく、活動の幅がはるかにひろく、集団化の程度がいつそう高いので、さまざまな事業を發展させ、多角経営をおこなうことが出来る。人民公社の内部では、いまのところまだ生産隊の所有制が基本的なものであるが、しかし、すでに部分的な公社の所有制がみられ、公社は毎年各生産隊から一定額の蓄積を納めさせることができ、これによつて公社の経営する事業を發展させることができ、全公社の生産と建設を統一的に計画してゆくことも出来る。これらはすべて、農業の機械化と電化の過程をはやめるのに有利であり、農業機械の効果をも十分に發揮させるのにも有利である。

農業を支援する工業の力はすでに大いにつよまつており、かつてわれわれがつくり得なかつたトラクターやトラック、またはかつては僅かしかつくり得なかつた排水・灌漑用の機械や化学肥料にしても、いまではすべて相当大量に生産できるようになつてゐる。農村に必要な鋼鉄、石炭、石油、化学製品、電力などの工業製品も、いまではすでに相当大量に供給できるようになつた。そればかりでなく、一九五八年の工業の大躍進によつて、わが国のひろい大地には、あまねく簡単な生産方法をとる中・小型の企業が新設されており、人民公社の経営する農具製造工場、農具修理・組立工場だけでも八万余をかぞえている。こうした、県の経営する工業と公社の経営する工業は、農業の技術改造をはやめる有力な突撃隊なのである。

要するに、農業の技術的改造を実現しようという要求はいよいよ切実なものとなつており、農業の技術的改造

の実現に有利な条件はますますふえてきている。したがって、われわれは、積極的な段取りをおつて農業の技術的改造をおしすすめて、農業の技術的改造と社会主義的工業化を同時に促進し、すでに経済的にしつかり組織されている五億余の農民を現代的な生産技術とむすびつけ、農業の生産を倍ないし数倍に高め、農業の労働生産性を数倍、一〇倍あるいは数十倍にも高めて、農民の収入を大幅にふやし、急速に公社と国家の蓄積をふやし、工業の国内市場を大々的にひろげなければならない。それと同時に、国の工業化、公社の工業化、農業の機械化、電化を実現していく過程で、われわれの人民公社は、ますます強大となつてゆく物質的、技術的基礎のうえにたつて、たえまなくうち固められ、発展してゆくことが出来るのである。一定の時間がたつて、条件がすつかり成熟したあかつきには、まず第一に社会主義の集団的所有制から社会主義の全人民的所有制への移行を実現し、つぎにはさらに社会主義から共産主義への移行を実現することとなる。そのときには、わが国の農村は、わが国の人民にかぎりなく豊富な食糧、工業用原料、畜産物、土産品、特産品を提供するばかりでなく、さらに億をもつて数える労働力を解放するであろう。このようなばう大な労働力は、いかなる国にもない。こうした力にたよつて、われわれは、いまよりもはるかに大きな規模で、われわれの工業を発展させ、われわれの運輸業を発展させ、われわれの文化・科学事業を発展させ、われわれに必要なあらゆる事業を発展させることが出来る。わが国のために、世界のために無限の物質的な富と精神的な富をつくりだすことが出来る。

農業の技術的改造を実現するには、まず社会主義的工業化をやりとげなければならず、工業化をやりとげさえすれば、農業の技術的改造はおのずから実現できるのだと考えるものがある。したがつてかれらは、いまはいつさいの力を集中して工業を発展させるべきであつて、農業の技術的改造をかまわなから、少ししかかまわなから

よい、と主張する。こうした観点はあきらかに誤つている。農業の協同化がまだ完成せず、工業の基礎がまだきわめて弱かつたときには、われわれの任務は、農業協同化の速度を社会主義的工業化の速度に適應させ、協同化をつうじて工業化をうながすことであつた。当時、党中央と毛沢東同志は、まず機械化してはじめて協同化がやれるという誤つた観点を批判し、社会主義的工業化と農業の協同化というこの二つの事がらをきりはなし、両者をたがいに孤立させるという誤つた観点を批判し、社会主義的工業化だけを強調して農業の協同化を弱めるといふ誤つた観点を批判したが、これはまったく必要なことであつた。というのは、その当時、もしも必要以上に農業の技術的改造を強調したならば、その結果は必然的に協同化の手をゆるめ、これをおくらせることになり、工業化にとつても不利であつたからである。新しい情勢が到来し、新しい任務が提出されている現在、批判しなければならぬ誤りは、あきらかにもはや上述の誤つた観点ではなくて、農業の技術的改造を積極的にすすめて人民公社を強化しようとせず、工業の発展をうながさうとしないという誤つた観点であり、社会主義的工業化と農業の技術的改造というこの二つの事がらをきりはなし、たがいに孤立させ、社会主義的工業化だけを強調して農業の技術的改造を弱めるといふ誤つた観点なのである。なぜなら、もしもいま社会主義的工業化を孤立的に強調し、農業の技術的改造をかまわなから、または少ししかかまわなから、もしも工業そのものの発展だけを考へて農業の技術的改造をはやめる積極的な段取りをとらず、いつまでも農業を手労働の水準にとどまらせておくならば、その結果は、農業の発展速度をいつそはやめることが出来ないばかりでなく、現在の農業の躍進速度を維持することも出来ず、それがまた逆に、工業のひきつづく躍進をもむずかしくしてしまふ。

現在、農業の技術的改造を積極的にすすめると、建設資金と生産手段を分散してつかうことになるから、工業

の急速な発展にとつて不利である、と考えるものがある。こうした観点もやはり誤つてゐる。かれらには、國家が一定額の資金を支出して農業を發展させると、いつそう多くの商品化食糧と工芸作物を得ることができ、それらがあれば輕工業はいつそう速く發展出来るし、農業と輕工業がいつそう速く發展すれば、國家のためにより多くの資金を蓄積することができ、こうして重工業の發展を速めうることが分らないのである。毛沢東同志は、はやくからこう指摘している。「重工業が農業を重要な市場としなければならぬ」というこの点については、いまのところまだ人びとにはつきり分かつていない。しかし、農業の技術的改革がしだいに發展をとげ、農業が日まに現代化され、農業に奉仕する機械、肥料、水利建設、電力建設、運輸建設、民需用燃料、民需用建築材料等々が日まに増加するにともなつて、重工業が農業を重要な市場とするという状況が人びとにたやすく理解されるようになるであらう」①と。毛沢東同志のこの論点は、昨年の大躍進のなかで、一段と証明された。一九五八年に工業が農業に提供した主な生産手段は三一億五〇〇〇萬元であり、第一次五カ年計画の期間中に提供した生産手段の合計五一億九〇〇〇萬元の半ば以上に相当する。そして、この年に農業が工業に提供した原料は約一四〇億元前後であり、これまた第一次五カ年計画の期間のどの年よりも多いのである。したがつて、この一年間に、農業は二五パーセントふえると同時に、工業も六六パーセントふえており、いぜんのどの年をも上回つてゐる。このことは、國家が農業への投資をふやし、農業にたいする生産手段の供給をふやせば、農業生産の發展をうながし、それがまた逆に工業のより大きな發展をうながすということを物語つてゐる。それと同時に、工業が農業を力づくよく支援すれば、逆に農業がいつそう力づくよく工業を支援できることを物語つてゐるのである。

これらの人びとの誤りは、根本的にいえば、社会主義的工業化は、工業内部の完べきな体系をうちたてることだけに満足すべきではなくて、この体系をうちたてることによつて國民經濟の各部門、とりわけ農業部門にたいする技術的改造をすすめるべきであるという点がかつていないことによるものである。また、社会主義的工業化は、先進的な技術をもつて各工業部門を武装するだけで満足すべきではなくて、農業その他の國民經濟部門を、工業部門にたいするとおなじように、すべて現代化した大生産の技術をもつて裝備すべきであるということも、かれらには分かつていないのである。社会主義的工業化の内容には、農業の機械化と電化の実現がふくまれている。農業その他の國民經濟部門にたいする技術的改造は、社会主義的工業化自体の要求であり、そしてまた、重工業各部門自体がはたさなければならぬ、他に転嫁することの出来ない責務でもある。輕工業ときりはなして重工業を孤立的に發展できると考えるのは正しくないし、農業ときりはなして工業を孤立的に發展できると考えるのも正しくない。六億五〇〇〇万をこえる人口をもち、しかも農民がその五分の四をしめてゐるわが國のような大國において、農業の技術的改造をはなれて完べきな社会主義的工業体系を孤立的にうちたててゐるといふことは決して考えられないし、わが國のようなこの大國において、工業がひじょうに急速に發展して、農業がきわめてのろのろとしか發展しないという事態がつねにみられるのを許しておいてもよいといふことは、これもまた考えられないところである。われわれのこの大國において、もしもただ「一本の脚で歩く」か、または「一本半の脚で歩く」とすれば、わが國の五分の四の人口に、腕をふるう余地がないといふような思いをさせることになり、それでは、工業戦線と農業戦線において嵐のような大衆運動を全面的にくりひろげることが出来なくなり、われわれの建設事業にひつそりした事態があらわれることは避けられないであらう。重工業を優先的に發展させることを前提として、工業と農業を同時に發展させ、重工業と輕工業を同時に發展させるという方

針は、社会主義経済が計画的に、つりあいをたもつて発展するという、この重要な法則の要求を反映しているものである。この方針を遂行すれば、われわれは社会主義建設のなかでのいろいろな一面性をまぬかれることができ、六億五〇〇〇万をこえる人民に労働者、農民をとわず、その積極性を十分に發揮させることができ、国民経済の各戦線にわたつて嵐のような大衆運動を展開して、工業と農業をたがいにつり合いをとつて高速度でぐんぐん發展させ、そして、国民経済の全面的な大躍進をかちとることが出来るのである。

周知のように、資本主義の特徴の一つは、工業と農業の対立、都市と農村の対立である。資本主義は、高額の利潤を追求するために、やはり農業の技術的改造を必要とし、しかもまた、一定の規模で、一定の程度まで農業の技術的改造を実現することが出来る。だが、それは絶対多数の農民の破産と失業の基礎のうえにうちたてられるものである。社会主義的工業化の過程は、必然的に新しい技術でたえず農業を裝備して、農業生産力を高める過程であり、そしてまた、農村と都市との差異をしないで縮小し、労働同盟をいつそう強固にし發展させてゆく過程でもある。社会主義制度は、一方では社会主義の共有制、他方では単独経営経済の私有制という二つの異なつた基礎のうえにうちたてることが出来ないのはいうまでもないし、また、工業の現代化された生産と農業の手労働の長期にわたる併存を放置しておくことも出来ない。わが国六億五〇〇〇万余の人民のうち、五億余の農民が人力によつて動かされる道具を使用して農業生産をおこなつており、労働生産性と農産物の商品化の率はいずれもひじょうに低いが、これは旧中国の遺産であり、わが国の経済がおくれていることを示すものである。われわれはすでに社会主義的工業化のいちおうの基礎をうちたて、人民公社化を実現しているのだから社会主義的工業化と農業の技術的改造を同時に發展させる必要があるばかりでなく、同時に發展させうる可能性をもつてい

このさいに、なおも農業の技術的改造を積極的におこなわないとするならば、それは重大な誤りを犯すことになる。

いぜんは、社会主義的工業化を農業の協同化とときはなして孤立的に進めることは出来なかつたが、現在でもやはり、社会主義的工業化を農業の技術的改造とときはなして孤立的に進めるべきではない。われわれは、社会主義的工業化と農業の技術的改造というこの二つの事がらを連けいさせて見るべきであり、農業の技術的改造の段取りと社会主義的工業化の段取りをたがいに照応させるようにすべきである。現代的な工業なしには現代的な農業はありえないし、現代的な農業なしには現代的な工業も、急速にたえ間なくぐんぐん發展することはむづかしいと断言できる。農業の現代化の度合いが高ければ高いほど、工業を支援する力もますます大きく、そしてまた、工業の急速な發展をますます促すことが出来るのである。農業協同化の完成と人民公社化の勝利によつて、わが国の労働同盟は、すでにしつかりと社会主義の共有制の経済的基礎のうえにうちたてられている。われわれが、社会主義的工業化の速度をはやめると同時に農業の技術的改造を積極的に一步一步実現し、機械をつかつて操作できるいつさいの部門とところはすべて機械をつかつて操作し、これによつて社会経済の面貌をすっかりあらためさえすれば、わが国の労働同盟は、おなじ水準の現代化した生産の物質的、技術的基礎のうえに、いつそう強固となり、将来都市と農村の差異、工業と農業の差異をなくするという偉大な理想を実現するための条件をつくりだすことが出来るのである。

わが国の農業協同化は、互助組、初級農業生産協同組合、高級農業生産協同組合という、こうした三つをかみあわせた段取りを経て人民公社へと到達したのである。わが国農業の技術的改造は、わが国の工業の發展にとも

ない、旧いものから新しいものへ、低いところから高いところへ、少数から多数へという過程を経て、しだいに実現されるであろう。この過程は、われわれの見積りでは、ほぼ十年前後の期間を要し、今年から四年前後には小範圍で解決され、七年前後には中くらいまで解決され、十年前後には全面的に解決される。言いかえると、一九六九年前後になると、わが国は、およそ機械をつかつて耕作できる土地では基本的に畜力による耕作をおこなわないで、基本的に機械をつかつて耕作するようになるし、およそ機械をつかつて灌漑する必要のある土地では基本的に人力による灌漑をおこなわないで、基本的に機械による灌漑をおこなうようになるし、農村での運搬は基本的に人力と畜力をつかわないで、基本的にトラックをつかうようになり、農業副産物の加工用具はすべて半機械化または機械化を实行するようになり、全国で生産される化学肥料の量は一ムーあたり平均になおすと現在の六〜七倍ふえることとなる。そうならば、自然との闘いのなかで、われわれはいつそう主動権をにぎるようになり、わが国の農業の面貌をすっかり改めることが出来る。

わが国の農村は人口がきわめて多く、面積がひじょうにひろく、各地方の自然条件と経済状況はそれぞれ異なっているため、また、農業を支援する工業の力はしだいに増大してゆくものであるからして、農業の技術的改造、農業の機械化と電化は、積極的に、しかも一步一步実行してゆかなければならない。当面、やはり新式の機械と改良農具を同時に発展させ、近代的なものと同じのものを同時に発展させてゆくべきである。四年内に、条件のそなわつているところでは、期間をわけ、ブロックごとに基本的に農業の機械化を実現すべきであるが、全国の多くの地区については、大量に採用されるのは改良農具と半機械化農具ということになる。七年後になると、大量に採用されるのは新式機械になるだろうが、改良農具と半機械化農具はなおその役割を發揮する

であろう。

当面、第二次五カ年計画の期間中に、われわれは、農業の技術的改造をすすめる面で、新式機械と改良農具を同時に発展させ、近代的なものと同じのものを同時に発展させるという方針をどのように実行すべきであろうか？

機械については、一方では、多くの地区、多くの農業生産部門では、いまある農具、揚水用具、運搬用具、農業副産物の加工用具を改良すると同時に、各種の新式用具、半機械化用具の研究、設計、試作をすすめてゆくことである。各県、各専区、各省、市、自治区ではすべて、農具その他の工具の研究所をもうけ、工具の改良についての研究試験をおこなうべきである。他方では、土地がひろく、労働力はすくないが、交通が便利で、農産物の商品化の率の高い地区、たとえば開墾地帯、工業の発達した地区、大都市の郊外区、工芸作物の栽培地区等々では、積極的に農業の機械化をおしすすめるとともに、まず第一にとりわけ骨の折れる手労働を機械で操作する労働へとあらためるべきである。

動力については、一方では、多くの地区、多くの農業生産部門では、主としていまある人力、畜力、水力、風力その他の動力を合理的につかうとともに、各種の役畜をまじめに保護し、大々的にその繁殖につとめることである。他方では、条件のそなわつているところではすべて、採用できる機械力を採用するとともに、中小型の発電所をふやしてゆくべきである。

肥料については、一方では、畜産業を大いに発展させて、畜肥、緑肥その他の有機肥料をふやすとともに、地もとの条件を積極的に利用し、旧式の生産方法によって効果のわりあいに高い化学肥料をつくるべきであ

る。他方では、国家は化学肥料工業を積極的に発展させて、各種の化学肥料を早急に増産すべきである。化学肥料の使用については、まず第一に国家の経済と人民の生活にもつとも関係のある重要な工芸作物と食糧作物の需要をみたすようにすべきである。

農村にいまある工具の改良であろうと、または新式機械の採用であろうと、すべてその土地、その時の具体的な状況にあつた方法をとることに注意を払い、まず試験をおこなつたうえで、しだいにこれをおし広めてゆくようにしなければならない。各地方の農業生産上の具体的な条件とことなつた要求を考慮にいれないで、杓子定規式に、一挙にやつてのけるといふやり方は、あきらかに有害である。とりわけ注意すべき点は、わが国の農民が長い年月にわたつて生産と取り組むなかで、ゆたかな経験を つんでおり、入念に耕作するという伝統をもっているということである。農業生産についての「八字憲章」ができていご、こうした経験と伝統はいつそう発展をとげるようになった。農業の技術的改造をすすめるにあたつて、われわれは、これらのゆたかな経験をくみとり、こうしたすぐれた伝統を發揚すべきであつて、いい加減にそれを否定したり、棄てて顧みなかつたりしてはならない。

農業の技術的改造の面で、新式機械と改良農具を同時に發展させ、近代的なものと旧式のものと同時に發展させるという要求にこたえるには、工業の農業にたいする支援もおなじく大型企業と中・小型企業を同時に發展させるという方針を實行しなければならない。

大型の工業企業は農業を支援する主力軍である。われわれは、農業生産に奉仕するための大型工業企業を積極的に發展させ、一群の農業機械工場、トラクター工場、動力機械工場、化学肥料工場、農薬工場、トラック工場

等々を拡充、新設し、農業の技術的改造に必要な各種の製品(石油などの燃料をふくむ)を出来るだけ多く増産するとともに、これらの製品の質をよくすることに注意をはらつて、しだいに現代的技術をもつて農業を裝備してゆかなければならない。

おびただしい中・小型の企業、とりわけ県、公社の経営する工業企業は、農業を支援する地方軍であり、輕視することの出来ない重要な力である。中・小型の企業はひろい地域にわたつて分布し、農村のちかくにあるため、ことなつた地区の具体的な需要をよりよく満足させることが出来る。これらの中・小型企業は、改良された農業生産用具を製造し、その他の農業の生産手段を生産して、大工業の不足をおぎなうことが出来るばかりでなく、さらにまた、農業機械その他の設備の修理任務もつけることが出来る。同時に、労働力資源のうえでは、地もとの農業生産とむすびつき、これを活用することが出来るし、物質的資源のうえでも、大工業では活用のできない、零細な、分散した資源を十分に活用することが出来る。われわれは、積極的にこうした中・小型の企業を發展させ、また、これら中・小型企業が農業生産と建設に奉仕するものであるという方針をいつそう明確にさせて、農業の技術的改造の面ですますふえてゆき、ますます高まつてゆく任務を担うことが出来るようにすべきである。

農業の技術的改造の速度をはやめるには、大型の工業企業は、農業に必要な各種の機械、動力、燃料、化学肥料を直接供給するにいがい、出来るかぎり中・小型の企業(県、公社の経営する工業をふくむ)の發展をたすけ、中・小型の企業に新しい設備、またはとりかえた古い設備を提供し、これらの企業に必要な原料と材料を提供し、これらの企業のために技術人材を養成すること等々によつて、これら中・小型の企業の技術水準をひきあ

げ、農業の技術的改造に奉仕するその能力を高めるべきである。

面積の広大な、生産技術のおくれているわが国の農村を現代技術をもつ農村へと全面的に改造するということは、きわめて困難な、大きな任務である。当面の問題は、党の指導をつよめ、全面的な計画をりつばにつくりあげることである。中央の各関係部門および省、市、専区、県、公社ならびに各級の関係部門は、農業の技術的改造の発展についての段取り、新式機械と改良工具の同時的発展、大型の工業企業と中・小型の工業企業の分業と協力、工業と農業の相互支援、都市と農村の相互支援、技術人材の養成、科学試験の発展などにたいして、すべて実際の状況にもとづき、全面的な、具体的な計画をたてるべきである。

われわれには、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつばに、むだなく社会主義を建設するという党の総路線および「二本の脚で歩く」というまとまった方針があり、社会主義的工業化と農業の技術的改造を実現しようとするいく億人民のかたい意志があり、主力軍と地方軍とがたがいに配合した工業力があり、そのうえ人民公社というこうした偉大な生命力を有する社会組織があるので、われわれが、予定された期間内に、農業の技術的改造というこの偉大な歴史的任務をかならずやり遂げうることは疑う余地のないところである。

① 毛沢東著「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」(中国語版)人民出版社三七ページ

* 一斤は〇・五キログラム(訳注)

** 一担は五〇キログラム(訳注)

*** 一ムーは六・六六七アール(訳注)

中国人民の勝利の国際的意義

王 稼 祥

中国人民の勝利は、中国歴史の新しい時代をひらいたばかりでなく、また大きな国際的意義をもっている。

中国革命の勝利は、帝国主義、封建主義、官僚資本主義に反対する民族民主革命の勝利である。この勝利は、プロレタリアートの指導のもとにかちとられたものであり、したがって新民主主義革命の勝利である。中国人民は民主主義革命から社会主義革命への移行を急速になしとげた。したがって中国人民の勝利はまた社会主義革命の勝利でもある。中国人民は、今日飛躍的な速度で社会主義建設をすすめ、中国の姿を急速にあらためつつある。したがって中国人民の勝利はまた社会主義建設事業の勝利でもある。

中国革命の勝利は、六億五〇〇〇万の人口をもつアジアの大国でかちとられ、おおくの帝国主義があらそって略奪しあつていた半植民地でかちとられ、アメリカ帝国主義の世界制覇の戦略計画の重点地区でかちとられた。したがって、中国人民の偉大な勝利はまた国際プロレタリアートおよび全世界人民の偉大な勝利でもある。

帝国主義は、かつて長い間中国人民の頭上にのしかかつていた最大の山であった。中国人民は、中国共産党の指導のもとに「愚公山を移す」の精神をもつて、長期にわたり、だんことして帝国主義とすどい闘いをすすめ、ついに帝国主義の支配をうちたおす目的をとげるとともに、中国における帝国主義の一切の支配権を徹底的

にうちくたき、中国における帝国主義の一切の勢力を肅清し、帝国主義のスパイ、特務その他一切の手先をだんこ鎮圧し、帝国主義がのこしていった一切の思想の毒素を一扫した。中華人民共和国成立後の十年間に、中国人民は祖国を守るために、またたえず帝国主義侵略勢力と重大な闘争をおこなってきた。ことに抗美援朝戦争においては、中国人民は朝鮮人民とともに、軍事技術のうえにひじょうな懸隔をもちながら、アメリカ帝国主義の武装侵略を粉碎し、アメリカ帝国主義にこつびどい打撃をあたえた。中国人民は、侵略根性をこりかたまつている帝国主義にたいしては、徹底的に闘つてこそ自己の勝利を守り、かためることができるのだ、ということをはつきりと知つている。

中国人民の勝利は、アジア、アフリカ、ラテン・アメリカの今日帝国主義と闘いつつある民族の間でひろく注意をよびおこしたが、これはきわめて自然なことである。アジア、アフリカ、ラテン・アメリカのおおくの国々と地域は、今日の境遇が、旧中国の境遇と似通つている。彼らが直面している何よりも重要な任務は、やはり帝国主義の支配と略奪に反対する革命闘争をおこなうことである。すべての被圧迫民族は、中国人民の勝利という事実を前にして、きつとこう考えることだろう。中国人民が赤手空拳という事情のもとで闘争をはじめ、頭をつべんから足の爪先まで武装した帝国主義をうちたおし、帝国主義の支配をねこそぎくつがえし、真の、完全な民族の独立をかちとり、帝国主義に反対する民族革命をことんまでやつてのけることができたからには、どうしてよその国で出来ないはずがあるろうか、と。

第二次世界大戦後、帝国主義の植民地支配に反対する民族解放運動は、はばむことのできない歴史の流れとなつてゐる。澎湃としてわきあがる民族解放運動を前にして、帝国主義の植民勢力は、ひきつづき帝国主義の勢力

を保存するために、ある国ぐににおいてある種の譲歩を余儀なくされた。そのため、彼らは、植民地、半植民地諸国の民族解放運動にたいして、血なまぐさい武力弾圧をおこなうほかに、さらに欺瞞と分裂、懐柔と譲歩の方法をとり、さてはある国ぐにの独立を認めるというようなことでして、ブルジョアジーに民族解放運動の果実を独占させ、それによつて、これらの国ぐにに徹底的な民族解放の局面が出現することを阻止している。数知れぬ歴史の事実が証明しているように、真の民族独立はけつして帝国主義からめぐみあたえられるものではなく、また帝国主義に哀願してえられるものでもけつしてない。民族の解放をめざす闘いが、もし、めぐみあたえられることを期待したり哀願にたよつたりする思想によつて支配され、帝国主義とだんこたたかわないならば、帝国主義に反対する任務を徹底的になしとげることができないし、たとえある程度の、あるいは表面上の独立をかせたとしても、依然として自民族を帝国主義の束縛から完全に脱け出させることはできないのである。中国人民の帝国主義に反対する闘争は、プロレタリアートの指導のもとにおける徹底した革命闘争である。中国共産党は全国のすべての愛国的人民を結集して、帝国主義と徹底的に決裂し、帝国主義のいかなる威嚇や恫喝をもおそれず、帝国主義のいかなる欺瞞や誘惑にものらず帝国主義にたいしてだんこたたる闘争をおこなつた。これは真の、完全な民族独立をかくとくする道である。

帝国主義がすべての植民地、半植民地において徹底的に葬りさらされる日は近づいている。わずかいくつかの帝国主義の大国が、地球上の広い土地を占め、人類の大多数を支配し、搾取した時代、帝国主義が被圧迫民族の反抗をほしのままに弾圧した時代は、すでに永久に過ぎさつてゐる。帝国主義に徹底的に反対する中国人民の革命の道は、解放をめざすすべての被圧迫民族にとつて、うたがいもなくますます大きな吸引力をもつてあろう。

中国人民の敵には、強大な帝国主義ばかりでなく、また強大な封建主義と官僚資本主義があつた。封建地主階級は帝国主義による中国支配の主要な社会的基礎であり、買弁ブルジョアジーの反革命支配の同盟者であつた。封建的な搾取制度は、中国が侵略され、圧迫され、貧困になり、たちおくれた根本の原因であり、わが国の独立と統一と富強をはばむ根本の障害物であつた。中国の人口の最大多数は、地主階級から封建的な圧迫と搾取を受ける農民であつた。そして農民は中国の民主主義革命の主力軍であつた。したがつて、中国の労働者階級とその前衛である中国共産党は、だんことして農民を指導し、おもいきり農民運動を發展させ、広はんな農民を結集するとともに、中国の具体的な特徴にもとづいて、農村で革命の軍隊を組織し、革命根拠地をきずき、農村が都市を包囲する革命戦争を長い間にわたつてすすめた。このようにして、労働者階級は農民と強固な同盟をむすび、封建主義に反対する革命をひじょうに徹底させ、帝国主義の中国支配の根底を永遠にとりのぞくとともに、こうしたしつかりした基盤のうえになつて、その後の民主主義革命から社会主義革命への移行に道をきりひらいたのである。

民主主義革命は、本質的には農民革命である。農民を動員し、封建主義反対の闘いをだんことしてすすめることによつてのみ、帝国主義に反対する強大な力を組織することができるのであり、でなければ、帝国主義反対の闘争はひよわい無力なものとなるであろう。したがつて、農民問題は、帝国主義反対の中心問題である。帝国主義とプロレタリア革命の時代においては、労働者階級だけが真の農民革命を指導することができ、農民を指導して土地制度の改革を徹底的に遂行することができ、広はんな農民を十分にたちあがらせ、組織して、強大な労働同盟を結成することができる。そして、こうした労働同盟にたよつてのみ、帝国主義と封建主義にうちかつことが

できるのである。現代において、農民問題の徹底的な解決は、ブルジョアジーに期待することはできない。ブルジョアジーは真の農民革命を指導することはできない。彼らは徹底的な土地改革をあえておこなわないし、また欲しもせず、それどころか、これに反対する立場さえとる。彼らは農民の不満をやわらげるために、せいぜい改良主義的な土地法令を出すくらいが関の山である。しかし彼らは農民大衆がめざめることをおそれ、労働者と農民というこの二つの革命的な階級が同盟を結ぶことをおそれ、農民の土地改革運動が、ブルジョアジーの利益のゆるす枠内を突破することをおそれる。そしていざ農民が起ち上がつて土地改革をやりだすと、彼らはたちまち地主階級とぐるになつて、農民運動の弾圧にのり出してくる。したがつて、ブルジョアジーの指導のもとでは、封建主義と帝国主義に徹底的に勝利することはできない。

毛沢東同志はこう言つてゐる。「労働者階級の指導なくしては革命は失敗し、労働者階級の指導があれば革命は勝利するということは、革命の全歴史によつて証明されている。帝国主義の時代においては、どのような国の他のどのような階級も、すべて真の革命を、それがどのような革命であるにせよ、勝利にみちびくことはできない。中国の小ブルジョアジーと民族ブルジョアジーが、たびたび革命を指導しながら、みな失敗しているのは、そのよい証拠である」①。われわれの民主主義革命は、ブルジョアジーの指導する旧民主主義革命とはことなり、プロレタリアートの指導する新民主主義革命であり、この革命の勝利は新民主主義革命の勝利であつた。

新民主主義革命の勝利ののち樹立された中華人民共和国が、第二次世界大戦後、アジア、アフリカにあらわれた民族ブルジョアジーの指導する民族独立国家と根本的な性質のちがひがあることは、誰の目にもあきらかである。具体的な歴史的條件によつて、これらの国々にの民族民主革命運動においては、プロレタリアートが革命の

指導権をにぎつておらず、そのために、独立後の権力は、ブルジョアの手におちた。これらの国ぐいで権力をにぎつていけるブルジョアは、帝國主義に反対し、民族の独立をめざす等の面では、ある程度歴史上の進歩的役割をはたしている。彼らは反帝反封建の革命的任務にたいして、進歩的で積極的な一面をもっているが、また、動揺してやまぬ裏切りやすい一面をもっている。彼らは程度の差こそあれ帝國主義に反対し、封建主義に反対する道を歩み、社会主義諸国の反帝闘争と世界平和を守る闘いにおいて友人となることができる。しかし、ブルジョアはやはり何といつてもブルジョアに変わりはない。ブルジョアが権力をにぎっているあいだは、だんこたる革命の路線がとれず、動揺と妥協の路線しかとれない。したがって、これらの国ぐいでは、社会主義への移行はおろか、民族民主革命の任務でさえ徹底的にやりとげることができない。そればかりか、すでにかくとくした民族の独立さえも、強固なものではなく、国内外の反動派の攻撃のもとに、しばしば逆戻りしてふたたび民族の独立をうしなう危険性さえもっている。

中国革命の勝利は、いぜん半植民地的、半封建的だつた国において、新民主主義革命から社会主義革命への転換を実現した一つの典型である。この転換実現の根本的条件は、プロレタリアートが民主主義革命のなかで革命の指導権をしっかりと握ることである。中国革命はまさにそのとおりであつた。民主主義革命が全国的な勝利をおさめるや、中国の労働者階級は全国の権力をにぎり、本質的にはプロレタリアート独裁であるところの人民民主主義独裁をうちたて、それによつて民主主義革命を停頓させることなく社会主義革命へと転換させた。つまり、民主主義革命の勝利をちとると同時に、社会主義革命を遂行するための権力の問題を解決したのであつた。

ある人は、経済的におくれた中国が、社会主義へ急速に移行できるだろうか、社会主義の革命的任務を急速に実現できるだろうか。資本主義発展の道がある程度歩んでから、社会主義革命に入る必要があるのではなからうか、という疑問をいだいた。中国革命の実践は、この問題に回答をあたえ、そうした誤つた見方をうちやぶつた。中華人民共和国が成立した時に、プロレタリアートが権力をにぎり、それと同時に帝國主義と官僚ブルジョアジーの企業を国有化したことによつて、社会主義への移行は開始された。反封建の土地改革の任務をなしとげたのち、ただちに大規模な社会主義革命が展開された。農業、手工業、私営工業にたいする社会主義的改造がそれである。中国社会主義革命の任務が、きわめて急速になしとげられたばかりでなく、きわめて順調に、徹底的になしとげられたことは、事実が証明している。

ある人は、中国のように人口の多い、貧しい、たちおくれた国で、社会主義工業化を急速に実現しようなどということは、思いもよらぬことだ、と考えていた。しかし、中国人民がいく重もの枷をかなぐりすて、社会主義制度をうちたてると、人民大衆は土地と機械の主人公となり、強制されていた労働は自覚的な労働となり、人口の多いことは、国民経済と文化のより急速な発展をうながすきわめて重要な要因となつた。「ひとつには経済的にたちおくれ、ふたつには文化的に白紙に近い」状態は、かえつて、六億五〇〇〇万中国人民の、祖国の強大化をめざして奮起する堅い決意をあげしうがした。こうして、わが国経済建設の高速度な発展の局面があらわされた。中国共産党と毛沢東同志が、マルクス・レーニン主義の原理と中国の実際を結びつけるという原則にもとづいて、「大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設する」という総路線をうちだすや、偉大な中国人民は天をつく革命的意欲を發揮して、怒濤のような社会主義建設

の大衆運動をまきおこし、無限の生命力をもつ人民公社を創設し、わが国工農生産の持続的な躍進をうみ出した。経済発展の水準のうえで資本主義の強國に追いつき追いつこうという中国人民の切実な願いは、実現することができるとし、また、それにはこれまで考えていたような長い時間を必要としないであろうことは、今日、誰の目にもあきらかである。

毛沢東同志はこう言っている。「人民が帝国主義、封建主義、官僚資本主義の支配をくつがえしたのち、中国はどの方向にむかつてゆくのか。資本主義へか、それとも社会主義へか。おおくの人びとはこの問題についてはつきりした考えをもつていない。が、事實は、この問題にすでに回答をあたえている。中国を救いうるものは社会主義をおいてほかにない。社会主義制度がわが国の生産力の飛躍的發展をうながしているというこの点については、国外の敵でさえも認めざるをえなくなっている」②

世界の資本主義がすでに没落し、世界における資本主義のもつとも発達したすべての國がすでに袋小路に首をつつこんでいる時代、ソ連その他の社会主義諸國がたぐいぬ繁栄と隆盛をむかえている時代にあつては、がんらい植民地、半植民地であつた國々にの人民にとつて、民主主義革命を徹底的に遂行する以外に、そしてまた革命を社会主義にむかつておしすすめる以外に、生きる道はない。一部のアジア、アフリカ諸國で権力をにぎつてあるブルジョアジーは、資本主義と國家資本主義の道を歩むことによつて経済を發展させようと考え、そしてそれを「民主主義」の道という美名でかざりたてている。だが、實際には、この道を歩んだところで、帝国主義と封建主義の圧迫や搾取からのがれることはできないし、そればかりでなく、どうかすると帝国主義や封建主義とぐるになつた官僚資本主義を生み出すことになりかねない。そうした状況のもとでは、工業の發展は、きわめて

緩慢な、苦痛にみちたものでしかなく、國家の工業化は根本的に実現をのぞめないし、人民の生活を根本的に「改善」するなどということはなおさらできない相談である。こうして、とどのつまりは、帝国主義の支配と束縛からのがれられないことになるのである。

十月革命前のロシアは、帝国主義諸國のなかでも、経済の比較的になちおくれた國であつた。しかし、社会主義制度をうちたててから、おくれたロシアは、急速に、強大な、すすんだ工業國になつた。これは、世界で最初に、全世界にむかつて、社会主義制度の比類ない優越性を実証するものであつた。偉大なソ連は、いきいきとした社会主義の手法をしめすことによつて、資本主義の制度を公然とかばう弁護士どもを破産させたばかりでなく、「社会主義」の名をかたつて資本主義にかえる第二インターナショナルの裏切者どもを破産させた。解放前の中国は、十月革命前のロシアよりさらに貧しい、さらにたちおくれた植民地、半植民地國であつた。しかし、社会主義制度をうちたててのち、中国の姿はすでに巨大な変化をとげ、いまや社会主義工業化の道を一瀾千里の勢いで突進している。このことは、ふたたび全世界に社会主義制度の比類ない優越性を実証するものである。そして中国の實際の経験によつて、植民地、半植民地國の人びとは、資本主義制度とすべてのエセ「社会主義」が、いずれも彼らの問題を解決してくれないことを、いつそうはつきりと理解できるようになつた。

中国人民の勝利は、マルクス・レーニン主義の普遍的な真理と中国人民の具体的実践が結びついて生れたものである。中国の経験は、長期間にわたる、複雑な、さまざまな形態の大衆闘争の経験の総括である。こうした経験のなかの重要な部分が、ある程度において國際的意義をもつものであることは、きわめて当然なことである。

中国人民の勝利は、世界の社会主義の勝利をいつそうかため、拡大した。中国革命は、偉大な十月社会主義革

命の継続である。世界人口のおよそ四分の一をしめる中国は、帝国主義の後方としての地位から離脱し、ソ連をはじめとする社会主義陣営にくわつたが、これによつて、世界の姿はさらにあらためられた。ソ連をはじめとする社会主義陣営のゆるぎない団結と経済上のたえまない共同の高まりは、すでに世界資本主義の社会主義にたいする包囲を永遠にうちくだし、また、社会主義と資本主義の力関係に根本的な変化をもたらしている。社会主義は、地球上の広大な土地のうえに根をおろし、無敵のものとなつてゐる。偉大な十月社会主義革命は、世界プロレタリアートの革命運動を植民地、半植民地の解放運動とむすびつけた橋梁である。旧い中国が世界で最大の半植民地国であつたことによつて、中国の革命と建設の勝利は、世界のプロレタリア革命を世界の民族解放運動といつそう緊密に結びつけ、社会主義が全世界において勝利をかちとるための確固たる土台をさらにうちかためた。

中国人民の勝利は、帝国主義の滅亡をはやめた。旧い中国は帝国主義という虎にかぶりつかれた肥肉だつたが、新中国は帝国主義に反対する虎退治の英雄となつた。旧い中国は、帝国主義の後方だつたが、新中国は帝国主義に反対する前線となつた。アメリカ帝国主義を頭とする国際反動派は、中国人民の勝利にたいして、極端な憎悪をしめしている。それは、彼らが中国人民を搾取しつづけることのできる市場を失つたためであり、彼らが社会主義新中国の建設事業の飛躍的な発展をおそれ、資本主義が中国のような大国で最後的になくなることによつて、世界資本主義の最後の運命に影響をあたえることをおそれ、中国人民の勝利と成果が、圧迫されている国ぐにと全世界の人民にとつて、かぎりない吸引力となることをおそれているためである。だがこうしたすべてのことからは、みな避けることのできないものである。

中国人民の勝利は、西方のブルジョアジーがこれまでふりまいてきた、有色人種はみな劣等民族であるの、白人種だけが優秀民族であるの、おくれた東方だの、すすんだ西方だの、その他等々といつた、反動的な古くさい観念をあらためさせた。実際には、それが何処であろうと、また有色人種であろうと、白人種であろうと、人民が社会の物質的な富と精神的な富の創造者であることに変わりはないのであつて、人民がいつたん社会の主人公となりさえすれば、白人種であろうと有色人種であろうと、誰でも驚天動地の大事業をやつてのけることができるのである。中国人民の勝利は、「すすんだ東方、おくれた西方。のぼる太陽は東にあり、おちる太陽は西にある」といつたレーニンの名言をあらためて実証するものである。

中国人民はソ連およびその他の社会主義諸国とともに、自己の勝利によつて、時々刻々、全世界の圧迫されている民族と人民大衆にむかつて呼びかけている。帝国主義の非運の時代は到来した。寿命の長くない帝国主義は完全にうちまかすことができるし、またかならずうちまかされるにきまつている！ 帝国主義の圧迫と搾取がなくなれば、どんなにすばらしい生活ができることだろう！ 社会主義制度はなんという大きな生命力をもつてゐることか！ と。中国人民の勝利はそのひとつびとつが、世界の被圧迫人民大衆のためには勇み太鼓をうちならし、帝国主義のためには吊いの鐘をうちならしている。中国の存在と発展は、帝国主義とすべての反動派が墓穴に入ることをうながし、世界の社会主義革命運動を鼓舞し、世界の民族解放運動を鼓舞し、帝国主義に反対して闘つてゐるすべての人びとを鼓舞している。中国人民の勝利は、全世界の平和を守る力を大々的に強め、鼓舞している。わが国は一貫して、相互の内政干渉と社会制度を異にする国ぐにの平和共存の原則を堅持してきた。しかし、社会主義はかならず資本主義にとつてかわるであろう。これは歴史の発展の必然の法則である。

われわれの前途は燦然とした輝きをはなつてゐる。中国人民はソ連人民とともに、その他の社会主義諸国の人民とともに、全世界の労働者階級と勤労人民とともに、すべての被圧迫民族とともに、全世界の平和を愛する人民とともに、肩をならべ、手をたずさえ、平和と社会主義にむかつて、共産主義の偉大な目標にむかつて、勝利の前進をつづけている。

① 毛沢東著「人民民主主義独裁を論ず」（中国語版）人民出版社 一四ページ

② 毛沢東著「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」（中国語版）人民出版社 一一ページ

中国共産党は中国人民の

社会主義建設の最高の統率者である

劉 瀾 濤

一九四九年、中華人民共和国の成立によつてわが国の歴史に新しい紀元がひらかれた。このことによつて、搾取と圧迫をうけていたわが国の数億の勤労人民は帝国主義、封建主義、官僚資本主義の罪惡にみちた支配から徹底的に解放され、歴史上はじめて全国的な範囲にわたる支配権力を獲得し、中国共産党は全国の政権を指導する唯一の革命政党となつた。十年らい、わが党はまたかぎりなくがやかしい行程をあとへんできた。党は全国の人民を指導して民主主義革命の徹底的な勝利をかちとるや、すぐひきつづいて社会主義革命の決定的な勝利をかちとり、また社会主義建設のかがやかしい成果をおさめてきた。わが国の人民が多年らい心をよせてきた社会主義制度は、わが祖国の広びろとしたたけな大地のうえにすでにしつかりとうちたてられた。これは中国におけるマルクス・レーニン主義の偉大な勝利であり、中国共産党の指導の偉大な勝利である。

建国ご十年このかた、中国共産党の組織はかつて見ない大きな発展をとげ、全党の黨員は一九四九年の四五〇万人から現在の一三九六万人にふえた。党の基礎組織は一九四九年の二五万から現在の二〇六万に発展した。都市と農村、工鉱業企業と人民公社、機関、学校と人民解放軍の各中隊には、すべて党の基礎組織がつくられ、全

国の各少数民族地区にも党の組織がつくられた。この十年らい、長いあいだ革命の戦火のなかで鍛えあげられてきたわれわれの古い幹部が社会主義建設の各方面の活動能力をいち早く身につけてきたし、同時に、労働者、農民、革命的知識人のなから数百万のすぐれた新しい幹部が拔てきされ、養成されてきた。これらの同志たちは政治、経済、国防、外交、文化、教育、科学、芸術などの各戦線で、光榮ある指導の責任をになつてゐる。十年らい、全党は数回にわたる整党と整風運動を経て、社会主義と共産主義の教育を徹底的、系統的にすすめて、実際からかけはなれ、大衆からうきあがつた主観主義、セクト主義、官僚主義の作風をきびしく批判し、社会主義の事業を妨害し破壊するブルジョア思想に集中的に反対するとともに、党の路線、方針および政策にそむくすべての誤りにたいして断固たる闘争をすすめて、党内にまぎれこんだ、万をもつてかぞえる反革命分子、階級的異分子、ブルジョア右派分子、法律や規律にいちじるしく違反するもの、およびその他各種の悪質分子を、わが光榮ある共産党の陣列から追放した。こうして、党の組織はこのうえもなく純潔な強固なものとなり、広はんな党員の共産主義的自覚はひじょうに高まり、これによつて、わが党の建設は高度のマルクス・レーニン主義的水準にたつした。

長期にわたる革命闘争をつうじて、わが党は全国人民とのあいだに切りはなすことのできない血肉の關係をうちたて、人民大衆のなかで高い威信をもつようになつた。党の各級の指導幹部と広はんな党員は、労働のなかでも、戦闘のなかでも、また各種の活動のなかでも、つねにわが身をかえりみず、公明正大な、私心のない精神をもつて、大衆と甘苦をともにし、艱難をともにしている。人民大衆は彼らをじぶんたちの心の底まで知つてくれる、よき友、よき同志と考え、彼らにたいして兄弟、姉妹のような氣持をいだいている。人民大衆は長期にわたる革命闘争をつうじて、中国共産党が広はんな勤労大衆じしんの党であり、中国人民の利益の唯一の代表者であるということをも身にしみて體驗してゐるのである。

中国共産党は、中国の労働者階級と勤労人民のなかでもつとも進歩的な、もつともすぐれた、もつとも勇敢な、共産主義的自覚をもつ人びとによつて結成された労働者階級の前衛部隊であり、中国労働者階級の階級組織の最高形態である。中国で社会主義と共産主義の偉大な目標を実現することはわれわれ共産党員の神聖な使命であり、マルクス・レーニン主義はわれわれのすべての行動の指針である。われわれの党は、毛沢東同志を先頭とする中央委員会の指導のもとに、マルクス・レーニン主義の普遍的な真理と中国革命の具体的な実践をむすびつける方針を堅持している。だからこそ、わが党は真に社会発展の法則とわが国の革命闘争の法則に通じ、革命の情勢の發展変化を正しくつかみ、歴史的な新任務をいち早く提出し、正しい政治路線と組織路線をさだめ、全国の人民を指導して一つの革命の段階からつぎの革命の段階へ、勝利から勝利へと進むことができるのである。歴史によつて証明されてゐるように、中国共産党はわが国の歴史上もつとも偉大な、もつとも光榮ある、もつとも正しい革命政党であり、政治的に完全に成熟したマルクス・レーニン主義の政党であつて、ただ中国共産党だけが、中国人民が革命と建設をすすめるうえでの最高の統率者となることができるのである。毛沢東同志は早くからつぎのように指摘している。「中国の民主主義革命と中国の社会主義革命といふこのような二つの偉大な革命を、その徹底的完成にみちびくのは、中国共産党をのぞいて、他のいかなる政党（ブルジョア政党であれ、小ブルジョア政党であれ）も、それをなしとげることではできない」①。したがつて、すべての革命闘争における党の指導的役割を断固としてあくまでつよめ、これをうちかためることは、わが国の社会主義事業を勝利にみち

びく根本的な保証である。

きわめて明らかなことだが、共産党の指導が必要かどうかという問題は、社会主義が必要かどうかという問題であり、中国の運命にかかわる重大な問題であり、また、わが国の過渡期におけるブルジョアジーとプロレタリアートの、資本主義の道と社会主義の道との「誰が誰に勝つか」の闘争のなかでの根本問題である。十年らゝい、わが国の数回にわたる広はん大衆の革命運動、なかんずく一九五七年のブルジョアジーの右派に反対する闘争の経験は、いずれもこの革命の真理を確固不動のものとして実証している。一九五七年にブルジョアジーの右派が攻撃をくわえた主な目標も、ほかならぬ中国の社会主義事業にたいする中国共産党の指導権であつた。だが、全国的な範囲における思想戦線と政治戦線での社会主義革命をつうじて、共産党はブルジョア右派分子の夢想したように「すべての陣地」から退くようなことはせず、すべての戦線にわたつて党の指導を空前に強めたのであつた。わが国のプロレタリアート独裁がなされたのではなくて、共産党の指導するプロレタリアート独裁の人民の天下がいちだんと強められ、一段と固められたのである。ブルジョアジーの右派は共産党ならびに人民と力くらべをした結果、恥ずべき惨敗をなめたのである。

げんざい、わが国の社会主義革命は、経済戦線、思想戦線、政治戦線のいずれにおいてもすでに決定的な勝利をおさめてはいるが、階級闘争はまだ決して終つてはいない。わが国の国外にはまだ帝国主義が存在しているし、国内にもまだ階級が存在している。都市と農村のブルジョアジーの反動的な思想活動と政治活動がまたおこなわれているし、彼らは機会さえあれば事をおこし、プロレタリアート独裁の基盤と社会主義の高樓をゆり動かそうとたくらんでいる。したがつて、ブルジョアジーとプロレタリアートの思想闘争と政治闘争は、まだやはり

長期にわたる複雑なものであつて、波のうねりのように起伏をつげながら発展し、ときにはひじょうに尖鋭なものとなりかねないのである。こうした闘争は、なお数十年にわたり、階級闘争が完全になくなるまでつづくのである。

ブルジョアジーとプロレタリアートとのあいだの食うか食われるかの闘争は、かならず党内に反映してくるものである。これはまた、すこしも不思議なことではない。ブルジョアジーの反社会主義的な思想傾向はつねに各方面からわれわれの党に影響をおよぼし、これをむしばむものであるし、帝国主義と国内外のすべての反動勢力はつねにあらゆる手をつくしてわが党内に彼らの代理人をさがしもとめ、党の内部、党の指導核心から破壊をすすめるものである。そして、わが党内の動揺分子とあやふやな分子はつねに彼らの影響をうけやすいし、党内にまぎれこんだ投機分子、階級的異分子、ブルジョア的世界観をもつ野心家もかならずブルジョアジーの立場に立ち、ブルジョアジーの世界観とブルジョアジーの願望にもとづいて、党を日和見主義の政党にかえ、これによつて、革命の指導権を奪いとるその目的をとげようとたくらむものである。民主主義革命の時期には、わが党内に、陳独秀、張国燾などといった、ブルジョアジーの党内における代理人があらわれた。社会主義革命の時期には、ブルジョアジーと小ブルジョアジーの生産手段所有制が全面的、徹底的に葬りさられようとするとき、かつて民主主義革命の時期にわが党に入つたが、社会主義革命の心がまえを少しもたない一部のブルジョアジーの革命家やマルクス主義者の同調者が、その反動的なブルジョア思想にうごかされて、かならず執拗に反抗にたちあがり、国内外の反動勢力と呼応して反党活動をすすめるのである。高崗、饒漱石の反党同盟は、とりもなおさず、帝国主義とブルジョア反革命分子の願望にかなつた、党内におけるブルジョアジーの代理人である。現在で

は、一部の右翼日和見主義者が、党の総路線に反対し、大躍進に反対し、人民公社に反対している。党にたいする彼らの攻撃の本質は、まさしくブルジョアジーの利益を代表して、社会主義革命と社会主義建設を破壊するところにある。きわめて明らかなように、もしも彼らの反党活動を徹底的に粉砕しないならば、党はブルジョアジーの反抗にうち勝ち、国家の指導権をしつかりとにぎり、全国人民を指導して革命と建設の勝利をかちとることではない。マルクス・レーニン主義の政党は統一された戦闘組織であり、かならず厳密な組織と鉄の規律がないければならない。党の団結と統一が党の生命である。党内には、いかなる日和見主義の分派が存在することも絶対に許されないし、党を分裂させ、党を乗っ取るうとするいかなる言動も絶対に許されない。これらの反党活動に同情したり、これを大目に見たりすること、あるいは反党活動にたいしてきびしい闘争をすすめるなかでいかなる妥協や動揺をしめすことも、その主観的な意図がどうあろうと、実際上すべてブルジョアジーをたすけ、プロレタリアートに反対することになるのである。

党の統一指導を保証するには、かならず政治がいつさいを統率するという方針を堅持し、社会の全分野でプロレタリアートの思想を興し、ブルジョアジーの思想を一掃し、マルクス主義の世界観にもとづいてすべての革命工作を指導しなければならぬ。思想工作と政治工作は永久にわれわれのすべての工作の魂であり、統率者である。プロレタリアートが統率しないところでは、かならずブルジョアジーが統率するし、党の思想工作と政治工作を放棄し軽視するところでは、かならず大衆からはなれ、方向を見うしない、横道にそれるのである。一部の人は、政治がいつさいを統率することにあくまで反対している。思想工作と政治工作によつては、食糧をつくり出すこともできなければ、鉄鋼をつくり出すこともできず、実際問題をなにひとつ解決することができない。

い、と彼らはこう言うのである。党の政治上の指導と大衆の実際活動を完全にきりはなし、政治と業務を完全にきりはなし、彼らのこうした考え方は、実際には党の指導的な役割を弱め、ひいてはこれを根本的に否定しようとするものである。いつたいせんたい、一九五八年におけるわが国の社会主義建設の全面的な大躍進と全国農村の人民公社化という偉大な勝利は、党のうちだした、政治がいつさいを統率するという方針にたより、大衆路線をだんこ貫徹したことによつてかちえられた歴史的な奇跡ではないのだろうか。

党の統一指導を保証するには、政府、軍隊、人民団体のいづれをとわず、また公安、法院、検察などの法政部門であると財政・経済、文化・教育、科学・衛生などの部門であるとせず、すべての革命組織をのこらず党中央と地方の各級党委員会（基礎組織の党委員会をふくむ）の統一指導のもとに置いて活動をすすめ、党の総路線と基本任務を実現するために闘争しなければならない。中国共産党は長期の試練をへた、人民の利益をもつともよく代表しうる政党であるから、すべての革命組織もまたみずから進んで党の指導をうけいれている。なぜなら、そうしてはじめて、すべての革命組織の活動は正しい方向をとり、明確な目標をもち、共通の革命事業のなかでその積極的な役割をはたすことができるからである。しかしながら、われわれは実際活動のなかで、よくつぎのようないちぶのところの指導者を見かけることがある。かれらは、じぶんのところの「独立活動」をすすめることに熱中し、必要な系統内の指導と上級下級の業務上の指導関係をうち立てることを必要以上に誇張し、ついに「素人は友人を指導できない」というとんでもない主張をとなえて、党に各種の権力を要求し、自己の指導するところを「独立王国」にしようとするのである。また、上級の業務部門の指導だけをうけいれ、地方の同級の党委員会の統一指導に服従したがる場所もある。あきらかに、こうした考え方や行動は、実際上、党

の統一指導を否定するものであり、また、地方の各級党委員会が中央の指導のもとでそれぞれその地区の最高の組織形態であり、指導の中核としての役割をもつということを否定するものである。こうした思想傾向はひじょうに危険なものである。こうした誤りを固執した結果、その指導する活動が党の指導と大衆の監督からはなれ、ひいては重大な政治的誤りをおかすにいたつた同志もすくなくない。

いちぶの同志は、口先では党の指導的役割を認めているが、しかし、かれらは、党は党外組織にたいしては政治上と思想上の指導をおこなうだけであつて、組織上の指導をおこなうことはできない、そうでなければこれらの組織の「独立性」に干渉することになる、などと言つてゐる。周知のように、党の路線、方針および政策は、党の各組織（国家機関と人民団体における党組織をふくむ）と全党員が広はん人民大衆を結集し、これをみちびくことによつて実現されるものである。組織上の指導は、政治上の指導をおこなうための保証である。具體的な組織上の指導をはなれ、国家機関と人民団体のなかの党グループと共産党員にたいする党の指導をはなれて、いつたいせんたい、党の路線、方針および政策を貫徹するどんな保証があるというのか？ それではもう、党の政治上、思想上の指導もなにもあつたものではない。ここで指摘しておかなければならないのは、彼らが党外組織における共産党員は無条件に党の組織上の指導に服従しなければならないということを否定するその本質は、自己を党から党外組織に派遣されて活動する共産党員とは考えず、共産党におけるギルドの代表のように考えるところにあり、また、党をプロレタリアートの最高の組織形態とは考えず、各団体の自由な連合組織のように考えるところにある、ということである。こうした考え方がまつたく誤つてゐることは、ひじょうに明らかである。じじつ、いかなる革命組織にせよ、共産党の指導をはなれた「独立性」なるものは存在しないのである。

これらの組織は、共産党の指導をうけなければ、かならずブルジョアジーの指導をうけることとなるだろう。レニンは一九一九年、労働組合が共産党の指導をはなれて「独立」しなければならぬというスローガンを反駁するにあつて、つぎのように指摘している。階級闘争のなかで、「独立性や民主主義一般についてのあらゆる言辭は、どういふ仮面をつけていようと、最大の欺瞞であり、社会主義にたいする最大の裏切りである」②と。党が党外組織を指導することに反対する人びとの行為は、まさしくこの真理を物語つてはいないだろうか？

また、ある人は、君たちがそうするのはそれぞれ「党と行政を区別しない」ことにはなれないか、と言つてゐる。われわれは、何よりもまず党と行政を区別しないことを主張するものであり、その後にはじめて党と行政を区別することを主張するのである。これが、この問題にたいするわれわれの回答である。プロレタリアートの指導するわれわれ社会主義の国では、一つの「政治設計院」があるだけであつて、二つの「政治設計院」があつてはならない。総路線と基本任務、活動の基本方針と全般的な配置は、すべて党が一元的に指導すべきである。すべての党外革命組織は、党の統一指導のもとに党の路線、方針および政策を貫徹してこそはじめて、方向をあやまらず、仕事をりつぱにやりとげることができるのである。もちろん、だからといつて、党が国家機関や人民団体などの党外組織の日常事務をすべて一手にひきうけ、共産党とすべての党外組織との原則的な区別をあいまいにしてもよいというのでは決してない。それとは正反対に、われわれは、共産党が原則のうえで他のすべての階級との区別をはつきりさせるだけでなく、また自階級大衆の最先頭に立ち、思想上、政治上、組織上その前衛部隊としての役割を断固はたすときにはじめて、党外組織をよりよく指導し、大衆の思想的自覚の水準と組織水準をいちだんと効果的に高めることができると考えてゐる。したがつて、いちぶの地方にみられた「党

と公社の「一体化」、「党と行政の一体化」といった現象もまた誤りである。こうしたやり方は、實際上、労働者階級の最高の組織形態と党外革命組織とを混同し、ひいてはプロレタリアートの前衛部隊としての党の役割をひくめるものである。われわれはすでにこうした誤りを批判し、是正した。

われわれの党は一貫して、集団指導と個人責任制をむすびつけた指導制度を堅持している。われわれは個人の役割は集団をつうじてはじめて正しくはたすことができるし、また集団指導も個人責任制とむすびつけてはじめてそのはたすべき役割を十分にはたすことができる、と考えている。一つの指導集団のなかには、責任の分担がなければならぬだけでなく、かならず全体の責任を負うものがないなければならない。ちよūd、一つの集団にはかならずつばな指揮者がいなければならない、一つの班にはかならずしつかりした班長がいなければならないのとおなじように、各級の党委員会にもまたかならずその指導の核心がなければならない。さもないと、船頭が多すぎ、それぞれ思い思いにやることとなり、足並みをそろえて共同の行動をとることは絶対にできはしない。これは常識であり、また真理でもある。右翼日和見主義者は集団指導と個人の役割との統一（党委員会と第一書記との統一）ということが全然わからず、彼らは第一書記の統率に反対して、これを「独裁」とか「民主的でない」とか言っている。そのじつ、彼らは、党の「独裁」なるものをうち倒して、彼ら自身が独裁しようとしているにすぎない。これは党の指導権を奪いとうとたくらむ手工口の一つにはかならないのである。集団指導における核心は、集団の知恵の集中的なあらわれである。重要な活動について第一書記が統率するというのは、第一書記がよき班長としての役割をつとめ、先頭に立つて仕事をうまくすすめることであつて、それは集団指導をはなれて個人の「独裁」をおこなうことでは決してない。各級の党委員会、とりわけ党の高級指導機関が、マル

クス・レーニン主義に忠実な、長期にわたる革命の烈火によつて鍛えあげられた、大衆と緊密に結びついた指導の核心をもつことは、わが党がいかなる困難や危険にもたえうる重要な保証である。右翼日和見主義者がその鋒先を党の指導にむけているのは、まさしく党の核心を解体させ、大衆の核心を解体させ、プロレタリアートの前衛部隊を解体させようとたくらんでいるのである。これにたいしては、われわれはかならず徹底的にバクロし、だんこたる反撃をくわえなければならない。

以上にのべたような、政治がいつさいを統率することに反対し、各級党委員会がはたす核心としての指導的役割に反対し、党が党外組織を指導することに反対し、第一書記が統率することに反対するなどといった、党の指導をひくめ、よわめ、ひいてはこれをなくそうとする誤りの本質は、ブルジョアジーの個人主義、自由主義、無政府主義が党内に反映したものであつて、プロレタリアートの党性とは根本的に対立するものである。長期にわたる革命闘争の経験と教訓、とりわけ反右派闘争と整風運動における経験と教訓は、簡単ではあるがもつとも根本的な道理をわれわれに教えている。それは、いかなる革命組織も党の指導をはなれたときには、かならず大きな誤りをおかし、よくない事をしてかすだけであつて、りつばなことは決してやれないということである。それはまた、いかなる革命組織も革命事業のなかで積極的な役割をはたし、大きな誤りを避けようとするれば、かならず自己を完全に党の指導のもとにおかなければならないことである。この問題については、かならず幹部と党員のあいだでつねにくりかえし教育をおこなわなければならない。おなじ経験と教訓はわれわれにつきのことをおしえている。それは、プロレタリアートの陣列のなかではブルジョアジーの個人主義がすべての悪の根源であるということ、共産党員、とりわけ党の高級幹部がもしも個人主義思想をもちながら、その克服につとめな

いなら、かならず党内で権力をうばい、利益をあらそい、ついには反党、反人民的な罪悪の道をすすむようになるということである。したがって、すべての革命組織にたいする党の指導の強化を党の思想工作の強化としつかり結びつけ、すべての党員幹部にたいし、党性の鍛練をつよめ、自覚的に党の従順な道具となるよう教育をおこなわなければならない。マルクス・レーニン主義の原則を堅持すること、党の指導をひくめ、よわめ、ひいてはこれをなくそうとする各種の誤った傾向をきびしく批判、克服し、各方面における党の指導的な役割をたえずうちかため、つよめること、これはわが党の建設におけるひとつの経常的な重要な任務である。

すべての革命組織とすべての革命工作にたいする党の統一指導を保証するため、党中央はこの根本原則を実行する一連の指導制度をさだめている。軍隊のなかでは、わが党は建軍いらい、党委員会の指導のもとで首長が責任を分担する制度を実施してきた。この数年らい、工場、企業の行政管理の面では、党委員会の指導のもとで工場長が責任を負う制度を実施しているし、大学・専門学校では、党委員会の指導のもとで校長をはじめとする校務委員会が責任を負う制度を実施している、等々。こうした制度の貫徹によつて、党の統一指導も保証されれば、行政面の指導者の責任感もあますところなく発揮され、したがって、党と大衆の連繫もひじょうに緊密なものとなり、大衆の積極性と創意性が最大限に発揮されるようになった。これは、毛沢東同志を先頭とする党中央委員会が、わが国の革命の経験にもとづいて、党の建設と大衆路線を創造的に発展させたものである。

全国で建国十周年の偉大な勝利をよるこび祝つているとき、またわれわれが、中国共産党はわが国の歴史上もつとも偉大な、もつとも光栄ある、もつとも正しい革命政党であるということをのべるとき、われわれの心はわきたち、われわれはかぎりない誇りをおぼえる。このとき、われわれは、わが国の民主主義革命の徹底的な勝

利、社会主義革命の偉大な勝利、社会主義建設のかがやかしい成果、そして、わが国のきわめて高い国際的地位は、わが党の偉大な指導者毛沢東同志の光栄ある名ときりはなせないものであり、必勝不敗のマルクス・レーニン主義にもとづく毛沢東同志の卓越した指導と切りはなせないものであるということに、おのずと思ひおよばずにはいられない。わが党と全国人民の偉大な指導者としての毛沢東同志の崇高な威信、毛沢東同志を先頭とする党中央委員会の崇高な威信は、わが党がすべての革命事業を統一的に指導する重要な保証であり、われわれの革命事業が勝利のうちに発展する重要な保証である。中国の革命と中国の建設の歴史的事実がこれまでも証明してきたし、今後ともひきつづき証明するであろうように、革命または建設事業が毛沢東同志とその指導のもとにあるときは、革命は発展し勝利し、建設事業は飛躍的な躍進をとげるが、逆に革命または建設事業が毛沢東同志とその思想の指導からはなれるときには、革命は失敗し、建設事業は挫折するのである。われわれの党と全国人民が長期にわたる革命闘争のなかでじぶんたちの偉大な指導者毛沢東同志をさがしあてたということ、これは、わが党の成熟をしめす標識であり、わが党の勝利をしめす標識である。毛沢東同志はわが国の英雄的なプロレタリアートのもつとも傑出した代表であり、わが偉大な民族の有史いらいのすぐれた伝統のもつとも傑出した代表者であり、わが国が共産主義への道をすすむ灯台であり、そしてまた現代のもつとも傑出した、マルクス・レーニン主義の革命家、政治家、理論家の一人である。毛沢東同志は一連の重大な問題のうえで創造的にマルクス・レーニン主義の宝庫を豊かにしている。暗黒にみちた反動支配のもとで苦しみをなめつくし、史上比類のないきびしい闘争をへて勝利をかちとつた中国共産党員と広はんな人民は、過去をしるのび将来を思うとき、つねに、きわめて親しみのある、しかも、かぎりない尊敬の気持をもつてじぶんたちの指導者に思いをよせ、毛沢東同志がわが

国の革命と建設事業の勝利をかちとるうえではたした決定的な役割に思いおよぶのである。わが国の六億余の人民は、じぶん自身の幸福、希望、将来を毛沢東同志に託し、毛沢東同志を共産主義の化身、真理の化身、必勝不敗の旗じるしと見ている。毛沢東同志の影響、知恵、経験、そしてまた、マルクス・レーニン主義の普遍的真理と中国革命の具体的実践とを創造的にむすびつけたその思想、すなわち毛沢東思想は、わが党とわが国人民のもつとも貴重な財産である。党の指導者にたいする熱愛は、党、階級、人民、そしてわれわれの偉大な祖国にたいする熱愛と完全に一致するものである。

われわれは毛沢東同志の勝利の旗をさらに高くかかげ、思想、政治、組織の面で、われわれの偉大な光栄ある党をさらに一段とつよめ、うちかため、毛沢東同志を先頭とする党中央委員会の指導のもとに、心を一つにし、かたく団結し、全国の六億五〇〇〇万の人民を指導して、順風にのり波をけたてて、勇往邁進し、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという総路線をだんこ貫徹し、わが国を一日も早く近代工業、近代農業、近代科学・文化をもつ社会主義の強国にきずきあげるために奮闘しよう。

① 「毛沢東選集」(中国語版)一九五二年人民出版社第二版第二卷 六四六ページ

② 「レーニン全集」(ロシア語版)第四版第二八卷 三九五〜三九六ページ

中国農業の社会主義的改造

一、中国農業の社会主義的改造の一般的な発展過程

鄧子恢

建国十年いらい、五億余の農民を擁するわが国の広大な農村は、その他の各戦線とおなじく、中国共産党と毛沢東同志の指導のもとに、社会主義的改造と社会主義建設の途上で、土地改革を完成し、農業の協同化を実現し、つづいて農業協同化の基礎のうえに、さらに人民公社化を実現するという、歴史的な意義をもつ偉大な勝利をかちとつた。農村の面貌には、きわめてふかい、根本的な変化が生じた。

全国解放いご、わが党はただちに新解放区で土地改革に手をつけ、一九五〇年から一九五三年まで三年のあいだに、全国にわたり封建的土地所有制を一扫して農民の土地所有制を実現し、生産力を解放して農業生産と全国民経済の急速な回復と発展をおしすめると同時に、農業の社会主義的改造のための前提条件をもつくりあげた。一九五三年に党中央が適時に公表した過渡期における総路線は、あたかも灯台のように農村のすみずみまで照らした。わが国の農業の社会主義的改造は、土地改革が成功裏に完成したその基礎のうえにただちに、「熱いうちに鉄を打ち」、全面的に段取りをおつて開始された。一九五二年の冬、土地改革が基本的に完成していご、

各地で互助組に加入した農家はすでに全国の農家総数の四〇パーセントにたつし、初級農業生産協同組合も三〇〇〇あまりつくられ、販賣購買協同組織、信用協同組織もあまねく設置された。一九五三年には、国家は、食糧およびその他のおもな農産物にたいして統一買付、統一販賣の政策をとりはじめた。一九五四年になると、全国の初級農業生産協同組合は一一万四〇〇〇余に発展し、一九五五年には六三万に発展し、組合に加入した農家数は全国の農家総数の一四・二パーセントを占めるようになった。広はんな農民がますます多く、積極的に農業生産協同組合に加入するというふうにした状況は、農業の社会主義的改造の高まりがすでに到来したことをしめした。党中央と毛沢東同志は、かならず到来するにちがいないこうした客観情勢を見てとつて、協同化にたいする農民の積極性を抑制する党内の右傾的な保守思想の誤りをいちやく糾正し、全党にたいし、この運動を積極的

に、あふれるばかりの熱情をこめて、計画的に指導するよう呼びかけた。ここにおいて、一九五五年下半期の農村における社会主義革命の高まりがあらわれ、一九五六年の下半期にはまた、完全に社会主義的な性質をもつ高級農業生産協同組合へとさらに発展をとげるようになった。生産手段の所有制の面で農業の社会主義的改造は基本的になしとげられた。この時から農村における資本主義的生長の基礎はとりのぞかれ、広はんな農民がともに豊かになる源がひらかれたのであつた。つづいて一九五七年には、農村であまねく整風運動、組合の体制整備運動および大がかりな社会主義教育運動が展開され、政治戦線、思想戦線における社会主義革命の決定的な勝利をおさめた。これによつて、農業の社会主義的改造の勝利はいちだんと強化され、発展をとげ、全人民的な社会主義・共産主義思想の大解放、農業生産の大躍進という新しい局面が出現したのであつた。

一九五八年の下半期に展開された農村の人民公社化運動は、とりもなおさず、思想の大解放と生産の大躍進を

基礎としてうまれたものである。それは、党の社会主義建設の総路線の産物であり、わが国の政治経済の発展の産物である。それは、高級農業生産協同組合の発展であり、生産関係は生産力の発展に適應しなければならぬという客観的な法則の反映であつて、偶然に出現したものではない。だからこそ、数カ月のみじかいあいだに、広はんな農民の自覚と自発的な意志にもとづいて、もとの七〇余万の農業生産協同組合が合併して二万六〇〇〇余の人民公社となり、人民公社化を実現したのである。農業、林業、畜産業、副業、漁業を全面的に発展させ、工業、農業、商業、文化・教育、軍事を結合し、行政と社務を合体させたことを特徴とする、大規模な、総合的な人民公社の出現は、わが国における画期的な、大きな歴史的意義をもつ出来事であり、わが国の農業が新しい発展段階に達したことをしめす標識である。人民公社の出現はさらに深遠な意義をもっている。それは、わが国の社会主義建設をはやめ、共産主義への移行を準備するうえでもつともよい社会組織形態を提供したということである。「共産主義は楽園であり、人民公社はかけ橋である」。広はんな大衆は人民公社のことを、社会主義を建設し、さらに社会主義から共産主義へとすすむ「幸せな橋」だと見ている。広はんな農民は、いままさにこのひろびろとした大道にそつて未曾有の速度で社会主義をめざして飛躍的な前進をつづけているのである。

二、中国農業の社会主義的改造の偉大な歴史的意義とその特徴

わが国は小農経済が絶対優勢を占めていた国であり、この小農経済を集団経済へとあらためることは、わが党が全国における民主主義革命の勝利をおさめたのちのもつとも複雑な任務のひとつであつた。われわれが、土地

改革を完成したのち、急速に、たえまなく農業の社会主義的改造をおしすすめなければならなかつた所以は、それがきわめて大きな歴史の意義をもつていたからである。

第一は、わが国を社会主義国へときずきあげるためである。当時のわが国の経済のしくみは、まさしく劉少奇同志がのべているとおり、「社会主義経済もあれば資本主義経済もあり、さらに単独経営経済もある」のであつて、党の過渡期における総路線は、とりもなおさずこうした「複雑な経済のしくみから単一の社会主義経済のしくみへ移らせる」ことであつた。そして、わが国が農業国であり、また、土地改革いご、「大海原」にも似た小農経済が全国民経済中できわめて大きな比重をしめていたため、農業の社会主義的改造をおこなうことは、過渡期の総路線を完遂するうえでの並々ならぬ、きわめて重要な歴史的任務でもあつた。当時、広はんな農民大衆のあいだでも、ふたつの発展の道の闘争が存在していた。すなわち、一方では、広はんな貧農および中農の下層の互助協同化への積極性が大いに高まつており、かれらはあくまで社会主義の道をすすもうとしていたし、他方は、少数の富裕中農の、「単独経営で儲け、搾取で財産をつくる」という資本主義の自然発生的な勢力も抬頭していた。こうした状況をもしも発展するがままにまかせておいたならば、かならず「一軒が富み、百軒が貧困化する」という新しい階級分化が生じ、資本主義を農村にはびこらせて、広はんな農民がふたたび少数の富農の搾取をうけることになつていたのであろう。まさしく毛沢東同志がのべたように、「農村の陣地は、社会主義が占領しなければ、資本主義が占領するにちがいない」のであつた。事實は、広はんな幹部と広はんな農民を教育した。組織化して互助協同化の道をあゆむことこそ貧困を脱し、ともにゆたかになる唯一の幸せな道であり、また農業の社会主義的改造をおこない、広はんな小農経済を協同化した社会主義経済へ移行させてこそ、はじめてわ

が国は社会主義へとすすむことが出来るのであつた。

つぎは、国の工業化を実現するためである。工業化こそ社会主義経済の主体であつて、社会主義的工業なしには強固な国防と人民の福祉はありえないし、おくれた農業を現代化した農業へとあらためることも不可能である。しかし、社会主義的工業の発展は、十分発展をとげた農業の基礎のうえにうち建てられなければならない。とりわけわが国のような大農業国にあつては、農業がきわめて重要な地位をしめていたのであつて、農業状況の如何によつて国民経済全体の発展に決定的な影響をもたらすのであり、十分に発達した農業なしには発達した工業をもつことは不可能だといえる。だが、小農経済に改造をくわえないならば、わが国の農業は急速に発展をとげることは出来ないし、したがつてまた工業化の需要をみたすことも出来ない。まさしく毛沢東同志が指摘したとおり、「社会主義的工業化は農業の協同化をはなれて単独ですめることは出来ないものである」。われわれは一本の脚で社会主義的工業の基礎をふまえ、もう一本の脚で小農経済の基礎をふまえることは出来ない。このため、農業の社会主義的改造をおこない、五億の農民にはたらきかけて社会主義の建設に参加させることが、わが国で工業化をなしとげるうえでの決定的な条件となつたのである。

さらにその次は、農業の機械化、電化を実現するためである。わが国の状況におうじて農業のおくれた状態を根本的にあらためるには二つの方面の任務がある。すなわち一方では、経済制度のうえから農業の社会主義的改造を徹底的におこなつて、分散した単独経営の農業を集団的な農業へとあらためることであり、他方では、農業の技術的改造をおこない、機械をつかつて操作できる部門や個所はすべて機械をつかつて操作して、農業の機械化と電化を実現することである。しかし、わが国の工業は基礎が弱いので、いちどきに多くの機械や化学肥料な

ことで農業を装備することは出来ない。それでは、活路はどこにあるか？ 工業が発展し、農業機械がもてるようになるのをまつて、それから農業の協同化をおこなうか？ それとも、まず農業の協同化をおこなつて、それから、国の工業化の発展にともなつて、しだいに農業の機械化を実現するか？ もし第一の道を選らび、土地改革のあとすぐひきつづいて農業協同化の段取りをとらなかつたならば、資本主義が農村で自由にはびこることになつていたであろう。これは、絶対多数の農民の容忍出来ないことであり、これは日和見主義の道である。活路はひとつしかない。それはつまり、しばらくの間は大量の機械で農業を装備できないという条件の下で、まず農業の協同化をおこない、さらにすすんで、農業の協同化を基礎として、国の工業化の発展にともなつて、しだいに農業の機械化を実現してゆく、ということである。事実が証明しているとおり、小農経済が連合して集団経済になりさえすれば、生産者の労働意欲が大々的に發揮されるため、在来の人力、畜力、農具を使用していても、やはり農業生産をかなり大きく発展させることが出来たのであつた。数年らい、わが国の農業生産協同組合の増産は、社会主義的工業化を力づくよく支援したし、また農業の機械化、電化のためにもいちおうの条件を準備したのであつた。農業機械がないという条件下で、まず農業の協同化を実現し、さらに農業協同化の基礎のうえに立つて、しだいに農業の機械化、電化を実現するということが、これこそわが国が農業の現代化を完成するもつとも適切な、唯一の正しい道なのである。

以上の三点から、わが党が土地改革のあとにつづいて、すぐさま農業の社会主義的改造をおこなつたことは、わが国の工業化、農業の現代化を実現して、わが国を社会主義国へとときずきあげるうえに、どれほど偉大な意義をもつていけるかが分かる。しかし、わが国のように農業経済が主体をなし、小農経済が絶対優勢をしめていた、

極度におくれた国でこのような偉大な任務をやりとげるのは容易なことではなかつた。ところが、われわれは前後五年たらずの間に、このきわめて複雑な歴史的任務を比較的はやく、しかも順調にやり遂げることが出来た。それは何に起因するのだろうか？ それはつぎの諸点によるものであつた。

第一は、中国の農民がながいあいだ帝国主義、封建主義、官僚資本主義の幾重もの搾取と圧迫のもとにおかれ、雇農と貧農が農村人口の六〇ないし七〇パーセントをしめ、かれらは土地をもたないか、またはごくわずしかもつていない農村のプロレタリアと半プロレタリアであつて、かれらは早急に貧困からのがれたいとつよく望んでいたことである。同時にわが党はながいあいだ、農民問題をわが国革命の中心課題としていたからであり、まさしく劉少奇同志が指摘しているように、「民主主義革命の時期には、中国共産党はふかく農村に入り、農村が都市を包囲する武装革命闘争を指導すること二十二年の長きにおよんだ。党が、あくまで農民の政治的自覚と組織力にたより、農民を起ちあがらせて、農民が自分で自分を救い、自分で地主を打倒し、土地を手に入れ、土地をまもるといふ大衆路線の方針（党のこの方針は、中華人民共和国誕生後の土地改革のなかでもそのままひきつづき貫かれていた）をとり、これと反対の、土地を農民に『恵み与える』というブルジョア的な方針をとらなかつたことによつて、党は農村に強大な、たよりになる革命の堡壘をうちたて、革命軍隊と革命根拠地をうちたて、広はん貧窮した農民の革命的積極性と革命的規律性をしだいに革命的プロレタリアートの水準にちかいつつて高めた」のであつた。

第二は、わが国の土地改革運動は、もつとも徹底したものであり、思いきつて大衆を起ちあがらせたのである。「大衆が自分で自分を解放する」手本であつたということである。土地改革をへて、広はん農民はほんと

うに起ちあがり、雇農、貧農、中農の下層の農村における指導上の優位をしつかりと確立し、さらにすすんで権力と武装力をその手にぎつたのである。土地改革は、経済上地主階級を消滅し、富農経済を大いに弱めたばかりでなく、さらに政治上徹底的に地主階級を打倒し、富農を孤立させた。これによつて、農業の社会主義的改造のための前提条件がつくりだされたのであつて、土地改革が徹底的であればあるほど、社会主義革命への移行もますます有利となるのである。

第三は、わが国の農業の社会主義的改造が、土地改革のあとによつてすぐさま進められたことである。全国で土地改革が基本的に完成したのは一九五二年の冬であつて、一九五三年には、党中央と毛沢東同志が時をうたず党の過渡期における総路線をうち出すとともに、それと前後して「互助協同化を發展させる」決議と「農業生産協同組合を發展させる」決議がおこなわれた。そのご、一九五五年の冬から一九五六年の春にかけて、全国にわたつて初級農業生産協同組合が基本的に完成し、一九五六年の冬にはまた急速に高級農業生産協同組合へと転じた。こうして、土地改革のあと、すぐさま「熱いうちに鉄を打つ」というやり方で、農村において民主主義革命を急速に社会主義革命へと転じさせたことによつて、わが国における農村の資本主義が大いに發展する余裕がないようにし、革命をさまざまの力を減らして農業の社会主義的改造の順調な前進を保証したのであつた。

第四は、わが国の互助協同化運動がすでに相当長い歴史をもつていたことである。はやくも革命戦争の時期に革命根拠地では、わが党はすでに農民をみちびいて社会主義の芽ばえを帯びた農業労働互助組織をつくつており、たとえば、土地革命の時期における江西省の労働互助社と耕田隊、抗日戦争の時期における陝西省北部の窰工隊、札工隊、華北、華東および東北の各地の互助組などがそれである。全国が解放されたのち、この種の互助

組織はいつそう広範囲にわたつて發展をとげ、さらに互助組を基礎として農業生産協同組合が大量に組織されていった。これらの互助協同化組織は、一九五三年にはじまつた農業協同化運動のために、経験の面と組織の面の下地をつくつたのであつた。

広はんな農民大衆の高度の階級的自覚と互助協同化への積極性があり、土地改革の徹底的な勝利の基礎があり、さらに、われわれは熱いうちに鉄を打つというやり方で、土地改革のあとすぐさま農業の協同化をおしすすめ、しかも協同化には一定の経験と組織上の準備があつたからこそ、わが国農業の社会主義的改造の運動はわりあい順調に、急速になしとげられたのであり、しかも改造の途上で広はんな農民大衆の生産意欲が終始非常に高く、こうした天地をくつがえすような改革のために生産上の破壊を生じるどころか、逆に農業の生産は農業の社会主義的改造の遂行にともなつて次第に高まつていつたのである。これは、マルクス・レーニン主義の中国における偉大な勝利である。

三、農業の社会主義的改造の方針、段取りおよび政策

党は、土地改革をやりとげたのち、小農経済にたいして積極的に改造をくわえる方針をとらなければならず、これを放任して成行きにまかせるのは誤りであり、同時にまた、あくまで自発的意志により、相互の利益をはかるといふ原則をまもらなければならぬと考へた。そして、説得し、模範をしめし、国家が援助するという方法をとつて、農民を自発的に連合させ、さらにまた、広はんな農民のうけいれやすいさまざまな移行の段取りと移行の形態をとり、これによつて農民に心構えをもたせて自然に完全な社会主義制度へと入るようになさなければならぬ。

らないと考へた。こうした移行の段取りと形態はつぎのとおりであつた。

第一歩は、簡単な共同労働をおこなう臨時互助組と、共同労働を基礎としていくらか分担しあい、分業をおこない、しかもすこしばかり共有財産をもつ常設互助組をつくることであつた。互助組の組員の生産手段はやはり個人所有のままであり、土地の経営は統一的なものではなかつたが、働くものが連合して集団労働をおこなうというこの点では、社会主義の芽ばえの要素をそなえていた。常設互助組は、臨時互助組にくらべて社会主義的な要素がいつそう多かつた。

第二歩は、互助組を基礎として、初級農業生産協同組合へと前進することであつた。こうした初級農業生産協同組合は、私有財産を基礎として、土地を出資し、統一的に経営をおこない、収益は土地と労働力の割合におうじて分配した。土地にたいする報酬の部分は、組合員の出資した土地の多少におうじて分配し、労働にたいする報酬の部分は組合員が集団労働に参加した量と質におうじて分配した。役畜、農具およびその他の生産手段で組合に入れたものには、合理的な代価を取得させることにした。初級農業生産協同組合は、互助組にくらべると、わりあい多くの公共蓄積をもつていたので、それは半社会主義的な性質をおびており、農民をみちびいて完全な社会主義制度へと移行させるうえでのみじょうにより過渡的形態であつた。

第三歩は、基本的な生産手段を完全に集団所有に帰し、全面的に労働におうじて分配するという、社会主義の性質をもつ高級農業生産協同組合（つまり集団農場）であつた。こうした高級農業生産協同組合は、土地改革のあと、個別的な地区で出現し、一九五四年にはすでに全国で五〇〇余にたつし、一九五六年の冬には、全国で基本的に高級農業生産協同組合化が実現した。

実践が証明しているとおり、社会主義の芽ばえをそなえた互助組から半社会主義的な性質をもつた初級農業生産協同組合へ、さらに、完全な社会主義的性質をそなえた高級農業生産協同組合へと、しだいに連合させ、しだいに移行させ、しだいに改造し、順序を追つて漸進させ、しかも互いにかみあわせるという、こうした段取りは、まったく正しいものであつた。その長所は、まさしく中央の指摘しているとおり、「完全な社会主義経済制度にふみこむさいに、広はんな農民に唐突な感じをあたえず、あらかじめ心構えと物質的な用意ができていたために、とつぜんの変化によつてひきおこされるいろんな損害をさけたことである」。

党は、農業の社会主義的改造運動のなかで「貧農、中農の下層にたより、中農の上層としつかり連合する」という階級政策をあくまでつらぬきとおした。農村人口の約六〇ないし七〇パーセントをしめる貧農、新しい中農のうちの下層にぞくする農民、ふるくからの中農のなかの下層にぞくする農民は、経済的な地位からいつてわりあいに貧しく、あるいはまだゆたかでなく、組合をつくることを必要とし、それに積極性をもつているため、協同組合をつくる初期においては、まず第一にこれらの自覚の程度にもとづいて、何回かにわけてかれらを協同組合に吸収し、かれらが農業生産協同組合の指導的中心になり、中核の勢力になるようにした。ゆたかな中農とわりあひゆたかな中農は農村ではごく少数であるが、しかしかれらは広はんな貧農、中農の下層にぞくする農民に大きな影響力をもつており、かれらは一般に共産党と人民政府を擁護しており、かれらのいちぶはやはり土地改革のさいに解放をかちとつたものであるが、しかしかれらの経済的地位がわりあひゆたかであることからして、協同化の道をあゆむことについて動搖性をもつのはさげられない。したがつて、一般的にはあまりはや目にかれらを協同組合に吸収せず、かれらが自覚してくるのを辛抱よく待ち、かなりながいあいだ教育をほどこして、農業生産協同組

合の単位面積あたりの収量と組合員の収入水準がこれらに追いつき、追い越して、個人経営をつづけてゆくことがこれらにとつて不利益であり、組合に加入するほうがかえって利益がえられるとこれらが感じるようになったときに、これらを組合に吸収した。同時にわれわれは、耕牛、農具などの生産手段を公平に合理的に評価して組合に入れる政策をとり、中農が組合に加入するさいには、損をしたと感じさせないようにした。一九五三年からはじまった、食糧その他の主要農産物にたいする国家の統一買付、統一販賣という政策、ならびに、農村における販賣購買協同組合、信用協同組合の普遍的な発展は、農村での資本主義の自然発生的な傾向にたいして力づよい制約をくわえた。これによつて、ゆたかな中農とわりあいゆたかな中農は、資本主義の旧い道はもはや歩み得ないことが分かつた。農業生産協同組合がたえず増産している事実によつて、わりあいゆたかな中農も、「ひとりやるより協同組合の方がはずとよい」ということを体験した。そこで、これらははじめに最終的に動揺しなくなつて、農業協同化の高まりのなかで、ぞくぞくと群をなして農業生産協同組合に加入したのであつた。党がこうした政策をとつたからこそ、農村人口の絶対多数を團結させ、社会主義革命をおこなうことによつて中農と貧農の團結を破壊することなく、逆に、いつさいの積極的な要因はみな動員され、農業の社会主義的改造の全過程をつうじて、農業生産もたえず発展し、この変革によつて減収による損失をまねくことはなかつたのである。

農業協同化の歴史的任務は完成されたが、しかし、生産手段の所有制の面で資本主義を一掃しただけでは、社会主義革命の勝利はまだ強固ではないのであつて、さらに思想戦線と政治戦線で社会主義革命をおこなない、「プロレタリア思想を興し、ブルジョア思想を一掃し」て、プロレタリアートの思想を支配的な地位につかせなければならなかつた。農業の社会主義的改造が完成したのちも、ひきつづき敵対的な階級と敵対的な思想の反攻と抵

抗に直面しないわけにはいかなかつた。この思想上、政治上の闘争はさけられないものであつた。そこで、一九五七年の下半期には、都市でブルジョアツの右派の狂気じみた攻撃に反撃をくわえると同時に、農村でも大規模な社会主義教育運動をあまねくおこなない、思う存分に意見を發表し、大々的に論議し、大字報をはりだすなどの社会主義的民主主義の方法をもちいて、思いきつて大衆を起ちあがらせ、あくまでも大衆の大多数を信頼して、広はん大衆に思う存分に言いたいことを言わせ、ありつたけの事実をならべ、道理をとき、過去を語り、新旧をくらべ、実際に算盤をはじかせて、争う余地のない、おびただしい事実をもつて、社会主義に反対する各種の恥知らずな妄言に反駁をくわえ、これをくつがえした。これいご、資本主義思想は鼻もちならぬものときされ、社会主義思想は輝きわたり、これによつて広はん農村の幹部と大衆は、「よく目が見え、さきさきがはつきりし、方向が明らかにされ」、社会主義的自覚が大いに高まり、生産意欲がいちだんと高まつたのであつた。農業生産協同組合の優越性はこのときから十分に發揮され、これによつてわが国の農業大躍進の幕がきつておとされたのであつた。

四、高級農業生産協同組合の優越性の所在およびその強化と発展

農業の社会主義的改造の完成は、生産力を解放し、社会主義工業と小農経済との間の矛盾を根本的に解決し、農業生産の逐年の高まりをうながし、そしてまた、全国民経済の日ごとの繁栄と発展をうながし、社会主義制度が無比の優越性をもつていることを十分に明らかにした。

一九五六年は高級農業生産協同組合後の最初の年であり、ひどい自然災害にみまわれたにもかかわらず、食

糧およびその他の主要農作物は大々的に増産をおさめ、食糧の総生産量は三六五〇億斤に達し、豊作だった一九五五年にくらべてさらに一五四億斤ふえ、一九四九年にくらべて一四八〇余億斤ふえ、一九五二年にくらべて五六〇余億斤ふえ、解放まえの最高年産量にくらべても八七〇余億斤ふえており、第一次五カ年計画の食糧生産指標をくりあげ完遂した。農業生産総額は五八三億元にたつし、一九五五年にくらべて二七億余元ふえ、一九四九年にくらべて七八・八パーセントふえた。七〇余万の農業生産協同組合のうち、ひどい災害を受けたか、あるいは経営管理がまずくて増産がさして著しくないか、またはいくぶん減産を来した少數のものをのぞいて、八〇パーセントの組合と八割の組合員は、いずれも収入がふえた。一九五七年には、農業生産はまたもやひきつづき発展をとげた。この年には、全国の六五の県、市の食糧のムー^{*}あたりの収量は、全国農業発展要綱に定められている四〇〇斤、五〇〇斤、八〇〇斤の指標にそれぞれ到達した。綿花のムーあたりの収量は、六四の県、市（綿畑の総面積の七分の一をしめる）では六〇斤、八〇斤、一〇〇斤の指標にそれぞれ到達した。これはつまり、これらの地方では、全国農業発展要綱に定められている要求を八年くりあげて実現したということである。これと同時に、農業生産のたえまない向上と発展にもなつて、農民の収入と物質的、文化的生活水準もまたいちじるしく向上した。若干の概算統計によると、一九五七年の全国農村人口の平均消費水準は、一九四九年にくらべて八〇パーセント以上ふえ、一九五二年にくらべて三〇パーセントふえ、一九五五年にくらべてもやはり著しくふえている。農村の購買力は一九五二年にくらべて五〇パーセント以上ふえ、一九五五年にくらべて一〇パーセント以上ふえている。農民の経済状況は大幅に改善され、中農が農村戸数の大多数をしめるようになり、生活水準と収入の水準では、協同化いぜんの富裕中農の水準に追いつき、追いついた農業生産協同組合が、当時の

農業生産協同組合総数の約二〇ないし三〇パーセント以上をしめるに至った。農業生産協同組合の公共蓄積は、農業の各基本建設項目をのぞいて、蓄積した現金、食糧および新しくふやした各種大型農具をあわせて、各組合の平均額は約六万六〇〇〇余元、組合員一戸あたりの平均は一九八元となつており、こうして、農業のひきつづく発展のための物質的な基礎が準備されたのである。

機械化していないという条件下で、わが国の農業生産協同組合はなぜこのような増産をなしたのか？ その基本的な鍵は、農業の集団化を実現し、生産力を解放し、広はん農民の労働意欲を十分に発揮させたことによつて、労働の範囲と生産の規模を拡大し、労働の能率をたえず高めたことにある。

勤労者は社会の基本的な生産力であり、生産力のなかでもつとも活動的な、もつとも積極的な要因である。旧中国の広大な農村は、ながいあいだ封建支配の下におかれ、「生産者と生産手段がきり離されており」、広はん農民は土地をもたないか、またはごく僅かしかもつておらず、勤労者が「腕をふるう余地がなく」、おびただしい労働力が遊休状態または半遊休状態におかれており、農村の失業者の数は非常に多かつた。こうした状況下にあつては、ゆたかな物質的資源は利用するすべとてなく、生産力は発展をとげることができなかつた。土地改革のち、農民はあまねく土地をわけてもらい、生産者と生産手段が結合され、生産状況は大きな変化をとげた。しかし、一軒一軒をひとつの生産単位とする小農経済では、すんだ技術をとりにいれるすべとてなく、労働上のこまかい分担をすることも出来ず、まして大がかりな農地の基本建設をすすめることなどなおさら不可能であつて、労働力の使用はやはり非常な制約をうけるため、生産力の発展は束ばくされていた。互助組は単独経営経済よりは一步すすんでいたが、しかし、互助組はやはり私有制の基礎のうえに立つていたため、ただ単に各戸

の生産上の要求にもとづいて共同労働に従事することが出来るだけであつて、私有制の制約を打破してはいなかつた。したがつて、労働の範囲を拡大し、労働力を合理的に使用することはやはり出来なかつた。初級農業生産協同組合は、この矛盾をさらに解決し、土地、労働力およびその他の生産手段を統一的に使用できるので、生産力は発展をとげた。しかし、初級農業生産協同組合はまだ組合員の土地私有権を保留しており、組合の年間収入のうち少なからぬ部分を、組合に入れている土地におうじて分配しなければならなかつた。このため、組合員の労働意欲はある程度制限をうけていた。また、初級農業生産協同組合では、畑で農地の基本建設をおこなうこともできず、天然資源を十分に利用して経営の範囲をひろげ、生産条件をあらためることが出来なかつたため、労働力の使用範囲を制約し、生産力の十分な発展を束縛していた。

高級農業生産協同組合が実現していざ、事態は一段と改善された。高級農業生産協同組合は、社会主義的性質の集団経済であり、土地およびその他のおもな生産手段はすべて集団的所有にぞくし、私有制の束縛をたちきつてゐるため、労働の性質にも根本的な変化が生じ、労働の成果はまったく勤労者の利益にもとづいて分配された。このため、勤労者の生産意欲は一段と発揮された。また、高級農業生産協同組合は、規模もわりあい大きく、おもな生産手段も集団的所有にぞくしていたので、計画的に、統一的に土地を経営し、土地柄におうじて作物をつくる事が出来たし、労働力を合理的に組織し、能力におうじて活用し、また分担、分業を実行し、多角経営もおこなうことが出来た。生産の規模が拡大され、経営部門もふえ、自然へ挑む度合も幅も拡大されたので、労働の範囲も大々的に拡大され、労働面の潜在力も十分にほりおこされ、労働力の利用率が高められ、一人前の労働力、半人前の労働力をもつものの出勤率がよくなつたばかりでなく、補助的な労働力も活用できるようにな

り、いぜん労働しなかつたものまで労働にくわわるようになった。若干の典型調査によると、高級農業生産協同組合化していざ、出勤率は、高級農業生産協同組合化していざんにくらべて、男の労働力は一般に二〇ないし三〇パーセントふえ、婦人の労働力は三五ないし一〇〇パーセント、多いところでは五倍以上にふえ、大勢の婦人が生産労働にくわわるようになり、労働にくわわる総人数は一般に三分の一前後ふえた。「労働は価値をつくりだす」、多く働けば多くものが出来る、これはマルクス・レーニン主義のおもな真理であり、また協同化の優越性の根源でもある。

しかし、労働力の利用率の増加にたより、組合員の労働にたいする熱情にたよるだけでは、まだ集団経済の優越性を十分に発揮させることは出来ない。そのほかさらに、組合員の労働にたいする熱情を科学的に組織し、その労働能率をたえずひきあげてゆくことによつて、はじめて集団経済の優越性を十分に発揮させることが出来るのである。集団労働は単独労働とはちがひ、農業生産はまた工業生産とはちがひ、それには分散性という特徴がある。いまのところ、わが国の農業生産は野外でおこなわれ、手労働でなされており、地域性と季節性が非常につよく、季節や自然条件の制約がきわめて大きいので、もしもこれらの特徴にかなつたまとまつた生産管理制度がなく、分担がはつきりせず、生産責任制が立派に確立されていなかつたならば、組合員の出勤率がよくなつても、労働の能率は高まらず、その結果、集団生産の優越性も十分に発揮できない。各地の協同組合が出来たばかりのころ、生産力があまり大きく発展しなかつたのは、つまりこの原因によるものであつた。協同化後の一九五六年、一九五七年には、各地とも大規模で、綿密な協同組合の体制整備、強化活動をおこない、社会主義の分配政策をつらぬきとおしたばかりでなく、さらに農業生産の特徴にかなつたまとまつた管理制度と生産責任制とを

さぐりあて、上下の分担をいつそうはつきりさせ、労働組織をいつそう厳密にし、その使用をいつそう合理的にしたため、労働の能率は一段と高まり、高級農業生産協同組合の優越性はさらに発揮され、生産力もよりいつそう発展をとげた。それでは、当時の組合の体制整備はどういう問題を解決したであろうか？

第一は、社会主義の分配政策をつらぬき通したことであった。党の原則は、蓄積と消費の間の適当な比例を保持し、協同組合が一定の割合の蓄積をもつよう保証し、協同組合が年々再生産を拡大できるようにすることであった。同時にまた、一定の分配の割合を保証して、大多数の組合員の収入をふやし、これによつてこれらの生産意欲を永続させるようにすることであった。ところが、協同組合の生産がわりあい発展をとげたさい、とりわけ一九五六年には、少なからぬ組合幹部のあいだに、「多く残して、少なく分配する」という考え方が生まれ、一挙に公共蓄積をふやそうと考えた。しかし、かれらは、多く残せば分配する分がどうしても少なくなり、その結果組合員の収入と労働意欲に影響をおよぼし、組合の発展と強化に影響をおよぼすことを考慮しなかつた。こうした現象をふせぐため、党中央は時をうつつさず「少なく残し、多く分配する」方針をうち出し、さらに協同組合の総収入の六〇パーセントないし七〇パーセントを組合員に分配し、九割以上の組合員の収入を前年にくらべてふやすよう保証しなければならぬことを定めた。一九五七年になると、協同組合の生産はさらに発展をとげた。すると多くの組合幹部のなかには、また別の考え方が生まれ、組合員の消費する部分をふやすことにより多くの注意をほらい、公共蓄積をふやすことにはあまり注意をほらわなくなつた。党中央はまた、時をうつつさずこうした偏向を克服し、高級農業生産協同組合の積立金を五パーセントから一〇パーセントへと拡大してよいことを定め、さらに、多く出勤して水利工事をおこし、植樹、造林をおこない、堆肥、肥料製造の設備などの基本建設

をおこない、再生産の拡大につとめるよう組合員に呼びかけた。組合員への分配の標準については、党は一貫して、「労働におうじて分配し、多く働いたものには多く分配する」という原則を堅持した。しかし、組合員の家庭の状況はそれぞれ異なつており、貧農と中農の下層にぞくする農民のなかには、生活に困つている家があり、かれらは家族が多くて働き手が少なく、あるいはまた病氣にかかつたり、葬式をだすなど思いがけない出来事になつた。このほかになお、組合員のなかには少数のやもめや身よりのないもの、不具廢疾者などがおり、これらの人びとは労働力を失つていて生活が困難であつた。組合は、これらの人びとの困難と苦しみを座視して救済しないでおくことは出来ないで、「お互いに援助し、救済しあい、それぞれの事情にもとづいて面倒をみる」という原則のもとに、困つている家で、葬式をだしたり、病人がでたりすると、公共福祉金の中から適当な補助をしてやつた。家に補助労働力があるものには、かれらに家庭副業を多くやるように世話をした。特殊な技能、たとえば荷馬車ひき、鋳掛、散髪、裁縫、あみもの、果樹の世話などの出来るものには、その本来の技能を発揮させることをみとめた。やもめや身よりのないもの、不具廢疾者などの組合員には五保（食事、衣服、燃料、教育、葬儀を保証する）を適用して公共福祉金でこれをぜんぶまかなつた。こうした、互いに援助し、救済しあう措置は、実際には共産主義の芽ばえの性質をもつものである。

第二は、「統一的に経営し、級ごとに管理する」制度を確立したことであった。各地の組合は出来たばかりのころは、一般にみな権力を集中しすぎて、ことの大小をとわず、すべて組合長の許可をうけ、生産隊はことを処理する権限がなかつた。このため、組合の管理機構がぼう大になりすぎ、そしてまた事務的におちいつてしまつ

た。他方、生産隊はその場所、その時の具体的状況におうじて事を処理する権限がなかつたため、これまた往々にして農業生産上の措置をとるうえで時機をあやまり、また組合の幹部と生産隊の幹部のあいだに不必要な紛糾がふえた。各地では、組合の体制整備にあつて、「統一的に経営し、級ごとに管理する」原則にもとづき「組合と生産隊の権限をわける」方法を取り、組合と生産隊の双方が負うべき職責と権限をはつきりと分き、組合の管理委員会は統一的に計画をたて、統一的に経営し、統一的に分配し、統一的に指導する機構とし、生産隊は組合の指導のもとに、農業生産を管理する責任を負う基礎単位とし、組合の経営する副業はべつに副業班をつくり、これが管理の責にあたらせることとした。こうした管理体制は、各級幹部の積極性を発揮させ、組合の生産を大いに発展させるのをうながすうえに非常に有利であつた。

第三は、「級ごとに請負制をとる生産責任制」を確立し、健全にしたことであつた。生産隊は、組合から一定の土地と役畜と農具を支給されて耕作の責任を負うのであつたが、結局のところ労働にたいする報酬をどのように計算し、収穫のさいにはどれだけの収量を組合にわたすべきか？ 使用した肥料と農具の修理などにはどれだけの金が必要か？ 組合が出来たはじめてのころ、ある組合では、「実際にてらして計算する」という方法、つまり、労働日数は働いただけ記帳し、穀物はできただけ組合におさめ、経費はつかつただけ組合からもらうという方法をとつた。その結果、組合と生産隊とのあいだでは、やれ多いの少ないのと争い、いつまでも埒があかないばかりか、生産隊相互のあいだでも、土地のよし悪し、役畜の強弱、水源の良否、労働日数と収量の報告に虚実があつたりし、それが原因でお互いにかくしあつたり、いさかきをおこしたりして、団結に影響した。こうした内部の矛盾をどう解決したらよいか？ 各地では、組合の体制整備のさい、期せずしてみな「三包」（仕事を請負

い、収量を請負い、原価を請負うこと）、弁償・奨励制」（請負つた収量をこえたものには、その割合におうじて奨励金をあたえ、請負つた収量に達しなかつたものには弁償させる）をとつた。こうした制度が実施されていご、組合と生産隊とのあいだの関係がかたまつたばかりでなく、生産上の責任が明確になつた。すなわち、生産隊相互のあいだでも、収量が請負になつてからは、超過すればその割合におうじて奨励金がもらえ、生産のよし悪し、収入の多少にかかわらず一律に平均して分配をうけるのではないので、生産を立派にやつて収入の多かつたゆたかな生産隊は満足し、生産条件がよくなくて収入のすくなかつた貧しい生産隊は、組合と国家の援助をうけて生産条件をよくし、ゆたかな生産隊に追いつこうとしてまえよりもいつそう仕事にはげむようになった。したがつて、こうした制度は、当面の農業生産上の特徴になつた生産責任制であり、組合員が積極的にはたらくよう、に励まし、技術を改良し、労働能率を高めるようにするよい制度であつた。公社化したあとでも、この制度はやはり保たれており、請負量いじょうの収量をあげてえた奨励の部分は生産小隊の部分的所有制の基礎にしてるので、この制度はいつそう強固になつた。「三包」の単位である生産隊の下はいくつかの臨時の作業班に分けられており、これら作業班と生産隊との関係は、一般に「請負制」をとつている。すなわち、作業班は、季節べつ、作業べつに、生産隊からある区画の土地またはその一部の土地の耕作を請負う。この労働請負がきまつたあと、もしもその作業班の技術がすぐれ、作業がはやくおこなわれ、実際についてやした労働日数が請負つた労働日数よりもすくなくてすんだ場合、生産隊は労働日数をひくことはせず、たとえ労働日数が多くてもその分をおぎなうこともしない。こうすれば、生産隊と作業班との間の、やれ多いの少ないのという煩わしさが少なくなるばかりか、そのうえ作業班が技術をみがき、労働能率を高めるのをうながすことにもなる。

第四は、「勤儉をむねとして組合を運営する」、「民主的に組合を運営する」という方針をつらぬきとおしたことであった。党中央は、「勤儉をむねとして組合を運営する」ことが社会主義的農業経営の根本方針であると指示した。勤とは、十分に組合員を起ちあげさせて生産にはげませ、経営の範囲を拡大し、多種経済を発展させ、入念に耕作することである。儉とは、節約にはげみ、生産原価をひきさげ、派手ごのみと浪費に反対することである。組合の体制整備にあつて、農業生産協同組合ではあまねくこの方針をつらぬきとおし、農業を発展させることに注意をはらうとともに、多角経営の発展に力をいれ、生産の分野をひろげた。その年の生産を立派にやりとげるよう保証するかたわら、さらに計画的に基本建設をもすすめた。文化・教育、交通・運輸、体育・衛生などの事業も、生産の発展にもなつて次第にこれを興していつた。こうして、いちぶの農業生産協同組合が出来たはじめの頃に見られた派手ごのみと浪費の現象を克服し、生産の発展を効果的にうながしたのであつた。農業生産協同組合ではさらに、大衆路線にもとづきまとまつた民主的管理方法をあまねく普及した。それはつまり、大衆にたより、ことある毎に大衆と相談し、経験の深い農民の生産上の経験と青年の革命的精神をむすびつけて、思う存分に意見を發表し、大々的に論議しあい、大字報をはりだすなどの社会主義的民主主義の方法を十分に活用して、することについて意見を發表しあい、議論をたたかわせ、ひろく大衆から意見を聞き、時をうつつき指導ぶりをあらため、活動を改善することである。財政を公開し、つねに大衆の監督をうけ、また幹部が生産にくわわり、生産を指導し、幹部と大衆と技術者の三者が一体となつて試験田をつくる制度……等々、これらは広はん組合員を真に農業生産協同組合の管理に参加させ、組合員の主人公としての考えを大いに高め、大衆の労働意欲をふるいたせたのであつた。

第五は、全面的な計画をたて、組合員にたいして前途についての教育を強めたことであつた。各地では、組合の体制整備の途上で、上にのべた一連の工作をおこなつたので、大いに労働の範囲をひろげ、組合員の労働意欲を高めたばかりでなく、大いに労働の能率を高め、高級農業生産協同組合の優越性を十分に發揮させ、農村の生産力を一段と発展させた。しかし、もしも組合員の労働力が合理的に使用されず、按排が不適當であつたならば、生産力もいつそう大きく発展をとげることはやはり不可能である。このため、党はまた、各地の各組合をあまねく指導して、上から下へ、下から上へという方法で、生産を中心とする全面的な計画をたて、その年の生産と基本建設、農業生産と林業、畜産業、漁業、副業生産、生産建設と交通・運輸、文化・教育、衛生事業の建設などについて全面的に計画をたて、各方面への労働力の使用に一定の比例を保持し、これによつて労働力の按排をいつそう適当にし、その使用をいつそう合理的にするようにした。当時、党は、労働力をより多く農業の基本建設面にふりむけること、大規模な基本建設があつてはじめて再生産の拡大ができ、農業・副業の生産の大躍進をうながすことが出来ることをとくに強調した。それと同時に、党はまた、農村で、社会主義の新農村を建設する前途についての教育をひろくおこなつた。とくに、そのとき党中央は、毛沢東同志の提案にもとづいて、適時に「全国農業発展要綱」を提出し、全人民的な討論をくりひろげ、広はん農民に前途についてのふかい教育をほどこし、光明にかがやく未来図をえがきだしてみせた。これは事実上、社会主義の新農村を建設するための全人民の大動員であつて、これによつて方向が明確にされ、意気込みがふるいおこされ、さまざまな右傾的な保守思想が批判克服され、広はん幹部と大衆の労働にたいする熱情が大いにほげまされ、あらゆる積極的な要素が動員されて巨大な物質的な力をかたちづくり、農業生産と農村での各事業のたえまない発展を力づくよくうながし

たのであつた。

農民大衆の生産意欲は、まず第一に農業の基本建設の高まりをもたらした。党の社会主義建設の総路線と「苦戦三年、農村の姿を基本的にあらためよ」という呼びかけは、これまた農民をこの上なくはげました。このため、水利工事をおこし、堆肥と肥料製造を中心とする農業生産運動は、一九五七年の冬から、農業生産大躍進の序幕として展開された。一九五七年の冬からはじめて一九五八年の秋にいたるまでの一農業年度中に、全国の農地灌漑面積は四億八〇〇〇万ムー、植林・造林面積は二億六〇〇〇万ムーそれぞれ拡大され、緑化と造林によつて水土の流失がおさえられた面積は三二万平方キロにおよび、くぼ地で冠水しやすかつたところを改造した面積は二億六〇〇〇余万ムーに達し、肥料のおもな供給源である豚の頭数は一億六〇〇〇万頭にふえたのであつて、その成績の大きいことは、まさに史上かつてなかつたところである。

農民大衆の生産意欲はまた、工具の改良への積極性をもたらし、双輪双刃プラウなどの新式農具の普及は、一九五六年にすでに高潮にたつていた。一九五八年には、大衆は、農具改良の面ですう多くの創意をしめし、新しい農具の製造と使用数は二億一〇〇〇余万件に達した。事実が明らかに示しているとおり、大衆の生産運動が技術革新運動をひきおこしたのであつた。

農民大衆の生産意欲はさらに、耕作技術の改良を招来した。入念に耕作し、合理的に肥料をやり、種子を改良し、合理的に密植する等々、十二年全国農業発展要綱に定められている、各項目にわたる増産上の技術的措置は、一九五六年いらいつそう広範囲におしひろめられ、一九五八年の大躍進のさなかで、さらに農業生産の八

字憲章へと系統的にまとめられたのであつた。

農民大衆の生産意欲はさらに、農業の多種経済の発展をもたらした。一九五七年の秋らしい、一般の高級農業生産協同組合は単一の農業企業から畜産業、漁業、林業、農産物の加工業、その他の副業生産を兼営するようになっていた。一九五八年の夏に、中央が、組合で工業を経営すること、三組合の合一を提唱してらしい、多くの高級農業生産協同組合では、工業、手工業、商業、交通・運輸業、信用貸付業の経営をも兼ねるようになっていた。民兵は本来組合員のなかの積極的な人びとでつくられていた。そのため、この時期になると、多くの高級農業生産協同組合は、実際上単に農業だけを經營するという枠からはみ出て、農業、林業、畜産業、副業、漁業を総合的に発展させ、工業、農業、商業、文化・教育、軍事をたがいにもすびつけた人民公社の性質をそなえていた。そこで、一九五八年の秋には、わが国の勤労人民の偉大な創舉——高級農業生産協同組合よりいつそう規模の大きい、公有化の程度の高さに高い、総合的な、社務と行政の合体した人民公社が出現したのであつた。この社会主義建設の総路線の偉大な勝利であることを十分に物語っている。これは、生産関係は生産力の発展に適応しなければならぬという客観的な法則の反映である。右翼日和見主義者は、人民公社は「早くつくりすぎた、やりそこなつた」と言いはり、いく億という大衆の革命的創舉を「小ブルジョアの熱狂的な運動だ」と中傷したが、これは盲人のたわ言であるばかりでなく、主として大衆運動を目的にする彼らのブルジョア的立場を具体的に示している。

五、人民公社の赤旗をたかくかかげ、

農業の現代化実現のためにひきつづき勇気をふるって前進しよう

人民公社というこのさしのぼる太陽は、わずか一年のあいだに、もとの高級農業生産協同組合よりもいつそう大きな優越性と無限の生命力をもっていることをはっきりと示している。人民公社は、やはり集団的所有制をとっているが、しかし、それにはすでに若干の全人民的所有制の要素がふくまれている。それはもはや、もとの高級農業生産協同組合もついていた単一の経済組織の性質をあらためて、工業、農業、商業、文化・教育、軍事をふくむ、行政と社務の合体した、社会の基礎組織となつている。人民公社の規模も、もとの高級農業生産協同組合にくらべてずっと大きく、ひとつの公社は平均して三〇ちかくの高級農業生産協同組合にひとしい。したがって、人民公社は、より大きな範囲内で、より大規模に、いつそう科学的に人力を組織し、いつそう合理的に土地、物力、財力を利用して、農業、林業、畜産業、副業、漁業をいつせいに発展させ、工業、農業、商業、文化・教育、軍事をもつて躍進させることが出来るのであり、大いに農村の工業を経営して、工業と農業を同時に発展させ、農村の工業化をはやめることができ、農耕技術の改革をうながすことが出来るのであり、より広範囲にわたり、人力、物力、技術などの各方面の分担と協業をいつそう便利にして、自然災害にたいする闘争の威力をつよめることが出来るのであり、いつそうはやく公共蓄積をふやしてたえず再生産を拡大するよう保証することが出来るのであり、農業の機械化と電化に好都合であり、農村の文化・福祉事業をわりあいはやく発展させることが出来るとともに、各種の集団活動をつうじて、社員に各方面の知識を身につかせ、労働と教育をむすび

つけ、肉体労働と頭脳労働をむすびつけることが出来るのである。したがって、人民公社は、社会主義建設をはやめるもつともよい形態である。われわれはすでに、人民公社にたよつて、昨年の工農業生産の大躍進と今年の夏の豊作をかちとり、今年の秋には、空前の自然災害との闘争でもやはり決定的な勝利をおさめた。こんど、われわれが、党の社会主義建設の総路線をあくまでつらぬきとおし、右傾に反対し、大いに意気込みさえすれば、人民公社の優越性はいよいよいじろしく発揮され、ひきつづき今年の躍進計画を完遂し、第二次五カ年計画の指標をくりあげ完遂することが完全に出来るのである。

いまのところ、われわれの農業の技術的装備はまだおくれであり、農業のおくれた状態を根本的にあらためるには、こんど農業の技術的改造をすすめ、農業の機械化、電化を実現し、機械を使用できる部門と個所はすべて機械で操作するようにしなければならない。そのときが来れば、農業の生産力はさらに新しい躍進をしめすであろう。われわれは、人民公社というこの社会組織形態に十分依拠し、その役割を十分に発揮させて農業のおくれた姿を根本的にあらため、農業現代化をはやめるためにひきつづき前進しなければならない。われわれには、党中央と毛沢東同志の指導があり、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという正しい総路線があり、広はん人民の強烈な革命的意志があり、体制の整備をへて日まじに強固となり、たえずその優越性を発揮している人民公社という最良の社会組織形態がある。要するに、以前にくらべてずっとよいあらゆる条件をもっているのである。われわれは、今年の冬から、一九五八年を上まわる躍進をおこし、わりあい短い期間内に、わが国を現代化した工業、現代化した農業をもつ偉大な、繁栄した、富強な社会主義国へとさきあげることが完全に出来るのである。

われわれの勝利は偉大であり、われわれの前途は限りない光明にみちている。われわれは、人民公社の赤旗をたかだかとかかげ、党の社会主義建設の総路線にあくまで沿って、右傾に反対し、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、増産節約にはげんで社会主義建設をはやめるために、農業の現代化を実現するために勇気をふるつて前進しよう。

* 一斤は〇・五キログラム（訳注）

** 一ムーは六・六六七アール（訳注）

十年らしいのが国科学・技術事業の発展

聶 栄 臻

一九四九年、中国人民は中国共産党と毛沢東同志の指導のもとに、偉大な世界的意義をもつ革命の勝利をかちとつた。五千年にわたる悠久の歴史をもち、世界の人口の四分の一を擁する大國が、これで封建主義の首枷を粉砕し、帝国主義の鉄鎖をたちきつて、かがやかしい社会主義の大道へと歩みをすすめたのである。中国人民はじぶんたちの祖國を強大な社会主義國にきざきあげようと決心し、十年このかた、偉大な社会主義革命と社会主義建設をすすめて、社会主義革命の決定的な勝利と社会主義建設のかがやかしい成果をかちとつてきた。とりわけ、党中央と毛沢東同志が「大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設する」という総路線をうち出していらい、わが國の社会主義建設の事業はさらに空前のテンポでぐんぐん躍進している。

社会主義建設のなかできわめて重要な地位をしめる科学・技術事業も、めざましい発展をとげて、面目を一新した。科学・技術の発展は、技術革命と文化革命の重要な要素であり、近代的な工業、近代的な農業、近代的な国防を建設するためにぜひとも必要なものである。それは、わが國を社会主義の強國にきざきあげるため欠くことのできない条件である。われわれは、わが國の科学・技術を急速に世界のもつとも進んだ水準に追いつかせよ

うと決意している。わが国の科学・技術の基礎がひじょうに薄弱であるため、これはきわめて大きな、なみなみならぬ任務である。だが、中国人民にとって、克服できない困難はない。われわれは十年らしい科学・技術の大きな成果と経験にはげまされ、確信にみちあふれてこの目標をめざし前進している。

半封建的、半植民地的な旧中国では、生産力は発展をとげることができず、このため、近代的な科学・技術もひじょうに立ちおくれた。解放にいたるまで、科学・技術の研究機構はわずか四〇前後にすぎず、専門的に科学・技術の研究・実験にたずさわっていた人員はわずか数百人にすぎなかつた。科学・技術の研究に必要な最低限の家屋・設備、実験用器具もとぼしく、経費もきわめてすくなかつた。当時は、地域的な調査研究とつながる一部の学科、たとえば地質学、生物学などと、数学のように近代的な実験設備なしにやれる理論科学だけが、わずかにいくらかの発展をみせていたにすぎなかつた。しかも、これらの発展は、おもに科学者の個人的な努力によつてなしとげられたものであつた。あたらしく発展した一部の科学・技術部門と、わりに多くの設備、経費を要する研究・実験は、これをすすめる条件がまったくなかつた。良心的なすくなからぬ科学者は、中国の科学・技術を発展させたいといううりつばな願いをいだきながらも、国民党の反動的な支配のもとでは、いたるところで障害につきあたり、たえず破壊をこうむつて、仕事をすすめることができなかつた。帝国主義に依存する旧中国の反動支配者は、生産の発展をまったくかえりみなかつたため、自国の科学・技術の発展も必要としなかつたのである。したがつて、一口にいえば、当時の科学研究は生産からはなれており、理論は実際からかけはなれ

ていた。人民の幸福をはかるといふ科学の目的などは、もちろん、問題にさえならなかつた。旧中国では、科学・技術の仕事が根をおろし発展する条件はまったく得られなかつた。科学者たちは意識的または無意識的に、ブルジョア観念論の見方に左右され、いわゆる科学のための科学という考えかたが普遍的に存在していた。

十年にわたるなみなみならぬ努力、とりわけ一九五八年の大躍進をへて、中国の科学・技術事業とその隊伍は、こうした貧弱な立ちおくれた土台のうえに驚異的な発展をとげた。一九五八年の末までには、全国にもうけられた専門の自然科学・技術研究機構は計八四〇をこえ、解放当時にくらべて二〇倍の増加を見、これらの機構で働く科学・技術人員は解放当時にくらべて五〇倍の増加を見た。そのうち、中国科学院には九一の科学・技術研究機構が直屬し、中央の各主管部門にはそれぞれ独自の研究・実験機構がもうけられ、全国の各省・市、自治区にも、チベットのほかはすべて、その地区の科学院分院と、その地区の必要に応じたいくつかの研究機構がもうけられている。全国の大学・専門学校も、その多くが科学研究にたずさわっている。全国の大小いく多くの工業企業や、人民公社では、大衆的な科学・技術の研究をくりひろげ、無数の研究・実験組織をつくつた。中国科学技術協会の組織と会員は、全国の都市と農村にゆきわたつていゝ。全国のいく億という人民のあいだに、社会主義建設の必要から、科学を熱愛し、技術を研鑽し、科学へ向かつて進軍する高まりがすでに形づくられはじめている。科学者・技術者の政治的自覚はひじょうに高まり、学術の水準もひじょうに大きな進歩をとげている。

目下のところ、わが国における科学・技術の状況はつぎのとおりである。第一に、国外の先進的な科学・技術の成果をまなび、これを身につけるとともに、われわれはすでに多くの創造的な研究の仕事にとりかかつてい

る。われわれは、わが国の具体的条件と結びつけて研究をつよめ、近代的な科学・技術をしっかりとわが国に根づかせて発展させ、花を咲かせ、実を結ばせるようにしなければならない。第二に、生産・建設と科学・技術の調査・研究活動をつうじて、天然資源や自然条件にかなする多くの資料と、工農業の生産・建設や医薬衛生など各方面の実践のなからえられた多くの資料をあつめて、科学・技術の研究をさらに一歩すすめる土台をきずいた。第三に、民間あるいは古典に散在する科学・技術面の多くの遺産、たとえば農業、医薬、気象、冶金、工芸などについての伝統的な技術を掘りおこし、その整理と研究にとりかかっている。これらの伝統的な理論と技術を分析、研究し、これを現代的な科学の水準までたかめれば、それぞれの学科の発展にあらたな手がかりをあたえ、大きな貢献をすることができよう。第四に、空白状態におかれていた多くの学科が補われた。いまでは、いぜん欠けていた多くの部門でも研究・実験をすすめることができるようになった。たとえばジェット・エンジンに関する技術、計算技術、電波天文学、石油化学、生物物理学など、旧中国ではまったく基礎をもたなかつた部門であるが、ここ数年らしいの努力により、またソ連その他の社会主義諸国の大きな援助をうけて、すでにかなりの基地がきずかれ、若干の幹部が養成され、研究がすすめられている。

必要な科学・技術の隊伍があり、わりに強固な仕事の土台がきずかれているので、わが国の科学・技術事業はこんごいつそう急速に飛躍的な発展をとげることであろう。

二

わが国の科学・技術は、わが国の社会主義革命と社会主義建設の歩みにもなつて発展してきたものである。

十年らしいの科学・技術事業の発展は、おおよそ、つぎの三段階にわけることができる。

中華人民共和国の成立から一九五六年にいたるまでは、科学・技術の発展の第一段階である。新中国の成立にともない、われわれは科学・技術機構の組織建設と思想建設にとりかかった。われわれは、もとの中央研究院、北平研究院とその所属機構を接收し、一九四九年一月に中国科学院を創設した。産業部門も、関係のある研究実験機構を接收した。科学・技術の組織と隊伍は、整頓をつうじてひじょうに大きな発展をとげた。われわれは、中国科学院と各業務部門の科学・技術研究機構を調整、充実するとともに、実際の仕事をつうじ、幹部を養成した。われわれは教学改革と大学・専門学校の学部再編成をつうじて、わが国の科学・技術教育を初歩的に改造し、科学・技術面の新しい人材を大量に養成した。われわれは党の知識人に対する團結、教育、改造の政策を貫徹し、科学者・技術者の自己改造をたすけた。科学者・技術者は土地改革、反革命鎮圧、抗米援朝、三反、思想改造学習などの社会改革運動に参加し、マルクス・レーニン主義の基本知識をまなび、ソ連の先進的な科学・技術の経験と成果をまなび、ブルジョアジーの観念論的な見方を批判するとともに、学習の基礎のうえにたつて批判と自己批判をくりひろげた。これによつて、彼らの思想的水準と政治的自覚は大いに高まつた。科学者・技術者は、国家の建設に参加し、科学・技術面の実践をつうじて、社会主義制度が科学・技術の発展にこのうえもなく広びろとした天地をひらくものであり、そしてまた科学・技術の発展をもつとも必要とするものであることを身をもつて体験した。思想建設と組織建設をすすめると同時に、実際とむすびつけて生産・建設に奉仕する活動もくりひろげられた。当時はちやうど三年にわたる国民経済復興期と第一次五カ年計画の前期であり、第一次五カ年計画の中核である重要建設項目はほとんどぜんぶソ連が設計し、建設を援助してくれたものであつ

て、ソ連はわれわれにもつとも先進的、全面的な技術援助をあたえてくれた。わが国の科学・技術の仕事は、ソ連の先進的な科学・技術をまなび、その掌握につとめるという条件のもとで、資源調査、地質調査、補助設計および補助的な研究・実験の活動をすすめた。理論科学もまた、もとの土台のうえでいくらかの発展をみた。この時期の科学・技術の仕事は、総じて、わりに分散したものであり、創造的な研究もわりにすくなかつた。

一九五六年に党中央が知識人の問題についての会議を召集したときから一九五八年にいたるまでは、科学・技術の発展の第二段階である。一九五六年一月、農業、手工業、資本主義的工業にたいする社会主義的改造の高まりをむかえたとき、党中央は知識人の問題についての会議をひらいて、科学に向かつて進軍するようよびかけ、もつとも重要な、急を要する部門が十二年のうちに世界の先進的な科学・技術の水準に追いつき、あるいはこれに近づくことを要求した。この偉大なよびかけは、わが国の科学・技術発展の未来図をしめし、科学・技術の仕事にたいしてきわめて大きな役割をはたした。同年五月、党中央と毛沢東同志によつて科学、文化芸術事業における「百花齊放、百家争鳴」の方針がうち出されたため、學術活動はひじょうに大きな発展をみせ、學術思想は大いに活気づいてきた。党中央の指示にもとづき、一九五六年には毛沢東同志の「全面的な計画、指導の強化」という思想にみちびかれて、國務院に科学研究委員会が設けられ、全国の六〇〇名をこえる科学・技術専門家が組織され、わが国の十二年科学・技術発展計画がさだめられた。このときから、中国の科学・技術事業は、長期にわたる全面的な計画をもつようになった。これは、わが国の科学・技術史上の大きな出来ごとである。当時、第一次五カ年計画はすでに完遂に近づいており、政府はすでに第二次五カ年計画の作成にとりかかっていたので、われわれはわが国社会主義建設の科学・技術にたいする要求をわりあい全面的に集中することがで

きた。われわれはまた、世界の科学・技術の先進的な水準と発展の趨勢をわりあい系統的に分析、研究し、わが国の科学・技術の当時の水準と力にたいしても適切な評価をおこなつた。これらの活動によつて、われわれは全面的に、しかもなりに科学的に、長期の科学・技術発展計画をたてることができたのである。この計画は、党中央の科学・技術発展にかんする方針・政策と、社会主義建設の必要を体現したものであつて、わが国の科学・技術の発展方向をさしめし、当面の任務と長期の任務、理論と実際、重点的な任務と一般的な任務をできるかぎり全面的に按ばいするとともに、この計画の実現に必要な人材の養成・訓練や基地の建設などの措置をさだめた。三年らいたる実践によつて証明されたとおり、この長期計画は、各年度の科学・技術計画と全国の各科学・技術機構や大学・専門学校の研究にたいして指導的な役割をはたし、また国民経済各部門の技術水準を高めるうえで促進的な役割をはたしてきた。また、空白または薄弱であつた科学・技術部門の設置と強化、大学・専門学校の専攻科の設置、人材の養成、研究基地の建設などにとつても、よりどころがあるようになった。一九五七年、党はおびただしい優秀な幹部を科学・技術戦線におくつて、科学・技術の仕事にたいする指導をつよめた。そのご、われわれは全国的な科学・技術年度計画をさだめ、全国的な範囲にわたつて統一的に按ばいし、中国科学院、産業部門、大学・専門学校などの力を組織して、協調をつよめ、たがいに協力するようにしたので、わが国の科学・技術の仕事は全国的な規模で計画的に急速な前進をはじめた。

科学・技術の仕事にたずさわる人員は全国の人民とおなじように、一九五七年には、例年とはちがつた夏をすごした。それはほかならぬ整風運動と反右派闘争であつた。政治戦線と思想戦線におけるこの社会主義革命は、科学・技術の発展にとつて、きわめて深い意義をもつている。科学・技術界の内部では、科学・技術発展の方針

とコースについての大討論がすすめられたが、この討論は、本質的には科学・技術事業が社会主義の道をすすむか、それとも資本主義の道をすすむかの問題を解決するものであった。当時、ブルジョアジーの右派分子は、党にたいして気違いじみた攻撃をおこし、科学・技術にたいする党の指導権をうばい、科学・技術を社会主義の軌道からそらそうとたくらんでいたのである。彼らは、反党的、反社会主義的な、一連の科学工作細領をうち出した。彼らは科学・技術にたいする党の指導を攻撃し、「素人は玄人を指導できない」とわめきたてた。彼らは「科学のための科学」をとえ、科学が社会主義建設に奉仕する神聖な任務を否定した。彼らは科学・技術の計画化に反対し、まったく個人の興味本位で、分散的、盲目的に仕事をすすめることを主張した。右派分子は知識人のある弱点を利用して、彼らをわき道にそらせ、これによつてわが社会主義の科学・技術事業を破壊しようとした。しかしながら、彼らの陰謀は徹底的に失敗した。広はんな科学・技術の仕事にたずさわる人員は党の指導のもとに右派分子の攻撃をだんこ粉砕し、敵味方をはつきりと区別し、認識をたかめた。二つの道の闘争で、社会主義の道は大多数の科学者・技術者の心からの擁護をかちとつたのである。こうして、科学・技術の仕事のなかで党の指導が一段と強固に確立された。これは、わが国の科学・技術を発展させるうえでの根本問題であつて、この問題の解決はわが国の科学・技術事業の急速な発展にもつとも根本的な保証をあたえたのである。

一九五八年からは、科学・技術発展の第三段階である。整風運動と反右派闘争によつて、広はんな幹部と大衆の社会主義的自覚が高まり、広はんな幹部と大衆の積極性と創造性がはげまされ、生産・建設、文化・教育、科学・技術その他すべての事業の全面的な大躍進がもたらされた。党の第八期全国代表大会第二回会議でさだめら

れた「大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設する」という総路線は、技術革命と文化革命の偉大な任務をうち出した。そして、重工業を重点的に発展させることを前提として、工業と農業を同時に発展させ、重工業と軽工業を同時に発展させ、中央の工業と地方の工業を同時に発展させ、大型の企業と中・小型の企業を同時に発展させ、近代的な方法による生産と旧式の方法による生産を同時に発展させるなど、二本の脚で歩く一連の方針をさだめた。こうして、わが国の六億人民のあいだに全面的な大躍進の高まりがもたらされた。工農業生産の高まりにうながされて、大衆的な技術革命運動が山を移し海をくつがえす勢いでぐんぐん発展した。

いぜんは、科学・技術の仕事の面で、すくなく人びとが、外国を妄信し、權威を盲目的に崇拜するという思想にとられ、そのため、大胆に研究し、大胆に創造することができなかつた。多くの人びとは、科学・技術を高遠な、手のとどかぬものと考え、あえて手をつけようとしなかつた。すくなく人びとは科学・技術の専門性を強調して、大衆を信頼せず、科学・技術にたいする実践の重要な意義を認識しなかつた。毛沢東同志は、思想を解放し、盲信を打破することをよびかけ、大胆に考え、大胆に言い、大胆にやつてのける共産主義的風格を発揚することを提唱し、人びとに自己卑下の気持を捨てさせ、人びとの知恵をよびました。そこで、科学・技術の仕事の面では、大いに大衆運動をおこし、大衆路線貫徹するようになり、これまで長期にわたつてあえて手をつけようとしなかつた多くの仕事にとりかかり、しかも、成績をあげたのである。いぜん経験のある多くの専門家たちが実現できないときめてかかつていた新しい技術は、かえつて若い人たちが身につけるようになった。いぜん多くの科学者や技師たちがやりとげえなかつたことは、これまた労働者、農民がやつてのけるよ

うになり、工業、鉱業、農業、林業の各方面にわたつて大量の發明、創造がおこなわれた。整風と反右派闘争に鍛えあげられて、多くの専門家や学者の積極性は大いに高まり、いぜん四、五年かからなければできないものとされていた仕事が終わらずか一年でやりとげられるなど、ひじょうに多くの成績があげられた。知識人が勤労人民としつかり結びつく気風もひじょうに大きな発展をとげた。専門家や学者はもともと大衆のなかの一員であるべきである。彼らは、普通の勤労者としてふるまい、勤労人民のなかにはいり、大衆の実験の経験を重視し、そしてこれを学びさえすれば、大衆の知恵のなから多くの貴重なものをくみとることができるのであり、また、これらの経験を分析し、研究しさえすれば、科学・技術の内容を豊かにすることができるのである。科学者は真に大衆観点を確立し、心から大衆に奉仕しなければならない。こうすることは思想改造にとつて必要なだけでなく、科学の水準を高めるためにも必要である。科学者は自覚をもつて大衆と結びつきさえすれば、科学・技術面の仕事のなかで大衆路線がいよいよ貫徹されればされるほど、科学者としての役割をますます発揮することができるのである。

わが党が長期にわたる革命闘争のなかですすめてきた効果的な大衆路線の活動方法は、社会主義建設の各戦線ですでにその威力をはつきりとしめした。この一年あまりのあいだに、大衆的な農業の大躍進と人民公社化運動、大衆的な大がかりな鉄鋼生産運動、大衆的な水利建設運動、大衆的な技術革新運動および各種の事業における大衆運動は、いずれも科学・技術の急速な発展をうながしている。そこで、科学・技術の仕事の面では大衆路線を貫徹し、中央のものと地方のものを同時に発展させ、旧式の方法によるものと近代的な方法によるものを同時に発展させ、専門の科学・技術研究機構と技術革命の大衆活動をむすびつけ、普及と向上をむすびつけ、生

産、教学、科学研究の三者をむすびつけるという方針をうち出した。こうして、以前の火の消えたような状態はすつかり姿をけし、全党全人民をあげて科学・技術に向かつて進軍する、人びとをふるいたせるような情勢が生まれてきた。科学・技術の色とりどりの花が祖国の大地にあまねく咲きこぼれるようになったのである。科学・技術の仕事は、技術革命と文化革命の偉大な任務を遂行するなかで一步大きく前進した。

この十年らしいの実践によつて、党の指導のもとでこそはじめて科学・技術の高速度の発展が実現されるということが立証され、党はわれわれのすすめる階級闘争をりつぱに指導できるだけでなく、またわれわれのすすめる自然との闘争、生産力の発展、科学・技術の発展をりつぱに指導できるということが立証されている。党は、社会主義建設の総路線と、技術革命、文化革命の偉大な任務をうち出した。党は十二年のうちにわが国の科学・技術が世界の先進的な水準に追いつくよう呼びかけ、科学・技術の仕事の方針、そのとるべき道と発展の方向をさししめし、われわれを指導して偉大な科学・技術の長期発展計画をさだめた。党は、知識人にたいする團結、教育、改造の政策をうち出し、科学者・技術者をたすけて彼らがマルクス・レーニン主義をまなび、科学・技術の研究のなかで弁証法的唯物論の考えかたを運用するようにみちびくとともに、新しい型の知識人を大量に養成した。党は「百花齊放、百家争鳴」の方針をうち出した。党は、盲信を打破し、思想を解放するようにと呼びかけ、われわれが科学・技術の仕事の面で大衆路線の活動方法をつらぬくよう教えみちびいた。

党の指導のもとに、弁証法的唯物論を思想的指針とし、社会主義建設の任務から出発して全面的な計画を立て、協力をつよめ、大衆路線と二本の脚で歩く方針を貫徹し、科学・技術の仕事を発展させ、マルクス・レーニン主義の思想をもつとともに業務にも精通した科学・技術の隊伍をつくりあげるといふこと、これが、つまり十

年らしい科学・技術の仕事においてかがやかしい成果をかりとつてきた、もつとも重要な、もつとも基本的な経験である。

三

一九五八年いらいの科学・技術の大躍進は、科学・技術の仕事のなかで党の社会主義建設の総路線が貫徹された結果であり、総路線の偉大な勝利である。われわれはここに、わが国の科学・技術の発展を早める道をたえずあてたのである。われわれはあくまでこの道を堅持し、わが国の科学・技術の立ちおくれた状態から一日も早くぬげ出し、世界の先進的な水準に急速に追いつくようにしなければならぬ。

大躍進いらいの成績は客観的に存在する事実であつて、だれもこれを抹殺することはできない。だが、この大衆運動の偉大な成果にたいしては、立場、観点の相違によつて、ちがつた見方もある。われわれは、一九五八年に、少数のものがひつそりと研究をすすめる状態をあらためて、多くの新しい方法と経験をうみだし、科学・技術の面で特大豊作をもたらした。これが、ほとんど全部の人びとの見方である。だが、科学・技術界にもいちぶブルジョア思想を多分にもつ人がいて、傍からあれこれとあげつらい、あれもだめだ、これもいけないと言いつてている。こうした連中は、嵐のような勢いで発展している大衆運動をころよく思はず、これでは科学研究のしきたりが乱されると考え、若い人たちや労働者、農民の革新家は科学・技術の研究などやれるものではないと考え、「やはりこれまでの道をあゆんだ方がよい」と言つてゐる。彼らは、勝利の発展にともなつてあらわれたいくらかの欠点を大げさに言いつて、われわれの科学・技術の仕事は「量のうえでは発展をとげたが、質のうえ

では向上していない」とか、「生産に奉仕する面の仕事は進展を見せたが、理論の面ではなんの収穫もない」と言つてゐる。こうした誤つた見方を固執するものは多くはないが、しかしあれこれの問題についてあいまいな考え方をしているものがまだいくらもある。したがつて、こうした誤つた見方にたいしては、反駁をくわえる必要がある。

科学・技術の仕事において、盲信の打破と思想の解放は大衆路線の貫徹と切りはなせない関係にある。科学・技術は、人類が生産闘争のなかで物質の生産と科学的実験をすすめてきた労働の結晶である。われわれは、もし科学が労働によつて生み出されたものであることを堅く信じるなら、大衆の生産闘争の実践と実践のなかからつみあげられた経験をかならず重視するはずである。社会主義制度のもとで生産力の発展をはかり、生産闘争をすすめるには、どうしても大衆運動を大々的にくりひろげなければならぬ。この真理は、工農業の大躍進のなかで実証されている。科学・技術の仕事において大衆運動を大々的にくりひろげる必要があるかどうかについては、大躍進のまえまでは疑いをもつものがすくなくなつた。一九五八年いらいの実践をつうじて、科学・技術の仕事も生産闘争とおなじように、たんに大衆運動をすすめてよいだけでなく、かならず大衆闘争をすすめるなければならないということが証明された。労働者、農民大衆は実際としつかりむすびついており、生産のなかで多くの実際問題にぶつかつてゐるし、また豊かな生産の経験をもつてゐる。彼らはこれらの問題を解決するにあつて、しばしば科学・技術の発展についての貴重な発想をしめしてゐる。したがつて、科学・技術の仕事は、かならず大衆のなかにはいり、生産のなかにはいつてゆかなければならない。それと同時に、科学・技術の研究機構のなかでも大衆運動を大いにすすめて、すべての力をあますところなく動員して活動をすすめるなければならない。

い。多くの研究所では、昨年大いに大衆運動をくりひろげ、一年のあいだにこれまでの数年をしのぐ研究の成果をあげたが、これこそ、そのりつばな例証である。

昨年らい、われわれは数多くの研究機構をもうけ、研究人員の隊伍を拡大し、広はんな労働者、農民大衆を動員して調査、研究、実験などの科学・技術面の仕事に参加させた。研究課題は何倍もふえている。こうした大きな発展をとげてはいるが、しかし、わが国のように、経済的に立ちおくれ、文化的にも白紙にちかい、しかも高い建設速度の要求されている大國にとつては、科学・技術の力はまだまだ必要にこたえることができない状態である。

わが国は、経済、技術の立ちおくれた國であると同時に、また経済、技術の状況がひじょうに複雑な國である。わが国では近代的な機械による生産がおこなわれていると同時に、重い肉体労働も大量におこなわれている。わが国ではトラクターによる作業がおこなわれていると同時に、手労働による作業も大量におこなわれている。わが国には自動車、飛行機などの近代的な交通用具があると同時に、肩でかつぎ、背でになう方法によつて大量の輸送がおこなわれている。われわれは、資本主義諸國が一、二百年もかかった産業革命の道をあまり長くない期間に歩みおえ、全國の経済を立ちおくれた技術から先進的な技術の土台のうえへ一歩一歩移してゆかなければならない。だから、さまざまな科学・技術面の仕事をたくさんやらなければならぬのである。そのうち、一部の仕事は、近代科学の技術水準から見れば、べつに新しい課題ではないかも知れない。だが、それが生産・建設に役立ち、労働生産性の向上に役立つものでさえあれば、われわれはこれを重視し、研究し、大いにおし広めなければならない。

こんにち、われわれは、科学・技術の飛躍的な発展の時代に生きている。われわれは、原子力、ジェット・エンジン技術、計算技術、電子学など、多くの新興の科学・技術をできるだけ早く掌握し、これによつて、世界の先進的な水準にいち早く追いつき、経済建設と国防建設に奉仕しなければならない。

わが国は大きな國であつて、自然、社会、経済、文化などの諸条件が地区によつて非常にことなつていて、多くの科学・技術の仕事はその地区の特徴と結びあわせてすすめるなければならない。そのうえ旧中國がわれわれにのこした近代科学・技術の土台はひじょうに薄弱であつて、ある種の学科についていえば、むしろ完全な空白状態にあり、これを急速に補充し発展させることがきわめて必要である。したがつて、各地区、各部門はそれ相応の科学・技術面の力をそなえなければならず、そうしてはじめて各部門、各地方の実際状況とすつかりむすびつけて、科学・技術の研究の仕事をすすめることができるのである。

したがつて、われわれは多方面にわたる大量の研究の仕事をすすめる必要があり、そうしてはじめて、複雑な内容をもつ生産・建設の必要に適應できるのである。もしも、われわれが十分な機構と人力をもたず、大衆路線の活動方法をとらないなら、こうした複雑多岐にわたる任務をはたすことは到底できないだろう。

科学・技術の仕事じしんについて言えば、一定の量の仕事をしなければ、質を向上させることもむずかしい。

気象ステーションの大量の資料がなければ気象科学の理論水準を高めることはできないし、大規模な地質調査をおこなわなければ鉱脈形成の法則をさぐることもむずかしい。ましてや、これらの仕事は、当面の實際問題を解決するうえにも、青年幹部を一本立ちで働けるよう養成するうえにも、欠くことのできないものである。ある種の仕事は、いまのところまだ前進の途上にあるか、あるいはやつとりかかつたばかりであつて、さらに緻密

な立ち上りつた仕事はつぎの段階を待たねばならない。たとえば、昨年一定の成果をおさめた課題については、今年はその大部分がひきつづき研究をふかめ、系統的にデータを整理し、経験をまとめているところである。りっぱにスタートを切つたというよりはなれば成功したこと、この半分の成功にたいしてみだりに非難をあげせる道理がどこにあるだろうか？

同時にまた、去年の大躍進らしい、たんに量のうえで大きな発展がみられたばかりでなく、質のうえでもひじょうに大きな向上がみられた。一方において、昨年、無から有を生じ、多くの新しい仕事をはじめられたということは、われわれの全科学・技術の仕事したにとつて一つの向上なのである。他方において、これまでですすすめられてきた仕事の面でも、もとの土台のうえで、昨年来ひじょうに大きな向上がみられた。わが科学・技術の隊伍の質の向上については、いまさらのべるまでもない。

生産に奉仕するわれわれの仕事が進展をみたというのは正しい。だが、理論の面で収穫がなかつたと言うのは誤りである。昨年は、また、わが国の理論研究がもつとも急速な発展をとげた年であつて、学術論文でも大きな収穫がおさめられた。たとえば、中国科学院と全国科学技術協会所属の各自然科学専門学会が出している学術出版物に発表された論文の字数は、一九五八年には一九五七年より四七パーセントふえ、一九五二年の二・二倍になつている。これこそ、もつとも説得力のある数字である。もちろん、これらの仕事には、昨年やつたものもあれば、昨年より以前にやつたものもあるが、いづれにしても大躍進がなかつたなら、こんなに多くの理論的成果をまとめることはできなかったにちがいない。昨年一年間に各大学・専門学校で編集、出版した教材も大幅にふえ、高等教育出版社から出版されたものだけでも二〇〇種以上にのぼり、一九五七年の約四倍になつている。

しかも、内容の面からみても、中国の実際から出発してまとめた多くの理論がつけ加えられた。これは理論研究の躍進であると言えないだろうか？ 実践が理論研究にたいしてはたいした促進的な役割は、これでもまだ明瞭でないと言えらるだろうか？ 昨年すすめられた理論研究のうち、かなりの部分が一昨年かその前の年、あるいは三年、五年も前の研究・実験の仕事をもとめたものである以上、昨年おこなつた研究・実験の仕事について今年か来年、または再来年にその理論的なまとめあげをすることがなぜ許されないのだろうか？ 科学研究の仕事の理論的な成果は、一般的にいって、短期間に生みだせるものではない。昨年の大躍進でおさめられた研究の成果について、まだのこらず理論的にまとめあげるまでにいたらないのは、きわめて容易に理解できることである。

十年らい、とりわけ大躍進らしい、わが国の科学者・技術者は広はんな勤労人民とともに、大量の基礎工作をすずめ、調査、観測、研究・実験の大量のデータを収集し蓄積した。こうした仕事の土台のうえにたつて、われわれは理論上の大きな貢献をすることができると、また、かならず貢献することになるであろう。生産、建設の実践のなかからは、多くの理論問題がもち出され、科学者・技術者の解決をもとめている。たとえば、合理的な深耕、密植は農業の増産にたいしてきわめていちじるしい効果をもつものだが、われわれは多くの実践の成果を土台として、さらにこれをまとめ、その法則をみちびき出さなければならぬ。熔鉱炉の利用係数はきわめて高くなつており、われわれは製鉄技術の理論を発展させなければならぬ。漢方医学の針灸療法はたいして効果のあるものだと思われているが、われわれはさらにその理論を探求しなければならぬ。われわれは理論の仕事をも十分に重視し、理論と實際をむすびつける方針を正しく貫徹し、理論と實際を切りはなすこと

にだんこ反対しなければならぬ。

総じて、一九五八年いろいろの科学・技術の大躍進は、その路線がまったく正しく、その成果も偉大である。盲信を打破し、思想を解放し、大いに大衆運動をすすめることは、科学・技術の仕事の革命的な常道である。大躍進をいらい、われわれの仕事は量のうえで大発展をあげただけでなく質のうえでもひじょうな向上をしめし、生産に奉仕するうえでひじょうに大きな成績をあげただけでなく、理論研究の面でもひじょうに大きな収穫をおさめている。大躍進の成果にたいする疑惑はすべて、なんらの根拠もないものである。

さきごろ、党の第八期中央委員会第八回総会は、右傾に反対し、意欲をふるいたたせ、今年中に第二次五カ年計画のおもな指標を完遂するために奮闘するよう、全党と全国の人民によびかけている。この戦闘的なよびかけによつて、全国人民の嵐のような増産節約の大衆運動がまきおこされた。内外の敵対分子の誹謗と中傷はいずれも無駄骨折りである。右翼日和見主義の動揺と疑惑は、大衆運動のわきたつ大波にのみこまれてしまった。われわれは、党の第八期中央委員会第八回総会の決議の精神をよくまなび、体得し、大躍進の偉大な意義を正しく認識して、これまでにおさめた大きな勝利の土台のうえに、あらたな高まりをもちあげ勝利に乗じて前進しなければならぬ。

*

*

*

人民の新中国はかがやかしい十年を歩んできた。十年らしいわが国の科学・技術面の成果はきわめて大きなものであり、科学・技術事業にはりつばな土台がきまきあげられている。飛躍的に前進する社会主義建設は、わが国の科学・技術がこんご十年のうちいつそ大きな、いつそやい発展をとげることを要求している。

こんご十年間に、われわれは、中国の科学・技術の立ちおくれた姿を徹底的にあらため、十二年科学・技術発展計画をくりあげ完遂し、できるかぎり早く世界の先進的な水準に追いつくであろう。多くの年わかい科学者・技術者がたえず成長をとげ、成熟してゆくとともに、より多くの労働者、農民大衆の革新家が科学・技術の研究と発展の仕事にくわわつてくるであろう。われわれの科学者はこんごさらに多くの貢献をするだろう。われわれは、マルクス・レーニン主義の思想をもつとともに業務知識にも精通した、いちだんと強大な科学・技術の隊伍を擁することとなるだろう。科学・技術の仕事は、強大な社会主義国家を建設してゆくなかで、さらに大きな役割をはたすであろう。

われわれは、党の指導のもとに、党の社会主義建設の総路線のかがやかしい光にみちびかれて、勇敢に前進しよう！われわれは、さらにかがやかしい成果をもつて祖國のあらたな十年のスタートをきろう！

十年らしいの革命と反革命との闘争

羅 瑞 卿

偉大な中華人民共和国がうち建てられてから、すでに十周年をむかえた。

中国人民大革命的偉大な勝利は、全国人民と全世界の進歩的な人びとの熱烈な歓呼をうけた。十年らしい、わが国の各民族人民は、中国共産党と偉大な指導者毛主席の英明な指導のもとに、並々ならぬ、英雄的な闘いをすすめ、革命と建設の各戦線にわたつて、巨大な成果をおさめた。とくに、一九五八年らしい、党の社会主義建設の総路線の輝かしい光にみちびかれて、わが国の工農業生産は史上空前の大躍進をとげ、全国の農村で人民公社化が実現され、これによつてわが国の社会主義の発展の足どりは大いにはやめられた。今日、全国人民は党の第八期中央委員会第八回総会の偉大な呼びかけに熱烈にこたえ、山をも移し、海をもくつがえさんばかりのほげしい意気込みに燃えて、さらに躍進をつづけ、今年中に第三次五年計画の主な指標の完成をめざして奮闘している。

中国人民大革命的勝利は、ロシア十月革命いらいのもつとも偉大な出来事である。それは、貧しい、おくれた植民地、半植民地国であつても、プロレタリアートの前衛、共産党の正しい指導があり、人民大衆の力にたよりにさえすれば、帝国主義と反動階級の支配下から完全に解放をがちとることができること、見たところ強大で凶

暴無比ないかなる反動勢力も、すべて人民の手で完全に打ち破りうることを証明した。

もちろんいかなる人民革命の勝利も、やすやすと得られるものではない。同時にまた、すでにかちとつた勝利をうちかためるには、さらに大きな力をついやさなければならぬ。わが国の人民は、中国共産党の指導のもとに、長期にわたる、曲りくねつた、並々ならぬ闘いをへて、帝国主義と国民党反動派の支配を徹底的にくつがえし、労働者階級の指導する、労働同盟を基礎とした人民民主主義の権力をうちたてた。われわれは、長期にわたる革命闘争のなかで、鋼鉄のように鍛えあげられた中国共産党をもち、強大な人民解放軍をもち、広はんな人民民主統一戦線をもつている。革命的な人民は、全国的な勝利をおさめてのち、反革命との闘いにおいて、つねに絶対的な主動的地位をしめてきた。いつさいの反革命の残余勢力は、人民大衆とくらべるならば、ほんの微々たるものにすぎない。しかし、中国は六億五〇〇〇万の人口をもつ大国であるため、反革命分子がたとえ人口のわずか百分の一、または百分の一より少ないとしても、その数はやはり相当なものになる。中国人民が全国の権力をにぎつたのちも、反革命との間には、やはりきわめて複雑で、尖鋭な闘いが存在した。この闘いは、中華人民共和國成立後最初の十年間、きわめて重要な地位をしめていたのである。

われわれの知つておるとおり、帝国主義は、百余年にわたる中国侵略期間中に、わが国の反動階級や反動派と蜘蛛の巣のように入りこんだ関係をむすび、大量の手先を養成した。これらのものをいちどに根たやしにするのは困難なことである。帝国主義は、過去においても、現在においても、また将来においても、中国革命と中国人民のもつとも凶悪な敵である。帝国主義は中国から追い出されておぼたなくひき下つてゆくようなものでは決してない。帝国主義はあらゆる手だてをつくして、人民の中国をくつがえそうとたくらみ、捲土重来を期するに

ちがいない。

われわれの知つているとおり、国民党反動派は、一九二七年に革命を裏切つていらい、一貫して中国人民の不倶戴天の敵である。蒋介石の国民党は、その二十余年にわたる支配期間中に、古今中外の反動の集大成として、ぼう大な軍事、政治、党・団、特務などさまざまな反動組織をきざきあげた。たとえば、国民党の反動支配が崩潰するさいに、大陸にのこされた敗残武装力（政治土匪）は二〇〇万おり、このほかさらに反動的な党・団の中核分子が六〇万、各種の特務分子が六〇万いた。国民党の反動支配グループのなかには、一団の、骨の髄まで反動でこりかたまった連中がいる。かれらは、反革命残余勢力の中核であり、あくまで反動でおしとおそうと腹をすえている。蒋介石一味は、台湾に逃げてのちにも、なおあの手この手で、大陸の一部の反革命分子と連絡をたもととうと死力をつくしている。

われわれの知つているとおり、中国の封建階級と封建勢力は、従来から帝国主義と官僚ブルジョアジーの反動支配の主な支柱であつた。農村では、かれらは悪党の親玉、土匪、反動的な宗教団体の三位一体の体制をとつていたし、都市では封建的なボス、秘密結社の親分、ゴロツキと太者の三位一体の体制をとつていた。こういう連中が全国のみならずみままで巣くつていて、数からいつて相当なものであつた。かれらは帝国主義と国民党反動支配の手先であり、またはその地方の「小蒋介石」であつた。多年らい、御時世の如何をとわず、かれらの親玉が清朝の皇帝であろうと、北洋軍閥であろうと、蒋介石であろうと、あるいはイギリスであろうと、日本であろうと、アメリカ帝国主義であろうと、そのいづれをとわず、かれらはつねに人民の頭上に直接のしかかり、横暴をきわめ、悪虐のかぎりをつくした。そのうちの多くのものは、全身これ人民の鮮血にまみれていた。

中国の反動勢力は、かれら自身のおかした重大な犯罪行為の責任をのがれることは出来ない。かれらにたいする人民の憎しみは海よりも深く、かれらにたいする憤りは、焰よりもはげしい。勝利した人民は、かれらにこの血の負債の弁済を要求する十分な理由をもつている。かれらをどれほど嚴罰に処したところで、度がすぎるといふことはない。しかし、中国共産党の指導下にある中国人民は、社会を改造し、人びとを改造するという崇高な理想をいだいている。それぞれ事情のことなる反革命分子に區別して対処するため、極悪非道の少数のものだけに懲罰をくわえ、多くの反革命分子には更生して罪をあがなう機会をあたえるために、党と人民政府は、反革命の残余勢力にたいして、正しい政策をとつてきた。

一九四九年四月二五日、毛主席の署名した中国人民解放軍総部の布告は、国民党反動支配グループの各種人員にたいして、あくまで改悛しない戦犯と極悪非道の反動分子をのぞいては、武器をもつて抵抗せず、破壊の陰謀をたくらまないかぎり、一律に捕虜にせず、逮捕せず、侮辱をくわえない、と宣言した。また、これらの人員中、およそ一つの技能に長じているもので、重大な反動行為またははなはだしい悪行のないものは、人民政府がそれぞれこれを採用すると宣言した。一九四九年七月、毛主席は、「人民民主主義独裁について」と題する論文のなかで、「反動階級と反動派のものにたいしては、かれらの権力がくつがえされたのち、かれらが謀叛をたくらまず、破壊をおこなわず、攪乱をしないかぎり、やはり土地をあたえ、仕事をあたえて、かれらが生きてゆけるようにし、かれらが労働をつうじて自己を改造し、新しい人間になるようにする」と指摘している。こうした政策は、歴史上いまだかつてなかつた、もつとも偉大な、人道主義的政策である。

党と人民政府がこのような仁義に徹した政策をとつたため、反動階級と反動派のなかの多くのものは、人民の

権力に服従し、人民に頭を下げて罪をくいあらため、まじめに働き、新しい人間に生まれかわりさえすれば、前途があるのだ、ということを認識するようになった。こうして、反革命内部の分裂瓦解を大いにうながし、一部のものには人民に投降し、一部のは動揺した。しかし、なかには、われわれの政策をうけいれることを拒み、その反革命的な破壊活動をあくまでつづけるいちぶの頑迷な反革命分子もいた。

解放当初、その頑迷な反革命分子は帝国主義と手をむすんで、狂気じみた破壊活動をおこなった。かれらは若干の地区で騷擾事件をおこし、人民政府に恠つした。帝国主義と国民党の特務分子は人民のあいだでデマをこぼし、共産党と人民政府の威信をきずつけようとし、各民族、各民主階級、各民主党派、各人民団体の団結と協力を破壊しようとたくらんだ。かれらは人民の経済事業を破壊し、情報をあつめ、革命工作人を暗殺した。ほどなく、アメリカ帝国主義が朝鮮侵略戦争をおこし、国内の反革命の破壊活動は、一時ひしように猖獗をきわめた。一九五五年、わが国の資本主義的工業、農業、手工業にたいする社会主義的改造が高潮にたつする前夜、残余の反革命分子の都市、農村における破壊活動はまたもやはげしくなつた。一九五七年、政治戦線と思想戦線における社会主義革命のたかまりが到来したとき、残余の反革命分子はその他の反社会主義勢力とともに、ブルジョアジーの右派の狂気じみた攻撃に呼応し、その破壊活動はふたたび頭をもたげた。

あさらに、中国人民の前に課された任務は、反革命とだんこたる闘いをすすめる、反革命のいかなる復活陰謀や破壊活動をも徹底的に粉砕することであつた。そうじなかつたならば、革命は失敗し、人民はわざわざいかに、国家は滅亡するほかない。革命の勝利を強固にし、人民民主主義独裁を強固にするため、徹底的に人民を解放し、生産力を解放するため、革命と建設の障害をとりのぞき、安全な環境をつくり出すために、十年らい、党

は全国人民を指導して、だんことして反革命との闘いをはじめ、前後三回にわたる大規模な、嵐のような大衆闘争の高まりを形成し、偉大な勝利をおさめたのであつた。

全国的な勝利ののち、革命と反革命とのこの尖鋭な闘いは必然的なものであり、不可避的なものであつた。こうした情勢にたいして、党中央と毛主席は、はやくから英明な見とおしをもち、十分な予測をしていた。一九四九年三月、全国的な勝利の前夜にあつて、毛主席は党の第七期中央委員会第二回総会の席上で、内外の反革命にたいする公然たる闘いと極秘裏の闘いをおこなうすべを身につけるよう全党に呼びかけた。毛主席は「もしもわれわれが反革命と闘いをおこなない闘いのなかで勝利をおさめるすべを身につけなければ、「われわれは権力を維持することが出来ず、われわれはふみとどまることが出来ず、われわれは失敗するだろう」と強調した。一九四九年六月十五日、毛主席は、政治協商会議準備会の第一回めの会議でおこなつた演説のなかで、「帝国主義者とその手先である中国の反動派は、中国というこの土地での失敗に甘んずるようなことはない」とふたたび人びとの注意を喚起した。一九四九年七月一日、毛主席は「人民民主主義独裁について」と題する論文のなかで、革命的人民はかならず反動階級と反動派にたいして独裁をおこなわなければならないことをきわめて深くつづつて説いた。一九四九年九月二一日には、毛主席は、政治協商会議第一回総会の開会の辞のなかで、「時々刻々中国での復活をたくらむであろう。それは必然的であり、すこしも疑う余地のないところであつて、われわれは決して自らの警戒心をゆるめではならない」と。じらい、わが国の社会主義革命の重要な時機にのぞむと、党中央と毛主席は、革命と反革命との闘いについて、つねに英明な指示をあたえ、それぞれの時期の革命

闘争を正しく指導してきた。

わが国で人民民主主義独裁（すなわちプロレタリアート独裁の一形態）を實行し、革命と反革命との闘いを正しく指導することについての党中央と毛主席の思想は、プロレタリアート独裁の歴史的経験を分析し、中国の具體的な状況の下で、マルクス・レーニン主義を正しく運用し、発展させたものである。マルクスは一八七一年のパリ・コミューンを評するにあたって、パリ・コミューンを「史上いまだかつて、こうした英雄的奮闘の実例はなかつた！」と熱烈にたたえ、同時に、かれはまた、パリ・コミューンの失敗は、「もつばらかれらの『寛大さ』に責を帰するよりほかない」①とときびしく指摘している。レーニンは、マルクスの指示とパリ・コミューンの経験教訓にもとづいて、「プロレタリアートが権力を奪取したのちも、プロレタリアートとブルジョアジーとの階級闘争は決しておわりはしない。それどころか、こうした闘争はさらに幅ひろい、いつそう尖鋭な、より残酷なものとなるであろう」②とくりかえし強調している。わが国の革命と反革命との闘争の実践は、マルクス・レーニン主義の普遍的真理の完全な正しさをまたしても証明した。わが国の革命と反革命との闘争の勝利は、とりもおさず党中央と毛主席がマルクス・レーニン主義を正しく運用し、発展させたことの勝利である。

わが国の革命と反革命との闘いは、もつともだんこととして、もつとも正しく、そしてまたもつとも徹底的にすめられた。この闘いは、わずか十年の間に、完成すべき任務を成功裏にやりとげた。すなわち、第一に、反革命を相当徹底的に肅清し、敵の復活の陰謀を粉碎した。第二に、若干のおくれた地区に残存する国民党の反動勢力を徹底的に粉碎し、人民民主主義の権力をかためた。第三に、政治上で人民大衆をさらに解放し、生産力の大

解放をうながし、広はんな人民は闘争のなかで、政治的自覚と生産意欲をたかめた。第四に、旧社会からのこされたごみ屑を一掃し、社会主義の社会秩序を日まじに安定させた。これらすべてによつて、わが国の社会主義革命の順調な完成が保障され、社会主義建設の大股の躍進が保障された。

われわれがいう反革命の徹底的肅清とは、反革命分子を一人のこらず調べあげて、これにたいしそれに相応する処置をくわえることであつて、われわれが当然懲罰をくわえるべき反革命分子を一人のこらず肉体的に抹殺してしまふという意味ではない。帝国主義は、かつてこの問題についてわれわれに悪どい中傷をなげつけ、わが国のブルジョアジーの右派も大いに喚きたてた。このことは、かれらがわれわれを嚇し、われわれが思いきり闘争をすすめないようにしむけて、反革命分子をのこしておき、かれらの復活活動に役立たせようとしたことを証明するにすぎない。革命と反革命との闘争は、食うか食われるかの、妥協をゆるさぬ、尖鋭な階級闘争である。いかなる階級闘争であろうと、とかく流血はさけられないものである。プロレタリアート独裁がそうであるばかりでなく、ブルジョアジーやいつさいの搾取階級の独裁はなおさらそうである。異なる点は、われわれの独裁は、革命が反革命を鎮圧し、大多数の人民が少数の反動派を鎮圧するのにひきかえ、搾取者の独裁はそれとはまったく逆である、ということである。ブルジョアジーといつさいの搾取階級は、かれらの独裁を維持するために、おびたしい人民の血をながした。レーニンは「国家と革命」のなかでこう言っている。「もちろん、搾取者である少数者が被搾取者である多数者を終始抑圧するという目的をたつするためには、どうしてもきわめて凶悪、残忍な鎮圧手段をとることになるし、どうしても無数の血をながす残虐事件がおこることになるのであつて、こうした流血事件は人類が奴隸制、農奴制、雇傭労働制のもとですべて経て来ているのである」③プロレタリアート

独裁が反革命の反抗を鎮圧するためには、もちろん多少の流血はまぬかれない。しかし、こうした流血の性質は、過去のいつさいの搾取階級の独裁下での流血とは、まったく異なるものであり、ここで流されるのは人民の血ではなくて、反革命分子の血なのである。流される血の量からだけいっても、過去のいつさいの搾取階級の暴虐な独裁、蔣介石の国民党の残虐な独裁とくらべれば、ひじょうに微々たるものである。いつさいの帝国主義とブルジョアジーの右派の中傷は、みな卑劣な恥しらすなデマであつて、わが国の革命と反革命との闘いがもつともだんことした、もつとも正しい、もつとも徹底したものであつたからこそ、われわれのこの闘いにおいて、流された血はもつとも少なかつたのである。

党中央と毛主席の指示にしたがつて、われわれは、極悪非道の、ぜひとも殺さなければならぬ少数の反革命にたいしてだけ、だんここれを処決する手段をとつたのであつて、大多数の、罪からいえば当然処罰すべきも、あるいは罪からいつて当然死刑に処すべきであるがぜひとも殺さねばならないという程ではないものによつても、すべて労働改造の手段をとつている。わが国の刑罰中には、「死刑の判決を下し、二年間その執行を猶予し、強制労働に従事させて、その効果を見る」という規定がある。帝国主義はかつて、これはきわめて残忍である、と中傷した。その実、われわれに言わせれば、これこそこの上もない人道的なものである。死刑の判決を下し、その執行を猶予するということは、人民政府が断罪をひかえてかれらに最後の更生の機会を与えるのであることは犯罪人でさえもこれを理解している。事実、こうした扱いをうけた犯罪人は、一般にみな殺されずにすんでいる。古今中外をつうじて、これほど偉大な創舉があつたらうか？ 資本主義世界に、これほど人道的な法律はたして見出せるだらうか？ 敢てたずねてみたいものである。われわれが反革命およびその他の犯罪人に

労働改造の政策をとつているのは、反革命から破壊活動をおこなう条件を徹底的にうばつてしまふためばかりではない。それよりもつと重要なことは、反革命およびその他の犯罪の階級的根源と思想的根源を徹底的になくし、反革命が刑期満了後、ふたたびもとの犯罪の道へと戻らないようにするがためである。

十年らしい、労働・生産と思想教育をつうじて、多数の犯罪人は、程度の差こそあれ、それぞれ改造されており、一部の犯罪人はたしかに改過遷善の道をたどつている。一部の、かつての土匪、悪党の親玉、特務分子、反動的な党・団の中核分子、反動的な宗教団体の頭目その他の犯罪分子は、その反動的な思想を改めているばかりでなく、多くのものが労働の習慣を身につけており、一部の、もともとすこしも生産上の知識をもたなかつたものが、今ではわりあい熟練した技術労働者または技師となつており、またもともと文盲だつたものが、今ではすでに一般の書物や新聞雑誌類を読めるようになってゐる。これらは、ほとんど信じられない奇跡であるが、すこしもいつわりのない事実である。しかも、われわれの新しい社会では、これは決してなにも珍しいことではないのである。

河北省の王命という犯罪人は、いぜんは蔣介石匪賊の国防部第二庁の特務分子であつた。かれは、監禁されて労働改造をうける期間中に、政治・思想教育をへて、その罪をみとめ、法に服し、積極的に労働に従事して、しだいに建築の技術を身につけ、今ではすでに四級建築技師に相当する技術水準をそなえ、人民政府の寛大な扱いをうけている。

青島市の李宗英という犯罪人は、いぜん香港のイギリス帝国主義者の警察官であつた。一九五一年に、青島で罪を犯して逮捕され、懲役五年の判決をうけたが、政治教育と思想改造をつうじて、かれは心を入れかえ、真人

間になることを決意した。そして、労働改造のなかで生産技術を身につけ、いく度か機械を改良した。人民政府はかれを寛大に扱って、二年くりあげて釈放した。ところが李宗英は、かれに第二の生命をあたえてくれたこの労働改造機械工場に愛着をいだき、自分からそこに残って働きたいと申し出た。現在、かれはすでに熟練した四級技術労働者になつて、毎月賃金を五七元もらつており、さらに一九五四年には結婚して、一九五六年五月に最初の子供をもうけ、新しい生活をはじめている。

わが国の広はん人民大衆は、労働をつうじて犯罪人を改造するという党と政府の政策を熱烈に擁護し、積極的に支持している。反革命の犯罪人の家族も、党と政府がかれらの家庭中の不心得者を真人間に改造してもらへることにたいして、やはり心から感謝している。毛主席と人民政府のもとには、おびたしい数の手紙が寄せられており、形容できないほどの感動と歓喜の情を訴えている。天津市民の韓学敏さんは、刑期満了して釈放された張権の奥さんだが、かの女はその手紙の中でこう述べている。「わたしは、人民政府が犯罪人にたいして、生活のうえで人道主義的な扱いをして下さつたばかりでなく、その反動思想までも改造して下さつて、役に立たなかつた多くの屑を役に立つ人間に変えて下さつたことをこの眼で見ました。わたしの夫の張権が釈放されましたから、わたしたちはもう二度といさかひをすることがなくなりました。これからは、実際の行動で党に感謝をささげたいと思つています！ おととい、わたしたちは光明と幸福への出発の記念として、一家そろつて写真をとりに、それを人にあげようと思ひ、いろいろ考えましたが、どうもふさわしい相手が思ひつかないので、最後にやつとわたしたちの再生の親である中国共産党にお送りするのが一番よい、と考えつきました。ここに写真を一枚同封することにいたしました。どうか、党に代つておうけとり下さいますように！」と。

これから見ても分かるように、王命、李宗英、張権のような人間は、反革命の犯罪人としては、すでに消滅されているが、しかし、自分の労働によつて生活してゆく新中国の勤労者としては、かれらは生きているばかりでなく、また立派に生きているのである。社会主義建設にとつていえば、これらの人びとはもともと破壊的な役割をはたす消極的な要因であつた。ところが、今では、もう破壊的な力でなくなつたばかりか、改造をへてすでに新中国の建設に参加する一員となつているのである。消極的な要因を積極的な要因にかえること、これがすなわち、われわれの反革命肅清の徹底したところであり、これがすなわち、わが国の革命と反革命との闘いの偉大な成功なのである！

十年らゝい、革命と反革命との闘争における勝利は、わが国社会の様相の大きな変化を大々的にうながした。中国はすでに、国民党支配時代の反動的な、暗黒な、混乱した国から一変して、世界でもつともすすんだ、もつとも光明にみちた、もつとも安定した国となつていゝ。農村でも都市でも、天地をくつがえすような変化が起つていゝ。

ここで、われわれは、旧中国の農村の暗黒な状態を思い起こしてみるとよい。あのころは、国民党の反動官吏といわゆる保・甲長が、朝から晩まで食糧や現金の徴発におしかけ、壮丁、人夫を拉致してまわつていたし、土匪や悪党の親玉が横行して悪逆のかぎりをつくし、人殺しをする、財物をまさあげる、強姦、略奪をほしきままにするという有様であつた。広はん農民は、飢えと寒さにさいなまれて死線をさまよい、もがき苦しんでいた。農民たちは、「とれた穀物は地主のもの、もらつた嫁は保長のもの、そだてた息子は蔣介石のものよ！」という歌でそのみじめな状態を訴えていたものである。しかし、解放後、こうした悲惨な生活は、二度とかえらぬもの

となつた。全国の農村は、小作料の引下げ、抵当の取戻し、土匪の掃蕩、悪党の親玉の肅清、土地改革、反革命の鎮圧、農業の協同化、人民公社化などの一連の偉大な改革運動をへて、すでに光輝燦爛とした、繁栄にむかう社会主義の新農村になり、五億の農民は、すでに徹底的に解放をかちとり、もう二度となんらの搾取や圧迫もうけないようになつた。

河南省の葉県を例にとつてみよう、旧社会では、この地方は有名な「土匪の世界」で、略奪、殺人などは毎日毎晩のように起こつていた。広はん大衆は、「大水、早ばつ、蝗、湯（国民党軍閥の湯恩伯）」の害をなめつくし、貧困と苦痛のどん底にあえいでいた。一九四二年の大旱ばつでは、県内で一万九〇〇〇人あまりの餓死者を出し、一六〇〇戸あまりの農家が一家飢え死のうき目にあつた。自分の息子や娘を賣つて飢えをしのぐといった悲惨な光景が各所で少なからず見られた。まことにこの世の地獄であつた。ところが、今日の葉県は、この世の天国になつてゐる。軍閥はとつと打倒されたばかりでなく、匪賊や泥棒もすでに跡をたち、一九五八年には農業は大豊作で、穀物が畑に、打穀場に山積みになされ、窃盗事件はいちども起こらなかつた。今年の大旱ばつは、一九四二年のそれにくらべてもつとひどいものであつたが、県内から一人の餓死者も出さなかつたばかりか、食糧はかえつて増産を見たのである。全県の人民は、十年らしい奮闘努力をへて、ごとにここ二年らしい工農業生産の大躍進と人民公社化をへて、中型、小型の貯水池を五二つくりあげ、公社ごとにくつかの工場をたてており、県内には製鋼所、セメント工場、農具工場、綿紡績工場などが三〇〇あまり建設された。葉県の人民は、全国人民とおなじように、すでに安寧、幸福、繁栄の道をあゆんでいる。この県の政治経済の発展、変化から、わが国農村がすでにどんなに偉大な、驚異的な変化を遂げているかをうかがい知ることが出来る。

解放後の都市も、農村とおなじように、天地をくつがえすような変化をとげた。

人民の首都北京は、旧社会では歴代の封建王朝と帝国主義、軍閥の支配の中心であり、さまざまな反革命勢力が蟄集し、旧社会のごみ屑が山をなして、北京を暗黒陰惨な、汚れきつた町にしていた。解放後、北京は一変して祖国の心臓部となつた。数回にわたる社会改革をつうじて、全市は面目を一新し、政治的環境といい、自然環境といい、すつかりきれいに掃き清められた。大躍進らしい、われわれの首都は建設によつていつそう宏大壮麗となり、現代化した工場が林立し、城内城外いたるところ美しい花でいろどられている。かつてもつとも暗黒だつた場所も、今では一面明るくなつてゐる。有名な天橋は、かつては汚濁の天地で、悪党の親玉が幅をきかせ、ゴロツキが横行しており、ペテン師とコソ泥と与太者の天下で、まともな人間は詐欺と暴力に苦しめられていた。どれだけのまともな婦人がそこで辱しめをうけ、娼妓に転落していつたか知れない。解放後、いく度かにわたる社会改革と反革命鎮圧運動をとおして、天橋に巣くつていた「六虎」、「四霸」たちは、あらゆる社会のごみ屑とともにすつかり一掃され、赤旗が天橋の空高くひるがえり、人民大衆はすでに徹底的に解放をかちとつてゐる。

わが国の大都市上海は、かつては「冒険家の樂園」として世界にその名を知られていた。今日では、上海はすでに「冒険家の樂園」などというものではなくて、人民の樂園となつてゐる。ここ数年らしい、上海では強盗事件がすつかり跡を絶つてゐるばかりでなく、窃盗事件さえごく稀にしか起こらなくなつてゐる。上海には有名な「大世界」という盛り場があつたが、ここはかつては帝国主義のスパイ、国民党の特務分子、ゴロツキ、与太者、泥棒、ペテン師、街の女のうごめく中心地であり、有名なこの世の魔窟であり、犯罪の巢窟であり、同時に

また、侮辱され、迫害される者にとつてのおそろしい地獄であつた。今日、「大世界」は民主改革とボス肅清の闘いをつうじて、悪者の勢力は根こそぎ取りのぞかれた。そして毎日、数十種の映画、演劇、寄席芸が人民のために上映、上演され、ここはすでに働くものの休息と娯楽の場所、社会主義の自己教育をおこなう幸福の家となつていたのである。

もちろん、こうした変化は、けつして河南省の葉県、北京、上海などだけにおこつてゐるわけではない。全国の広大な農村と都市がみなそうなのである。わが国の人民は、自分たちの祖国のひろびろとした大地で、安らかな生活をいとほみ、たのしく仕事にはげみ、みなが自由に呼吸し、自由に労働し、自由に仕事をし、学習し、生活しており、もう二度と帝国主義や反動階級、反動分子の圧迫と侮辱をうけることはないのである！「春風楊柳万千条、六億の神州ことごとく舜堯」という詩句は、まさに新中国の真実の姿をえがいている。全国人民は、大いに意気込み、つねに高い目標をめざし、多く、はやく、りつぱに、むだなく社会主義を建設するという、党の総路線の輝かしい光にみちびかれて、烈火と燃え、意気天をつき、工農業生産は大躍進をとげ、人民公社の太陽はあまねく四方を照らし、社会主義建設の怒濤は万里にわき立つてゐる。中国の今日は、まさしく毛主席が昨年四月に「ある協同組合を紹介する」という文章のなかでのべているとおり、「共產主義の精神は全国でさかんに発展をとげている。広はん大衆の政治的自覚は急速に高まつている……人民大衆が今日のように心から奮い立ち、闘志をわきたたせ、意気込みに燃えたことは、これまで見たことがない。かつての搾取階級は、勤労大衆のほてしない大海のなかに完全に吞まれてしまつて、変るまいと思つても変らざるをえなくなつてゐる。死ぬまで変らず、花崗岩のようなコチコチ頭をつけたままで上帝にまみえたいというものは、たしかにゐるにはちが

いないが、しかし、それとて大局にかかわりはない。いつさいの腐れきつた観念形態と上部構造の、もう通用しないその他の部分は、日一日と崩れさつてゐる。こうしたごみ屑を徹底的に掃きよめるには、まだ時間がかかるだろう。しかし、これらのものがすでに崩潰の大勢にあることは、もはや確定された、疑いないところである。「それから一年あまりこのかたのわが国の情勢の発展は毛主席の上述のマルクス・レーニン主義的分析と断定が、絶対に正しいものであることを、一段と証明してゐる。

中国の革命が、反革命との闘いにおいて偉大な勝利をかちとることが出来た主な原因は、次のとおりである。

第一、われわれの事業は正義のものであり、正義の事業はかならず勝利することが出来る。革命と反革命との闘争は、もつとも広はん、もつとも圧迫された人民大衆の最大の利益を代表し、社会の進歩と生産力の発展の必要性を代表し、最大の真理と最高の道義を代表している。広はん人民が、反革命の犯罪行為を訴える時には、あのように大きな憤怒と激動ぶりをしめし、反革命との闘いでは、あのようにものすごい勇敢さと積極性をしめし、反革命鎮圧闘争が勝利をおさめた時には、あのように大きな喜びをしめしたのであつて、革命と反革命との闘争の成功が、あれほど大きな積極的效果を生んだのを人びとは見てとることが出来た。これらすべてのことからは反革命とのわれわれの闘いが正義のものであり、完全に天理にかなひ、人情にかなつたものであることを十分に物語つてゐる。だからこそ、全国人民の熱烈な擁護と支持をえたのであり、偉大な勝利をかちとつたのである。それとはまったく反対に、反革命分子のやつたことは、罪惡にみちた反動的な仕業であり、人民に楯つき、人民に危害をくわえ、祖国を裏切り、社会の前進をはばもうとしたのである。かれらは完全に正義に反しており、天理人情とあい容れないものである。だからこそ、かれらは人民のあいだでまったく孤立し、その社会的

基礎は日ましにせまくなり、かならず失敗をなめるにちがいないのである。

第二、わが国の革命と反革命との闘争には、共産党と毛主席の英明な指導がある。全国的な勝利をおさめたのも、革命と反革命との闘争は、依然として偉大な革命運動であり、共産党の指導がなくては成功することは出来ない。党と毛主席は、革命と反革命との闘争を指導するなかで、正しい方針と政策を定めた。それはつまり、わが政府が一貫して守つてきた、「警戒心を高め、いつさいの特務分子を肅清すること、偏向を防止し、一人でも善良な人を無実の罪におとしはならないこと」と「反革命がいればかならず肅清し、誤りがあればかならず正す」という方針である。それはとりもなおさず、反革命分子にたいする懲罰と寛大の結合、労働改造と思想教育の結合の政策である。一九五九年九月一七日、中華人民共和国主席の公布した特赦令は党のこの政策の偉大な勝利をしめしている。それはまた、新しい歴史的条件下におけるこの政策の具体的運用であり、発展でもある。十年らしいの闘いの実践の試練をへて、わが党の方針はもつとも正しい方針であり、わが党の政策はもつとも効果的な政策であり、党と毛主席の指導はもつともすぐれた指導であることが完全に証明された。このようなきわめて尖鋭な闘いのなかで、わが党と毛主席の方針、政策、指導は終始、北極星のごとく明確であり、獅子のごとく勇猛であり、天秤のごとく公正であり、火焰のごとく熱烈であり、泰山のごとく沈着であつて、偉大な革命的気魄と最大の、事実にもとづいて真理を求める精神を表現した。わが党と毛主席が革命と反革命との闘いのなかで、さだめた方針と政策、および実際の闘争についての指導の芸術はマルクス・レーニン主義と中国革命の具体的実践との結合の強大な生命力をあますところなく体現している。党と毛主席の英明な指導は、わが国における革命と反革命との闘争が偉大な勝利をおさめた決定的な鍵である。

第三、わが国における革命と反革命との闘争の偉大な勝利は、六億五〇〇〇万人民の勝利である。わが国の革命と反革命との闘争の根本路線は、とりもなおさず大衆による反革命肅清の路線である。革命と反革命との闘争は、人民が自己を徹底的に解放する事業であり、偉大な革命の大衆運動であつて、反革命にうちかち、これを徹底的に肅清するには、大衆に依存することなく、広はんな大衆を思いきつて動員して、闘争に起ちあがらせることなくしては、成功をおさめることは出来ない。わが国の革命と反革命との闘争は、党と毛主席の指導のもとに、あくまで大衆路線をつらぬきとおし、大衆闘争と主管機関の活動とを結びつけてきた。大衆による反革命肅清の路線が、もつとも正しい、もつとも革命的な、もつとも徹底した、そしてまた、もつとも確実な路線であることは、事実が証明しているところである。まさしく大衆路線を実行したからこそ、われわれの勝利は大きく、偏向を最小限度にとどめ、わずかな時間でいちはやく効果をあげることが出来たのである。われわれの経験は、大衆による反革命肅清の路線を実行したことによつて、反革命の威風が急速に打倒され、人民の自覚が急速に高まつたことを立派にものがたつてゐる。こんども、反革命が存在するかぎり、革命と反革命との闘争が存在するかぎり、われわれはあくまで大衆路線をつらぬきとおさなければならぬ。党の指導と大衆路線は、勝利の赤旗である。われわれは、階級闘争が完全になくなる日まで、革命と反革命との闘争が完全に勝利する日まで、この光榮ある旗じるしを高くかかげなければならない！

現在、内外の情勢はひじょうに良好であり、わが国における革命と反革命との闘争の情勢は、すでに根本的な変化を生じている。革命の力はいまや疾風迅雷の勢いで發展をとげており、残余の反革命分子は、すでに氣息奄奄として、風前の灯のような絶望の状態にある。かれらはかならず徹底的に消滅される運命にある。しかし、そ

れにもかかわらず、闘いは決して終つてはいない。国内にはまだ階級と階級闘争が存在しており、まだいくらかの反社会主義勢力が存在しているし、国外にはまだ帝国主義が存在している。敵は大いに弱められたとはいえ、まだ完全に消滅されてはいない。かれらはまだこれでおとなしく手をひかず、ひきつづき各種の陰謀活動をつよめている。さいきん、われわれの人民公安機関は、アメリカ帝国主義と蔣介石一味から派遣された特務分子、間諜をつづけざまに逮捕し、同時にまた、国内に残存する一団の反革命分子の現行破壊事件を未然に摘発した。これらの事実、われわれが決しておごりたかぶつて敵を軽視し、自分を麻痺させ、警戒心をゆるめ、闘争をなおざりにしてはならないことをわれわれに告げている。

いつさいの残余の反革命分子は、實際上すべて帝国主義の手先であり、しかも一部の反革命の破壊活動の背後には、帝国主義、ことにアメリカ帝国主義の策動が潜んでいる。アメリカの大統領アイゼンハワーは、一九五八年六月一八日の記者会見の席上で、アメリカは社会主義陣営諸国にたいするその転覆破壊活動を強化しなければならぬことを公然と表明した。かれは「アメリカが現在やらなければならないこと」は、社会主義陣営の「内部に遠心的な勢力をうちたてる」ことであると言ひ、また「この方面で、アメリカはすでに多くの工作をしてきた」ことを公然と白状している。一九五九年一月一四日、アイゼンハワーはアメリカのナショナル・プレス・クラブで、中国にたいして「もしも中共が現在の路線をとりつづけるならば、アメリカはたしかにこれに注意をはらわなければならない」と述べた。そして、「中国大陸に波瀾をひきおこそう」というたくらみを公然と表明している。こうして、アイゼンハワーは一国の首脳として、中華人民共和国とその他の社会主義国にたいする転覆破壊活動を、国家の政策のレベルにまでひきあげているのである。アメリカがいまひきつづきとつて

いるこのような危険な路線にたいしては、中国人民は「たしかに注意をはらわなければならない。」

中国人民は、中国共産党と偉大な指導者毛主席の指導のもとに、すぐる十年間、革命と反革命との闘争を成功裏に遂行し、相当徹底的に反革命を肅清してきたのであるから、いつさいの反革命分子のこんごの運命が、これまでの十年よりいささかでもよくなるなどということは決してありえない、と断言できる。高度な革命的警戒心と豊富な闘争経験をもつ強大な中国人民を前にしては、帝国主義と反動派のいかなる破壊陰謀も永遠にその目的をたつすることは出来ないであろう。

- ① 「マルクス・エンゲルス二巻選集」(ドイツ語版)一九五〇年 第二卷 四三五ページ
- ② 「レーニン全集」(ロシア語版) 第四版 第三卷 一六五ページ
- ③ 「レーニン全集」(ロシア語版) 第四版 第二五卷 四三五ページ

輝かしい十年

1960年6月10日 発売

¥ 300

「人民中国」「中国画報」発売元
株式会社 極東書店
東京都千代田区神田神保町2-2
振替 東京 100,009 番
京都市上京区河原町通り荒神口下ル
発行 外文出版社
中華人民共和国北京阜成門外

落丁本・乱丁本はおとりかえいたします。



